

京都精華大学

学習のてびき

2026年度版

(2025年度以降入学生向け)

学習のてびき

2026年度版

(2025年度以降入学生向け)

目次

005 1 はじめに

- 006 建学の理念・教育理念
- 007 教育目標と3つのポリシー
- 008 沿革
- 009 学部・研究科の構成
- 010 年間の流れ
- 011 SDGsの取り組み

013 2 学生生活

- 014 学生生活の基礎知識
- 018 大学メールアドレス
- 020 セイカ・ポータル
- 024 経済的支援
- 025 学生生活の支援
- 028 学内のルール
- 030 緊急事態発生時の対応・事前対策
- 031 ケガ・体調不良時の対応
- 032 様々なトラブルを防ぐために

035 3 キャリア支援

- 036 セイカのキャリア支援

041 4 国際交流

- 042 セイカの国際交流

045 5 教学

- 046 授業科目
- 050 卒業・修了・進級
- 051 履修登録
- 053 授業
- 056 単位修得

061 6 カリキュラム

- 062 全学共通カリキュラム
- 068 人文学部
- 070 人文学科
- 075 国際教養学科
- 079 登録日本語教員
- 082 科目一覧
- 086 メディア表現学部
- 088 メディア表現学科
- 097 科目一覧
- 102 芸術学部
- 104 造形学科
- 107 科目一覧
- 110 デザイン学部
- 112 ビジュアルデザイン学科
グラフィックデザインコース/
デジタルクリエイションコース
- 116 イラスト学科
- 120 プロダクトデザイン学科
- 125 建築士(プロダクトデザイン学科)
- 126 建築学科
- 130 建築士(建築学科)
- 131 科目一覧
- 138 マンガ学部
- 140 マンガ学科
ストーリーマンガコース/
新世代マンガコース
- 143 キャラクターデザイン学科 キャラクターデザインコース
- 146 アニメーション学科 アニメーションコース
- 150 科目一覧

157	7 大学院
158	人文学研究科 修士課程
162	芸術研究科 博士前期課程
166	デザイン研究科 修士課程
170	マンガ研究科 博士前期課程
176	博士前期課程・修士課程 様式見本
177	博士前期課程・修士課程 カリキュラム構成
178	博士前期課程・修士課程 科目一覧
180	芸術研究科 博士後期課程
184	マンガ研究科 博士後期課程

189	8 資格課程
190	資格課程の概要
191	教職課程
208	博物館学芸員課程
210	図書館司書課程

213	9 諸規程
214	京都精華大学 学則
219	京都精華大学大学院 学則
222	京都精華大学 学位規程
224	京都精華大学 履修規程
228	京都精華大学 各種試験および レポート等における不正行為に関する規程
229	京都精華大学大学院 博士前期課程および 修士課程学位審査規則
230	京都精華大学大学院 博士後期課程 学位審査規則

235	10 施設
236	キャンパスマップ
238	教室の使用申請方法
239	学内施設
250	学外施設

1

はじめに

Introduction

建学の理念・教育理念

京都精華大学の理念

京都精華大学は、1968年にリベラルな政治学者であった初代学長岡本清一を中心まったく新しい大学の創造をめざすべく誕生しました。岡本清一は、学長就任の条件として、「教育の基本方針に関する覚書」を提示しました。この覚書には、京都精華大学の建学の理念ともいえる「人間尊重」「自由自治」がうたわれています。「人間尊重」「自由自治」を基盤とし、新しい人類史の展開に対して責任を負い、世界に尽力する人材の育成を使命としてきた京都精華大学では、学生、教員、職員がすべて人格的に平等であり、全員が大学の創造に参加しています。

● 教育の基本方針に関する覚書

1. 京都精華短期大学は、人間を尊重し、人間を大切にすることを、その教育の基本理念とする。この理念は日本国憲法および教育基本法を貫き、世界人権宣言の背骨をなすものである。
2. 京都精華短期大学は特定の宗教による教育を行わない。しかし諸宗教の求めてきた真理と、人間に対する誠実と愛の精神は、これを尊重する。
3. 学生に対しては、師を敬うことが教えられる。師を敬うことなくして、人格の感化と学問的指導を受けることはできないからである。そして敬師の教育を通じて、父母と隣人に対する敬愛の心を養う。
4. 教員の学生に対する愛情責任は、親の子に対するそれが無限であるように、無限でなければならない。職員もまた教員に準じて教室外教育の一斑の責任を負う。
5. 学内における学生の自由と自治は尊重され、その精神の涵養がはかられる。従って学生は、学内の秩序と環境の整頓に対して責任を負わなければならない。
6. 礼と言葉の紊れが、新しい時代にむかって正され、品位のない態度と言葉とは、学園から除かななければならない。
7. かくしてわが京都精華短期大学における教育の一切は、新しい人類史の展開に対して責任を負い、日本と世界に尽くそうとする人間の形成にささげられる。

教育理念

初代学長岡本清一の建学理念は、その時々を担う人々によって新しい理解が加えられ、時には議論の対象となってきました。2003年春、建学理念の継承と再生を図るため、京都精華大学はあらためてその使命と基本理念を明らかにしました。

● 京都精華大学の使命

1. 京都精華大学は、人間を尊重し人間を大切にすることを教育の基本とし、学問・芸術によって、人類社会に尽くそうとする自立した人間の形成を目的とする。
2. 京都精華大学は、社会に責任を負う自立した人間の形成という目的のために、恒に現実の社会的視点を維持し、広く社会に貢献する活動を行う。
3. 京都精華大学は、教員、職員、学生によって一個の有機的社会を構成し、この大学社会における人間的な交流を基礎にして教育を行う。

● 京都精華大学の基本理念

1. 京都精華大学は、広く国内外に開かれた教育を行う。人間が国家、宗教、民族の対立を乗り越えて共に生きるためには、その価値観の違いを超えて人間的な信頼関係を創出しなければならず、国家、宗教、民族を超えた人間的な交流の体験が必須である。
2. その教育において、特定の宗教・思想による教化を行わない。しかし、歴史を通じて人類が求めてきた普遍的な価値と、人間に対する誠実と愛の精神は、これを尊重する。
3. その教育は、共生を目指し、なお自立する人間の形成を目的とするために、現実の人間の問題を扱う学問・芸術の探求に基づき行わなければならない。その知的資源の創造的な編成と運用は、広く国内外に貢献することを目指さなければならない。
4. そのように現実社会に対する建設的批判と貢献を目指す、京都精華大学の教育と研究の活動は、また恒に現実と対峙し社会的視点を維持する大学の経営によって保障されねばならない。
5. 京都精華大学は、教員、職員、学生に開かれた大学社会を組織し、この社会を人格的平等主義に基づき運営する。各構成員が自覚的に選択した価値観は、対等にこれを尊重し、特定の価値観の絶対化は、人間の自由を抑圧し個人の自立を妨げるものとして、これを拒否する。
6. この大学社会は、構成員の自己啓発と相互の建設的批判によって日々刷新され、新たな教育と研究の土壌を形成する。品位のない態度と言葉は、この大学社会から除かれなければならない。構成員間の身分差別は、本学の理念とは無縁である。
7. すべての構成員は、この大学社会の規範に従うことが求められるとともに、新しい大学の創造に参加する権利を有する。

教育目標と3つのポリシー

教育目標（目指すべき人材像）

グローバルな観点から思考し、リベラルアーツに基づいてより良い社会を創る意欲を持ち多様な人々と協働し、世界の様々な課題に対する新しい価値を表現し、提供できる人間

3つのポリシー

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）				
DP1 知識と理解 knowledge & understanding	DP2 創造的思考・視点と考察 creative perspective & observation	DP3 技術・研究と表現 skills / research & expression	DP4 他者理解と協働 mutual understanding & collaboration	DP5 社会への関心と行動 interests & action
広い視野から複眼的に考察するための知識と理解力	新しい文化と価値を発想するための創造的思考力	変化し続ける社会で専門領域の学びを生かすための応用力	地球規模の視点で社会的課題に取り組むための他者理解力と協働力	より良い社会を創るための主体的な行動力

アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）		
① 知識・理解・技能	② 思考・判断・表現	③ 関心・意欲・態度
1. 高等学校の教育課程における基礎学力・技能を有している 2. 入学後に発展可能な、作品制作に関する基礎知識・技能を有している（芸術学部・デザイン学部・マンガ学部）	1. 身近な問題について、知識や情報をもとに筋道を立てて思考できる 2. 他者の意見を理解し、自分の考えをわかりやすく表現できる	1. 新しい領域や多様な人々に対して先入観なく向き合い、生涯にわたって学習を継続する意欲がある 2. 学びたい学部・学科の知識や経験を社会で活かしたいという目的意識を持っている

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

京都精華大学は、学位授与の方針を達成するために、全学共通教育科目、学部専門教育科目を体系的に編成し、講義、演習、実習等を適切に組み合わせた授業を開講します。また、科目のナンバリングおよびカリキュラム・マップにより、カリキュラムの体系を明示します。

教育内容、教育方法、評価について以下のように定めます。

1. 教育内容

(1) 全学共通教育科目

全学共通教育科目は、各自の専門性を活かしつつ社会の中で自由な個人として生きる姿勢を培うため、様々な学問領域にわたる科目を配置します。具体的には、導入プログラム、表現科目群、グローバル科目群、リベラルアーツ科目群、キャリア科目群から構成しています。

(2) 学部専門教育科目

学部専門教育科目は、学部共通科目と学科専門科目から構成されます。ともに、専門分野の基礎から専門的知識・技能や主体的に取り組む態度を修得し、それらを総合的に活用する力を養うため、体系的に科目を配置します。

2. 教育方法

- (1) 学生の主体性を伸ばすため、能動的学修の視点を取り入れた教育方法を実施します。
- (2) 授業内・外の学修時間を考慮した授業内容を設計します。
- (3) 学修成果の可視化を通じて、学生の自律的な学修を支援します。

3. 学修成果の評価

本学では、学位授与の方針に掲げる能力・資質およびこれらの総合的な活用力の修得状況を、「学部・学科レベル」「科目レベル」の2つのレベルで把握し、評価します。

各レベルの評価の実施方法は、以下のとおりとします。

(1) 学部・学科レベル

学部・学科レベルの評価は、学部学科所定の教育課程における卒業要件達成状況、進級要件達成状況により行います。

(2) 科目レベル

科目レベルの評価は、シラバスで提示された科目の学修目標に対する評価により行います。

沿革

京都精華大学は、1968年に英語英文科、美術科の2学科をもつ短期大学として開学しました。1979年に美術学部を有する4年制の大学となつてからは、1989年に人文学部の開設、2006年にデザイン学部、マンガ学部の開設、2013年にポピュラーカルチャー学部を開設するなど、学問の領域をつねに広げてきました。2018年には創立50周年を迎え、今後も新たな挑戦を続けていきます。

1968年	4月	京都精華短期大学開学。 美術科・英語英文科を設置。
1973年	4月	美術科デザインコースにマンガクラスを設置。
1979年	4月	京都精華大学開学。美術学部造形学科、美術学部デザイン学科を設置。
1989年	4月	人文学部人文学科を設置。
1991年	4月	京都精華大学大学院を設置(美術研究科造形専攻・デザイン専攻)。
1993年	4月	大学院人文学研究科を設置。
2000年	4月	人文学部に環境社会学科を設置。 芸術学部デザイン学科にビジュアル・コミュニケーションデザイン分野・映像分野・プロダクトコミュニケーション分野を設置。 芸術学部マンガ学科(ストーリーマンガ分野・カートゥーンマンガ分野)を設置。
2003年	4月	人文学部に社会メディア学科・文化表現学科を設置。 大学院芸術研究科に博士後期課程を設置。
2006年	4月	デザイン学部(ビジュアルデザイン学科・プロダクトデザイン学科・建築学科)を設置。 マンガ学部(マンガ学科・マンガプロデュース学科・アニメーション学科)を設置。 芸術学部素材表現学科・メディア造形学科を設置。
	11月	京都国際マンガミュージアムを開設(京都市との共同事業)。
2009年	4月	人文学部を再編し、総合人文学科を設置。
2010年	4月	大学院芸術研究科を再編し、デザイン研究科デザイン専攻修士課程・建築専攻修士課程およびマンガ研究科マンガ専攻修士課程を設置。
2012年	4月	大学院マンガ研究科に博士後期課程を設置。
2013年	4月	ポピュラーカルチャー学部ポピュラーカルチャー学科を設置。 ビジュアルデザイン学科を再編し、イラスト学科を設置。 マンガ学科にギャグマンガコース・キャラクターデザインコースを設置。
2017年	4月	芸術学部造形学科・素材表現学科・メディア造形学科を再編し、造形学科を設置。 マンガ学科に新世代マンガコースを設置。
2021年	4月	ポピュラーカルチャー学部と人文学部を再編し、メディア表現学部と国際文化学部を設置。 人間環境デザインプログラムを開設。 プロダクトデザイン学科にファッションコースを設置。
2025年	4月	建築学科に人間環境デザイン専攻を設置。
2026年	4月	国際文化学部を人文学部に名称変更。 マンガ学部キャラクターデザイン学科を設置。

学部・研究科の構成

● 人文学部

人文学科

- 歴史コース
- 文学コース
- 社会コース

国際教養学科

- 国際文化コース
- 国際日本学コース

※2025年度入学生は専攻制

● メディア表現学部

メディア表現学科

- メディアイノベーション専攻
- メディアデザイン専攻
- メディアコミュニケーション専攻
- 音楽メディア専攻

● 芸術学部

造形学科

- 洋画専攻
- 日本画専攻
- 版画専攻
- 立体造形専攻
- 陶芸専攻
- テキスタイル専攻
- 映像専攻

● デザイン学部

ビジュアルデザイン学科

- グラフィックデザインコース
- デジタルクリエイションコース

イラスト学科

- イラスト専攻
- モーションイラスト専攻

プロダクトデザイン学科

- インダストリアルデザイン専攻
- ライフクリエイション専攻
- ファッションデザイン専攻

建築学科

- 建築専攻
- 人間環境デザイン専攻

● マンガ学部

マンガ学科

- ストーリーマンガコース
- 新世代マンガコース

キャラクターデザイン学科

- キャラクターデザインコース
- ※2025年度入学生はマンガ学科キャラクターデザインコース

アニメーション学科

- アニメーションコース

● 大学院

- | | |
|---------|---------------|
| 人文学研究科 | 修士課程 |
| 芸術研究科 | 博士前期課程／博士後期課程 |
| デザイン研究科 | 修士課程 |
| マンガ研究科 | 博士前期課程／博士後期課程 |

年間の流れ

	行事	セメスター制（前期・後期）	クォーター制（1Q・2Q・3Q・4Q）
4月	入学式		
	新入生ガイダンス	新入生／在学生前期 履修登録	新入生／在学生 1Q・2Q履修登録
		前期授業開始	1Q 授業開始
5月		前期履修取消	1Q 履修取消
6月			2Q 履修登録変更
			2Q 授業開始
			1Q 成績公開
7月			2Q 履修取消
8月	夏季休暇	前期成績公開	2Q 成績公開
9月	夏季休暇		
	後期／3Q ガイダンス	後期履修登録	3・4Q 履修登録
10月		後期授業開始	3Q 授業開始
		後期履修取消	3Q 履修取消
	学園祭		
11月			4Q 履修登録変更
12月			4Q 授業開始
	冬季休業		3Q 成績公開
1月			4Q 履修取消
2月	卒業・修了展		
	春季休暇	後期成績公開	4Q 成績公開
3月	春季休暇		
	卒業式		
	在学生ガイダンス	在学生前期履修登録	在学生1Q・2Q 履修登録

詳細は、「セイカ・ポータル」および大学Webサイトに掲示された「学年暦(大学カレンダー)」で確認してください。

SDGsの取り組み

京都精華大学では、様々な差異を持つ全ての大学構成員が尊重され人格的に平等であることを、教育の基本として歩んできました。2016年にはダイバーシティ推進宣言を発表し、翌年には「違いとともに成長する」をコンセプトに、ダイバーシティ推進センターを設立。2018年には、「関西SDGsプラットフォーム」に参加し、積極的に研修等の取り組みを行ってきました。さらに2020年12月には、新たに「京都精華大学SDGs宣言」を発表しました。すべての人の違いを尊重しながら、「誰一人取り残さない」持続可能な社会の構築に貢献するために、全学的にSDGsの実現に向けて取り組んでいます。

京都精華大学SDGs宣言

2015年9月の国連サミットにおいて全会一致で採択されたSDGs (Sustainable Development Goals) は、持続可能で多様性と包摂性ある社会の実現に向けて、2030年までに達成すべき17のゴールとそれに関連する169のターゲットを定めた国際的な目標です。大学も、教育、研究、運営の面から、SDGsの実現に向けて貢献することが重要になってきていると言えるでしょう。

京都精華大学の教育の基本方針には、日本国憲法、教育基本法、世界人権宣言との共通理念である「人間の尊重」、そして「自由自治」を教育の基本理念とすることが明記されています。2016年に発表したダイバーシティ推進宣言の中でその基本的な考え方を改めて表明し、翌年にはダイバーシティ推進センターを設立しました。さらに2018年には、より明確なコンセプトと活動方針を盛り込んだ「ダイバーシティ推進宣言2018」を発表してきました。本学の教育理念とダイバーシティ推進コンセプト「違いとともに成長する」は、「誰一人取り残さない」というSDGsの趣旨と根本を同じくするものです。

これまでダイバーシティ推進宣言のもとに進めてきた、学内すべての学生・教員・職員に包摂的なキャンパスを目指す方針を継続した上で、年齢、人種、性別、身体的特徴、性表現など表面的に認識されやすいものから、国籍、宗教、家庭環境、出自、働き方、性自認、性的指向など表面からは認識されにくいものまで、すべての人の違いを尊重しながら、「誰一人取り残さない」持続可能な社会の構築に貢献するために、全学的にSDGsの実現に向けて取り組んでいくことを宣言します。

「リベラルアーツ」「表現」「グローバル」の3つを基軸とする京都精華大学は、芸術やデザイン、人文学の知見を生かし、世界が直面する共通課題の理解とクリエイティブな解決法の開発とを教育・研究を通して行うほか、大学運営においてもESG(環境・社会・ガバナンス)を重視してまいります。

京都精華大学

在学生に向けた具体的な取組み

- 性別違和、通称名使用などの事由による学籍簿の氏名・性別記載変更を認めています。
- 定期健康診断で、性別違和や健康上の事情を抱える人を対象に専用の時間帯を設けています。
- 大学で発行する全ての証明書に性別の記載はありません。
- 誰でも利用できる「みんなのトイレ」を学内24カ所に設置しています。
- 生理用品無償配布サービス機器Oitrを学内トイレ内個室に設置しています。
- 学食のメニューに食肉表示を記載しています。
- 障害のある学生の学修支援を行っています。

2

学生生活

Campus Life

学生生活の基礎知識

1. 事務局各種窓口案内

学生生活の様々な場面において、事務局の職員がサポートします。各部署の窓口対応時間、取り扱い内容は以下の通りです。

窓口対応時間(授業期間)

月～金曜日 9:00～18:00

※授業期間外の窓口対応時間は「セイカ・ポータル」に掲示します。

取り扱い内容

グループ名	窓口	取り扱い内容	場所	連絡先
学生グループ	学生支援チーム	学生生活に関する相談(進路、休退学、復学など)、各種証明書発行(学生証・学割・健康診断書など)、奨学金、忘れ物、課外活動、教室・学外施設利用申請、留学生支援、木野寮など	本館 1階	TEL:075-702-5101
	障害学生支援室	障害学生支援、支援学生養成講座など		TEL:075-702-5268
	キャリア支援チーム	就職活動支援(求人情報の閲覧・進路就職ガイダンス・企業説明会・進路相談)、求人・インターンシップなど	明窓館 1階	TEL:075-702-5130
教学グループ	教務チーム	授業に関する相談(履修登録、試験、成績など)、各種証明書発行(在学証明書・成績証明書・卒業見込証明書など)、資格課程、単位互換、転学部・転学科・転コース相談など	本館 1階	TEL:075-702-5119
総務グループ	総務チーム	学外アトリエ「the SITE」利用申込など	本館 4階	TEL:075-702-5131
	経理チーム	学費納入、施設使用料・資格課程受講料の納入など		TEL:075-702-5120
	施設管理チーム	施設に関する相談、ごみの分別など		TEL:075-702-5228
	情報管理チーム ※ICTサポートセンターを含む	情報管理チーム: ソフトウェア利用、大学メールアドレスなど ※ICTサポートセンター:機材貸出・利用など	対峰館 T-110 ※ICTサポートセンターは本館2階東	TEL:075-702-5255 ※ICTサポートセンターは075-708-6395
学長室グループ		情報館事務(図書・雑誌・新聞・AV資料等の閲覧・貸出など)、社会連携事業、公開講座、学外所有スペース・ギャラリーの利用申込、研究支援、学長事務など	本館 4階	TEL:075-702-5263
グローバル推進グループ		国際交流プログラム支援(交換留学、海外ショートプログラム、グローバルcommonsなど)、修交館など	本館 2階	TEL:075-702-5199
広報グループ		展覧会・出版等の告知、大学案内など	本館 2階	TEL:075-702-5197

2. 大学Webサイトでの情報取得について

大学Webサイトにも施設利用や各種申請手続き、奨学金情報など大学生活に関する基本情報を掲載しています。PCとスマートフォンに対応していますので、必要に応じて情報を確認してください。

「京都精華大学 在学生の方へ」 <https://www.kyoto-seika.ac.jp/stu/>



3. 学籍

- (1) **学籍** 学籍とは学校における籍のことです。本学の学籍を有するとは、本学に在籍している学生であることを示しています。
- (2) **学籍番号** 一人ひとりの学生に学籍番号が付与されます。

例 **226 G 001**

入学年度 (2025年度) 個人番号

学科・コース (右記参照)

C 歴史 / L 文学 / P 社会 / W 国際文化 / J 国際日本学 / T メディア表現 / G 造形
 V グラフィックデザイン / Q デジタルクリエイション / F イラスト / D プロダクトデザイン
 A 建築 / N ストーリーマンガ / S 新世代マンガ / K キャラクターデザイン / Y アニメーション

※編入生は226の次にXと各学科・コース記号が入り、2年次生は21番から、3年次生は31番から始まります。大学院はM(修士)またはD(博士)がつきます。

(3) 学生証

学生証は本学の学生である身分を証明するものです。したがって、常に携帯し、確認を求められた場合はただちに提示してください。学内では事務局窓口で各種手続きを行う場合や情報館への入館、各種証明書発行の際などに必要です。また、学外では通学定期券購入や本学が提携する美術館などの文化施設で特別優待を受ける際に提示が求められます。学生証を紛失した場合は速やかに学生支援チームで再発行の申請をしてください。申請方法については、P.16「各種証明書の発行方法」を参照してください。

(4) 学籍情報の変更

学生の個人情報は、入学試験出願時の情報に基づき、本学のデータベースに登録されています。入学後、個人情報に変更が生じた際は、以下の方法で変更の手続きを行ってください。

① **住所・電話番号・学費支弁者(保証人)・緊急時連絡先(保証人以外の方)などの変更(帰省先の住所・電話番号を含む)**
 「セイカ・ポータル」から手続きを行ってください。

② 氏名の変更

学生本人の氏名変更は、学生支援チームで手続きを行ってください。

※性別違和、通称名使用の希望などの事由による氏名・性別表記の記載変更についても、学生支援チームに問い合わせてください。

(5) 学籍の異動と学籍に関する諸制度

① 休学

休学とは、学生が疾病またはその他の事由により、1カ月以上就学することができない場合、学長の許可を得て、当該学期に大学を休むことです。

【休学を願い出る際の留意点】

- ・休学をするためには、休学をしようとしている学期以前の学費が完納されている必要があります。
- ・休学期間中の学費は、1セメスターにつき20,000円です。また、休学手続き期日は前期:9月30日、後期:3月31日であり、当該期日を過ぎると通常の授業料が発生します(期日が窓口対応日でない場合は、直前の窓口対応日を期日とします)。 ※手続きには日数を要するため、各期日の1ヶ月前までに学生支援チームへ申し出てください。
- ・休学期間はセメスター単位で選択できますが、学修状況を踏まえ、手続き前に担当教員や教務チームとよく相談をしてください。なお、特別な理由がある場合は継続して1年(連続で2年まで)を限度に延長することができます。兵役による休学のみ休学期間を連続で3年まで認めます(別途証明書類が必要です)。
- ・休学期間満了日の2週間前までに「復学願」「休学願」「退学願」のいずれかの提出がない場合は除籍となります。必ず手続きを行ってください。

② 復学

復学とは、休学期間の満了に伴い、大学に復帰することです。

③ 退学

退学とは、学生が疾病、その他の事由により大学を辞めることです。

休学・復学・退学に関する申請・手続きについて

休学・復学・退学の申請・手続きの詳細については、大学Webサイトを参照してください。また、休学・退学を検討する必要がある場合は、早期に担当教員、または学生支援チームに相談してください。

④ 除籍

除籍とは、大学の決定により学生の身分を失うことです。学則に定められている除籍の主な理由は次の通りです。

- ・所定の在学年限(最長8年間)を超える場合(ただし、休学期間などを除く)
- ・所定の授業料等学費の納付を怠り、その督促を受けてもこれを納付しない場合
- ・休学期間の満了に伴い、復学の手続きを行わない場合 など

⑤ 再入学

本学を退学した者、または除籍となった者は、退学または除籍の日より2年以内であれば再度入学の機会があります。

4. 通学

通学に際しては、公共交通機関、スクールバス、自転車などを利用してください。自動車による通学は認められません。

(1) 通学定期券を購入するには

公共交通機関の通学定期券を購入する際には、各機関の窓口で学生証の裏面に貼付された「通学証明書」シールを提示してください。通学証明書シールの有効期限が切れた場合は学生支援チームで配布しますので、必ず貼り替えてください。

(2) スクールバス

無料で利用できるスクールバスは、地下鉄「国際会館」駅と大学の間を運行しています。授業がない日曜日・祝日・施設使用禁止日は運行しません。また、大学行事や長期休暇中などは運行ダイヤが変わりますので、その都度、大学Webサイトやバス停で時刻表を確認してください。

(3) 自転車・バイクによる通学

自転車・バイクによる通学に際しては、学内の駐輪場を利用してください。所定の場所以外での駐輪は認められていません。また、盗難を防ぐために自転車・バイクは必ず施錠し、ヘルメットやそのほかの付属品は持ち歩くようにしてください。なお、京都市内・京都府内で自転車を利用する場合、自転車保険（個人賠償責任保険）に加入する義務があります。

(4) 自動車の一時乗り入れ

制作材料・資材の搬入などにより、自動車の乗り入れが必要な場合は、学生支援チームにて「車両一時乗り入れ票」の発行を受け、一時的に駐車することができます。手続きの際には学生証の提示が必要となります。

5. 各種証明書の発行方法

証明書は、本館1階に設置の「証明書自動発行機」にて発行することができます。発行の際は「学生証」もしくは「セイカ・ポータルユーザーIDとパスワード」が必要となります。一部、後日の発行となる証明書がありますのでご注意ください。

※本学が発行するすべての証明書に性別の記載はありません。

表記	証明書	手数料	発行時期	窓口での手続き方法	注意事項
日本語版	在学証明書	200円	即時発行	不要	
	在籍証明書	200円	申込から1週間後	証明書自動発行機で「納付書」を発行のうえ、教務チーム窓口にて申込	休学者のみ発行
	成績証明書	200円	即時発行	不要	
	卒業見込証明書	200円	即時発行	不要	卒業年次生のみ発行
	修了見込証明書	200円	即時発行	不要	修了年次生のみ発行
	各種資格取得見込証明書	200円	申込から1週間後	証明書自動発行機で「納付書」を発行のうえ、教務チーム窓口にて申込	
英語版	在学証明書	500円	即時発行	不要	
	成績証明書	500円	即時発行	不要	
	卒業見込証明書	500円	即時発行	不要	卒業年次生のみ発行
	修了見込証明書	500円	即時発行	不要	修了年次生のみ発行
	健康診断証明書	200円	即時発行	不要	学内の定期健康診断を受診した人または大学指定の医療機関で期間内に受診した人に対してのみ発行
	学割証	無料	即時発行	不要	有効期間:発行日より3カ月間 発行可能枚数:年間1人あたり10枚まで
	長期休暇期間証明書	無料	即時発行	不要	
	学生証の再発行	1000円	申込から2~3日後	証明書自動発行機で「申込書」を発行のうえ、学生支援チーム窓口にて申込	学生証が手元に無くても申込書の出力が可能です

※登録日本語教員に関する証明書については、P.79~81の「登録日本語教員課程」ページにて確認してください。

オンライン発行・コンビニ発行について

本学では自動証明書発行機に加えて、証明書外部発行サービスを利用したオンライン発行なども可能です。本サービスを利用した場合、証明書発行料とは別にシステム利用料や印刷費を要します。詳細は本学WEBページ (<https://www.kyoto-seika.ac.jp/campuslife/application/apply.html>) をご覧ください。

6. 学費について

[学費納入期日]

前期1期 / 1Q	前期2期 / 2Q	後期1期 / 3Q	後期2期 / 4Q
4月30日	7月31日	10月31日	1月31日

口座自動振替の場合、学費は各納入月の26日に引き落とされます。26日が金融機関の休業日にあたる場合は、翌営業日に振り替えます。入学初年度の前期1期/1Q学費は、入学手続き時の納入となります。学費納入を困難にする経済的事情が発生したときは、速やかに身近な教職員や学生支援チームに相談してください。

[授業料]

学部

期間	人文学部	メディア表現学部	芸術学部	デザイン・マンガ学部
前期1期 / 1Q	271,500円	296,500円	387,500円	394,750円
前期2期 / 2Q	271,500円	296,500円	387,500円	394,750円
後期1期 / 3Q	271,500円	296,500円	387,500円	394,750円
後期2期 / 4Q	271,500円	296,500円	387,500円	394,750円
合計	1,086,000円	1,186,000円	1,550,000円	1,579,000円

大学院

期間	博士前期課程・修士課程		博士後期課程		
	実技系 芸術・デザイン・マンガ研究科	理論系 人文学・芸術・デザイン・マンガ研究科	芸術(2025年度以前入学生)・マンガ	芸術(2026年度以降入学生)	
前期	1期	262,500円	187,500円	187,500円	262,500円
	2期	262,500円	187,500円	187,500円	262,500円
後期	1期	262,500円	187,500円	187,500円	262,500円
	2期	262,500円	187,500円	187,500円	262,500円
合計		1,050,000円	750,000円	750,000円	1,050,000円

学費の延納手続きについて

やむを得ない事情により、学費納入期日までに支払いができない場合は、経理チームからの案内を「セイカ・ポータル」で確認し、所定の期間内に延納願を提出してください。

学費未納による除籍について

学費納入期日や延納期日を過ぎても学費が未納であり、督促を受けても学費が納入されない場合は、学費未納による除籍となります。

教育後援会費について(2026年度以降に学部に入学者のみ)

入学の翌年以降卒業年次まで、各年次の前期1期/1Q分学費と共に毎年10,000円を請求します。

大学メールアドレス

1. 大学メールアドレス (Gmail) の付与

在学中は、学生一人ひとりに京都精華大学メールアドレス (Gmail、～@st.kyoto-seika.ac.jp) が付与されます。教員や事務局に連絡する際は、こちらの大学メールアドレスから送信してください。また、この大学メールアドレスは、みなさんに連絡するための情報として教職員で共有しています。大学からの重要なお知らせが届きますので、毎日1回必ず確認してください。

メールアドレスカード

京都精華大学メールアドレスカード	
226A000	セイカ ダイガク
セイカ・ポータル(履修登録など)	
ユーザーID: s226a000 パスワード: 	
京都精華大学メール(Gmail)	
ユーザー名: s226a000 パスワード: 	
メールアドレス: s226a000@st.kyoto-seika.ac.jp	
abcdefghijklmnopqrstuvwxyz	
ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ 0123456789	

京都精華大学メール (Gmail) 用
『ユーザー名』、『パスワード』
『メールアドレス』



注意

『京都精華大学メールアドレスカード』には、個人の「京都精華大学Webサービス」用のユーザID・パスワードおよび、「京都精華大学メール (Gmail)」用のメールアドレス・パスワードが記載されています。大変重要な情報ですので、各自で厳重に管理してください。これらが第三者に漏れるとメールを読まれたり、成りすましてメールを使用されたりする危険性があります。万が一、メールアドレスカードを紛失した場合は、すみやかに情報管理チーム窓口 (対峰館1階) までご相談ください。

2. 大学メールアドレスの確認方法

(1) パソコンで確認する場合

- ① 任意のWebブラウザでGoogleのトップページにアクセスします。
- ② 画面右上のログインボタンをクリックするとログイン画面が表示されます。
※すでにアカウントを持っている場合には、アイコンから「別のアカウントを追加」をクリックしてください。

※すでにアカウントを持っている場合には、「別のアカウントを追加」をクリック



- ③ 以降は画面の案内に従い『京都精華大学メールアドレスカード』に記載されている「京都精華大学メール(Gmail)」の【メールアドレス】と【パスワード】を入力し、【次へ】をクリックします。

以下を入力し **次へ** をクリック
 メール:「京都精華大学メール(Gmail)」のメールアドレス
 パスワード:「京都精華大学メール(Gmail)」のパスワード



- ④ メニューよりGmailをクリックしてください。

Gmailをクリック



(2) スマートフォンおよびタブレットで確認する場合

Webブラウザでパソコン使用時と同様にアクセスします。

1. セイカ・ポータルとは

「セイカ・ポータル」とは、本学学生専用の学生生活支援総合サイトです。履修登録手続きを行うほか、学生生活や授業に関する重要な情報が掲載されています。必ず1日1回はログインして情報を確認してください。

「セイカ・ポータル」の主な機能は以下のとおりです。

(1) 履修登録・履修取消

履修登録および履修取消の手続きは、「セイカ・ポータル」で行います。手続き期間を過ぎると履修登録・取消ができなくなりますので、期間内に忘れず手続きを行ってください。

(2) 時間割の確認

履修登録手続き後、決定した時間割はいつでも「セイカ・ポータル」で確認できます。履修登録した授業科目と自分の時間割に誤りがないか、必ず履修登録や履修取消をした後に確認してください。

(3) 成績・単位修得状況の確認

各学期に履修した授業科目の成績、およびその学期までの単位修得状況は、学期末に「セイカ・ポータル」で確認できます。

(4) 休講・補講・教室変更情報の確認

履修登録を行った授業が休講になった場合の情報、休講になった授業の補講に関する情報を確認できます。また、履修登録を行った授業の教室が何らかの事情により変更になった場合も、変更後の教室を「セイカ・ポータル」で確認できます。休講・補講・教室変更の情報はメール(～@st.kyoto-seika.ac.jpのアドレス)で受け取ることもできます。

(5) 学修ポートフォリオの蓄積

ディプロマ・ポリシーに対応した5種の能力がどれだけ身についているかをレーダーチャート形式で確認できます。その他、これまでの単位修得状況やGPAの推移などを一括して確認できます。

(6) その他授業に関する情報の確認

オリエンテーションの案内など授業全体に関わる情報のほか、課題の提出締め切りなど履修登録を行った授業科目に関する情報を確認できます。

(7) 学生生活に関する情報の確認

健康診断や奨学金説明会の案内、施設の利用や各種イベント情報など学生生活に関する情報を確認できます。

(8) アンケートへの回答

「授業評価アンケート」などのアンケートは、「セイカ・ポータル」より回答してください。

2. 利用上の注意

「セイカ・ポータル」の利用にあたってはいくつかの注意点ががありますので、必ず以下に目を通してから利用してください。

(1) 利用環境について

「セイカ・ポータル」は、パソコンおよびスマートフォンやタブレット型端末で利用することができます。

スマートフォンから利用する場合は、ログイン画面よりスマートフォン専用のURLをクリックしてください。

京都精華大学 学生生活支援総合サイト **セイカ・ポータル**

スマートフォンでの利用について

学生ユーザーはスマートフォン表示のサイトを利用可能です。
その他のユーザー(保護者・教員・職員)はPC版サイトからアクセスしてください。



スマートフォン専用のURLをクリック

(2) 利用が勧められているブラウザソフトを使ってください

ブラウザソフト(インターネットでホームページなどを閲覧するときに使うソフトウェア)は、Microsoft Edge、Google Chrome、Safariの利用をおすすめしています。それ以外のソフトでは表示位置がずれるなど、うまく機能しないことがあります。

(3) 0:00~6:00の間は「セイカ・ポータル」を利用できません

毎日0:00~6:00の時間帯は、データのバックアップを行いますので、「セイカ・ポータル」を利用することはできません。

(4) 30分間、操作ボタンをクリックしないと、ページの有効期限が切れ、再度ログインが必要となります

履修登録手続き中にページの有効期限が切れると、情報が正しく登録されません。定期的に「チェック」ボタンをクリックするといった対処方法を取ってください。

3. セイカ・ポータルへのログイン

(1) セイカ・ポータルへのアクセス

Microsoft Edge、Google Chrome、Safariなどのブラウザソフトを立ち上げて、以下のURLにアクセスしてください。ログイン画面が表示されます。ログインページでスマホ版とPC版を切替可能です。

<https://portal.kyoto-seika.ac.jp/>

〈スマホ版〉

〈PC版〉



(2) セイカ・ポータルへのログイン

入学時に配布された名刺サイズの「メールアドレスカード」に記載されたユーザーIDとパスワードをログイン画面の所定ボックスに入力して、「LOGIN」ボタンをクリックしてください。※「メールアドレスカード」を紛失した場合は、情報管理チーム窓口で再発行の手続きを行ってください。

メールアドレスカード

京都精華大学メールアドレスカード
226A000 セイカ ダイガク

セイカ・ポータル(履修登録など)
ユーザーID: s226a000 パスワード: Aa12345678

京都精華大学メール(Gmail)
ユーザー名: s226a000 パスワード: Aa12345678
メールアドレス: s226a000@st.kyoto-seika.ac.jp

abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ 0123456789



LOGINを
クリック

(3) スマホ版のログイン後のトップ画面は以下のような構成となっています。

掲示

休講・補講・教室変更などの授業関連情報や学生生活などの各種お知らせが届いていることを知らせます。



クラスプロフィール
授業ごとに課題の確認や提出ができます。

リンク集

授業評価アンケートなどに回答するためのアンケートシステムのほか、学生生活に必要な各種システムへのリンクがまとめられています。

メニュー表示画面



メニューを選択する場合は、画面左上の「≡」を押してください。

(4) PC版のログイン後のトップ画面(以降、トップ画面)は以下のような構成となっています。

メニューバー

履修登録手続き、時間割の確認、シラバス照会、成績・単位修得状況の確認などは、このメニューから行います。

掲示

休講・補講・教室変更などの授業関連情報や学生生活などの各種お知らせが届いていることを知らせます。



リンク集

授業評価アンケートなどに回答するためのアンケートシステムのほか、学生生活に必要な各種システムへのリンクがまとめられています。

クラスプロフィール

授業ごとに課題の確認や提出ができます。

※ログイン後にスマホ版とPC版の切り替えはできません。一度ログアウトし、再度ログインしてください。

● 掲示

キーワードや授業科目から、必要な掲示を検索することができます。



● クラスプロファイル

授業ごとに課題を確認したり、Web上で課題を提出することができます。



4. セイカ・ポータルのマニュアル掲示

各種機能の操作マニュアルは、セイカ・ポータルの掲示板および ⓘ アイコンより確認できます。

(1) 掲示板で確認する

以下の手順で確認してください。

- PC版 「掲示」▶ キーワード検索窓にて「セイカ・ポータル利用マニュアル」と入力 ▶ 「検索」ボタンをクリック
- スマホ版 「掲示」▶ 「検索する」バー右の「+」ボタンをクリック ▶ キーワード検索窓にて「セイカ・ポータル利用マニュアル」と入力 ▶ 「検索」ボタンをクリック

(2) ⓘ マークより確認する

右上にマークが表示されているページは、表示しているページに関連した各機能のマニュアルが掲示されています。履修登録などのマニュアルを掲示していますので必要に応じて確認してください。

経済的支援

1. 奨学金制度

奨学金は減免・給付型と貸与型に大別されます。減免・給付型は、返済の必要のない奨学金、貸与型は返済しなければならない奨学金です。奨学金には本学が独自に設けている制度と、国やそのほか地方自治体などが設けている制度があります。各奨学金制度の情報は大学Webサイトを確認してください。また、応募方法等の詳細は各募集時期に「セイカ・ポータル」の掲示でお知らせしますので、希望する方は漏れなく確認のうえ、必要な手続きを行ってください。

(1) 京都精華大学独自の奨学金

京都精華大学WEBサイト
(京都精華大学独自の奨学金のページ)

国内学生

留学生



(2) 日本学生支援機構 (JASSO) 奨学金 (国内学生対象奨学金 ※外国籍の方も対象となる場合があります)

京都精華大学WEBサイト
(JASSO奨学金)



(3) その他

各地方公共団体・民間育英団体が運営する奨学金制度については、学生支援チームにお問い合わせください。

2. 教育ローン

民間の金融機関や日本政策金融公庫など国の金融機関が設ける、資金用途を教育関連費用に限定した個人対象のローン制度です。本学が提携する、みずほ銀行、オリエントコーポレーション、セディナ (SMBCファイナンスサービス)、滋賀銀行では、融資利率が優遇され、有利な条件で融資を受けることができます。制度の詳細については、大学Webサイト(「教育ローン」のページ)に掲載されている各金融機関へお問い合わせください。

京都精華大学WEBサイト
(教育ローン)



1. 教員に相談するには

本学の専任教員に相談・質問がある場合は、オフィスアワーを利用することができます。オフィスアワーとは、指定された時間帯に、教員の研究室を訪れ、授業に関する質問や学生生活に関する相談などを行うことができる制度です。各教員が設けているオフィスアワーの時間帯は、「セイカ・ポータル」もしくは教務チームで確認することができます。

2. ハラスメントに関する相談窓口

ハラスメントとは、言葉や行為により、相手方に不利益や不快感を与え、その尊厳を傷付けることを意味します。本学では、ハラスメントに関する校内相談窓口を設置しています。また、相談者のプライバシー保護を優先し、秘密を厳守します。

● ハラスメント相談室

[学生支援チーム] 受付時間 9:00～17:00(月曜日～金曜日)

TEL: 075-702-5265 E-mail: gsoudan@kyoto-seika.ac.jp

[総務チーム] 受付時間 9:00～17:00(月曜日～金曜日)

TEL: 075-702-5336 E-mail: soudan@kyoto-seika.ac.jp

[教務チーム] 受付時間 9:00～17:00(月曜日～金曜日)

TEL: 075-702-5230 E-mail: ksoudan@kyoto-seika.ac.jp

3. 学生相談室（臨床心理士による相談・フリールーム）

学生相談室では、気分が落ち込む、心理的不調がある、授業に出られないなど、様々な悩みを臨床心理士に相談することができます。病院紹介や各種連携も行っていますので、気軽に相談してください。相談は予約制です。右の2つの方法のどちらかで申し込むことができます。また、学生相談室内には「フリールーム」があります。授業の合間にくつろぎたい、静かに過ごしたいときなど、くつろぎのスペースとして利用できますので、気軽にたずねてみてください。開室時間は、12:00～17:00(月曜日～金曜日)です。変更や臨時閉室などは、学生相談室前の掲示などで確認してください。

● 予約方法

1. 専用アドレス gakusou2020@kyoto-seika.ac.jp にメールを送信する
2. 「予約申込票」に記入し、学生相談室前のポストに投函する

※メールには「氏名・学籍番号・学部・学年・相談したいこと・来室可能な曜日と時間帯」を記載してください。

※「予約申込票」は本館3階の学生相談室前や本館1階の学生支援チーム前に置いてあります。

※申込みから次回予約の決定まで1～2週間かかることがあります。

● 受付時間

10:00～17:00(月曜日～金曜日)

4. 障害学生支援室

障害学生支援室は、障害等の理由により修学上の支援が必要な学生のための相談窓口です。コーディネーターとよばれる専門スタッフと共に、困りごとを整理したり、その困りごとに対応するための方法を考えたりすることができます。相談内容に応じて、所属学部・研究科や学内外の関係機関とも連携しながら、学生一人ひとりに応じた修学支援を行っていますので、困りごとや不安なことがある方は、遠慮なく相談してください。また、講義の情報保障（パソコンテイクや字幕制作など）やガイドヘルプなどを行う学生サポーター（学内アルバイト）を随時募集しています。「セイカ・ポータル」などで募集を案内しますので、活動に興味がある方は、ぜひ参加してください。

● 個別相談予約 申し込み方法

◎ メールで申し込む

本文に「学籍番号・氏名・相談したいこと・来室可能な曜日と時間帯」を記載し、下記メールアドレス宛にご連絡ください。

Mail: shien@kyoto-seika.ac.jp

◎ 電話で申し込む

電話にて個別相談を利用したい旨をお伝えください。

TEL: 075-702-5268

◎ 窓口で申し込む

障害学生支援室の窓口にて直接お申し込みください。

本館1階 学生支援チーム内 障害学生支援室

京都精華大学WEBサイト
(障害学生支援室)



5. その他相談窓口について

学生生活の様々な場面における各種相談窓口については、上記以外にも、学習のてびき P.14の「事務局各種窓口案内」や大学ウェブサイト「お問い合わせ一覧」-「在学生の方(授業/学生生活/学費納入など)」<https://www.kyoto-seika.ac.jp/contact.html>に記載されていますので、参照のうえ相談してください。そのうえで、どこに相談すべきか迷う場合は、本館1階の学生支援チームにまずは相談してください。

●連絡先|TEL: 075-702-5101 E-mail: gakusei@kyoto-seika.ac.jp

6. 定期健康診断

春季オリエンテーション期間中に学内で定期健康診断を無料で受診することができます。自身の健康状態の確認のために必ず受診してください。とくに教職課程の介護等体験対象者や就職活動を控えた3・4年生は、体験先や企業に健康診断書を提出する必要があります。定期健康診断を受けず、後で健康診断の必要が生じた場合は自費(15,000円程度)で受診することになります。健康診断の日程は学部・学年別に指定されます。なお、性別違和や健康上の理由などで別日程の受診を希望する人を対象に専用の時間帯を設けていますので、希望者は学生支援チームに相談してください。

7. 文化施設の特別優待

(1) 学生証の提示により無料・優待価格で利用できる施設

京都国立近代美術館/国立国際美術館/京都国立博物館/奈良国立博物館/細見美術館/茶道資料館/京都市動物園(学生支援チームで無料入場券を配布)/京都国際マンガミュージアム

(2) 京都市キャンパス文化パートナーズ制度

本学は京都市キャンパス文化パートナーズ制度に加入しています。同制度は、学生が文化芸術に対する理解を深め、学生生活をより豊かなものとするために、京都市が設けているものです。本学の学生は、この制度に登録・入会すると、学生証と携帯会員証の提示により、特定の文化施設を利用する場合に優待を受けることができます。利用できる文化施設や登録方法などの詳細は、京都市Webサイトで確認してください。

大学Webサイト
「文化施設の特別優待」



京都市キャンパス文化
パートナーズ制度



8. 無償で利用できるアプリケーション

本学では各種企業とソフトウェア利用に係る包括契約を結んでいるため、本学の正規課程に在籍する学生は以下のアプリケーションを無償で使用できます。

(1) Adobe Creative Cloud「Photoshop」「Illustrator」「After Effects」「Premiere Pro」など

(2) Microsoft 365 (Office)「Word」「Excel」「PowerPoint」など

※上記のアプリケーション利用は、在籍期間中に限られます。利用に関する詳細は、情報管理チーム窓口(対峰館1階)にお問い合わせください。

9. アルバイトの紹介

本学では「バイトネット(学生アルバイト紹介システム)」を通じて、アルバイト情報を提供しています。「バイトネット」では、業務内容や労働条件などを厳正に審査し、安心して優良な求人情報のみを紹介しています。

※「バイトネット」は、本学が業務提携する株式会社学生情報センターが運営する求人情報提供サイトです。

「バイトネット」
京都精華大学専用ページ
<https://www.aines.net/kyoto-seika>



利用登録には大学が発行するE-mailアドレス(@st.kyoto-seika.ac.jp)が必要です。下記の手順に沿って利用登録を行い、「バイトネット」のIDとパスワードを取得してください。

【登録の手順】

1. 「バイトネット」京都精華大学専用ページから「利用登録」ページを開く。
2. 大学が発行するE-mailアドレス(@st.kyoto-seika.ac.jp)を入力する。@以下まで省略せずに入力すること。
3. 大学が発行するE-mailアドレス宛に「バイトネット」のID・パスワードが送信される。

10. 住まいの紹介

本学では、提携業者を通じて、アパート、マンション等の住まいを紹介しています。希望する方は総合窓口となる株式会社フラットエージェンシーにご相談ください。また、本学学生のための物件検索サイト「賃貸京都.jp 京都精華大学」でも提携業者各社が管理する物件を検索できます。

株式会社 フラットエージェンシー 本店
 ☎ 0120-75-0669 ◎営業時間 | 10:00~18:00 ◎定休日 | 火曜日
 ※詳しくはWebサイトをご確認ください

賃貸京都.jp
 京都精華大学



11. 学外アトリエ「the SITE」

本学が所有するレンタルスペースです。アトリエ・事務所・店舗として貸し出しをしています。

学外アトリエ「the SITE」 ◎所在地 | 京都市左京区田中東春菜町30番地3 ◎アクセス | 叡山電鉄叡山本線「元田中」「茶山」駅 徒歩5分
 ◎賃料 | 4.5万円から13万円+消費税(共益費8,000円+消費税) ◎問い合わせ先 | 総務チーム TEL: 075-702-5131

学内のルール

1. 忘れ物・落とし物の取り扱い

学内で忘れ物・落とし物をした場合、または拾得した場合は、学生支援チームへ届け出てください。持ち主が判明した場合は本人に連絡をします。また、持ち主が分からない拾得物は、1カ月間保管した後に処分します(財布、携帯電話、キャッシュカードなどの貴重品は、1週間後に警察署に届け出ます)。 ※キャッシュカードやクレジットカードなどを紛失した場合は、速やかに最寄りの警察署・交番へ届け出るとともに、銀行または発行会社に必ず連絡してください。

2. 郵便物の取り扱い

学生個人宛の郵便物や宅配便などを大学が受け取ることはできません。自宅を受け取るよう手配してください。

3. 京都精華大学環境方針

本学では、2022年4月1日に以下の環境方針を策定しています。

(1) 基本理念

京都精華大学は「自由自治」を教育理念とし、芸術・文化の教育を通して、あたらしい社会と文化の創造に取り組んでいる。本学は、その活動を基盤として、ひとびとが自然と調和し、自由と平和を享受できる未来の実現をめざす。これは、自然環境、社会環境、生活環境といった人間をとり巻くあらゆる次元での環境において追求されるものである。そのために、大学の教育活動によって、環境に関する意識を醸成するとともに、様々な実践をとり入れて、人類史の展開に尽くそうとする人間の育成をはかる。

(2) 基本方針

- ① 京都精華大学の教員・職員・学生および常駐する委託会社社員を含めた全員が協力し、自然環境と共生した人間を含めた生物にとって健康かつ安全で快適なキャンパス空間の創造につとめる。
- ② 大学の教育活動を通じ、学生の環境意識を形成し、一人ひとりが責任と自覚を持ち、自発的に行動できる人間の育成につとめる。
- ③ 大学が社会的存在であることをふまえ、学生の社会的成長をうながすための、社会に開かれた教育プログラムを設定し、展開する。
- ④ あらゆる活動において、使用エネルギーの削減、資源の有効利用など、エネルギー効率を高める方策に積極的に取り組み、また環境汚染を予防するための関連法規などを遵守する。

4. 快適なキャンパスライフのためにできること

快適なキャンパスライフを維持するために、本学の構成員として実行してください。

(1) ごみ分別は「義務」です

- ① 日常のごみは、種類別に分別廃棄する。
- ② 制作ごみは、朝夕館横の集積場に分別廃棄する。

※P.30「京都精華大学ごみ分別表」参照

※正しく分別しないと回収を断られることがあります。

※特に「紙ごみ」と「プラスチックごみ」を「燃えるごみ」に入れるケースが目立ちます。

(2) 安全で快適なキャンパスを作り、守る

- ① 実習室や設備などは整理整頓し、きれいに使う。
- ② バイクは専用駐車場に停める(キャンパス内乗り入れ禁止)。
- ③ 自転車は押して歩く(キャンパス内走行禁止)。
- ④ 指定喫煙場所以外は禁煙(歩きタバコ、ポイ捨て禁止)。
※P.254～255キャンパスマップ参照
- ⑤ 防火扉の前や点字ブロックの上に物を置かない(一時的であってもダメ)。

(3) 限りある資源やエネルギーを大切に

- ① 教室や実習室はこまめに消灯、エアコンや換気扇のスイッチもOFF。
- ② 冷房は28℃、暖房は20℃設定にする。
- ③ トイレの暖房便座は必ずふたを閉める。
- ④ 余ったペンキや溶剤類は、流しや水路に流さず、ウエスで拭き取り、「燃えるごみ」に出す。
- ⑤ 「プラスチックごみ」、「缶・ペットボトル」、「紙ごみ」はリサイクルのため分別してごみに出す。

5. ごみの分別について

大学から出すごみは分別することが義務となっています。大学の構成員として、以下の分別表に従ったごみの分別を行ってください。正しく分別しない場合、ごみ回収を断られることがあります。不明な点は下記担当(施設管理チーム)までご連絡、ご相談ください。

京都精華大学ごみ分別表

適切に分別しましょう
～混ぜればごみ、分ければ資源～

 <p>プラスチック</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●ビニール類 (ビニール紐・PPバンド・梱包材など) ●プラスチック製容器・包装※1 (カップ・キャップ・フィルム・ラベルなど [2]がついたもの) ●発泡スチロール※2 ●スチレンボード※2 ●プラスチック製品 (クリアファイル・ペン・ディスク・ラミネートされたものなど) 	<p>※1: ・飲食物がついた容器は、洗うか汚れをふき取る ・インク類の空容器は朝夕館の集積場へ</p> <p>※2: ・細かく削ったものは透明ビニール袋にまとめること ・サイズが大きいものは朝夕館の集積場へ</p>		
 <p>缶・ペットボトル</p>	<p>●飲料用の缶・ペットボトル</p>  <p>⚠️ 飲み残しやごみは入れないこと ・溶剤缶やスプレー缶は朝夕館の集積場へ ・菓子缶などはごみ箱前に置くこと</p>	<p>飲食用ガラスびん</p> <p>専用回収箱へ</p>  <p>⚠️ 溶剤類のびんは朝夕館の集積場へ ・割れたびんは袋に入れごみ箱の前に置くこと</p>		
 <p>紙・紙製品</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●コピー用紙・メモ用紙 ●ハガキ・チラシ・ポスター ●封筒 ●画用紙 ●包装紙・紙袋・紙箱・紙筒 ●ボール紙・クラフト紙 <p>⚠️ 次のものはリサイクル不可のため燃えるごみへ 紙コップ・紙バック・写真・ビニールコート紙・シール・圧着はがき・和紙・金紙・銀紙・汚れた紙類など</p>	<p>古紙回収となるもの</p> <p>ごみ箱の横にまとめて置く</p> <ul style="list-style-type: none"> ●段ボール ●新聞紙、雑誌、書籍 ●シュレッダーごみ 	<p>機密書類</p> <p>段ボールに詰め、封をせず施設管理担当まで</p>  <p>⚠️ クリップやファイル、機密性のないチラシや封筒などは入れないこと</p>	
 <p>燃えるごみ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●生ごみ ●わりばし ●紙コップ・紙パック ●合成紙・粘着紙 (写真・光沢紙・粘着シールなど) ●感熱紙 (レシート・カーボン紙など) ●耐油紙 (パラフィン紙・トレーシングペーパーなど) ●汚れた紙類 (使用済みティッシュ類・食品や油で汚れた紙皿やシートなど) ●布 (ウエス・ぞうきん・不織布など) ●その他 (輪ゴム・ガムテープなど) 	<p>⚠️ 汚れたプラスチックは、洗うか汚れを拭き取りプラスチックへ</p> <p>実習室内のごみ箱も「燃えるごみ」と同様です。</p> 		
<p>ごみ箱に廃棄できないもの 朝夕館の集積場に分別してください</p>		<p>朝夕館の搬入は 9:00～16:00</p>  <p>搬入時には必ず用務員さんに声をかけてください</p>		
<p>廃プラスチック ※上記ごみ箱に入らないサイズの大きいもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ●発泡スチロール ●スタイロフォーム ●樹脂制作物 ●FRP制作物 <p>●スチレンボード</p> <p>●プラスチック製品</p> <p>⚠️ プラスチック以外の素材は取り除くこと</p>	<p>木くず</p> <ul style="list-style-type: none"> ●パネル ●コンパネ ●看板  <p>⚠️ 木以外の素材は取り除くこと</p> <p>⚠️ おがくずは透明ビニール袋にまとめ宛明館前へ</p>	<p>溶剤類の缶・びん</p>  <p>⚠️ 少量残っている場合はウエス等で拭き取ること ・スプレー缶は使い切り穴をあけて中を空に</p>	<p>陶磁器・ガラスくず</p>  <p>⚠️ 包装紙などは取り除くこと</p>	<p>石膏くず</p>  <p>⚠️ 液状の石膏は乾燥させること</p>
<p>廃蛍光灯</p> 	<p>電化製品・大型ごみに関して</p> <ul style="list-style-type: none"> ●テレビ・冷蔵庫・洗濯機・エアコン ●パソコン・プリンター ●大型ごみ (畳・ソファなど) <p>※家電リサイクル料金がかかります</p> <p>⚠️ 処理を希望される場合は、事前に施設管理担当まで(個人所有物は大学では処理できません)</p>	<p>電池類</p> <p>専用回収箱へ</p>  <p>⚠️ その他、各学科・コースで特有なもの(廃液など)は個別に回収しています</p>		

【施設管理チーム】TEL:075-702-5228

緊急事態発生時の対応・事前対策

1. キャンパス内で火災・地震が発生した際の対応

(1) 火災が発生した(火災を発見した)場合

- ① 大声で周囲に知らせ、火災報知機を押す。または通報する。

施設管理チーム TEL:075-702-5228

警備棟 TEL:075-722-3729

消防署 TEL:119

- ② 廊下または実習室内に設置してある消火器や消火栓で初期消火をする。

消火器の使用法

1. 安全栓(黄色いリング)を抜く
2. ホースを外し、火元に向ける
3. レバーを強く握り、放射する(消火器の放射時間は15秒!)
4. 1本で消せない場合は周囲に応援を呼ぶ

- ③ 初期消火できない場合は、安全な場所へ避難する。

避難にはエレベーターを使わず、必ず階段を使うこと。煙が発生している場合は、身をかがめて低い姿勢になり、ハンカチで口を覆うなど煙を吸い込まないようにすること。

(2) 地震が発生した場合

- ① 丈夫な机の下に避難し、衣類やかばんなどで頭を守るなど身の安全を図る。
- ② 窓や扉を開けるなど出口を確保する。
- ③ 必ず火を止め、万一出火した場合は初期消火をする。
- ④ 扉を開けたままにし、負傷者を優先し、安全な場所へ避難する(すぐに外に出ないこと)。

● 避難場所はグラウンドです。

※火災予防のため日ごろから消火器や消火栓、防火扉の前には物を置かないでください。
※廊下や階段、非常口は避難経路となるため日ごろから物を置かないよう心がけてください。

2. 災害に備えた対策・基礎知識

(1) 日頃の対策

被害や不安を少しでも軽減するために以下の対策をしておきましょう。

- ① 避難場所の確認(大学付近および自宅周辺など)
- ② 家族との連絡方法および待ち合わせ場所の確認
- ③ 災害用伝言サービスの確認と登録(事前登録が必要な場合があります)
- ④ 帰宅ルートおよび所要時間の確認
- ⑤ 転倒防止対策や緊急時アイテムの確認
- ⑥ 大学や友人などへの連絡方法の確認とリスト整備

(3) 家族への連絡方法

① NTT災害用伝言ダイヤルサービス

地震など大災害発生時、電話がつながりにくい状況になったときに、提供されるサービスです。

● 伝言の録音方法

- ① 「171」へ電話をかけます。ガイダンスが流れます。
- ② 「1」をダイヤル。
- ③ 市外局番+自宅電話番号。

● 伝言の再生方法

- ① 「171」へ電話をかけます。ガイダンスが流れます。
- ② 「2」をダイヤル。
- ③ 市外局番+被災地の人の電話番号。

※被災地にいる人も、被災地以外にいる人も利用方法は同じです。

② 携帯各社の災害用伝言板サービス

携帯電話各社でも災害発生時に「災害用伝言板」などのサイトが利用できるようになります。事前登録が必要な場合もありますので、利用方法を確認しておきましょう。

(4) 大学への安否報告

災害が発生した場合、大学は学生の安否確認を行います。災害発生時に登校していない場合は、連絡可能になり次第、電話かメールで学生支援チームに連絡してください。その際には、学籍番号、氏名、現在の状況を知らせてください。

学生支援チーム TEL:075-702-5101

E-mail:gakusei@kyoto-seika.ac.jp

ケガ・体調不良時の対応

1. 学内でのケガ・体調不良

学内でケガをした場合や体調が悪くなった場合は、保健室を利用することができます。保健室には保健師・看護師が常駐し、応急手当や健康に関するアドバイスをしています。

保健室 (本館1階)	開室時間 (授業期間中のみ)	月～金 9:00～18:00 土 10:00～14:30
---------------	-------------------	---------------------------------

※「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」(薬機法)に基づき、保健室では一般医薬品(内服薬等)を取り扱っていません。体調不良が心配な方は、主治医や薬局(薬剤師等)と相談のうえ、緊急時に対応できる自分にあった薬を携帯するようにしてください。

2. 医療機関

本学では、以下の医療機関と提携し、学生の保健管理や健康診断を行っています。

丹羽内科医院(校医)

京都市左京区岩倉三宅町360(叡山電車「八幡前」駅下車、北へ徒歩5分) ◎TEL | 075-781-5221

◎診察時間 | 9:00～12:00、17:00～19:00 ◎休日 | 木曜・日曜・祝日・土曜午後 ◎URL | <http://www.niwanaika.net>

校医以外の大学周辺の医療機関については、保健室で紹介しています。必要に応じて問い合わせてください。

3. 学内で傷病者を発見したら

学内で傷病者を発見したときは、慌てずに周りの人に知らせ、協力して応急手当をするとともに、教職員に連絡し、指示を仰いでください。

緊急時に備え、本学ではAED(自動体外式除細動器)をキャンパスおよび学外施設に設置しています。AEDは、心停止者が心室細動状態か否かを自動的に判断し、必要に応じて電気ショックを与える医療機器です。キャンパス内に4カ所、学外施設に3カ所設置しており、誰でも利用できます。倒れている人を見かけたら一刻も早く近くの人に声をかけAEDを持って来てもらうよう頼んで下さい。

AED設置場所

(1) キャンパス内 ※P.254～255キャンパスマップ参照

①本館1階 ②体育館1階 ③情報館2階 ④警備棟

(2) 学外施設

①京都国際マンガミュージアム ②丹後学舎 ③朽木学舎

4. 学生教育研究災害傷害保険・学研災付帯賠償責任保険

本学では、全学生が入学時に「学生教育研究災害傷害保険」および「学研災付帯賠償責任保険」に加入しています。

講義や実習、課外(クラブ)活動、通学中の事故によるケガの治療、他人にケガをさせたり、器物を破損してしまったときの賠償には、一定条件の下に保険金が支払われます。そのような場合は、速やかに学生支援チームに連絡してください。

● 学生教育研究災害傷害保険

国内外における正課中(講義、実習、演習)、学校行事、大学が認めた課外活動(クラブ・サークル、インターンシップ、ボランティア活動)などの教育研究活動中、学内施設利用中、通学中の事故によるケガを治療した場合、一定条件のもとに保険金が支払われます。

● 学研災付帯賠償責任保険

国内外における正課中(講義、実習、演習)、学校行事、大学が認めた課外活動(インターンシップ、ボランティア活動)またはその往復において、他人にケガをさせた場合や、他人の器物を破損させてしまった場合、一定条件のもとに保険金が支払われます。

※インターンシップを保険対象とするためには、事前にキャリア支援チームに届出書を提出する必要があります。

様々なトラブルを防ぐために

1. 飲酒・喫煙時の注意（20歳未満の飲酒・喫煙は違法です）

(1) 飲酒

2010年に発生した学生の飲酒死亡事故以降、学内外を問わず大学施設内での飲酒はできません。

- ① アルコールハラスメントはやめましょう。イッキ飲み、罰ゲーム、上下関係で飲酒を強要する、その雰囲気をつくる、大量に飲ませて酔いつぶす、酔ってからむなど、すべてがアルコールハラスメントであり、人権侵害です。命を失うケースもあり、傷害などの犯罪に発展する可能性のある極めて悪質かつ危険な行為です。絶対にやめましょう。
- ② 飲酒運転はやめましょう。お酒を飲んで、車・バイク・自転車を運転することは法律で固く禁止されています。また、飲酒運転は本人だけでなく第三者にも迷惑や被害を与える大きな事故につながります。また、お酒を飲んでいる人の運転を制止する立場にありながら止めなかった人も処罰の対象となることがあります。絶対にやめましょう。

(2) 喫煙

すべての人が快適に過ごせるキャンパスづくりのために、キャンパスは指定場所以外全面禁煙です。喫煙の際には、タバコを吸わない人に煙を吸わせることや、不快な思いをさせることがないように、周囲に配慮し、マナーを守ってください。歩きタバコ、吸いがらのポイ捨てはやめましょう。本学における特定屋外喫煙場所はP.250～251のキャンパスマップに記載されています。

2. 薬物乱用の防止

大麻や覚せい剤、麻薬などの違法薬物を使用することは犯罪です。違法薬物はその乱用だけでなく所持も禁止されており、例えば、大麻所持の場合は5年以下の懲役に処せられます。

特に近年は青少年による大麻事犯が増加傾向にあり、2019年には本学学生6人が大麻取締法違反（所持）の罪で逮捕・起訴されました。インターネット等において「有害性がない」などの誤った情報が氾濫していますが、大麻の乱用は、青少年期に構築される脳・神経系の正常な発達及び成熟に障害を起こす可能性が強く示唆されており、10代の頃から使い始めると依存症になる危険が高まることが報告されています。

薬物乱用はただ一度の使用でもあなたの人生を台無しにし、家族や友人などあなたに関わる周囲の人も傷つける恐れがあります。自ら使用しないことが大切ですが、他者から誘われた場合もしっかりと断り、必ず自分を守ってください。もし、あなたの周囲で使用の可能性がある場合はすぐに学生支援チームか教職員へ相談してください。大学に相談することは友人やクラスメイトを裏切る行為だと自身を責めることはありません。薬物乱用を止めないことのほうが、その人の人生を悪化させる恐れがあるからです。

「合法ドラッグ」や「合法ハーブ」といった危険ドラッグに関する事故やトラブルも起きています。身体への影響がなく安全であるかのように誤解されていますが、危険度は麻薬と同じ、またはそれ以上です。

違法薬物は絶対に買わない、使わない、かかわらないようにして自分を守ってください。

また、近年では若年層によるオーバードーズ（一般用医薬品を、決められた量を超えて摂取すること）も薬物乱用として社会問題化しています。医薬品は正しい目的や方法で使用しましょう。困りごとは抱え込まず相談してください。

薬物乱用に関するメールでの相談窓口 | gakusei@kyoto-seika.ac.jp

3. ネット上のマナーおよび個人情報の取り扱いに関する注意

インターネットは、情報の収集や交流など、私たちの生活に欠かせないツールですが、無防備な書き込みによるトラブルやフィッシング詐欺など、多くの社会問題も起きています。インターネット上の発言は、全世界の人に見られる可能性があり、一度書き込んだ内容を完全に削除することはできません。特に近年はSNSをきっかけにした学生間のトラブルが数多く発生しています。アカウントに鍵をかけたか、特定の相手をブロックしたりしても友人などを通じて相手に伝わる場合がありますので、個人情報や他人の人権を傷つける発言など、無防備・無責任な書き込みをしないよう気をつけましょう。また、芸術・表現を学ぶ学生としての自覚を持ち、著作権や肖像権の正しい理解と配慮を心がけましょう。

4. 詐欺・闇バイト・悪徳商法・悪質団体への注意

大学生や外国人留学生を狙った詐欺に注意

警察、海外の大使館や出入国在留管理庁を名乗る人から金銭を要求されるような大学生、外国人留学生をターゲットにした詐欺被害が発生しています。詐欺被害に遭わないためには、一人で判断しないことが大切です。心当たりのない連絡や郵便物が届いた場合、相手には連絡をせず、まずは速やかに家族や学生支援チーム、最寄りの警察署へ相談してください。万が一、相手に連絡をしてしまい、話を聞いて不安な気持ちになっても、絶対に家族や警察へ相談する前に、慌ててお金を振り込んだり、個人情報教えてはいけません。心配なことや困ったことがあれば、学生支援チームへ相談してください。

闇(やみ)バイトに注意

SNSやインターネットの掲示板には、仕事の内容を明らかにせず著しく高額な報酬の支払いを示唆するなどして犯罪の実行者を募集する投稿が掲載されています。簡単に高収入を得られるなら、と応募して、強盗や詐欺といった犯罪に加担することとなり、逮捕された人が多くいます。また、外国人留学生の場合は強制送還されることになります。

絶対に手を出さないでください。

悪徳商法・悪質団体に注意

甘い話・うまい話で一時的に気を引いて高価な商品売りつけたり、執拗な勧誘や断りにくい状況の中で契約をさせようとする「悪徳商法」には十分注意をしましょう。クーリング・オフ制度(契約を締結した場合でも、一定の期間であれば無条件で契約の申込みを撤回したり、契約を解除したりできる制度)等の事後対応も大切ですが、まずはそうした怪しい誘いに乗らないよう冷静に判断しなくてはなりません。被害に遭ってしまったかもしれない、という時は、家族や大学、消費生活センターに相談してください。

独立行政法人国民生活センター URL | <http://www.kokusen.go.jp>

悪徳商法の主な手口

・マルチ商法

商品を買って会員になり、知人を紹介して商品を買ってもらうと紹介料や成功報酬などの利益を得ることができるというもの。実際は利益が保証されているものではなく、借金が残ってしまう場合もある。

・キャッチセールス

販売の目的を隠し、「街頭アンケートに協力してほしい」「無料体験を行っている」などと路上で声をかけて営業所や飲食店に誘導し、強引に商品売りつけるもの。

・デート商法

恋愛感情を利用して高額な商品を買わせようとするもの。SNSやマッチングアプリ等を使用して近づき、時には複数人で勧誘され断れない状況に追い込まれたり、強引に借金をさせられたりすることもある。

3

キャリア支援

Career Support

セイカのキャリア支援

1. セイカのキャリア支援の考え方

「好きや得意を仕事に」を本気で支援

セイカのキャリア支援のコンセプトは「好きや得意を仕事に」です。大学を卒業すれば、基本的には社会に出て毎日多くの時間を仕事に使うことになります。であれば、好きなことや得意なことにつながっている仕事の方が、より幸せに生きられるはず。それをただの理想ではなく一人ひとりが実現できるよう本気で支援するのが、セイカのキャリア支援です。

卒業後の進路にはいくつかのケースがあります。

学んできた内容を
活かす仕事に就く

専攻とは直結していないが
自分の特徴を活かせる仕事に就く

自分で仕事をつくる
(作家、マンガ家、イラストレーターなど)

どの進路を選ぶにしても優劣はありません。むしろどういふ仕事のかたち、働き方に関心が向くかは、4年間の学生生活の間に大きく変化するものです。専攻分野にとらわれる必要もありません。専門資格が必須の仕事を除けば、専攻を問わずやってみよう!と思う仕事にいくらかでも挑戦できる時代です。そして、セイカではどの進路に対してもサポート体制を整えています。窓口対応だけでなく、授業や年間に多数実施するイベント・講座を通して、あらゆる角度からみなさんが自由な進路選択ができるよう支援していきます。

2. 進路を考えたときのヒント

進路選択に必要なのは自分だけの「経験」

どんな仕事のかたちを希望するとしても、仕事を探す際には「自分がどんな人間で何をやってきたか、何をしたいか」を伝えることが必要になります。つまり、進路を考えるには「自分自身の経験をどれだけ掘り下げられるか」が肝心になるのです。自由度の高い大学生時代に、好きなことややってみよう!に思い切り挑戦する経験をひとつでもふたつでも積むことが、大学生活で一番大事なことだと言えるかもしれません。そうした経験を積み重ねていけば、自分の傾向や将来の仕事の方向性が自ずと見えてくるはず。アンテナを張っていれば、セイカには学部を問わず誰でも参加・挑戦できるチャンスがたくさん転がっています。進路は自分のために自分で選び取るもの。人に流されたり合わせたりするのではなく、少しでも気になるものは積極的に参加してみてください。挑戦も失敗も含め「経験しないと学べないこと」こそが、あなただけの糧になります。

表現の学びは武器になる

「自己アピールできないことがない」という相談を受けることがあります。実は、表現を学ぶセイカの学生は無意識に多くの力を身につけています。「絵画」に取り組んでいるなら観察力や集中力が、「デザイン」ならコンセプトから考える企画力が、「マンガ」なら発想力や忍耐力が、「論文」なら客観性や分析力が…、といった具合に、各学部の日々の学びを通して自然に養われる力があります。今のあなたは何が好きですか? 何が得意ですか? そして、周囲の人々や世界がどうなるとうれしいですか? 進路・就職のことを考えるとき、まずはこれを自分に問いかけてみてください。

3. 各学年別のステップとやっておくべきこと

進路選択に向けてどんな準備をしていけばいいのかを学年ごとに見ていきましょう。

	各学年別のステップとやっておくべきこと	キャリア支援チームからの一言アドバイス
1年生	1年目は、授業で基礎知識や技術をどんどん吸収するインプットがメインの時期です。興味関心をもったことは積極的に参加、挑戦しておく、それが後々進路を考えるときの資源になります。活動内容は、経過や結果を必ずデータで記録して！	 <p>吸収し基礎を固める時期。 失敗も成長の糧。 自由にどんどん挑戦してみる事が大事。</p>
2年生	授業課題はもちろん、課外プロジェクト、サークルやアルバイトなど課外活動にも力を入れられる時期。この時期に「〇〇に力を入れてがんばった！」と言える経験をつくっておくことが大事です。PCスキルも苦手分野は克服しておきましょう。	<p>挑戦を蓄積する時期。 学内外の活動に幅をもたせ、好きなことに思い切り打ち込んで。</p> 
3年生	進路ガイダンスが始まり、将来と自分について考え向き合う時期。情報収集と自分自身の考えを明確にできるかどうか重要です。関心がある業界や仕事があれば積極的にインターンシップに参加するとよいでしょう。	 <p>進路と向き合う時期。 情報収集と自分自身の考えを言葉にする時間をつくろう。</p>
4年生	就職希望者は春から活動が本格化。卒論、卒制と活動が重なってくるので、早めの行動が肝心。作家など就職以外の進路を希望する場合はとくに、活動を継続していける環境を在学中にどれだけ整えられるかが大切になります。困ったとき、迷ったときはキャリア支援チームへ相談を！	<p>活動本格化、 早めの行動が成功のカギ。 相談はどんな些細なことでもウェルカム！</p> 

4. 活用しよう！大学のキャリア支援

本学では、みなさんのキャリアに役立つさまざまなサポートを行っています。目的に合わせて積極的に利用してください。

学生グループ キャリア支援チーム | 明窓館1階(キャリアパーク)

(1) 進路・就職に関する個別相談

進路・就職に関する個別相談を受けられます。就職活動をはじめ進路についての悩みだけでなく、履歴書・エントリーシートの添削や面接指導、ポートフォリオのアドバイスも行っています。

相談時間 | 月～金 10:30～17:30 (1回30分)

1・2年生 | 相談希望日の前日18時までにキャリア支援チームで予約してください。
3・4年生 | 相談希望日の前日まで「キャリア支援サイト」からいつでも予約ができます。
詳しい予約方法については「セイカ・ポータル」を確認してください。

(2) その他の窓口で受けられるサポート

先輩の作品 ポートフォリオ閲覧	クリエイティブ職で内定を決めた先輩のポートフォリオを閲覧できます。ゲーム、アニメーション、広告、グラフィック、プロダクトなど多様な進路に対応したポートフォリオが揃っています。
就職関連書籍の貸し出し	様々な進路や働き方を考えるための書籍、業界や職種の解説本、ポートフォリオ制作の参考書籍、筆記試験対策本などをカウンターで借りられます。

(3) 窓口以外で受けられるサポート

「セイカ・ポータル」、 学内メールを通じた情報発信	「セイカ・ポータル」、学内メールを通じてキャリア支援チーム主催の講座・ガイダンスをはじめ、学外のインターンシップ、就職・進路に関するイベントなどについての情報を随時配信しています。 必要な情報をしっかりチェックしましょう。
キャリア関連イベントの実施	さまざまな業界の現場からゲストを招いた業界研究会を、年間通じて数多く実施しています。 学部・学年問わず参加できるので、関心があれば早期から知識や理解を深められます。
就職活動体験レポート閲覧 (3年生以降対象)	卒業生の就職活動体験レポートをキャリア支援サイトで閲覧することができます。
キャリア支援サイト (3年生以降対象)	大学に届くインターンシップ、求人情報を確認することができます。

5. これがおすすめ！セイカ生に合わせた各種ガイダンス

本学では、進路選択や就職活動に役立つさまざまな講座・ガイダンスやキャリア科目を実施しています。みなさんの興味や目的に合わせて、積極的に参加しましょう。

(1) すべての就職希望者のための総合支援

就職を目指す学生のために以下のような大学オリジナルの講座・ガイダンスを実施しています。一部、学年を限定したイベントがありますが、希望者は参加できます。詳細は「セイカ・ポータル」で確認してください。

進路・就職ガイダンス	業界や職種の理解、仕事の探し方、履歴書の書き方、面接対策など就職活動に必要となる基本的な知識が身につきます。
企業説明会(単独・合同)	人事・採用担当者を大学に招き、会社の紹介や採用スケジュール、求める人物像などを説明してもらいます。このイベントを通じて内定に結びつくケースが増えています。
内定者が語る 今年の就活体験談	就職が内定した4年生から就職活動の“生”の体験談が聞けます。
各種就職対策講座	「面接対策講座」や「職業研究」など就職活動に役立つ各種講座やイベントを実施しています。

(2) クリエイティブ系職種を目指す人に特化した支援

ゲームクリエイター、Webデザイナー、グラフィックデザイナーなどクリエイティブ系の職種を目指す学生を対象に以下の講座・ガイダンスを実施しています。

ポートフォリオ対策講座	クリエイティブ職の就職活動で最も重視して審査されるのはポートフォリオの作り方や対策講座を実施しています。また、キャリア科目「ポートフォリオ実習」では、ゲーム、広告デザインなどの分野で活躍する現役デザイナー等を招き、ポートフォリオ制作のポイントを分かりやすく説明します。
ポートフォリオ個別相談	ポートフォリオは、業界や職種によってその評価ポイントは全く異なります。キャリア支援チームの個別相談では、ゲーム、デザイン、メディア、CGといった業界ごとに詳しい相談員からアドバイスを受けることができます。また、企業説明会や業界研究会では、デザイナーにポートフォリオを見てもらえる機会も設けています。
3DCG講座	ゲームやアニメ業界で求められる3DCGの知識や技能について、基本から学ぶことができる講座を実施しています。ポートフォリオの個別相談と合わせて活用してください。

(3) 就職以外の進路を目指す人を支援

マンガ家など企業就職以外の働き方を希望する学生のためのサポートプログラムも実施しています。

マンガ講評会	マンガ編集者を大学に招き、マンガ作品を講評・指導してもらいます。夏と冬の年2回開催される合同講評会では、大手出版社を中心に多数の編集部が来学します。
フリーランス、アーティスト スタートアップ志望者向け支援	キャリア科目「新時代のキャリア」では、フリーランスやアーティストとして生計を立てるための知識や方法を学ぶことができます。卒業生や起業家などを招き、活動方法などをお話いただく機会もあります。

6. セイカならではの特色あるサポート

本学の学生に合わせてつくられた、セイカ独自の特色あるサポートを紹介します。

① 京都精華大学オリジナルキャリア手帳

無数の卒業生たちの進路を支援してきたキャリア支援チーム。そんなチームスタッフが経験をもとに書き下ろした、進路就職ノウハウ情報つきの手帳を、3年生全員に無料配布しています。必要な基本情報はもちろんセイカ生の興味関心に合わせた内容が盛り込まれており、活動の際に携帯しやすいサイズとデザインになっています。ダイアリー機能もあるので手帳としても活用できます。



② 適職診断ができる『セイカミライカード』

セイカのキャリア科目担当教員がオリジナルで開発・デザイン制作した適職診断ゲーム『セイカミライカード』を使って、いつでも適職診断をすることができます。ゲーム感覚で受けられるので、「どんな仕事があるかわからない」「何が向いているのか知りたい」という人にはうってつけ。友達と一緒にやってみるのも○。進路について考えるときの一つのきっかけとして活用してみてもいい。



③ 先輩たちの豊富なポートフォリオ

デザイナーなどクリエイティブ職の採用試験で最も大きなウェイトを占める作品審査。そこで提出する自分自身の作品ポートフォリオについて、早めからリアルにイメージをもてるよう、実際に内定先に提出したポートフォリオを毎年先輩たちから集めています。業界、職種も幅広く、これだけ多くのポートフォリオ事例が実物で見られるのはセイカならではの学部学年不問、誰でもいつでも自由に閲覧可能です。



☑ キャリアに役立つ科目も要チェック!

カリキュラムのなかにも、キャリアを考えるうえで役立つ科目がたくさんあります。

1. キャリア科目

『キャリア2』、『キャリア3』、『職業研究』、『ポートフォリオ実習』、『コミュニケーション実践演習』など、進路選択に直結する科目を目的に合わせて履修しましょう。

2. 汎用性が高いスキルはPC・デジタル関連と語学!

仕事内容や業界を問わずワードなどのPCスキルは必須です。クリエイティブ職であれば、デジタルソフトの操作スキルが必要です。ウェブのスキルも需要UP中。語学力はあって損なし! 苦手部分を早めに授業でスキルアップしておきましょう。

3. 社会、経済、ビジネスへの理解を深める科目

筆記試験や面接時に必要となる時事・ビジネスに関する知識。日頃から世界や社会で起こっているトピックスに関心を持ち理解を深めましょう。

4

国際交流

International
Exchange

セイカの国際交流

本学では1968年の開学時より国際交流に力を入れてきました。芸術系の学部がある大学としては全国でもトップクラスの留学生数、協定校数を有するほか、国際交流に関わる充実した制度が整っているため、学内にいながらして海外の文化を感じることも可能です。しかしながら、皆さん自身が実際に現地へ足を運び、見て、話し、聞いて得られる「経験」に勝るものはありません。学生の間にはぜひ一度は海を渡り、現地の文化に触れ、人と交流することで、自身の世界や可能性を広げてください。

1. 海外での国際交流

(1) 交換留学

本学に在籍したまま、海外の協定校で学ぶことができる制度です。本学の規定授業料を納めれば、留学先協定校での授業料は免除されます。また、現地で取得した単位は帰国後に卒業要件単位として認定されるため、4年間での卒業が可能です。留学先では正規の学生として扱われ、現地の学生と同等に指導されます。本学の協定校リストには世界トップレベルの大学が名前を連ねています。現地の学生や教員と学び合えるこの機会をぜひ利用してください。

① 交換留学時期と学内出願時期

交換留学時期と学内出願時期は次のとおりです。記載のない時期に交換留学へ行くことはできません。

所属	交換留学時期	出願時期(目安)
学部	3年次春出発	前年度の7月下旬
	3年次秋出発	前年度の1月下旬
	4年次春出発	前年度の7月下旬
大学院	2年次春出発	前年度の7月下旬

② 交換留学に行くための条件

交換留学の希望者は、所定の出願期間に書類提出を済ませ、学内選考を受けたいうえで、本学による大学推薦を得る必要があります。出願条件は次のとおりです。

- ・参加動機が明確で十分な成績(学部は年間36単位以上修得)を有する。
- ・出願時にTOEFL-ITP415点以上(TOEFL-iBT34点以上)のスコアを提出できる。
- ・出願前に所属分野の専任教員と交換留学に関する相談を済ませ承認を得ている。

③ 早めに準備しておくべきこと

求められてもすぐには準備できないことがいくつかあります。たとえば以下のようなことです。

- ・語学力:前掲のTOEFLスコアの基準をクリアできるように語学力向上に努めてください。
- ・留学費用:欧米圏で100~200万円、アジア圏で40~50万円を目安に資金準備計画を立ててください。

④ 備考

- ・この制度を利用できるのは在学中に1回限りです。
- ・時期によっては交換留学生を受け入れない協定校もあります。
- ・学部生と比較すると大学院生の交換留学先は限定されます。
- ・学内選考の結果、大学推薦を得られても、留学希望先から受入を断られる場合があります。
- ・留学生の受入にあたっては学内出願条件以外の条件を指定する協定校もあります。

(2) 海外ショートプログラム

正課科目の授業として取り扱われる短期の海外研修プログラムです。海外ショートプログラムには、次の3種類があります。

① タイプA：教員主導型（1～2週間）

研修先の事情に通じた本学専任教員が、現地へ同行・引率して直接指導をおこないます。

[過去の実績例] タイ、台湾、イタリア、フィンランド、フランス、セネガルなど

[費用目安] アジア圏 20万円～、ヨーロッパ圏 40万円～

② タイプB：大学幹旋型（スタディツアー）（1～4週間）

特色あるテーマに基づき、個人々が関心と目的意識をもって主体的にツアーに参加します。

[過去の実績例] ボランティア活動、イタリアものづくり研修など

[費用目安] アジア圏 20万円～、欧米圏 50万円～

③ タイプC：大学幹旋型（語学研修）（2～4週間）

語学を修得するという目的に特化して、決められた生活環境のなかで勉強に励みます。

[過去の実績例] 英語（アメリカ、ニュージーランド、フィリピン）、フランス語、韓国語

[費用目安] 英語研修 30万円～、フランス語研修 80万円～、韓国語研修 20万円～、中国語研修 20万円～

長期で行われる交換留学やフィールドワークへのステップとして、また在学中の海外経験として、ぜひ積極的に参加してください。

2. 学内での国際交流

(1) iC-Cube（アイシーキューブ）

京都精華大学は留学生の比率が高く、学生のバックグラウンドは多彩です。キャンパス内での多文化交流や異文化理解のための共同スペースであるiC-Cube（アイシーキューブ）では、英語をはじめとする多彩な言語によるコミュニケーションができる講演会、ワークショップなどの国際交流イベントを開催します。語学力に自信がなくても不安に感じることはありません。気軽に国際交流を楽しみましょう。

(2) 海外からのビジターとの交流

京都精華大学では、世界各国の教育機関などから、日本語や日本文化の研修、交換留学、視察旅行などを目的としたビジターやゲストを多数受け入れています。ぜひ彼らと交流する機会を楽しみましょう。



注意

交換留学および海外ショートプログラムに関心のある方は、別刷の専用冊子を参照してください。また、国際交流担当部署（グローバル推進グループ）のスタッフと積極的にコミュニケーションを図り、情報の収集に努めるようにしてください。

5

教 学

Academic Matters

授業科目

1. 大学の授業とは

大学では、それぞれの授業のシラバス(授業概要および計画を示したもの)を見て、学びたい授業を自身で選び、自分専用の時間割を作ります。各学部・学科・コース・専攻ごとに体系化された教育内容があり、様々な科目で構成されています。みなさんは自分の所属している学科・コース・専攻のカリキュラムに沿って授業を選ぶことになります。

2. 学期制

本学では、2学期(セメスター)制と4学期(クォーター)制を併用しています。2学期(セメスター)制は1年間を前期と後期の2つの学期に、4学期(クォーター)制は1年間を1Q、2Q、3Q、4Qの4つの学期に分けた学期制度です。科目によって、授業の開講される学期が異なりますので、履修登録の際によく確認してください。なお、2026年度の学期は、以下の通りです。

※各年度の学期は、「セイカ・ポータル」および大学Webサイトに掲示された学年暦(大学カレンダー)を参照してください。

前期	2026年4月1日から2026年9月30日	1Q	2026年4月1日から2026年6月9日
後期	2026年10月1日から2027年3月31日	2Q	2026年6月10日から2026年9月30日
		3Q	2026年10月1日から2026年11月30日
		4Q	2026年12月1日から2027年3月31日

3. 開講期間による科目の分類

科目は開講期間によって以下のように分類できます。

(1) 通常授業

セメスター開講科目	前期もしくは後期の14週間、毎週開講される授業
クォーター開講科目	1Q、2Q、3Qもしくは4Qの7週間、毎週開講される授業
通年授業	1年間(1Qから4Qの合計もしくは前期、後期の合計28週間)、毎週開講される授業

※各年度の授業開講期間および授業日は、「セイカ・ポータル」および大学Webサイトに掲示された学年暦(大学カレンダー)を参照してください。

(2) 集中授業(授業期間内)／(長期休暇期間内)

毎週決まった曜日・時間に開講するのではなく、夏季休暇期間、春季休暇期間中の数日間や、不定期に開講する授業です。開講日程は授業によって異なりますので、各科目のシラバスで確認してください。

4. 履修条件による科目の分類

科目の中には、卒業するために履修が必須となるものや自由に選択して履修できるものがあります。

(1) 必修科目

卒業要件として、必ず履修してその単位を修得しなければならない科目です。

(2) 選択必修科目

卒業要件として指定された科目群の中から選択して履修し、所定の単位数または科目数を修得しなければならない科目です。

(3) 選択科目

指定された科目群の中から、自身の目的や興味関心に応じて自発的に選択して履修する科目です。

どの科目が「必修科目」「選択必修科目」「選択科目」に該当するかは、P.61以降の「卒業要件表」、「科目一覧」で確認してください。

(4) 履修指定科目

カリキュラム上の必要から、大学が履修を指定している科目です。

5. 授業形態による科目の分類

各授業は、当該授業科目に関する担当教員自身の研究や調査、それらを通じて得られた知見、表現活動や作品制作、実務経験、社会的ネットワークを基に実施されます。

講義・演習・実習を併用する授業科目については、全授業回数のうち主となる授業形態に応じて科目分類を行っています。

各授業形態は、以下のように定義します。

(1) 講義

担当教員がテーマに関わる知識・視点・表現・課題などを解説し、履修者がテーマに主体的な関心を持てるよう、関連する情報を提供することを基本とする授業形態です。

(2) 演習

あるテーマや課題について、全員で問題点や解決策を検討したり、グループでプロジェクトの完成を目指したり、共同で作品などの制作や表現活動に取り組む授業形態です。毎回の授業では、課題に取り組む過程で必ずディスカッションが行われ、主体的かつ対話的な学修を重視する点が特色です。

(3) 実習

担当教員の指導のもと、履修者が個人またはグループで主体的に制作や活動に取り組み、その過程を実際に体験することで、制作技法や語学的技能などを学修する授業形態です。

(4) 学外実習

さまざまな学外の団体等において、これまでに培った知識や技法、経験を活かし、現地で主体的に活動に取り組み、その過程を体験することで学修する授業形態です。

(5) 成果評定

卒業論文、卒業研究、卒業制作など、学修成果を複数の観点から評価し、その結果に基づいて単位を認定する科目です。

6. 授業実施形態による科目の分類

(1) 対面授業

教室で教員と直接対面して受ける授業です。

(2) 対面授業（一部、遠隔授業含む）

総授業時間数の半分以上が対面で行われる授業です。

(3) 遠隔授業：オンデマンド型

資料掲示、動画配信等の教材で学修し、オンライン上で課題のやりとりを行う授業です。

(4) 遠隔授業：同時双方向型

Zoom等のツールを使って、時間割通りにオンライン上で受講する授業です。

(5) 遠隔授業（一部、対面授業含む）

総授業時間数の半分以上が遠隔で行われる授業です。

7. 実務経験を有する教員による科目について

科目の中には、実務経験を有する教員がその経験を活かし担当する科目、学外から多様な企業等で活躍する方々を講師に迎え実施する科目、企業とのコラボレーション授業、インターンシップなど、実践的教育から構成される科目を配置しています。各科目の詳細はシラバスの「実務経験／実践的教育」欄で確認してください。シラバスのキーワード検索で【実務経験／実践的教育】と入力し、該当科目を抽出することができます。

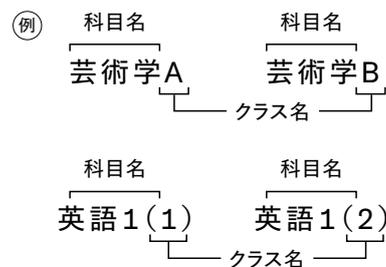
8. クラス

クラスとは、教育上の効果を考慮して、受講者を適切な人数のグループに分けたものです。

科目名の後に続く“A”“B”“C”および“(1)”“(2)”“(3)”はクラス名を表します。

右の例の場合、AクラスとBクラスの授業、(1)クラスと(2)クラスの授業は、クラスは異なりますが、同じ科目のため、重複して履修することはできません。また、科目によっては、学科・コース・専攻ごとにクラスが決められているものもあります。

なお、この「学習のてびき」カリキュラムページの「科目一覧」には、クラスが表示されていません。各科目のクラスについては、「セイカ・ポータル」に掲示される「開講科目一覧」を参照してください。



9. シラバス

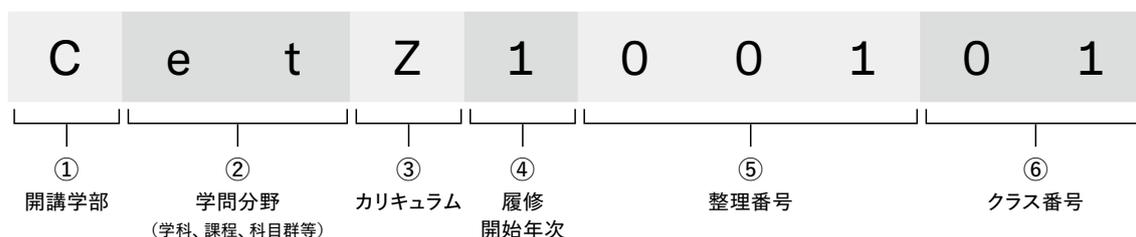
シラバスとは、各科目について、その内容と計画を解説した概要のことです。科目名、担当教員名、開講期、単位数、科目の目的や到達目標、授業実施形態、具体的な授業計画等が説明されています。また、成績評価の方法・基準、教科書・参考文献、履修条件などについても書かれています。シラバスをよく読み、科目を履修登録してください。

10. 科目ナンバリング

科目ナンバリングとは、カリキュラム(教育課程)を体系的に理解することを目的に、本学で開講しているすべての科目にコード(番号)を付けたものです。

科目ナンバリングコードは、各科目の対象とする学部・学科・コース、履修可能な年次などを表しています。コードはP.64以降の「科目一覧」およびシラバスの各科目ページに記載されていますので、履修科目を選択する際、何年生から履修できるのか、どのような順序で履修すればよいのかを判断するのに活用してください。

たとえば、全学共通教育科目の表現科目群で、1年生から履修できる講義科目の「美術史」は以下のようなコードが付けられています。



各コードの詳細は下記の表をご覧ください。

① 開講学部等	コード
人文	H
メディア表現	T
芸術	A
デザイン	D
マンガ	M
全学共通	C
大学院	G

③ カリキュラム	コード
2025年度以降カリキュラム	Z

④ 履修開始年次	コード
習熟度不問/判別不可	0
大学1年次レベル	1
大学2年次レベル	2
大学3年次レベル	3
大学4年次レベル	4
大学院M1年次レベル	5
大学院M2年次レベル	6
大学院D1年次レベル	7
大学院D2年次レベル	8
大学院D3年次レベル	9

② 学問分野	コード
人文学部共通	fh
人文学科	dh
国際教養学科	dl
メディア表現学部共通	mc
芸術学部共通	fa
デザイン学部共通	fd
イラスト学科	il
ビジュアルデザイン学科	vd
プロダクトデザイン学科	pd
建築学科	ar
人間環境デザイン	he
マンガ学部共通	fm
マンガ学科	dm
キャラクターデザイン学科	cd
アニメーション学科	an

② 学問分野	コード
導入プログラム	ip
表現科目	et
グローバル科目	gg
リベラルアーツ科目	la
社会実践力育成プログラム	ps
キャリア科目	ca
横断科目	cr
芸術研究科(M)	MA
デザイン研究科(M)	MD
マンガ研究科(M)	MM
人文学研究科(M)	MH
大学院共通基盤(M)	MC
芸術研究科(D)	DA
マンガ研究科(D)	DM
資格(教職)	QT
資格(学芸員)	QM
資格(司書)	QL
資格(その他)	QA
単位認定	ZZ

11. 単位制度

すべての科目には単位数が設定されています。単位とは、科目を修得するために必要な学修量（時間）を数で表したもので、「1単位の科目」は「45時間の学修を必要とする内容（自学自習時間を含む）」をもって構成することが標準となっています。



1回の授業は90分ですが、制度上これを2時間の学修時間として計算します。

各科目の単位数は、この授業時間と自学自習時間、および1単位あたりの学修量をもとに、次のように計算します。

学期制	授業科目の分類	1週あたりの学修量			1学期あたりの授業週数	1学期あたりの学修量	1単位あたりの学修量	単位数
		授業時間	自学自習時間	合計				
セメスター制	講義・演習	2時間	4.5時間	6.5時間	14週	約90時間 (6.5時間×14週)	45時間	2
	外国語／実習	4時間	2.5時間	6.5時間	14週	約90時間 (6.5時間×14週)	45時間	2
クォーター制	講義・演習	2時間	4.5時間	6.5時間	7週	約45時間 (6.5時間×7週)	45時間	1
	外国語／実習	4時間	2.5時間	6.5時間	7週	約45時間 (6.5時間×7週)	45時間	1

学修量には、大学の教室で行われる授業だけでなく、予習・復習、課題への取り組み（作品制作、レポート作成等）など自主的な学習が含まれます。自主的な学習の内容については、各科目のシラバス内「授業外学習の指示（予習・復習・課題等）」を参照してください。

12. 履修登録上限単位数

大学での学修は、授業時間以外に予習復習といった自学自習の時間も含めて考えられています。学修時間をしっかりと確保するために、本学では以下のとおり、履修登録上限単位数を定めています。

1Q	2Q	3Q	4Q	2Q・4Q集中授業 (長期休暇期間内)	年間
10単位	10単位	10単位	10単位	8単位	48単位

※資格課程専門科目は、履修登録上限単位数に含まれません。

※前学期に修得できなかった単位分を上乗せして、次の学期に履修登録することはできません。

※前年度に修得できなかった単位分を上乗せして、次年度に履修登録することはできません。

卒業・修了・進級

卒業・修了・進級要件とは

(1) 進級要件

「進級要件」とは、次の学年に進級するために必要とされる条件のことです。各学科・コース・専攻、各学年に設置・開講されている進級要件科目の単位を修得する必要があります。したがって、進級要件科目の単位を修得できない場合は、次の学年に進級することができず、「留年」となります。

(2) 卒業要件

「卒業要件」とは、所属学部を卒業するために必要とされる条件のことです。
以下3点の要件を満たせば、卒業が認定され、「卒業証書」とともに学士の学位が授与されます。

- ① 本学に設置されている学部で4年以上在学すること（編入学生は別に定める）。
※休学の期間は、在学期間には含まれません。
- ② 所属学科・所属コース・所属専攻が定める卒業要件にしたがって、卒業に必要な単位を修得すること。
- ③ 学費等が完納されていること。

● 授与される学位の種類

人文学部	: 学士(人文学)
メディア表現学部	: 学士(メディア表現)
芸術学部	: 学士(芸術)
デザイン学部	: 学士(芸術)
マンガ学部	: 学士(芸術)

(3) 修了要件

「修了要件」とは、所属研究科を修了するために必要とされる条件のことです。
以下3点の要件を満たせば、修了が認定され、「修了証書」とともに修士または博士の学位が授与されます。

- ① 本学に設置されている大学院研究科に 修士・博士前期課程は2年以上、博士後期課程は3年以上在学すること。
※休学の期間は、在学期間には含まれません。
- ② 所属研究科が定める修了要件にしたがって、修了に必要な単位を修得すること。
- ③ 学費等が完納されていること。

● 授与される学位の種類

【博士前期課程・修士課程】

人文学研究科	: 修士(人文学)
芸術研究科	: 修士(芸術)
デザイン研究科	: 修士(芸術)
マンガ研究科	: 修士(芸術)

【博士後期課程】

芸術研究科	: 博士(芸術)
マンガ研究科	: 博士(芸術)

※各研究科・学部・学科・コース・専攻の卒業・修了・進級要件は、それぞれのカリキュラム紹介ページを参照してください。

1. 履修登録とは

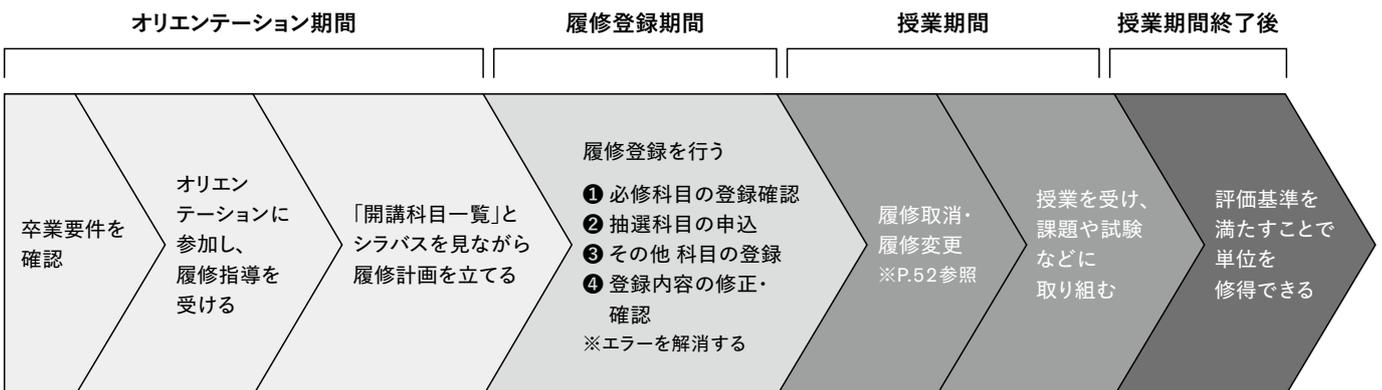
「履修登録」とは、単位を修得しようとする科目を決め、その科目の受講を申請することです。1Qおよび3Qの開始前に履修登録期間(学年暦参照)が定められ、「セイカ・ポータル」にて学生自身が登録手続きを行います。科目の登録にあたっては、所属する学部、学科、コース、専攻、学年に指定されている必修科目と進級・卒業・修了要件を確認したうえで、履修できる科目のシラバスをよく読み、学びたい内容や身に付けたい力に沿った科目を登録してください。

[履修登録の原則]

- 同一曜日同一講時に履修できる科目は1科目です。曜日講時が重複する複数の科目を履修登録することはできません。
(日程が重複する複数の集中授業も同時に履修登録できません)
- 一度単位を修得した科目を、再度履修することはできません。
- 不合格になった科目は、再度履修登録することができます。
- 各学期等に登録できる単位数には上限があり、それ以上は履修登録できません(P.49参照)。
- 各科目には開講最低人数基準が定められており、履修登録学生数が次の人数に満たない場合は、原則として当該科目を開講しません。
講義、語学、実習科目 5人／演習科目 3人
※履修登録の結果、登録した科目が開講されない場合、教務チームより登録した学生に連絡します。
- 上記いずれかにより、「セイカ・ポータル」上で履修エラーが出た場合は、速やかにエラー解除手続きを行ってください。
エラーを解消しない場合、当該学期に登録したすべての科目の単位を修得することができません。

2. 履修登録から単位修得までの流れ

履修登録から単位修得までは以下の手順で進みます。1Q開始前には1Q開講科目・2Q開講科目(前期開講科目を含む)および通年科目を、3Q開始前には3Q開講科目・4Q開講科目(後期開講科目を含む)を登録してください。集中授業は別途申し込み期間を設けます。



※集中授業(長期休暇期間内)は、通常授業や集中授業(授業期間内)とは履修登録期間が異なりますので注意してください。

3. 履修登録手続き

履修登録手続きは、「セイカ・ポータル」で行います。手続きの際は以下の事項に注意してください。

- 各学期開講科目の詳細(科目担当者およびクラス、開講曜日講時など)は、『学習のてびき』のカリキュラムページに記載していません。「セイカ・ポータル」に掲示される「開講科目一覧」を参照してください。
- 登録期間内に手続きを行ってください。期間内に行わなければ、その学期の科目の受講資格は認められません。
- 履修登録期間終了後、正しく登録されているかどうか、自身で確認してください。誤った履修登録を放置すると、正しい科目の受講資格が認められず、単位が修得できなくなります。
- 必修科目は進級や卒業に関わるため、時間割に登録されているか必ず確認してください。
- 卒業制作など、成果に対して単位を認定する科目も履修登録が必要です。
- クラス指定のある授業科目は、指定されたクラスで履修登録してください。
- 一部科目においては、授業期間開始後に、選抜や申し込みにより受講生を決定する場合があります。

4. 抽選科目

施設設備の状況や学習計画を考慮し、受講できる人数に定員を設けている科目は、抽選によって受講生を決定します。受講を希望する場合は、抽選科目申込期間中に「セイカ・ポータル」にて手続きを行ってください。

5. 履修取消

授業の内容や難易度が学生の認識と違っていた場合などに、不合格などの評価によってGPA(P.57参照)が低下することを回避するために、学期途中で履修している科目の登録を取り消すことを認める制度です。履修取消の手続き方法や期間等の詳細は、各学期中に「セイカ・ポータル」でお知らせします。なお、履修を取り消した科目に替えて、別の科目を追加登録することはできません。また、必修科目など、一部の科目では履修取消が認められない場合があります。

6. 履修変更

2Q・4Qの開講科目について、前クォーターの学修状況などを踏まえ、開講前に、登録した科目の取り消しと一部の科目の追加登録を認める制度です。履修変更の手続き方法や期間等の詳細は、「セイカ・ポータル」でお知らせします。

1. 通常授業時間

1講時	2講時	3講時	4講時	5講時	6講時
9:00～10:30	10:40～12:10	13:00～14:30	14:40～16:10	16:20～17:50	18:00～19:30

その他、オンデマンド型遠隔授業のための仮想的時間割枠として、具体的な時間帯指定のない「7講時」または「8講時」も設けられています。

2. 休講・補講・休校

(1) 休講

病気など授業担当者の都合や、自然災害などに伴い、授業が行われなことを休講といいます。授業が休講になった場合は、「セイカ・ポータル」でお知らせします。また、担当教員から休講の連絡がなく、授業開始時間から30分経過しても授業が開始されないときは休講となる場合があります。

(2) 補講

授業が休講になった場合、授業回数の不足を補うために補講を行います。補講は原則各学期に設けられている「補講日」に行われますが、各科目の具体的な日時、教室については「セイカ・ポータル」でお知らせします。

(3) 休校

気象警報の発令および公共交通機関の運休などの理由により、すべての授業が行われなことを休校といいます。代替の授業日を設ける場合があります。

3. 暴風警報・特別警報・交通機関運休等による休校・休講措置

以下のいずれかに該当する場合、休校・休講措置がとられます。

(1) 気象庁が発表する気象警報において、「京都府南部」（もしくはその細分区域である「南丹・京丹波」、「京都・亀岡」、「山城中部」、「山城南部」のいずれかの地域）に暴風警報もしくは特別警報が発令されたとき。

[注意事項]

- 大雨洪水警報は休校・休講要件とはなりませんので注意してください。
- 特別警報の種類は問いません。特別警報は都道府県単位で発令されます。(1)は京都府に特別警報が発令された場合を指しますが、それ以外の地域に特別警報が発令された場合、発令地域にいる学生においては個別に公欠扱いとしますので、通学が可能になった後、教務チームに申し出てください。特別警報が発令された場合、発令地域にいる学生は、各自ただちに命を守る行動をとってください。

(2) JR 在来線（米原～神戸）、叡山電鉄（鞍馬線）、京都市営地下鉄、および京阪電鉄（本線）、阪急電鉄（京都線）、近畿日本鉄道（京都線）のいずれかが運休になり、なおかつバスなどの代替手段がないとき。

[注意事項]

- 交通機関での事故などによる一時的な運転見合わせの際には休校・休講措置をとりません。
- 上記指定以外の交通機関各線の運休は休校・休講要件とはなりません。

(3) その他の事情により、休校・休講が適切であると学長が判断するとき。

[休校・休講の判断基準]

- 気象警報、交通機関の運休状況を以下の時刻にて確認し、基準に従い判断してください。
- 気象警報、交通機関の運休状況は、警報解除、運行再開が発報された時刻が基準となります。何時に発報されたかを必ず確認し、基準に従ってください。

① 気象警報

基準時刻	条件	休校・休講の措置
午前 7時	警報が解除されている	平常授業実施
	警報が解除されていない	午前中休講
午前 9時	警報が解除されている	3講時より平常授業実施
	警報が解除されていない	終日休校

② 交通機関運行の状況

基準時刻	条件	休校・休講の措置
午前 7時	運行が再開されている	平常授業実施
	運行が再開されていない	午前中休講
午前 9時	運行が再開されている	3講時より平常授業実施
	運行が再開されていない	終日休校

※9:00よりも後に警報発令または運行休止となった場合は、その時点から休校となります。

4. 授業への参加

(1) 出席・欠席

授業への出席は、科目に定められた単位を修得するために必要な前提条件の一つです。授業を欠席すると、必要な学修機会を失い、各科目の目的、到達目標を達成できず、単位修得が認められないことがあります。

(2) 授業中のマナー

- ① 授業中の私語は禁止です。
- ② 遅刻はしないでください。やむを得ない事情で遅刻をした場合は、授業の妨げにならないよう静かに教室に入室してください。また、授業担当教員の許可を得ずに、授業を途中で退室しないでください。
- ③ 授業担当教員の指示により、もしくは、授業担当教員の許可を得て授業のために使用する場合を除き、携帯電話・スマートフォン・PC・タブレット端末などの使用を禁止します。授業中は電源を切るか、マナーモードにしてください。
- ④ 特別な理由がある場合を除き、授業の撮影・録画・録音は原則禁止です。必要な場合は、必ず授業担当教員の許可を得てください。
- ⑤ 飲食は原則禁止としますが、授業担当教員の指示に従ってください。

5. 長期欠席になる場合

病気やそのほかのやむを得ない事由により長期間欠席せざるを得ない場合は、すみやかに教務チームと所属学科・コース・専攻の教員に連絡してください。科目担当者から医師による診断書などの証明書の提示が求められる場合があるため、証明書は各自手配しておいてください。何の連絡もなく、長期間の無断欠席が続くと、就学の意思がないものと判断されます。

6. 授業評価アンケート

本学では、学生の意見を取り入れながら授業改善に取り組んでいます。学期ごとに授業評価アンケートを実施しますので、履修している科目に対して責任ある評価を行い、率直な意見を聞かせてください。FD委員会(授業内容および方法の改善を図るための組織)で授業評価アンケートの結果を共有し、本学の教育計画に反映させていきます。

7. 公欠

授業欠席の理由が、本学の定める事由に該当する場合、公欠（公的な理由がある欠席）が認められる場合があります。以下の公欠の事由に該当する場合は、指定する書類・文書を持参のうえ、教務チームで「公欠届」を提出してください。科目担当者に対しては、手続き完了時に窓口で受け取る「公欠届」のコピーを手渡して事情を説明してください。※集中授業においては、その授業形態の性質により公欠が適用されないことがあります。

(1) 忌引

① 必要となる書類・文書 | 葬儀案内状

※提出が困難な場合は、保証人による理由書（書式自由）でもかまいません。
ただし、保証人の署名・捺印が必要となります。

② 届出の期限 | 忌引期間終了後1週間以内

③ 公欠期間 | 本人と故人との関係に応じて、右記の通りとします。

故人との関係	日数
1親等の血族（父母・子）または配偶者	7日
2親等の直系血族（自分の祖父母・兄弟姉妹）	3日
1親等の姻族（配偶者の父母）	
上記以外の3親等以内の血族（伯父母・叔父母・甥姪）	1日
2親等以内の姻族（配偶者の祖父母・兄弟姉妹）	

(2) 通学経路の交通機関が事故などにより不通になった場合

① 必要となる書類・文書 | 各種交通機関が発行する遅延・不通などの理由を証明する文書（延着証明書・遅延証明書など）

※延着証明書・遅延証明書は各種交通機関の駅で受け取ることができるほか、交通機関のホームページから入手できる場合もあります。

② 届出の期限 | 交通機関が遅延・不通となった日から1週間以内

(3) 教育実習・博物館実習・介護等体験

① 必要となる書類・文書 | 教育実習・博物館実習・介護等体験の日程がわかる書類（窓口で複写後、返却）

② 届出の期限 | 教育実習・博物館実習・介護等体験の始まる前

(4) 学校感染症

『学校保健安全法』に定める感染症は以下の通りです。また、公欠期間は『学校保健安全法施行規則』に定められた感染症の出席停止期間に準じます。

学校保健安全法に定める感染症

第一種：エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限り）、中東呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限り）及び特定鳥インフルエンザ（感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（平成十年法律第百十四号）第六条第三項第六号に規定する特定鳥インフルエンザをいう。次号及び第十九条第二号イにおいて同じ）

二種：インフルエンザ（特定鳥インフルエンザを除く）、百日咳、麻疹、流行性耳下腺炎、風しん、水痘、咽頭結膜熱、新型コロナウイルス感染症（病原体がベータコロナウイルス属のコロナウイルス（令和二年一月に、中華人民共和国から世界保健機関に対して、人に伝染する能力を有することが新たに報告されたものに限

る。）であるものに限り。次条第二号子において同じ。）、結核及び髄膜炎菌性髄膜炎

第三種：コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チフス、パラチフス、流行性角結膜炎、急性出血性結膜炎、その他の感染症

※1 「その他の感染症」は、重大な流行が起こりその感染症拡大を防ぐために出席停止が必要との学校医の助言を受け、大学が公欠と認める措置をとります。あらかじめ特定の疾患を定めているものではありません。

※2 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第六条第七項から第九項までに規定する新型インフルエンザ等感染症、指定感染症及び新感染症は、前項の規定にかかわらず、第一種の感染症とみなす。

① 必要書類（以下のいずれか1点）

- a. 医師による診断書
- b. 本学指定の「学校感染症罹患証明書」| 「セイカ・ポータル」から様式を印刷し、医療機関に持参して記入を依頼してください。
- c. その他、医療機関が発行した証明書類 | 診断書に限らず、次の6項目がすべて記載されているもの
氏名、診察日、病名、出席停止期間、医療機関名、医師名

② 届出の期限 | 出席停止期間後1週間以内

(5) 裁判員制度および検察審査会制度による場合

① 必要となる書類・文書 | 裁判所または検察審査会事務局が発行する証明書

② 届出の期限 | 裁判所または検察審査会での用務が終了した日から1週間以内

(6) 外国人留学生の在留申請等手続き

① 必要となる書類・文書 | ・入国管理局の申請受付票コピー ・新たに許可を受けた在留カード（窓口で複写後、返却）

② 届出の期限 | 申請手続き日から1週間以内

入国管理局の申請受付票コピーの場合：申請後1週間以内／新たに許可を受けた在留カードの許可年月日提示の場合：許可後1週間以内

③ 公欠期間 | 申請日（1日）および許可日（1日）

単位修得

1. 単位を修得するには

科目に定められた単位を修得するには、次の3点に取り組み、各科目において定められた評価基準を満たす必要があります。

- ① その科目の履修登録をしていること。
- ② その科目について、修得に必要な時間数分の授業に出席し、自学自習を行うこと。
- ③ 指定された筆記試験の受験、レポート・作品などの提出を行ない、定められた基準をクリアすること。

上記②③における学修の成果を「成績」として総合的に評価します。

2. 成績・単位修得状況の確認

(1) 成績、単位修得状況の確認方法

各学期に履修した科目の成績は、以下の時期に「セイカ・ポータル」で確認することができます。その学期までの単位修得状況も「セイカ・ポータル」で確認できますので、次の履修計画を立てるために、必ず確認してください。

クォーター開講科目	1Q:6月中旬	2Q:8月下旬	3Q:12月中旬	4Q:2月下旬
セメスター開講科目	前期:8月中旬		後期:2月下旬	

(2) 成績に関する問い合わせ

各科目の成績について疑問・質問がある場合は、成績公開日から1週間以内に「セイカ・ポータル」に掲示される所定の問い合わせフォームより問い合わせてください。結果は後日、教務チームより回答します。

(3) 学費支弁者への成績通知

学費支弁者は「セイカ・ポータル」を通じて学生の単位修得状況を確認することができます。

3. 成績評価基準

成績評価の基準は以下のとおりです。

	合格					不合格	
評価	S	A	B	C	N	F	K
点数	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	認定	59点以下	評価対象外

※成績評価「N」とは

「N」は認定という意味です。本学入学・編入学前に所属していた教育機関で、本学の科目と同等の学修を行ったと判断した場合や、外部の公的機関が実施する試験で一定の基準以上のスコアを取った場合(P.59)、大学コンソーシアム京都の単位互換科目を修得した場合など、本学における単位修得が認められた場合につけられます。

※成績評価「K」とは

「K」は評価対象外という意味です。授業の出席状況や受講態度が悪い、試験を受験しなかった等、担当教員が「受講放棄」と判断した場合につけられます。

4. GPA制度

(1) GPA制度とは

GPA (Grade Point Average) とは、履修科目の成績の平均を数値で表すもので、修得単位数という学修の“量”だけでなく、“質” (内容) を表す指標であり、学修の成果を総合的に判断するデータとなります。この数値を活用することで、学修の到達度が明確になり、自身の努力目標を具体的に設定できるといった効果が期待できます。

(2) GPAの算出方法

GPAは科目ごとの成績評価に対してグレードポイント(GP)をつけて、全履修登録科目の平均を算出します。成績を4点満点の基準で点数化し(S=4、A=3、B=2、C=1、F=0、K=0)、各科目の単位数を掛け合わせます。

GPAの計算式は以下の通りです。

$$\frac{(Sの単位数合計 \times 4) + (Aの単位数合計 \times 3) + (Bの単位数合計 \times 2) + (Cの単位数合計 \times 1)}{\text{履修登録科目すべての単位数合計 (N、未評価科目、資格課程専門科目を除く)}}$$

履修登録科目すべての単位数合計 (N、未評価科目、資格課程専門科目を除く)

※GPAは小数点第4位以下を四捨五入し、小数点第3位までの数値で表します。

(3) 履修取消

授業の内容や難易度が学生の認識と違っていた場合などに、不合格などの評価によってGPAが低下することを回避するために、学期途中に履修している科目の登録を取り消すことを認める制度です。履修取消の手続き方法や期間等の詳細は、各学期中に「セイカ・ポータル」でお知らせします。なお、履修を取り消した科目に替えて、別の科目を追加登録することはできません。また、履修取消が認められない場合もあります。

(4) GPAの運用

入学からの通算GPAは「セイカ・ポータル」で確認することができます。また、算出されたGPAは、海外の教育機関への留学や奨学金の受給などの判断の基礎資料として使われるほか、履修指導などに活用されます。

5. 各種試験およびレポート等における不正行為 (P.228 規程参照)

※「セイカ・ポータル」に掲載の「不正行為の取り扱いおよび防止に関するガイドライン」および「京都精華大学における生成AIの利用ガイドライン」を併せて参照してください。

(1) 各種試験およびレポート等とは

各種試験	授業科目において実施される試験、テスト
レポート	授業科目において実施されるレポート試験
課題作品・論文	授業科目において指示された課題作品、卒業論文・卒業制作、修士論文・修士作品、博士論文・博士作品

(2) 不正行為への処分

不正行為と判定した場合、行為の重大性や悪質性により、当該科目の成績評価を0点とする、または当該学期の全履修科目の成績評価を0点とするなどの処分を行います。

(3) 不正行為とは

本学における不正行為とは、学問に求められる誠実さや倫理を損ねる行為を指し、以下の行為が該当します。

- 剽窃・盗用
 - 他人の文章や作品、アイデアを適切な引用表示なしに自分のものとして使用する行為。
- 剽窃・盗用のほう助
 - 他人が剽窃・盗用を行うのを助ける行為。
- 捏造
 - 実際には存在しないデータや結果を作り出し、あたかも事実であるかのように見せかける行為。

● 改ざん

元々存在するデータや結果を意図的に変更し、実際とは異なる内容にする行為。

● 試験実施時における不正行為

試験中に不正に情報を取得または提供する行為や監督者の指示に従わない行為、その他公正な成績評価を妨げる行為。

● 教務委員会が不正と判断するその他の行為

上記に該当しない場合であっても、教務委員会が不正と判断した場合には、不正行為として扱います。

6. 大学コンソーシアム京都単位互換制度

(1) 単位互換制度とは

大学コンソーシアム京都の単位互換制度は、京都地域の大学および短期大学が相互に単位互換協定を締結し、各大学に所属する学生が他大学の授業を受講して修得した単位を、自身の所属大学の単位として認定できる仕組みです。この制度では、約45の加盟大学が提供する特色ある科目を履修することで、自分の興味関心を深めるとともに、視野を広げることができます。

(2) 出願手続

単位互換制度で提供される授業の履修を希望する学生(2年生・3年生のみ)は、春季オリエンテーション期間中に教務チーム窓口で必要な出願手続を行ってください。

(3) 単位認定方法

単位互換制度で提供される授業を履修し、合格した場合、取得した単位は「大学コンソーシアム京都認定」として、全学共通教育科目の「横断科目」に認定されます(成績評価は「N」)。これらの単位は、卒業要件として4単位まで算入できます。

7. 編入学による単位の認定

本学に編入学した場合、他大学等(短期大学等を含む)で修得した単位について、2年次編入学生は最大30単位、3年次編入学生は最大62単位までを、卒業要件の単位として認定します(成績評価「N」)。ただし、一部の単位については認定の対象とならない場合があります。

8. 入学前に修得した単位の認定

下に該当する学生は、他大学、短期大学等で修得した単位を本学で修得した単位として認定することがあります。

- ① 他大学、短期大学等を卒業し、1年次から本学に入学した場合
- ② 他大学、短期大学等を中途退学し、1年次から本学に入学した場合

本人の申請に基づき、修得した科目および単位内容を審査したうえで単位を認定します(成績評価「N」)。希望者は右の書類を揃えて期限までに教務チームへ提出してください。

なお認定単位数は、大学コンソーシアム京都単位互換制度、海外留学制度により認定される単位と併せて60単位を上限とします。

[提出書類]

- ① 出身大学、短期大学、高等専門学校または専修学校の既修得単位を証明する成績証明書または単位修得証明書
- ② 既修得科目のシラバス

[提出期限]

入学年度の4月20日

(本学の事務取扱日でないときは、直後の事務取扱日)

やむを得ない事由により期限までに書類が提出できない場合は、必ず提出期限までに教務チームへ相談してください。

[単位認定の時期]

入学年度の5月下旬

9. 外部の資格試験による語学科目単位認定

以下の資格試験によって語学科目の単位認定を行います。

● 単位認定基準

対象科目	外部試験種別	成績基準 (スコア/級)	認定授業 科目	認定単位数
英語	TOEIC (L&R)	550点以上	英語1 英語2	4単位
	TOEFL (iBT)	54点以上		
	TOEFL (ITP)	480点以上		
	IELTS	5.5点以上		
	実用英語技能検定	準1級以上		
	TOEIC (L&R)	500点以上	英語1	2単位
	TOEFL (iBT)	42点以上		
	TOEFL (ITP)	440点以上		
IELTS	4.5点以上			
その他	応相談			
日本語	日本語能力試験 (JLPT)	N1以上	日本語1	4単位
	日本語能力試験 (JPT)	660点以上	日本語2	

※申請日から遡って3年以内に受験したスコアを有効とする。各民間試験運営機関が定めるスコアに有効期間がある場合は、入学時点で有効であること。

※TOEIC (L&R) は、会場受験のみが対象となります。TOEIC (L&R IP) (オンライン) のスコアは認定の対象となりません。

申請受付期間	認定授業科目	認定時期
9月	英語2のみ 又は 日本語2のみ	当年度後期認定
2月	英語1、英語2 又は 日本語1、日本語2	翌年度前期認定

※詳しい日程についてはセイカポータルにて事前にお知らせします。

● 申請手続きについて

- (1) 英語または日本語の単位認定申込書と外部試験の資格または成績証明書を期日までに教務チームに提出してください。原本はコピーを取ったのちにお返します。
- (2) 申し込み受付後、認定を行います。ただし、担当教員による面談を行う場合があります(日本語は必ず面談を実施します)。

10. 転学部・転学科・転コース制度

この制度は、本学内での転籍を希望する学生が選考試験に合格することで、志願する学部・学科・コースの2年次または3年次に転籍することが可能となるものです。募集を行う学部・学科・コースおよび募集人数は、在籍学生数などを考慮して毎年決定されます。ただし、学部・学科・コースによっては受け入れができない場合があります。出願手続きや日程、選考に関する詳細については、「セイカポータル」に掲示される「転学部・転学科・転コース試験出願要項」を確認してください。

試験の出願資格は以下の通りです。

● 2年次への転学部・転学科・転コース

本学に在籍している1年次修了者および年度末までに1年次修了見込みの学部生で、30単位以上修得または年度末までに修得見込みの者。

● 3年次への転学部・転学科・転コース

本学に在籍している2年次修了者および年度末までに2年次修了見込みの学部生で、62単位以上修得または年度末までに修得見込みの者。

科目表の見方

科目ナンバリングコード	各科目の対象とする学部・学科・コース、授業形態、履修可能な年次などを表したコードです。▶詳しくはP.48
科目名	その科目の名称を表しています。
必修／選択	その科目が必修科目か、選択必修科目か、選択科目かを表しています。▶詳しくはP.47
授業形態	授業の形態によって講義、演習、実習、学外実習、成果評定に分類しています。▶詳しくはP.47
単位数	その科目を修得することで得られる単位数を表しています。▶詳しくはP.49、56
配当年次	その科目を履修できる年次を表しています。
ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)との相関	その科目を修得した時に身につけることができる能力・資質を表しています。

※『学習のびき』には、クラス名が記載されていません。「セイカ・ポータル」に掲示される「開講科目一覧」を参照してください。

例

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修／選択	授業形態	単位数	履修年次	ディプロマ・ポリシーとの相関				
							DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5
							知識と理解	創造的思考と考察	技術と表現	視点と協働	社会への関心と行動
実習科目	TmcZ1001	基礎実習1	必修	実習	2	1		●		●	
	TmcZ1002	基礎実習2	必修	実習	2	1		●		●	
	TmcZ2011	2年次実習1	必修	実習	4	2		●		●	
	TmcZ2012	2年次実習2	必修	実習	4	2		●		●	
	TmcZ3021	3年次実習1	必修	実習	4	3		●	●	●	
	TmcZ3022	3年次実習2	必修	実習	4	3		●	●	●	
	TmcZ3031	社会実践実習1	必修	実習	2	3		●		●	●
	TmcZ3032	社会実践実習2	必修	実習	2	3		●		●	●
	TmcZ4041	卒業研究実習1	必修	実習	4	4		●		●	●
	TmcZ4042	卒業研究実習2	必修	実習	4	4		●		●	●
研究	TmcZ4081	卒業研究	必修	成果評定	4	4	●	●	●		
基盤科目	TmcZ1101	メディア表現概論	必修	講義	2	1	●				
	TmcZ1111	メディア表現史	必修	講義	2	1	●				
	TmcZ1121	プログラミング基礎	必修	演習	2	1	●		●		
	TmcZ2131	エクスターンシップ	必修	実習	2	2		●		●	●
	TmcZ2141	メディアと知的財産権	必修	講義	1	2	●				●
	TmcZ1151	メディア論	選択必修	講義	2	1・2・3・4	●				
	TmcZ1161	メディア数学	選択必修	講義	2	1・2・3・4	●				
	TmcZ3171	ライティング演習	選択必修	演習	1	3・4		●	●		●
	TmcZ3181	プレゼンテーション演習	選択必修	演習	1	3・4		●	●		●
	TmcZ3191	展示演習	選択必修	演習	1	3・4		●	●		●
	TmcZ3201	キャリア演習	選択必修	演習	1	3・4		●	●		●
	専攻導入科目	TmcZ1301	メディアイノベーション研究概論	選択必修	講義	1	1・2・3・4	●			
TmcZ1311		メディアイノベーション初級演習	選択必修	演習	1	1・2・3・4	●		●		
TmcZ1321		メディアデザイン研究概論	選択必修	講義	1	1・2・3・4	●				●
TmcZ1331		メディアデザイン初級演習	選択必修	演習	1	1・2・3・4	●		●		
TmcZ1341		メディアコミュニケーション研究概論	選択必修	講義	1	1・2・3・4	●				●
TmcZ1351		メディアコミュニケーション初級演習	選択必修	演習	1	1・2・3・4	●		●		
TmcZ1361		音楽メディア研究概論	選択必修	講義	1	1・2・3・4	●				●
TmcZ1371		音楽メディア初級演習	選択必修	演習	1	1・2・3・4	●		●		

6

カリキュラム Curriculum

P.062 全学共通カリキュラム

P.068 人文学部

P.086 メディア表現学部

P.102 芸術学部

P.110 デザイン学部

P.140 マンガ学部

全学共通カリキュラム

全学共通教育科目を学ぶ意味

本学では、学部の専門教育で身に付ける専門知や表現力を飛躍的に高めるために、すべての学部の学生がともに学ぶ全学共通教育科目を配置しています。哲学、芸術学、科学史などの科目の履修を通じて、ものごとの成り立ちや、世の中にある多くの価値観を知り、視野を広げるとともに、論理的に思考する力を養います。

私達人間はどのような存在なのか、どのように生きるべきなのか、私達人間が構成する社会とは何なのか、どのような課題があるのか、人間の脳や心の有り様はどうなっているのか、美しさとは何なのか、科学の発達は地球や生物にどのような影響を与えてきたのか等、専門教育と無縁に思える知識と教養は、実は専門分野の学びを深めることに役立つのです。

複数の視点から世界をとらえ、さまざまな手法で思考することは、自分の考えや企画を表現するとき、多様な他者とコミュニケーションをとるとき、あなたに豊かなヒントを運んでくれるでしょう。視野を広げ、考えることこそが、新たな可能性を探るための力を与え、表現に厚みを生むのです。

また、全学共通教育科目には「社会実践力育成プログラム」など、多様な他者と協働する力を養う科目も配置し、全学共通教育で身につける「幅広い教養と知識」と専門教育で身につける「専門性」が融合した学びを活かす場も準備しています。

大学での学びは、長い時間を経てそれらが繋がりがたく長い線となり、卒業した後の人生において意義のある財産となります。全学共通教育科目は、専門教育科目と共に重要な役割を果たす本学の学びの基盤です。是非積極的に履修してください。

カリキュラム（教育課程）の構成

科目に定められた単位を修得するには、各科目において定められた評価基準を満たす必要があります。

5学部全ての学生が履修する「**全学共通教育科目** (P.64～)」と
学部、学科ごとに編成された「**学部専門教育科目** (P.82～)」に分けて開設されています。

科目区分	科目区分	区分	科目名	単位数	卒業に要する単位数	計
全学共通教育科目	リベラルアーツ科目	必修	アカデミックスキル1	4	36単位以上	124単位以上
			アカデミックスキル2			
	グローバル科目		4			
	導入プログラム		1			
	リベラルアーツ科目	履修指定*1	情報と倫理	1		
	キャリア科目		キャリア1	2		
			キャリア3			
上記以外の科目 *横断科目は所属学部以外の科目を履修した場合上限8単位まで卒業要件単位に算入します。	選択*2	上記以外の科目	24単位以上			
学部専門教育科目				88単位以上		

- (*1) 履修指定科目は科目が配当される初年次(1年次及び3年次)に大学が全学生を対象に登録します。
履修指定科目の履修登録を取り消すことは出来ません。履修を強く勧める科目ですが、必修科目ではありません。
- (*2) 大学コンソーシアム京都単位互換制度により取得した単位は4単位を上限に横断科目(上限8単位)に算入します。

全学共通教育科目

5学部全ての学生が履修する全学共通教育科目は「導入プログラム」「表現科目」「グローバル科目」「リベラルアーツ科目」「社会実践力育成プログラム」「キャリア科目」「横断科目」から構成されています。

これらの科目を通して、グローバルな観点から思考し、リベラルアーツ(深く広い教養と見識)に基づいてより良い社会を創る意欲を持ち、多様な人々と協働して、世界の様々な課題を解決できる、あるいは新しい価値を創造し提供できる人間となる素地を形成することを目指します。

また京都精華大学では、4年間の学修を通じて

1	広い視野から複眼的に考察するための知識と理解力	知識と理解 knowledge & understanding
2	新しい文化と価値を発想するための創造的思考力	創造的思考・視点と考察 creative perspective & observation
3	変化し続ける社会で専門領域の学びを生かすための応用力	技術・研究と表現 skills / research & expression
4	地球規模の視点で社会的課題に取り組むための他者理解と協働力	他者理解と協働 mutual understanding & collaboration
5	より良い社会を創るための主体的な行動力	社会への関心と行動 interests & action

の5つの力を培います。全学共通教育科目は科目毎にそのエッセンスが含まれており、これらの力の基盤を築きます。

科目区分	概要
導入プログラム	大学の理念や入学段階での本学が有する5つの学部の学びについて理解することで、本学の学びの領域や姿勢、目的を理解します。
表現科目	人文学部、メディア表現学部、芸術学部、デザイン学部、マンガ学部を置く京都精華大学ならではの知識・教養の獲得や、技術の習得に取り組む科目があります。必修科目である「アカデミックスキル1」「アカデミックスキル2」では大学での学びに必要な表現技術であるコミュニケーションスキルやライティングスキル、リテラシー能力を身につけます。文章、写真、絵画、デザイン、メディア、プログラミング等本学の持つ5つの学部それぞれの表現について専門的な知識を獲得するための科目が設置されています。
グローバル科目	「グローバルな大学」における学びとして、英語、日本語を含めた6言語の語学科目を置くとともに、歴史や地理、言語や文化等を国という概念を超えて学ぶ科目を設置しています。さらに学びの拠点を海外に移し言語や文化を体感する科目や日本の伝統文化を深く学ぶ科目を併設しています。国内学生、日本に関心をもつ留学生双方にとって今後必要なスキルとして、日本語教育に触れる科目も配置しています。
リベラルアーツ科目	哲学、心理学、民俗学など私達人間について学ぶ科目、政治学、法学、社会学といった私達人間が作った社会について学ぶ科目、生物学、自然科学など私達人間をとりまく自然について学ぶ科目を基盤とし、ダイバーシティ、ジェンダー、人工知能、情報科学などの現代社会や今後の社会はどうあるべきかを考えるにあたって必要となる知識、基礎的な素養を身につけるための科目を配置しています。
社会実践力育成プログラム	主な学習の場を学外とし、学内外のさまざまな人々とともに学ぶ中で、協働性、社会性、アイデアの出し方や企画の立て方等、実践的なスキルや目標達成能力を身につけることをめざします。国内の企業や行政、NGO等の組織や日本の伝統産業を支える工房において学習への動機付けを高め、社会的に自立する経験を体感し、職業生活に必要な多岐にわたる能力を涵養します。
キャリア科目	就職活動に本格的に取り組む4年生になるまでに、身につけておくべき思考、態度などの習得をめざします。また、留学生に向けたキャリア教育の一環として、「留学生のための日本ビジネス論」を授業科目として置き、外国人留学生が日本の企業に就職する際に障害となる日本企業特有の企業文化が理解できるように努めます。また、「新時代のキャリア」では今までの常識や慣習に捉われない次世代にむけた新たな産業や働き方を学びます。
横断科目	所属する学部を超え本学に置かれた5つの学部の科目を興味・関心に応じて学習できます。自身の所属学部を超えて学修の幅を広げるにより、専門知を組み合わせた深いレベルでの学びの視点の獲得を目指します。

●横断科目の履修について

人文学部、メディア表現、芸術、デザイン、マンガの5学部より、計27科目が設置されており、所属学部以外の科目を履修(*上限8単位)した場合に全学共通教育科目として卒業要件単位にカウントされます。

●大学コンソーシアム京都単位互換制度による履修について

取得した単位は4単位を上限に「横断科目(*上限8単位)」に算入します。

全学共通教育科目 科目一覧

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修／選択	授業形態	単位数	履修年次	ディプロマ・ポリシーとの相関				
							DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5
							知識と理解	創造的思考と考察	技術と表現	視点と協働	社会への関心と行動
プログラム	CipZ1001	大学入門	履修指定	講義	1	1・2・3・4	●			●	●
表現科目	CetZ1011	デッサン	選択	実習	1	1・2・3・4		●	●		
	CetZ1021	写真技法	選択	実習	1	1・2・3・4		●	●		
	CetZ1031	グラフィックデザインソフトスキル	選択	実習	1	1・2・3・4			●		
	CetZ1041	オフィスソフトスキル入門	選択	実習	2	1・2・3・4			●		
	CetZ1051	プログラミング1	選択	実習	1	1・2・3・4			●		
	CetZ1052	プログラミング2	選択	実習	1	1・2・3・4			●		
	CetZ1061	芸術学	選択	講義	2	1・2・3・4	●		●		
	CetZ1071	美学	選択	講義	2	1・2・3・4	●		●		
	CetZ1081	工芸概論	選択	講義	2	1・2・3・4	●		●		
	CetZ1091	美術史	選択	講義	2	1・2・3・4	●		●		
	CetZ1101	日本美術史	選択	講義	2	1・2・3・4	●		●		
	CetZ1111	東洋美術史	選択	講義	2	1・2・3・4	●		●		
	CetZ1121	西洋美術史	選択	講義	2	1・2・3・4	●		●		
	CetZ1131	身体表現論	選択	講義	2	1・2・3・4	●		●		
	CetZ1141	身体文化演習	選択	演習	2	1・2・3・4			●		
CetZ1151	スポーツ実習1	選択	実習	1	1・2・3・4			●			
CetZ1152	スポーツ実習2	選択	実習	1	1・2・3・4			●			
グローバル科目	CggZ1201	日本文化概論	選択	講義	1	1・2・3・4	●			●	
	CggZ1211	英語1	必修	演習	2	1・2・3・4				●	
	CggZ1212	英語2	必修	演習	2	1・2・3・4				●	
	CggZ1221	日本語1	必修	演習	2	1・2・3・4				●	
	CggZ1222	日本語2	必修	演習	2	1・2・3・4				●	
	CggZ2231	上級日本語	選択	演習	2	2・3・4				●	
	CggZ2241	English Discussion	選択	演習	2	2・3・4				●	
	CggZ2251	Effective Presentation	選択	演習	2	2・3・4				●	
	CggZ2261	English Communication Advanced 1	選択	演習	2	2・3・4				●	
	CggZ2262	English Communication Advanced 2	選択	演習	2	2・3・4				●	
	CggZ1271	中国語1	選択	演習	2	1・2・3・4				●	
	CggZ1272	中国語2	選択	演習	2	1・2・3・4				●	
	CggZ1281	韓国語1	選択	演習	2	1・2・3・4				●	
	CggZ1282	韓国語2	選択	演習	2	1・2・3・4				●	
	CggZ1291	フランス語1	選択	演習	2	1・2・3・4				●	
	CggZ1292	フランス語2	選択	演習	2	1・2・3・4				●	
	CggZ1301	スペイン語1	選択	演習	2	1・2・3・4				●	
	CggZ1302	スペイン語2	選択	演習	2	1・2・3・4				●	
	CggZ1311	海外語学研修プログラム	選択	実習	2	1・2・3・4				●	
	CggZ1321	海外文化研修プログラム	選択	実習	2	1・2・3・4				●	
CggZ1331	複言語学習入門	選択	講義	2	1・2・3・4	●			●		

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修/選択	授業形態	単位数	履修年次	ディプロマ・ポリシーとの相関				
							DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5
							知識と理解	創造的思考と考察	技術と表現	視点と協働	社会への関心と行動
グローバル科目	CggZ2341	日本語学	選択	講義	2	2・3・4	●			●	
	CggZ1351	言語学	選択	講義	2	1・2・3・4	●			●	
	CggZ1361	文化人類学	選択	講義	2	1・2・3・4	●			●	
	CggZ1371	地理学	選択	講義	2	1・2・3・4	●			●	
	CggZ1381	日本史	選択	講義	2	1・2・3・4	●			●	
	CggZ1391	東洋史	選択	講義	2	1・2・3・4	●			●	
	CggZ1401	グローバルヒストリー	選択	講義	2	1・2・3・4	●			●	
	CggZ1411	和の伝統文化論	選択	講義	2	1・2・3・4	●			●	
	CggZ1421	京都学	選択	講義	2	1・2・3・4	●			●	
	CggZ2431	京都の伝統工芸講座1	選択	講義	2	2・3・4	●			●	
CggZ2432	京都の伝統工芸講座2	選択	講義	2	2・3・4	●			●		
リベラルアーツ科目	ClaZ1501	アカデミックスキル1	必修	講義	2	1	●				●
	ClaZ1502	アカデミックスキル2	必修	講義	2	1	●				●
	ClaZ1511	哲学	選択	講義	2	1・2・3・4	●				
	ClaZ1521	倫理学	選択	講義	2	1・2・3・4	●				
	ClaZ1531	文学	選択	講義	2	1・2・3・4	●				
	ClaZ1541	歴史学	選択	講義	2	1・2・3・4	●				
	ClaZ1551	宗教学	選択	講義	2	1・2・3・4	●				
	ClaZ1561	政治学	選択	講義	2	1・2・3・4	●				
	ClaZ1571	法学	選択	講義	2	1・2・3・4	●				
	ClaZ1581	日本国憲法	選択	講義	2	1・2・3・4	●				
	ClaZ1591	経済学	選択	講義	2	1・2・3・4	●				
	ClaZ1601	社会学	選択	講義	2	1・2・3・4	●				
	ClaZ1611	考古学	選択	講義	2	1・2・3・4	●				
	ClaZ1621	民俗学	選択	講義	2	1・2・3・4	●				
	ClaZ1631	情報科学	選択	講義	2	1・2・3・4	●				
	ClaZ1641	データサイエンス	選択	講義	2	1・2・3・4	●				
	ClaZ1651	人類と人工知能	選択	講義	2	1・2・3・4	●				
	ClaZ1661	自然科学概論	選択	講義	2	1・2・3・4	●				
	ClaZ1671	科学史	選択	講義	2	1・2・3・4	●				
	ClaZ1681	生物学	選択	講義	2	1・2・3・4	●				
	ClaZ1691	数学	選択	講義	2	1・2・3・4	●				
	ClaZ1701	心理学	選択	講義	2	1・2・3・4	●				
	ClaZ1711	健康学	選択	講義	2	1・2・3・4	●				
	ClaZ1721	ダイバーシティと社会	選択	講義	2	1・2・3・4	●				
	ClaZ1731	ジェンダーと社会	選択	講義	2	1・2・3・4	●				
	ClaZ1741	サステナビリティと社会	選択	講義	2	1・2・3・4	●				
ClaZ1751	情報と倫理	履修指定	講義	1	1・2・3・4	●					
ClaZ1761	共通基礎演習	選択	演習	2	1・2・3・4	●	●			●	

全学共通教育科目 科目一覧

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修／選択	授業形態	単位数	履修年次	ディプロマ・ポリシーとの相関				
							DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5
							知識と理解	創造的思考と考察	技術と表現	視点と協働	社会への関心と行動
社会実践力育成プログラム	CpsZ1801	国内ショートプログラム	選択	演習	2	1・2・3・4		●		●	●
	CpsZ2811	社会連携PBLプログラム1	選択	演習	2	2・3・4		●		●	●
	CpsZ2812	社会連携PBLプログラム2	選択	演習	2	2・3・4		●		●	●
	CpsZ2821	京都の伝統産業実習	選択	実習	2	2・3・4		●		●	●
キャリア科目	CcaZ1901	キャリア1	履修指定	講義	1	1・2・3・4	●				●
	CcaZ2901	キャリア2	選択	講義	1	2・3・4	●				●
	CcaZ3901	キャリア3	履修指定	講義	1	3・4	●				●
	CcaZ2911	職業研究	選択	講義	2	2・3・4	●				●
	CcaZ1921	新時代のキャリア	選択	講義	1	1・2・3・4	●				●
	CcaZ2931	クリエイティブの現場	選択	講義	2	2・3・4	●				●
	CcaZ1941	ソーシャルスキルトレーニング	選択	実習	1	1・2・3・4	●				●
	CcaZ1951	留学生のための日本ビジネス論	選択	講義	1	1・2・3・4	●				●
	CcaZ2961	ポートフォリオ基礎実習	選択	実習	1	2・3・4					●
	CcaZ2971	ポートフォリオ専門実習	選択	実習	1	2・3・4					●
	CcaZ1981	コミュニケーション実践実習	選択	実習	1	1・2・3・4					●
	CcaZ1991	仕事体験1	選択	実習	1	1・2・3・4					●
	CcaZ1992	仕事体験2	選択	実習	1	1・2・3・4					●

科目区分	科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修／選択	授業形態	単位数	履修年次	ディプロマ・ポリシーとの相関				
								DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5
								知識と理解	創造的思考と考察	技術と表現	視点と協働	社会への関心と行動
横断科目(他学部提供科目)	人文学部	CcrZ1001	京都の歴史	選択	講義	2	1・2・3・4		●	●		
		CcrZ2011	書誌学	選択	講義	2	2・3・4		●	●		
		CcrZ2021	比較文学	選択	講義	2	2・3・4		●	●		
		CcrZ2031	社会藝術論	選択	講義	2	2・3・4		●	●		●
		CcrZ1041	グローバル共生社会論	選択	講義	2	1・2・3・4		●	●	●	●
		CcrZ1051	現代文化論	選択	講義	2	1・2・3・4		●	●		●
	メディア表現学部	CcrZ1061	サウンドスケープ論	選択	講義	1	1・2・3・4	●	●			
		CcrZ1071	ポピュラー音楽論	選択	講義	1	1・2・3・4	●	●			
		CcrZ1081	画像工学2	選択	講義	1	1・2・3・4	●	●			
		CcrZ1091	ゲームデザイン論	選択	講義	1	1・2・3・4	●	●			
		CcrZ1101	メディア技術論1	選択	講義	1	1・2・3・4	●	●			
		CcrZ1102	メディア技術論2	選択	講義	1	1・2・3・4	●	●			
		CcrZ1111	コンテンツ産業論1	選択	講義	1	1・2・3・4	●	●			
		CcrZ1112	コンテンツ産業論2	選択	講義	1	1・2・3・4	●	●			
	芸術学部	CcrZ1121	美術基礎講座1	選択	講義	1	1・2・3・4	●	●			
		CcrZ1122	美術基礎講座2	選択	講義	1	1・2・3・4	●	●			
		CcrZ1123	美術基礎講座3	選択	講義	1	1・2・3・4	●	●			
		CcrZ1124	美術基礎講座4	選択	講義	1	1・2・3・4	●	●			
	デザイン学部	CcrZ1131	デザイン概論1	選択	講義	1	1・2・3・4	●				
		CcrZ1132	デザイン概論2	選択	講義	1	1・2・3・4	●				
		CcrZ2141	CG史	選択	講義	1	2・3・4	●				
		CcrZ2151	グローバルデザイン論1	選択	講義	1	2・3・4	●				
	マンガ学部	CcrZ1161	マンガ史1	選択	講義	1	1・2・3・4	●	●			
		CcrZ1171	マンガ概論1	選択	講義	1	1・2・3・4	●	●			
		CcrZ2181	メディア文化論	選択	講義	2	2・3・4	●	●			
		CcrZ2191	マンガリテラシー1	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
		CcrZ2192	マンガリテラシー2	選択	講義	2	2・3・4	●	●			

ポリシーとカリキュラム構造

● 教育研究目的

人文学部の教育研究目的は、ヒト、モノ、情報が国境を超えて複雑に絡み合う現代社会の多様な課題の解決に貢献し、より良い共生社会の実現に寄与できる人間の育成です。日本・京都を中心にグローバル、ローカル双方のアプローチから社会課題を理解し、地球規模の視野を持ち、体験的な学修を通して個別のテーマ研究を深めます。卒業時に身につけているべき要素を以下の5つとし、卒業要件を満たせばこれらを身につけたものと認め、学位を授与します。

● 学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)

DP1	自身をとりまく社会と、シティズンシップ及びヒューマニズムに関する基本的な知識と理解がある。	知識と理解 knowledge & understanding
DP2	グローバル化による社会的な事象を、複数の視点やアプローチから考察することができる。	視点と考察 diverse perspective & observation
DP3	人文学、国際文化学のいずれかの領域の専門知識を持ち、特定のテーマ研究を深め他者に伝えることができる。	研究と表現 research & expression
DP4	多様な他者との違いを認め、協働して課題解決に取り組むことができる。	他者理解と協働 mutual understanding & collaboration
DP5	より良い共生社会の実現に関心を持ち、社会の課題解決や新しい価値の創出に意欲的に自ら取り組むことができる。	社会への関心と行動 interests & action

● 教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

人文学部は、学位授与の方針を達成するために、全学共通教育科目、学部専門教育科目を体系的に編成し、講義、演習等を適切に組み合わせた授業を開講します。また、科目のナンバリングおよびカリキュラム・マップにより、カリキュラムの体系を明示します。

人文学部教育科目の教育内容、教育方法、学修成果の評価について以下のように定めます。

1. 教育内容

1年次には、学部共通科目のなかで人文学の視点を分野横断的に学びつつ、フィールド調査の体験を通して現場に根差して考える姿勢を身につかせます。

2年次以降は専門に分かれ、専門分野の講義や少人数の演習によって、各分野の基本的な発想や研究方法を体得させます。2年次後半は国内外での長期フィールド調査に従事することで、取り組むべき具体的な研究課題を自ら設定し、調査から得た発見を他者に伝える力を獲得させます。

3年次は各専門分野の学識を深化させるとともに、既存の研究成果に対する批判的な分析能力を育み、実地調査の発見や実感を学術的知見と結びつけて考え表現する力を習得させます。

最終年次には各自の卒業研究に関する発表を通して、人文学的な視点から社会的課題を捉え、その課題に他者と協働して取り組む力を養います。卒業研究は論文にまとめて提出させ、主体的な研究の成果を他者に伝わるよう学術的に表現する力が身につけているかを確認します。

2. 教育方法

学生の主体性を伸ばすため、能動的学修の視点を取り入れた教育方法を実施します。
授業内外の学修時間を考慮した授業内容を設計します。
学修成果の可視化を通じて、学生の自律的な学修を支援します。

3. 学修成果の評価

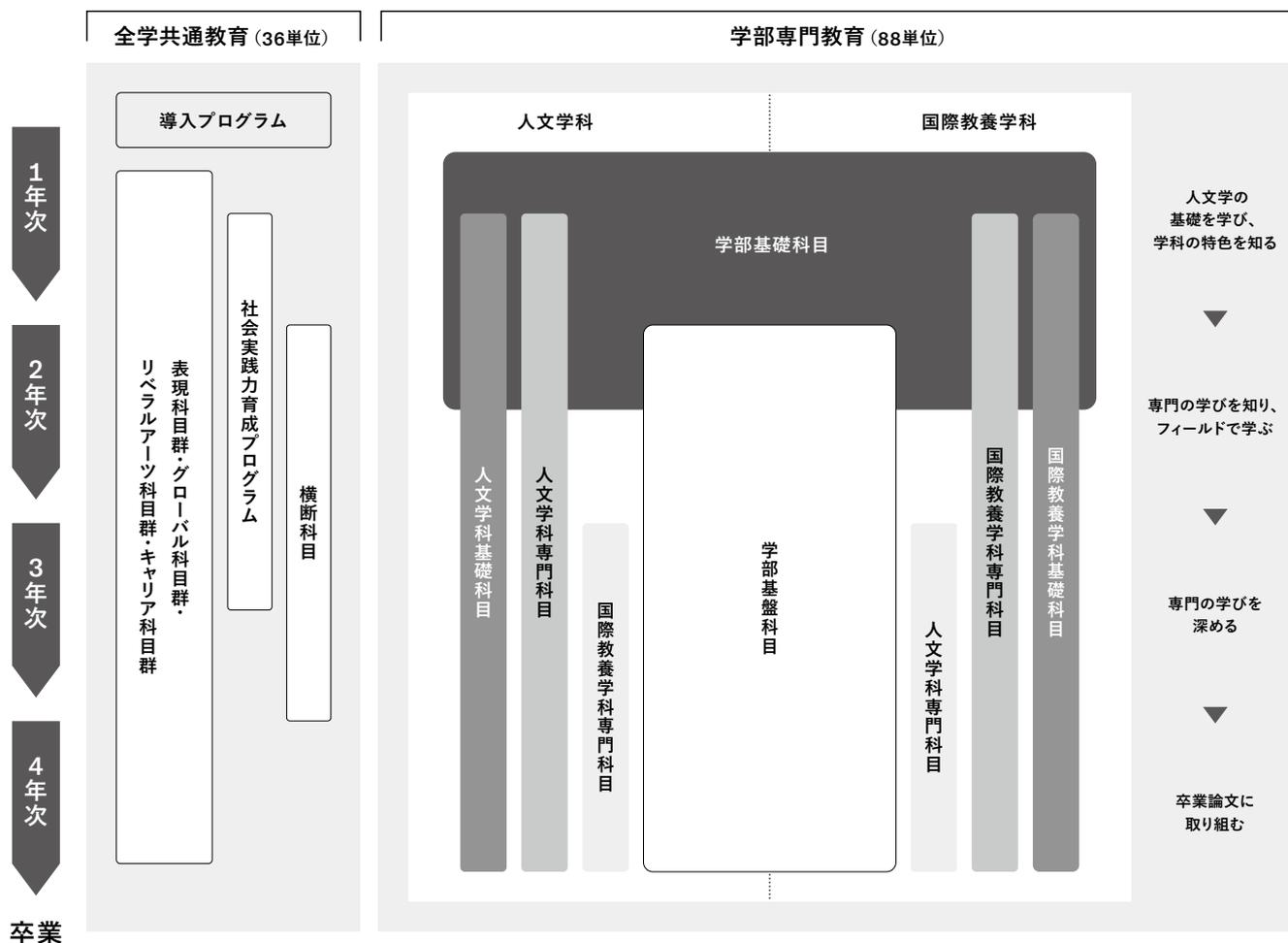
人文学部では、学位授与の方針に掲げる能力・資質およびこれらの総合的な活用力の修得状況を、「進級時」「卒業時」の2つのレベルで把握し、評価します。各レベルの評価の実施方法は、以下のとおりとします。

■ 進級時

進級時の学修成果は、学部所定の教育課程における進級要件達成状況により、総合的に評価をします。

■ 卒業時

4年間の学修成果は、学部所定の教育課程における卒業要件達成状況により、総合的に評価をします。卒業論文（必修）については、評価ルーブリックを活用し、複数教員によって多面的に評価をします。



人文学部 人文学科 卒業要件

科目区分	必修科目					選択必修科目				選択科目	卒業に要する 単位(計)
	進級 要件	科目名称	履修年次	単位 数	小計	進級 要件	科目名称	単位 数	小計	小計	
全学共通教育科目		導入プログラム									36 単位以上
		表現科目									
		グローバル科目					指定語学科目 (※1)	各2	4単位(※2)		
		リベラルアーツ科目	アカデミックスキル1	1 前期	2	4単位				28単位 以上 (※3※4)	
			アカデミックスキル2	1 後期	2						
		社会実践力育成プログラム									
		キャリア科目									
	横断科目										
学部専門教育科目	学部基礎科目	○ 人文学原論	1 前期	2	12単位					88 単位以上	
		○ 基礎実習1	1 前期	1							
		○ 基礎実習2	1 後期	1							
		○ ことば実習	1 前期	2							
		○ 地域学	1 後期	2							
		◎ 現場学	2 前期	2							
	学部基幹科目	◎ フィールドワーク方法論	2 前期	2	30単位						
		◎ 専門演習1	2 前期	2							
		◎ 専門演習2	2 後期	2							
		● 専門演習3	3 前期	2							
		● 専門演習4	3 後期	2							
		卒業研究演習1	4 前期	2							
		卒業研究演習2	4 後期	2							
		卒業論文	4 後期	4							
		◎ フィールド・スタディーズ1	2 後期	2							
		◎ フィールド・スタディーズ2	2 後期	2							
		◎ フィールド・スタディーズ3	2 後期	2							
		◎ フィールド・スタディーズ4	2 後期	2							
		◎ フィールド・スタディーズ5	2 後期	2							
		◎ フィールド・スタディーズ6	2 後期	2							
● フィールド・プログラム報告	3 前期	2									
人文学科基礎科目	○ 人文学概論	1 後期	2	2単位	◎ 所属コースの 概論科目	各2	2単位	24単位 以上			
					● 所属コースの 研究科目	各2	2単位				
					所属コースの 講読・特講科目	各2	4単位 以上(※2)				
人文学科専門科目					所属コースの 専門科目	各2	12単位 以上(※2)				
国際教養学科専門科目											

- (※1) 日本語以外を外国語として学ぶものは、「英語1・2」の4単位を修得すること。
日本語を外国語として学ぶものは、「日本語1・2」の4単位を修得すること。
- (※2) 選択必修科目の要件を超えて単位修得した場合は、超過単位を同一科目区分の選択科目単位とみなす。
- (※3) 以下の履修指定科目における修得単位は、全学共通教育選択科目単位に含む。
1年次:「大学入門」「キャリア1」「情報と倫理」
3年次:「キャリア3」
- (※4) 「横断科目」の修得単位数は、8単位を上限に卒業要件単位数に含む。

進級要件

- 〈1年次から2年次／○印〉
○学部専門1年次必修科目10単位をすべて修得していること。
(「人文学原論」「人文学概論」「ことば実習」「基礎実習1・2」「地域学」合計6科目 10単位)
- 〈2年次から3年次／◎印〉
◎学部専門2年次必修科目の以下20単位をすべて修得していること。
(「専門演習1・2」「現場学」「フィールドワーク方法論」「フィールド・スタディーズ1～6」合計10科目 20単位)
◎学部専門2年次選択必修科目「歴史学概論」「文学概論」「社会学概論」の中から所属コースの科目2単位を修得していること。
- 〈3年次から4年次／●印〉
●学部専門3年次必修科目の以下6単位をすべて修得していること。
(「専門演習3・4」「フィールド・プログラム報告」合計3科目 6単位)
●学部専門3年次選択必修科目「歴史学研究」「文学研究」「社会学研究」の中から所属コースの科目2単位を修得していること。

● 人文学部 人文学科 歴史コース

「歴史や文化財に興味があり、将来は地域の魅力を伝える仕事に就きたい学生」

科目区分	1年次			2年次			3年次			4年次			修得単位数		
	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	小計	合計	
全学共通教育科目	導入プログラム	大学入門	履修指定	1									1	124	
	表現科目	日本美術史	選択	2	東洋美術史	選択	2						6		
		身体表現論	選択	2											
	グローバル科目	英語1/日本語1	選必	2	和の伝統文化論	選択	2								12
		英語2/日本語2	選必	2											
		日本史	選択	2											
		グローバルヒストリー	選択	2											
	リベラル アーツ科目	アカデミックスキル1	必修	2				考古学	選択	2					11
アカデミックスキル2		必修	2				情報科学	選択	2						
情報と倫理		履修指定	1												
社会実践力 育成 プログラム	国内ショートプログラム	選択	2	京都の伝統産業実習	選択	2							4		
	キャリア科目	キャリア1	履修指定	1			キャリア3	履修指定	1				2		
横断科目													0		
学部専門教育科目	学部基礎科目	人文学原論	必修	2	現場学	必修	2						12		
		基礎実習1	必修	1	フィールドワーク方法論	必修	2								
		基礎実習2	必修	1											
		ことば実習	必修	2											
		地域学	必修	2											
	学科基礎科目	人文学概論	必修	2	歴史学概論	選必	2	歴史学研究	選必	2				10	
					日本中世史特講	選必	2	日本近世史特講	選必	2					
	学部基幹科目				専門演習1	必修	2	専門演習3	必修	2	卒業研究演習1	必修	2	30	
					専門演習2	必修	2	専門演習4	必修	2	卒業研究演習2	必修	2		
					フィールド・スタディーズ1	必修	2	フィールド・プログラム報告	必修	2	卒業論文	必修	4		
					フィールド・スタディーズ2	必修	2								
					フィールド・スタディーズ3	必修	2								
					フィールド・スタディーズ4	必修	2								
	人文学科専門 科目 (自コース)	京都の歴史	選必	2	古文書解読	選必	2	日本・アジア関係史	選必	2	歴史地理学	選必	2	18	
					地誌学	選必	2	日本思想史	選必	2					
					日本藝能史	選必	2	日本社会史	選必	2					
人文学科専門 科目 (他コース)	地域社会論	選択	2				くずし字読解	選択	2	社会学特講	選択	2	10		
							書誌学	選択	2						
国際文化学科 専門科目							比較文学	選択	2				8		
							社会言語学	選択	2						
							伝統文化論	選択	2						
							伝統藝能論	選択	2						
							日本の美学	選択	2						

人文学部 人文学科 文学コース

「国内外の物語や絵本が好きで、将来は出版関係の仕事に就きたい学生」

科目区分	1年次			2年次			3年次			4年次			修得単位数	
	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	小計	合計
全学共通教育科目	導入プログラム	大学入門	履修指定	1									1	
	表現科目	オフィスソフトスキル入門	選択	2			グラフィックデザインソフトスキル	選択	1					5
							芸術学	選択	2					
	グローバル科目	英語1/日本語1	選必	2			海外文化研修プログラム	選択	2					
		英語2/日本語2	選必	2			言語学	選択	2					12
		複言語学習入門	選択	2										
	リベラルアーツ科目	アカデミックスキル1	必修	2			サステナビリティと社会	選択	2					
		アカデミックスキル2	必修	2										
		情報と倫理	履修指定	1										11
		人類と人工知能	選択	2										
健康学	選択	2												
社会実践力育成プログラム												0		
キャリア科目	キャリア1	履修指定	1	クリエイティブの現場	選択	2	キャリア3	履修指定	1				4	
横断科目	メディア技術論1	選択	1	メディア文化論	選択	2							3	
学部専門教育科目	学部基礎科目	人文学原論	必修	2	現場学	必修	2							
		基礎実習1	必修	1	フィールドワーク方法論	必修	2							12
		基礎実習2	必修	1										
		ことば実習	必修	2										
		地域学	必修	2										
	学科基礎科目	人文学概論	必修	2	文学概論	選必	2	文学研究	選必	2				10
					日本上代文学講読	選必	2	日本近世文学講読	選必	2				
	学部基幹科目				専門演習1	必修	2	専門演習3	必修	2	卒業研究演習1	必修	2	
					専門演習2	必修	2	専門演習4	必修	2	卒業研究演習2	必修	2	
					フィールド・スタディーズ1	必修	2	フィールド・プログラム報告	必修	2	卒業論文	必修	4	
					フィールド・スタディーズ2	必修	2							30
					フィールド・スタディーズ3	必修	2							
					フィールド・スタディーズ4	必修	2							
					フィールド・スタディーズ5	必修	2							
	人文学科専門科目(自コース)	日本文学史	選必	2	漢文学	選必	2	古典文法	選必	2	批評理論	選必	2	
				くずし字読解	選必	2	詩歌論	選必	2				20	
				日本語学特講	選必	2	書誌学	選必	2					
							説話・口承文学	選必	2					
人文学科専門科目(他コース)							比較文学	選必	2					
							日本藝能史	選択	2				4	
						日本文化史	選択	2						
国際文化学科専門科目	言語と社会	選択	2			社会言語学	選択	2	英語文学1	選択	2			
	現代文化論	選択	2			サブカルチャー論	選択	2					12	
						日本の美学	選択	2						

人文学部 人文学科 社会コース

「多様化する社会の現状と課題に関心を持ち、将来的には社会的弱者や地域に寄り添う仕事に就きたい学生」

科目区分	1年次			2年次			3年次			4年次			修得単位数			
	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	小計	合計		
全学共通教育科目	導入プログラム	大学入門	履修指定	1									1			
	表現科目	グラフィックデザインソフトスキル	選択	1										5		
		オフィスソフトスキル入門	選択	2												
		身体表現論	選択	2												
	グローバル科目	英語1/日本語1	選必	2										12		
		英語2/日本語2	選必	2												
		海外文化研修プログラム	選択	2												
		複言語学習入門	選択	2												
		文化人類学	選択	2												
		グローバルヒストリー	選択	2												
リベラルアーツ科目	アカデミックスキル1	必修	2										11			
	アカデミックスキル2	必修	2													
	情報と倫理	履修指定	1													
	倫理学	選択	2													
社会実践力育成プログラム	政治学	選択	2													
	ジェンダーと社会	選択	2													
	社会連携PBLプログラム1	選択	2										2			
キャリア科目	キャリア1	履修指定	1	新時代のキャリア	選択	1	キャリア3	履修指定	1				3			
横断科目				メディア文化論	選択	2							2			
学部専門教育科目	学部基礎科目	人文学原論	必修	2	現場学	必修	2							12	124	
		基礎実習1	必修	1	フィールドワーク方法論	必修	2									
		基礎実習2	必修	1												
		ことば実習	必修	2												
		地域学	必修	2												
	学科基礎科目	人文学概論	必修	2	社会学概論	選必	2	社会学研究	選必	2				10		
								現代社会特講3	選必	2						
								現代社会特講4	選必	2						
	学部基幹科目				専門演習1	必修	2	専門演習3	必修	2	卒業研究演習1	必修	2	30		
					専門演習2	必修	2	専門演習4	必修	2	卒業研究演習2	必修	2			
					フィールド・スタディーズ1	必修	2	フィールド・プログラム報告	必修	2	卒業論文	必修	4			
					フィールド・スタディーズ2	必修	2									
					フィールド・スタディーズ3	必修	2									
					フィールド・スタディーズ4	必修	2									
	人文学科専門科目(自コース)				フィールド・スタディーズ5	必修	2									
					フィールド・スタディーズ6	必修	2									
				国際関係論	選必	2	ジェンダー論	選必	2					16		
				社会学特講	選必	2	社会思想	選必	2							
人文学科専門科目(他コース)				社会支援論	選必	2	多文化共生論	選必	2							
				社会調査法	選必	2	地域社会論	選必	2							
							日本文化史	選択	2	比較文学	選択	2	8			
国際文化学科専門科目							日本民俗学	選択	2							
							歴史地理学	選択	2							
							グローバル共生社会論	選択	2	社会言語学	選択	2	12			
							グローバル化とメディア	選択	2	日本の美学	選択	2				
						伝統藝能論	選択	2								
						サブカルチャー論	選択	2								

人文学部 国際教養学科 卒業要件

科目区分	必修科目					選択必修科目			選択科目	卒業に要する 単位(計)	
	進級 要件	科目名称	履修年次	単位 数	小計	進級 要件	科目名称	単位 数			小計
全学共通教育科目	導入プログラム									28単位 以上 (※3※4)	36 単位 以上
	表現科目										
	グローバル科目						指定語学科目 (※1)	各2	4単位(※2)		
	リベラルアーツ科目		アカデミックスキル1	1 前期	2	4単位					
		アカデミックスキル2	1 後期	2							
	社会実践力育成プログラム										
	キャリア科目										
横断科目											
学部専門教育科目	学部基礎科目	○ 人文学原論	1 前期	2	12単位						
		○ 基礎実習1	1 前期	1							
		○ 基礎実習2	1 後期	1							
		○ ことば実習	1 前期	2							
		○ 地域学	1 後期	2							
		◎ 現場学	2 前期	2							
		◎ フィールドワーク方法論	2 前期	2							
	学部基幹科目	◎ 専門演習1	2 前期	2	30単位						
		◎ 専門演習2	2 後期	2							
		● 専門演習3	3 前期	2							
		● 専門演習4	3 後期	2							
		卒業研究演習1	4 前期	2							
		卒業研究演習2	4 後期	2							
		卒業論文	4 後期	4							
		◎ フィールド・スタディーズ1	2 後期	2							
		◎ フィールド・スタディーズ2	2 後期	2							
		◎ フィールド・スタディーズ3	2 後期	2							
		◎ フィールド・スタディーズ4	2 後期	2							
		◎ フィールド・スタディーズ5	2 後期	2							
		◎ フィールド・スタディーズ6	2 後期	2							
● フィールド・プログラム報告	3 前期	2									
国際教養学科基礎科目	○ 国際教養概論	1 後期	2	2単位	◎ 所属コースの 概論科目	各2	2単位	24単位 以上	88 単位 以上		
					● 所属コースの 研究科目	各2	2単位				
					所属コースの 特講科目	各2	4単位 以上(※2)				
国際教養学科専門科目					所属コースの 専門科目	各2	12単位 以上(※2)				
人文学部専門科目											

- (※1) 日本語以外を外国語として学ぶものは、「英語1・2」の4単位を修得すること。
日本語を外国語として学ぶものは、「日本語1・2」の4単位を修得すること。
- (※2) 選択必修科目の要件を超えて単位修得した場合は、超過単位を同一科目区分の選択科目単位とみなす。
- (※3) 以下の履修指定科目における修得単位は、全学共通教育選択科目単位に含む。
1年次:「大学入門」「キャリア1」「情報と倫理」
3年次:「キャリア3」
- (※4) 「横断科目」の修得単位数は、8単位を上限に卒業要件単位数に含む。

進級要件

- (1年次から2年次/○印)
○学部専門1年次必修科目10単位をすべて修得していること。
(「人文学原論」「国際教養概論」「ことば実習」「基礎実習1・2」「地域学」合計6科目 10単位)
- (2年次から3年次/◎印)
◎学部専門2年次必修科目の以下20単位をすべて修得していること。
(「専門演習1・2」「現場学」「フィールドワーク方法論」「フィールド・スタディーズ1～6」合計10科目 20単位)
◎学部専門2年次選択必修科目「国際文化概論」「国際日本学概論」のうち所属コースの科目2単位を修得していること。
- (3年次から4年次/●印)
●学部専門3年次必修科目の以下6単位をすべて修得していること。
(「専門演習3・4」「フィールド・プログラム報告」合計3科目 6単位)
●学部専門3年次選択必修科目「国際文化研究」「国際日本学研究」のうち所属コースの科目2単位を修得していること。

1年次	ことば実習	基礎実習 1	人文学原論	<p style="text-align: center;">専門選択科目</p> <p>1年次～</p> <p>〈歴史〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・京都の歴史 ・日本・アジア関係史 <p>〈文学〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・説話・口承文学 ・日本文学史 <p>〈社会〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジェンダー論 ・地域社会論
	地域学	基礎実習 2	国際教養概論	
2年次	現場学	フィールドワーク 方法論	専門演習 1	<p>各コース概論</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際文化概論 ・国際日本学概論
	フィールド・スタディーズ 1～6	専門演習 2	※2年次後期は他の科目を履修せず、 フィールドワークをはじめとする学外の調査・活動に専念します	
3年次	フィールド・プログラム報告	専門演習 3	各コース研究	<p>各コース研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際文化研究 ・国際日本学研究
		専門演習 4		
4年次	卒業研究演習1			<p>講読・特講</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際文化特講1 ・国際文化特講2 ・国際文化特講3 ・国際文化特講4 ・国際日本学特講1 ・国際日本学特講2 ・国際日本学特講3 ・国際日本学特講4
	卒業研究演習2 卒業論文			

<p>〈国際文化〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グローバル共生社会論 ・グローバル化とメディア <p>〈国際日本学〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言語と社会 ・現代文化論
<p>2年次～</p> <p>〈歴史〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古文書解読 ・地誌学 ・日本藝能史 ・日本思想史 ・日本社会史 ・日本文化史 ・日本民俗学 ・歴史地理学 <p>〈文学〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漢文学 ・くずし字読解 ・古典文法 ・詩歌論 ・書誌学 ・書道 ・日本語学特講 ・比較文学 ・批評理論 <p>〈社会〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会芸術論 ・国際関係論 ・社会学特講 ・社会支援論 ・社会思想 ・社会調査法 ・大衆文化論 ・多文化共生論
<p>〈国際文化〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化人類学特講 ・国際協力論 ・英語学概論1 ・英語学概論2 ・英語文学1 ・英語文学2 ・English Communication Intermediate ・World Englishes ・心理言語学 ・社会言語学 <p>〈国際日本学〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝統文化論 ・比較藝術論 ・伝統藝能論 ・サブカルチャー論 ・日本の美学 ・言語習得論 ・日本語教育学特講1 ・日本語教育学特講2 ・日本語教授法1 ・日本語教授法2
<p>3年次～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フィールド・スタディーズ7～12
<p>4年次～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業研究調査

人文学部 国際教養学科 国際文化コース

「グローバルな社会的課題の背景と現状を学び、英語を用いる国際的な職に就きたい学生」

科目区分	1年次			2年次			3年次			4年次			修得単位数		
	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	小計	合計	
全学共通教育科目	導入プログラム	大学入門	履修指定	1									1		
	表現科目	オフィスソフトスキル入門	選択	2									2		
	グローバル科目	英語1/日本語1	選必	2				Effective Presentation	選択	2					
		英語2/日本語2	選必	2											
		グローバルヒストリー	選択	2											
	リベラルアーツ科目	アカデミックスキル1	必修	2	データサイエンス	選択	2								
		アカデミックスキル2	必修	2	共通基礎演習	選択	2								
		情報と倫理	履修指定	1											
		歴史学	選択	2											
		政治学	選択	2											
日本国憲法		選択	2												
社会実践力育成プログラム	国内ショートプログラム	選択	2				社会連携PBLプログラム1	選択	2						
	キャリア科目	キャリア1	履修指定	1			キャリア3	履修指定	1						
	横断科目												0		
学部専門教育科目	学部基礎科目	人文学原論	必修	2	現場学	必修	2								
		基礎実習1	必修	1	フィールドワーク方法論	必修	2								
		基礎実習2	必修	1											
		ことば実習	必修	2											
		地域学	必修	2											
	学科基礎科目	国際教養概論	必修	2	国際文化概論	選必	2	国際文化研究	選必	2					
					国際文化特講1	選必	2	国際文化特講4	選必	2					
	学部基幹科目				専門演習1	必修	2	専門演習3	必修	2	卒業研究演習1	必修	2		
					専門演習2	必修	2	専門演習4	必修	2	卒業研究演習2	必修	2		
					フィールド・スタディーズ1	必修	2	フィールド・プログラム報告	必修	2	卒業論文	必修	4		
					フィールド・スタディーズ2	必修	2								
					フィールド・スタディーズ3	必修	2								
					フィールド・スタディーズ4	必修	2								
	国際文化学科専門科目(自コース)	グローバル共生社会論	選必	2	English Communication Intermediate	選必	2	文化人類学特講	選必	2					
		グローバル化とメディア	選必	2	World English	選必	2	国際協力論	選必	2					
	国際文化学科専門科目(他コース)				サブカルチャー論	選択	2	現代文化論	選択	2					
					言語習得論	選択	2								
	人文学科専門科目				社会調査法	選択	2	日本文化史	選択	2	日本・アジア関係史	選択	2		
								国際関係論	選択	2					
								ジェンダー論	選択	2					
							社会支援論	選択	2						
							大衆文化論	選択	2						
						多文化共生論	選択	2							
						地域社会論	選択	2							

● 人文学部 国際教養学科 国際日本学コース

「日本の大衆文化や伝統文化に関心があり、卒業後は国内外で日本文化を紹介する仕事に就きたい学生」

科目区分	1年次			2年次			3年次			4年次			修得単位数		
	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	小計	合計	
全学共通教育科目	導入プログラム	大学入門	履修指定	1									1		
	表現科目	オフィスソフトスキル入門	選択	2			グラフィックデザインソフトスキル	選択	1					7	
		工芸概論	選択	2											
		日本美術史	選択	2											
	グローバル科目	英語1/日本語1	選必	2											
		英語2/日本語2	選必	2											
		日本文化概論	選択	1											
		和の伝統文化論	選択	2											
		京都学	選択	2											
		京都の伝統工芸講座1	選択	2											
リベラルアーツ科目	アカデミックスキル1	必修	2												
	アカデミックスキル2	必修	2												
	情報と倫理	履修指定	1												
社会実践力育成プログラム	国内ショートプログラム	選択	2	京都の伝統産業実習	選択	2							4		
キャリア科目	キャリア1	履修指定	1	キャリア2	選択	1	キャリア3	履修指定	1					4	
				コミュニケーション実践実習	選択	1									
横断科目	マンガ史1	選択	1											2	
	マンガ概論1	選択	1												
学部専門教育科目	学部基礎科目	人文学原論	必修	2	現場学	必修	2								
		基礎実習1	必修	1	フィールドワーク方法論	必修	2								
		基礎実習2	必修	1											
		ことば実習	必修	2											
	地域学	必修	2												
	学科基礎科目	国際教養概論	必修	2	国際日本学概論	選必	2	国際日本学研究	選必	2					10
					国際日本学特講3	選必	2	国際日本学特講2	選必	2					
	学部基幹科目				専門演習1	必修	2	専門演習3	必修	2	卒業研究演習1	必修	2		
					専門演習2	必修	2	専門演習4	必修	2	卒業研究演習2	必修	2		
					フィールド・スタディーズ1	必修	2	フィールド・プログラム報告	必修	2	卒業論文	必修	4		
					フィールド・スタディーズ2	必修	2								
					フィールド・スタディーズ3	必修	2								
					フィールド・スタディーズ4	必修	2								
	国際文化学科専門科目(自コース)				伝統芸能論	選必	2	伝統文化論	選必	2					
					サブカルチャー論	選必	2	現代文化論	選必	2					
					日本の美学	選必	2	比較芸術論	選必	2					
国際文化学科専門科目(他コース)							国際協力論	選択	2						
							英語文学1	選択	2						
人文学科専門科目				日本芸能史	選択	2	日本文化史	選択	2	詩歌論	選択	2			
							日本民俗学	選択	2	書道	選択	2			
							くずし字読解	選択	2	大衆文化論	選択	2			
							古典文法	選択	2						
							説話・口承文学	選択	2						
						日本文学史	選択	2							

登録日本語教員課程

1. 登録日本語教員とは

登録日本語教員とは、文部科学省による認定を受けた認定日本語教育機関において、日本語を学ぶ方を対象に日本語教育を行なうことができる国家資格です。人文学部国際教養学科国際日本学コースでは、登録日本語教員を目指す学生向けに、養成課程および実践研修を一体化した登録日本語教員課程を設置しています。本課程の目指す教員像（目標）は次の通りです。

目指す教員像（目標）

- 日本語を教えるために必要な言語・文化、日本語の教授についての知識、および教育実践を行なうための技能を有し、それを実践で用いることができる。
- グローバルとローカルの接点にある日本語教員として、共生社会を実現するための行動を取ることができる。
- 自身の教育実践をふり返り、自律的に学び続けることができる。

2. 登録日本語教員資格を取得するための要件

登録日本語教員課程のカリキュラムは、人文学部国際教養学科国際日本学コースのカリキュラム（教育課程）とは異なるため、卒業要件とは別の修了要件が定められています。登録日本語教員の資格を取得するためには、次の要件を満たす必要があります。

登録日本語教員資格の取得要件

- (1) 登録日本語教員課程に登録していること。
- (2) 養成課程および実践研修を修了すること。
- (3) 日本語教員試験の応用試験に合格すること。
- (4) 登録日本語教員の登録申請を行なうこと。

3. 課程登録

登録日本語教員資格を取得するためには、1年次の定められた期間に課程登録に関する申請手続きを必ず行なってください。手続き方法は、以下の通りです。

課程登録手続き方法

- (1) 証明書自動発行機にて所定の課程登録料（10,000円）を納付し、「登録料納付書」を入手する。
- (2) 教務チーム窓口にて「登録日本語教員課程登録申請書」を入手し、必要事項を記入する。
- (3) 記入済みの「登録日本語教員課程登録申請書」および「登録料納付書」を教務チーム窓口へ提出する。

4. 4年間の流れ

年次	時期	事項
1年次	9月末	登録日本語教員課程1年次ガイダンス
	10月	養成課程科目履修開始
	3月末	登録日本語教員課程2年次ガイダンス 登録日本語教員課程登録手続き
2年次	3月末	登録日本語教員課程3年次ガイダンス
3年次	2月	養成課程修了見込・修了判定
	3月末	証明書発行手続き 登録日本語教員課程4年次ガイダンス
4年次	4月	実践研修科目履修開始
	8～9月	「応用試験」申し込み ※
	11月	「応用試験」受験
	12月	「応用試験」合格発表
	12～2月	養成課程および実践研修修了判定
	2月	証明書発行手続き
	3月	養成課程および実践研修修了証書授与 登録日本語教員登録手続き

※ 養成課程を修了、または修了見込であることが、「応用試験」の受験条件です。

5. 登録日本語教員課程 修了要件

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修/選択	授業形態	単位数	履修年次	開講学期
養成課程	HfhZ1901	言語と社会	必修	講義	2	1・3	後期
	HfhZ2971	言語習得論	必修	講義	2	2	前期
	HfhZ2981	日本語教育学特講1	必修	講義	2	2	前期
	HfhZ3982	日本語教育学特講2	必修	講義	2	3	前期
	HfhZ3991	日本語教授法1	必修	講義	2	3	前期
	HfhZ3992	日本語教授法2	必修	講義	2	3	後期
	CggZ2341	日本語学	必修	講義	2	2・3・4	※
	CggZ1351	言語学	必修	講義	2	1・2・3・4	※
	HdlZ2221	国際日本学概論	必修	講義	2	2	前期
	HdlZ3241	国際日本学研究	必修	講義	2	3	前期
	HdlZ2261	国際日本学特講1	選択必修	講義	2	2・3・4	※
	HdlZ2251	国際文化特講1	選択必修	講義	2	2・3・4	※
	HdlZ2254	国際文化特講4	選択必修	講義	2	2・3・4	※
	HfhZ1821	グローバル共生社会論	選択必修	講義	2	1・2・3・4	※
	HfhZ2881	心理言語学	選択必修	講義	2	2・3・4	※
	HfhZ2891	社会言語学	選択必修	講義	2	2・3・4	※
	実践研修	HdlZ4001	日本語教育実習	必修	実習	2	4

※年度によって開講学期が異なります。詳細は、各年度の「開講科目一覧」にて確認してください。

〈養成課程の修了見込み要件〉

- 3年次後期末までに、以下の必修科目12単位をすべて修得していること。
「言語と社会」「言語習得論」「日本語教育学特講1」「日本語教育学特講2」「日本語教授法1」「日本語教授法2」

〈養成課程の修了要件〉

- 以下の必修科目20単位をすべて修得していること。
「言語と社会」「言語習得論」「日本語教育学特講1」「日本語教育学特講2」「日本語教授法1」「日本語教授法2」「日本語学」「言語学」「国際日本学概論」「国際日本学研究」
- 以下の選択必修科目の中から6単位以上を修得していること。
「国際日本学特講1」「国際文化特講1」「国際文化特講4」「グローバル共生社会論」「心理言語学」「社会言語学」

〈実践研修の修了要件〉

- 必修科目「日本語教育実習」2単位を修得していること。

6. 履修上の注意

本課程の科目には、履修順序や履修条件の指定等があります。以下の注意を必ず確認のうえ、科目を履修してください。

- 「日本語教授法2」の履修は、「日本語教授法1」の単位修得を前提条件とする。
- 「日本語教育実習」の履修は、「言語と社会」「言語習得論」「日本語教育学特講1」「日本語教育学特講2」「日本語教授法1」「日本語教授法2」の単位修得を前提条件とする。
※養成課程を修了、または修了見込であることが、実践研修（「日本語教育実習」）の履修条件です。
- 人文学部生は2年次後期に学外実習を行なうため、その期間は「専門演習2」「フィールド・スタディーズ1～6」以外の科目を履修することができません。その点を考慮のうえ、4年間の履修計画を立ててください。
- 登録日本語教員課程を修了するためには、3年次前期に養成課程の必修科目を履修しなければなりません。そのため、学外実習の期間延長（「フィールド・スタディーズ7～12」の履修）ができません。
- 「日本語教育実習」では、教壇実習を行ないます。授業期間中に教壇実習が入り、履修中の授業科目を受講できない場合は、日程のわかる書類を持参のうえ、教務チーム窓口で公欠の手続きを行なってください。

7. 各種証明書の発行

(1) 登録日本語教員養成課程修了見込証明書

3年次後期末時点で要件を満たした方へ「登録日本語教員養成課程修了見込証明書」を発行します。教務チームより、対象者へ通知しますので、教務チーム窓口にて証明書を受け取ってください。

(2) 登録日本語教員養成課程修了証書

3年次後期末以降に要件を満たした方へ「登録日本語教員養成課程修了証書」を発行します。教務チームより、対象者へ通知しますので、教務チーム窓口にて「登録日本語教員課程証明書発行申請書」へ必要事項を記入のうえ、提出してください。後日、教務チームより、対象者へ再度通知しますので、教務チーム窓口にて証明書を受け取ってください。

(3) 登録日本語教員実践研修修了証書

4年次後期末時点で要件を満たした方へ「登録日本語教員実践研修修了証書」を発行します。教務チームより、対象者へ通知しますので、教務チーム窓口にて「登録日本語教員課程証明書発行申請書」へ必要事項を記入のうえ、提出してください。後日、教務チームより、対象者へ再度通知しますので、教務チーム窓口にて証明書を受け取ってください。

8. 日本語教員試験

登録日本語教員資格を取得するための日本語教員試験では、基礎試験および応用試験のいずれにも合格する必要があります。ただし、養成課程を修了した（修了することを前提に修了見込となった）場合は、基礎試験が免除されます。そのため、養成課程を含む本課程では、「登録日本語教員課程4年次ガイダンス」にて応用試験のみの受験を案内しています。

9. 登録日本語教員の登録申請

登録日本語教員としての登録申請は、「日本語教育機関認定法ポータル」という文部科学省のポータルサイト上で行なうことになります。養成課程および実践研修を修了のうえ、「登録日本語教員養成課程修了証書」および「登録日本語教員実践研修修了証書」を入手し、日本語教員試験に合格した方は、各自で手続きを行なってください。詳細は、「登録日本語教員課程4年次ガイダンス」にて案内します。

人文学部 専門教育科目 科目一覧

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修／選択	授業形態	単位数	履修年次	ディプロマ・ポリシーとの相関				
							DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5
							知識と理解	創造的思考と考察	技術と表現	視点と協働	社会への関心と行動
学部基礎科目	HfhZ1001	人文学原論	必修	講義	2	1	●	●			
	HfhZ1011	基礎実習1	必修	実習	1	1	●	●		●	
	HfhZ1012	基礎実習2	必修	実習	1	1	●	●		●	
	HfhZ1021	ことば実習	必修	実習	2	1	●		●	●	
	HfhZ1031	地域学	必修	講義	2	1	●	●			●
	HfhZ2041	現場学	必修	講義	2	2	●	●			●
	HfhZ2051	フィールドワーク方法論	必修	講義	2	2	●	●			●
学部基幹科目	HfhZ2101	専門演習1	必修	演習	2	2	●				
	HfhZ2102	専門演習2	必修	演習	2	2	●			●	
	HfhZ3103	専門演習3	必修	演習	2	3			●	●	
	HfhZ3104	専門演習4	必修	演習	2	3			●	●	
	HfhZ4111	卒業研究演習1	必修	演習	2	4			●	●	
	HfhZ4112	卒業研究演習2	必修	演習	2	4			●	●	
	HfhZ4121	卒業論文	必修	成果評定	4	4	●	●	●		
	HfhZ2131	フィールド・スタディーズ1	必修	学外実習	2	2			●	●	●
	HfhZ2132	フィールド・スタディーズ2	必修	学外実習	2	2			●	●	●
	HfhZ2133	フィールド・スタディーズ3	必修	学外実習	2	2			●	●	●
	HfhZ2134	フィールド・スタディーズ4	必修	学外実習	2	2			●	●	●
	HfhZ2135	フィールド・スタディーズ5	必修	学外実習	2	2			●	●	●
	HfhZ2136	フィールド・スタディーズ6	必修	学外実習	2	2			●	●	●
	HfhZ3051	フィールド・プログラム報告	必修	演習	2	3			●	●	●
	HfhZ3137	フィールド・スタディーズ7	選択	学外実習	2	3			●	●	●
	HfhZ3138	フィールド・スタディーズ8	選択	学外実習	2	3			●	●	●
	HfhZ3139	フィールド・スタディーズ9	選択	学外実習	2	3			●	●	●
	HfhZ3140	フィールド・スタディーズ10	選択	学外実習	2	3			●	●	●
	HfhZ3141	フィールド・スタディーズ11	選択	学外実習	2	3			●	●	●
	HfhZ3142	フィールド・スタディーズ12	選択	学外実習	2	3			●	●	●
	HfhZ4061	卒業研究調査	選択	学外実習	2	4			●	●	●

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修／選択	授業形態	単位数	履修年次	ディプロマ・ポリシーとの相関				
							DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5
							知識と理解	創造的思考と考察	技術と表現	視点と協働	社会への関心と行動
人文学科基礎科目	HdhZ1201	人文学概論	必修	講義	2	1	●	●			
	HdhZ2211	歴史学概論	必修	講義	2	2・3・4	●	●			
	HdhZ2221	文学概論	必修	講義	2	2・3・4	●	●			
	HdhZ2231	社会学概論	必修	講義	2	2・3・4	●	●			
	HdhZ3241	歴史学研究	必修	講義	2	3・4	●	●			
	HdhZ3251	文学研究	必修	講義	2	3・4	●	●			
	HdhZ3261	社会学研究	必修	講義	2	3・4	●	●			
	HdhZ2271	日本古代史特講	選択必修	講義	2	2・3・4	●		●		
	HdhZ2281	日本中世史特講	選択必修	講義	2	2・3・4	●		●		
	HdhZ2291	日本近世史特講	選択必修	講義	2	2・3・4	●		●		
	HdhZ2301	日本近代史特講	選択必修	講義	2	2・3・4	●		●		
	HdhZ2311	日本上代文学講読	選択必修	講義	2	2・3・4	●		●		
	HdhZ2321	日本中古文学講読	選択必修	講義	2	2・3・4	●		●		
	HdhZ2331	日本中世文学講読	選択必修	講義	2	2・3・4	●		●		
	HdhZ2341	日本近世文学講読	選択必修	講義	2	2・3・4	●		●		
	HdhZ2351	日本近代文学講読	選択必修	講義	2	2・3・4	●		●		
	HdhZ2361	現代社会特講1	選択必修	講義	2	2・3・4	●		●		●
	HdhZ2362	現代社会特講2	選択必修	講義	2	2・3・4	●		●		●
	HdhZ2363	現代社会特講3	選択必修	講義	2	2・3・4	●		●		●
	HdhZ2364	現代社会特講4	選択必修	講義	2	2・3・4	●		●		●
HdhZ2365	現代社会特講5	選択必修	講義	2	2・3・4	●		●		●	
国際教養学科基礎科目	HdlZ1201	国際教養概論	必修	講義	2	1	●	●			
	HdlZ2211	国際文化概論	必修	講義	2	2・3・4	●	●			
	HdlZ2221	国際日本学概論	必修	講義	2	2・3・4	●	●			
	HdlZ3231	国際文化研究	必修	講義	2	3・4	●	●			
	HdlZ3241	国際日本学研究	必修	講義	2	3・4	●	●			
	HdlZ2251	国際文化特講1	選択必修	講義	2	2・3・4		●	●		●
	HdlZ2252	国際文化特講2	選択必修	講義	2	2・3・4		●	●		●
	HdlZ2253	国際文化特講3	選択必修	講義	2	2・3・4		●	●		●
	HdlZ2254	国際文化特講4	選択必修	講義	2	2・3・4		●	●		●
	HdlZ2261	国際日本学特講1	選択必修	講義	2	2・3・4		●	●		
	HdlZ2262	国際日本学特講2	選択必修	講義	2	2・3・4		●	●		
	HdlZ2263	国際日本学特講3	選択必修	講義	2	2・3・4		●	●		
	HdlZ2264	国際日本学特講4	選択必修	講義	2	2・3・4		●	●		

人文学部 専門教育科目 科目一覧

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修／選択	授業形態	単位数	履修年次	ディプロマ・ポリシーとの相関					
							DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	
							知識と理解	創造的思考と考察	技術と表現	視点と協働	社会への関心と行動	
人文学科専門科目	歴史	HfhZ1401	京都の歴史	選択	講義	2	1・2・3・4		●	●		
		HfhZ2411	古文書解読	選択	講義	2	2・3・4		●	●		
		HfhZ2421	地誌学	選択	講義	2	2・3・4		●	●		
		HfhZ1431	日本・アジア関係史	選択	講義	2	1・2・3・4		●	●		
		HfhZ2441	日本藝能史	選択	講義	2	2・3・4		●	●		
		HfhZ2451	日本思想史	選択	講義	2	2・3・4		●	●		
		HfhZ2461	日本社会史	選択	講義	2	2・3・4		●	●		
		HfhZ2471	日本文化史	選択	講義	2	2・3・4		●	●		
		HfhZ2481	日本民俗学	選択	講義	2	2・3・4		●	●		
		HfhZ2491	歴史地理学	選択	講義	2	2・3・4		●	●		
	文学	HfhZ2501	漢文学	選択	講義	2	2・3・4		●	●		
		HfhZ2511	くずし字読解	選択	講義	2	2・3・4		●	●		
		HfhZ2521	古典文法	選択	講義	2	2・3・4		●	●		
		HfhZ2531	詩歌論	選択	講義	2	2・3・4		●	●		
		HfhZ2541	書誌学	選択	講義	2	2・3・4		●	●		
		HfhZ2551	書道	選択	講義	2	2・3・4		●	●		
		HfhZ1561	説話・口承文学	選択	講義	2	1・2・3・4		●	●		
		HfhZ2571	日本語学特講	選択	講義	2	2・3・4		●	●		
		HfhZ1581	日本文学史	選択	講義	2	1・2・3・4		●	●		
		HfhZ2591	比較文学	選択	講義	2	2・3・4		●	●		
	HfhZ2601	批評理論	選択	講義	2	2・3・4		●	●			
	社会	HfhZ2701	社会藝術論	選択	講義	2	2・3・4		●	●		●
		HfhZ2711	国際関係論	選択	講義	2	2・3・4		●	●		●
		HfhZ1721	ジェンダー論	選択	講義	2	1・2・3・4		●	●		●
		HfhZ2731	社会学特講	選択	講義	2	2・3・4		●	●		●
		HfhZ2741	社会支援論	選択	講義	2	2・3・4		●	●		●
		HfhZ2751	社会思想	選択	講義	2	2・3・4		●	●		●
		HfhZ2761	社会調査法	選択	講義	2	2・3・4		●	●		●
		HfhZ2771	大衆文化論	選択	講義	2	2・3・4		●	●		●
		HfhZ2781	多文化共生論	選択	講義	2	2・3・4		●	●		●
HfhZ1791	地域社会論	選択	講義	2	1・2・3・4		●	●		●		

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修/選択	授業形態	単位数	履修年次	ディプロマ・ポリシーとの相関					
							DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	
							知識と理解	創造的思考と考察	技術と表現	視点と協働	社会への関心と行動	
国際教養学科専門科目	国際文化	HfhZ2801	文化人類学特講	選択	講義	2	2・3・4		●	●		●
		HfhZ2811	国際協力論	選択	講義	2	2・3・4		●	●		●
		HfhZ1821	グローバル共生社会論	選択	講義	2	1・2・3・4		●	●	●	●
		HfhZ1831	グローバル化とメディア	選択	講義	2	1・2・3・4		●	●		●
		HfhZ2841	英語学概論1	選択	講義	2	2・3・4		●	●		
		HfhZ2842	英語学概論2	選択	講義	2	2・3・4		●	●		
		HfhZ2851	英語文学1	選択	講義	2	2・3・4		●	●		
		HfhZ2852	英語文学2	選択	講義	2	2・3・4		●	●		
		HfhZ2861	English Communication Intermediate	選択	実習	2	2・3・4		●	●		
		HfhZ2871	World Englishes	選択	実習	2	2・3・4		●	●		
		HfhZ2881	心理言語学	選択	講義	2	2・3・4		●	●		●
	HfhZ2891	社会言語学	選択	講義	2	2・3・4		●	●		●	
	国際日本学	HfhZ1901	言語と社会	選択	講義	2	1・2・3・4		●	●		●
		HfhZ2911	伝統文化論	選択	講義	2	2・3・4		●	●		●
		HfhZ1921	現代文化論	選択	講義	2	1・2・3・4		●	●		●
		HfhZ2931	比較芸術論	選択	講義	2	2・3・4		●	●		
		HfhZ2941	伝統芸能論	選択	講義	2	2・3・4		●	●		●
		HfhZ2951	サブカルチャー論	選択	講義	2	2・3・4		●	●		●
		HfhZ2961	日本の美学	選択	講義	2	2・3・4		●	●		●
		HfhZ2971	言語習得論	選択	講義	2	2・3・4		●	●		
		HfhZ2981	日本語教育学特講1	選択	講義	2	2・3・4		●	●		
		HfhZ3982	日本語教育学特講2	選択	講義	2	3・4		●	●		
		HfhZ3991	日本語教授法1	選択	講義	2	3・4		●	●	●	
HfhZ3992		日本語教授法2	選択	講義	2	3・4		●	●	●		
HdlZ4001	日本語教育実習	選択	実習	2	4			●	●	●		

ポリシーとカリキュラム構造

● 教育研究目的

メディア表現学部の教育目的は、メディア表現とその技術を活用し、他者と協働しながら社会課題の解決に寄与することです。メディア表現と社会を連携させる実践を通じて、新しい価値を提案・創造することを目指します。その目的のために、メディアやコンテンツに関する知識と専門的な表現技能やその仕組みとともに、現実社会を生き抜くためのセルフマネジメント力や倫理観も身につけた人間を育成します。卒業時に身につけているべき要素を以下の5つとし、卒業要件を満たせばこれらを身につけたものと認め、学位を授与します。

● 学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)

DP1	メディアやコンテンツについての知見と、メディアの社会的役割に関する学術的知識と理解がある。	知識と理解 knowledge & understanding
DP2	事実の客観的な観察にもとづいて見出された課題に対して、メディア技術の創造的、効果的な使い方を立案できる。	創造的思考と考察 creative thinking & observation
DP3	メディア技術を用いた表現と仕組みを生み出す技能を獲得し活用できる。	技術と表現 skills & expression
DP4	多様な他者との違いを認め、協働して課題解決に取り組むことができる。	他者理解と協働 mutual understanding & collaboration
DP5	より良い社会を創る意欲を持ち、学びを応用して社会の課題解決に自ら取り組むことができる。	社会への関心と行動 interests & action

● 教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

メディア表現学部は、学位授与の方針を達成するために、全学共通教育科目、学部専門教育科目を体系的に編成し、講義、演習、実習等を適切に組み合わせた授業を開講します。また、科目のナンバリングおよびカリキュラム・マップにより、カリキュラムの体系を明示します。

教育内容、教育方法、学修成果の評価について以下のように定めます。

1. 教育内容

学部専門教育科目では、1年次では、プログラミングやメディア技術・メディア研究の基礎知識・技法に加えて、メディア技術が活用される諸分野の考え方を身に着けます。2年次では4つの専攻のいずれかに所属し、各分野の制作技能を身につけるとともに、企業等でのエクスターンシップを通して、社会の課題に組織的に取り組むことを体験します。3年次には、身につけた専門技能を活用する力を中心に磨き、社会実践プロジェクトを通じて社会との関わり方を学びます。4年次では、卒業論文・卒業制作により、社会課題やビジネス課題の解決につながるテーマに取り組めます。

2. 教育方法

学生の主体性を伸ばすため、能動的学修の視点を取り入れた教育方法を実施します。
授業内・外の学修時間を考慮した授業内容を設計します。
学修成果の可視化を通じて、学生の自律的な学修を支援します。

3. 学修成果の評価

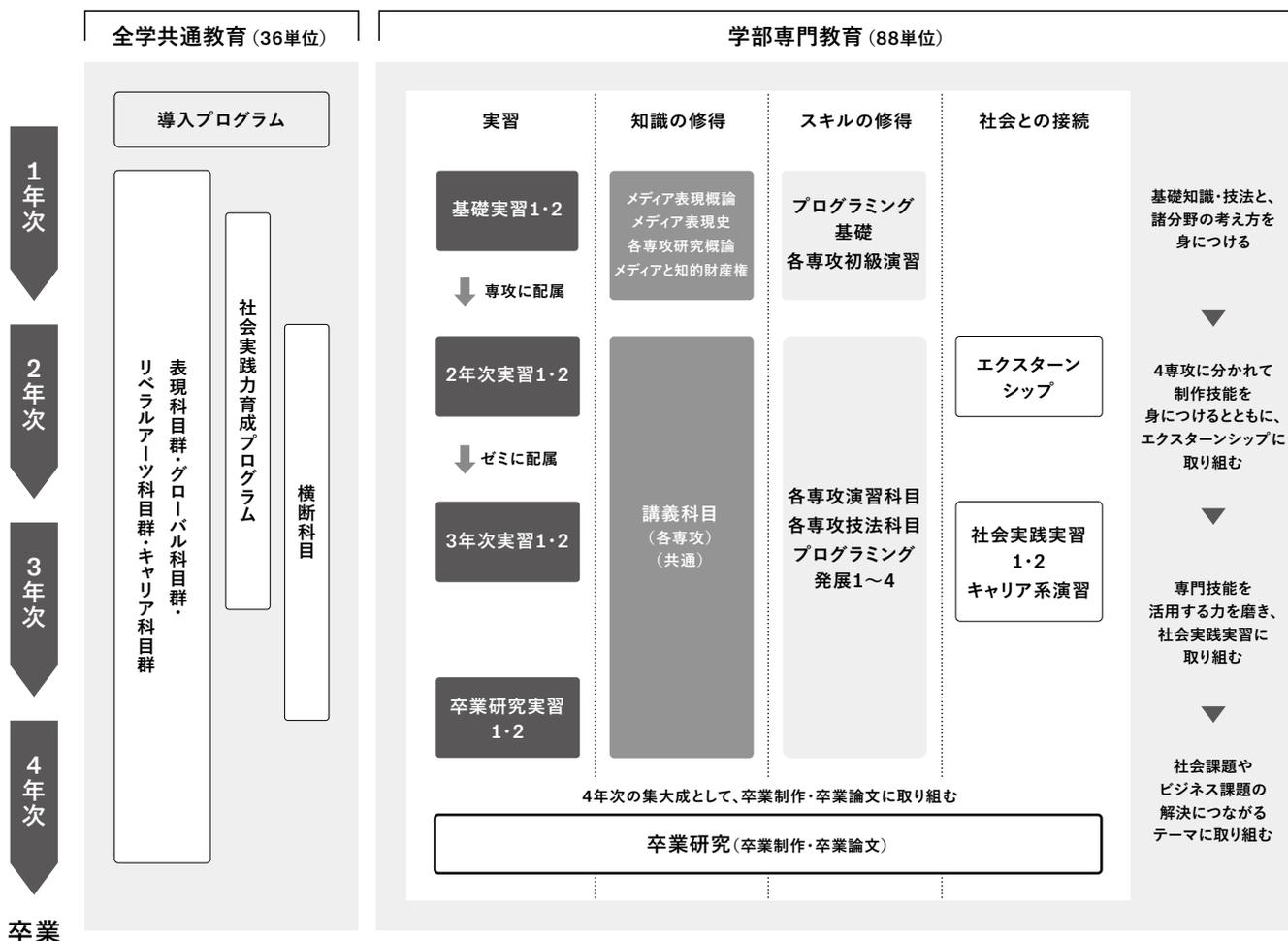
メディア表現学部では、学位授与の方針に掲げる能力・資質およびこれらの総合的な活用力の修得状況を、「進級時」「卒業時」の2つのレベルで把握し、評価します。各レベルの評価の実施方法は、以下のとおりとします。

■ 進級時

進級時の学修成果は、学部所定の教育課程における進級要件達成状況により、総合的評価を行います。

■ 卒業時

4年間の学修成果は、学部所定の教育課程における卒業要件達成状況により、総合的評価を行います。卒業研究(必修)は、評価ルーブリックを活用し、複数教員によって多面的評価を行います。



メディア表現学科

メディアイノベーション専攻／メディアデザイン専攻／
メディアコミュニケーション専攻／音楽メディア専攻

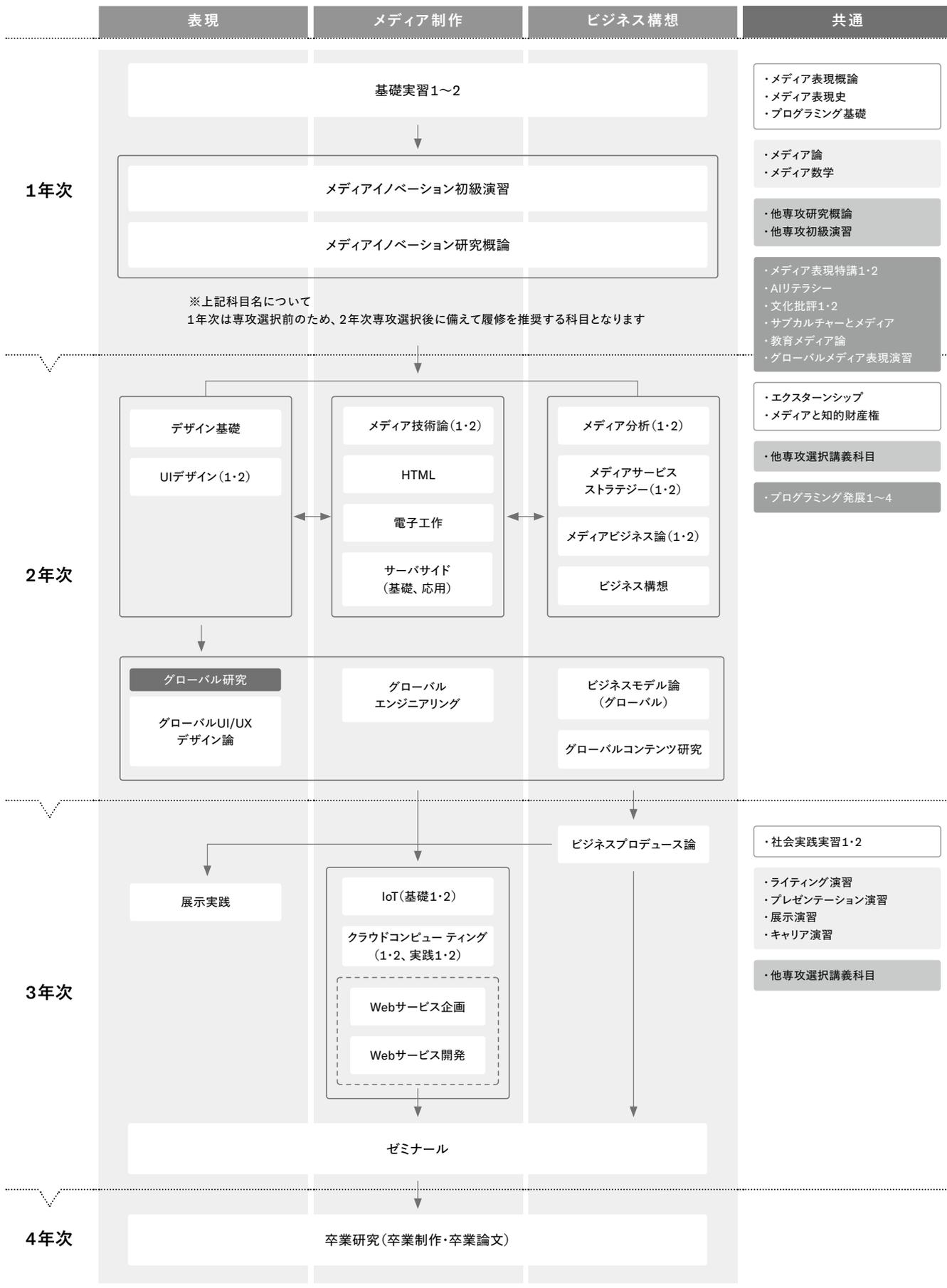
メディア表現学部 メディア表現学科 卒業要件

科目区分	必修科目						選択必修科目				選択科目	卒業に要する 単位(計)
	進級 要件	科目名称	履修年次	単位 数	小計	進級 要件	科目名称	単位 数	小計	小計		
全学共通教育科目	導入プログラム										28単位 以上 (※3※4)	36 単位 以上
	表現科目											
	グローバル科目						指定語学科目(※1)	各2	4単位 (※2)			
	リベラルアーツ科目		アカデミックスキル1	1 前期	2	4単位						
			アカデミックスキル2	1 後期	2							
	社会実践力育成プログラム											
キャリア科目												
横断科目												
学部専門教育科目	実習科目	○	基礎実習1	1 前期	2	36単位						88 単位 以上
		○	基礎実習2	1 後期	2							
		◎	2年次実習1	2 前期	4							
		◎	2年次実習2	2 後期	4							
		●	3年次実習1	3 前期	4							
		●	3年次実習2	3 後期	4							
		●	社会実践実習1	3 前期	2							
		●	社会実践実習2	3 後期	2							
		●	卒業研究実習1	4 前期	4							
		卒業研究実習2	4 後期	4								
		卒業研究	4 後期	4								
	基盤科目	◎	メディア表現概論	1 前期	2	9単位		メディア論	2	4単位 以上 (※2)	35単位 以上	
		◎	メディア表現史	1 後期	2			メディア数学	2			
		◎	プログラミング基礎	1 後期	2			ライティング演習	1			
		エクスターンシップ	2 前期	2			プレゼンテーション 演習	1				
		メディアと知的財産権	2	1			展示演習	1				
						キャリア演習	1					
専攻導入科目						○	4専攻の研究概論、 初級演習	各1	4単位 以上 (※2)			
学部選択科目												

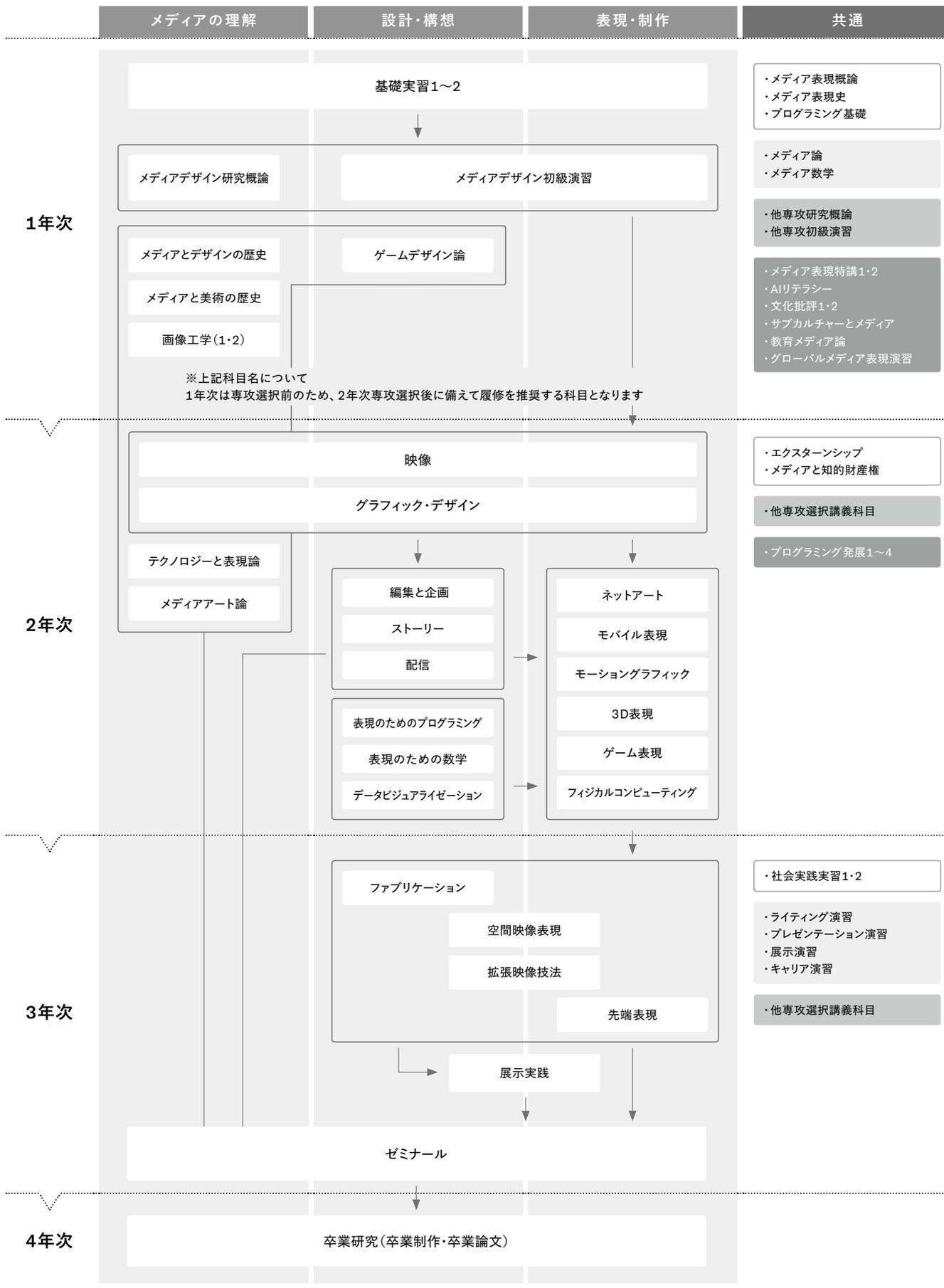
- (※1) 日本語以外を外国語として学ぶものは、「英語1・2」の4単位を修得すること。
日本語を外国語として学ぶものは、「日本語1・2」の4単位を修得すること。
- (※2) 選択必修科目の要件を超えて単位修得した場合は、超過単位を同一科目区分の選択科目単位とみなす。
- (※3) 以下の履修指定科目における修得単位は、全学共通教育選択科目単位に含む。
1年次:「大学入門」「キャリア1」「情報と倫理」
3年次:「キャリア3」
- (※4) 「横断科目」の修得単位数は、8単位を上限に卒業要件単位数に含む。

進級要件

- 〈1年次から2年次／○印〉
○学部専門1年次必修科目(「基礎実習1」「基礎実習2」合計2科目4単位)をすべて修得していること。
○専攻導入科目から4単位以上を修得していること。
○1年次終了時点で総修得単位数が20単位以上に達していること(卒業要件に含まない資格課程等の単位を除く)。
- 〈2年次から3年次／◎印〉
◎学部専門2年次必修科目(「2年次実習1」「2年次実習2」合計2科目8単位)をすべて修得していること。
◎基盤科目1年次必修科目(「メディア表現概論」「メディア表現史」「プログラミング基礎」合計3科目計6単位)をすべて修得していること。
◎2年次終了時点で総修得単位数が50単位以上に達していること(卒業要件に含まない資格課程等の単位を除く)。
- 〈3年次から4年次／●印〉
●学部専門3年次必修科目(「3年次実習1」「3年次実習2」「社会実践実習1」「社会実践実習2」合計4科目12単位)をすべて修得していること。



メディア表現学部 メディア表現学科 メディアデザイン専攻 **カリキュラムマップ**



	リサーチ	企画・制作	社会接続	共通
1年次	基礎実習1~2			<ul style="list-style-type: none"> ・メディア表現概論 ・メディア表現史 ・プログラミング基礎
	メディアコミュニケーション初級演習			<ul style="list-style-type: none"> ・メディア論 ・メディア数学
	メディアコミュニケーション研究概論			<ul style="list-style-type: none"> ・他専攻研究概論 ・他専攻初級演習
	<p>コンテンツ分析 (1・2) コンテンツを批判的に分析する力を身につける</p> <p>社会課題 現代の社会課題を理解し、それらへのメディア・コンテンツでのアプローチを考える</p>	<p>広告メディア論 ソーシャルメディア論 広告やソーシャルメディアに関する基本的な知識や枠組みを学ぶ</p>	<p>メディア産業論 (1・2・3) コンテンツ産業論 (1・2) メディア/コンテンツ業界の産業構造、ビジネスの仕組みを知る</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・メディア表現特講1・2 ・AIリテラシー ・文化批評1・2 ・サブカルチャーとメディア ・教育メディア論 ・グローバルメディア表現演習
<p>※上記科目名について 1年次は専攻選択前のため、2年次専攻選択後に備えて履修を推奨する科目となります</p>				
2年次	応用実習1~2 リサーチ、企画・制作、外部への提案までの一連の流れを実践的に学ぶ			<ul style="list-style-type: none"> ・エクスターンシップ ・メディアと知的財産権
	<p>アンケート調査 インタビュー調査 ビッグデータ分析 企画を行うための情報収集とその分析、企画のコアやインサイト発見のための手法を学ぶ</p>	<p>マーケティングブランディング 企画を行う際の戦略や戦術の基本的な枠組みを学ぶ</p> <p>広告制作 広報制作 番組制作 イベント制作 プロモーション制作 様々な企画のアウトプットの制作を実践的に学ぶ</p>	<p>ビジネススキル (1・2) プレゼンテーションやファシリテーションについて実践的に学ぶ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・他専攻選択講義科目 ・プログラミング発展1~4
3年次	ゼミナール			<ul style="list-style-type: none"> ・社会実践実習1・2 ・ライティング演習 ・プレゼンテーション演習 ・展示演習 ・キャリア演習
				<ul style="list-style-type: none"> ・他専攻選択講義科目
4年次	卒業研究 (卒業制作・卒業論文)			

	構想	デザイン	表現	共通
1年次	基礎実習1~2			<ul style="list-style-type: none"> ・メディア表現概論 ・メディア表現史 ・プログラミング基礎
	音楽メディア研究概論／初級演習			<ul style="list-style-type: none"> ・メディア論 ・メディア数学
	音楽理論	音響技術論		<ul style="list-style-type: none"> ・他専攻研究概論 ・他専攻初級演習
	サウンドスケープ論			<ul style="list-style-type: none"> ・メディア表現特講1・2 ・AIリテラシー ・文化批評1・2 ・サブカルチャーとメディア ・教育メディア論 ・グローバルメディア表現演習
	※上記科目名について 1年次は専攻選択前のため、2年次専攻選択後に備えて履修を推奨する科目となります			
2年次	音響理論	音楽分析	ソルフェージュ	<ul style="list-style-type: none"> ・エクスターンシップ ・メディアと知的財産権
	比較音楽論	スタジオレコーディング	リズム合奏	<ul style="list-style-type: none"> ・他専攻選択講義科目
	音響合成論	フィールドレコーディング	作曲法	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラミング発展1~4
	生成音楽論	PA	ミキシング	
	文献購読	ゲームサウンド		
		効果音		
3年次		サウンドプログラミング	トラックメイキング	<ul style="list-style-type: none"> ・社会実践実習1・2
		MA	編曲	<ul style="list-style-type: none"> ・ライティング演習 ・プレゼンテーション演習 ・展示演習 ・キャリア演習
				<ul style="list-style-type: none"> ・他専攻選択講義科目
4年次	ゼミナール			
	卒業研究(卒業制作・卒業論文)			

メディア表現学部 メディア表現学科 メディアイノベーション専攻
 「プログラミングやIoT技術を習得して自らサービスを作り出すことを目指す学生。
 広い視野を持ち、国内・世界規模の社会課題を解決する意思のある学生」

科目区分	1年次			2年次			3年次			4年次			修得単位数		
	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	小計	合計	
全学共通教育科目	導入プログラム	大学入門	履修指定	1									1		
	表現科目	オフィスソフトスキル入門	選択	2										3	
		スポーツ実習1	選択	1											
	グローバル科目	英語1	選必	2	English discussion	選択	2	English communication Advanced 1	選択	2					14
		英語2	選必	2	Effective presentation	選択	2	English communication Advanced 2	選択	2					
					グローバル・ヒストリー	選択	2								
	リベラルアーツ科目	アカデミックスキル1	必修	2	情報科学	選択	2	人類と人工知能	選択	2					11
		アカデミックスキル2	必修	2											
		情報と倫理	履修指定	1											
		データサイエンス	選択	2											
社会実践力育成プログラム													0		
キャリア科目	キャリア1	履修指定	1	職業研究	選択	2	キャリア3	履修指定	1					7	
				ポートフォリオ基礎実習	選択	1									
				クリエイティブの現場	選択	2									
横断科目													0		
実習科目	基礎実習1	必修	2	2年次実習1	必修	4	3年次実習1	必修	4	卒業研究実習1	必修	4		36	
	基礎実習2	必修	2	2年次実習2	必修	4	3年次実習2	必修	4	卒業研究実習2	必修	4			
							社会実践実習1	必修	2	卒業研究	必修	4			
							社会実践実習2	必修	2						
基盤科目	メディア表現概論	必修	2	エクスターンシップ	必修	2	プレゼンテーション演習	選必	1					16	
	メディア表現史	必修	2	メディアと知的財産権	必修	1	展示演習	選必	1						
	プログラミング基礎	必修	2				キャリア演習	選必	1						
	メディア論	選必	2												
専攻導入科目	メディア数学	選必	2												
	メディアイノベーション研究概論	選必	1											4	
	メディアイノベーション研究演習	選必	1												
	メディアコミュニケーション研究概論	選必	1												
学部専門教育科目	メディア分析1	選択	1	メディアイノベーション技法1 (UIデザイン1)	選択	1	メディアイノベーション技法5 (IoT基礎1)	選択	1	教育メディア論	選択	1		32	
	メディア分析2	選択	1	メディアイノベーション技法2 (UIデザイン2)	選択	1	メディアイノベーション技法6 (IoT基礎2)	選択	1						
	メディア技術論1	選択	1	メディアイノベーション技法3 (サーバサイド基礎)	選択	1	メディアイノベーション技法7 (Webサービス企画)	選択	1						
	メディア技術論2	選択	1	メディアイノベーション技法4 (サーバサイド応用)	選択	1	メディアイノベーション技法8 (Webサービス開発)	選択	1						
	AIリテラシー	選択	1	メディアサービス戦略1	選択	1	ビジネスプロデュース論	選択	1						
				メディアサービス戦略2	選択	1	プログラミング発展2 (ノードベースコーディング)	選択	1						
				メディアビジネス論1	選択	1	プログラミング発展4 (クリエイティブコーディング)	選択	1						
				メディアビジネス論2	選択	1	データビジュアライゼーション論	選択	1						
				グローバルコンテンツ研究	選択	1	生成音楽論	選択	1						
				ビジネスモデル論(グローバル)	選択	1	グローバルメディア表現演習	選択	1						
				グローバルUI/UXデザイン論	選択	1	メディアとデザインの歴史	選択	1						
				メディアイノベーション演習1 (グローバルエンジニアリング)	選択	1	視覚表現技術論2 (グラフィック)	選択	1						
				プログラミング発展1 (Webテクノロジー)	選択	1									
				プログラミング発展3 (データ解析)	選択	1									

メディア表現学部 メディア表現学科 メディアデザイン表現専攻
 「映像を使った新しい表現を探求したい学生」

科目区分	1年次			2年次			3年次			4年次			修得単位数	
	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	小計	合計
全学共通教育科目	導入プログラム	大学入門	履修指定	1									1	
	表現科目	美術史	選択	2	美学	選択	2							6
		芸術学	選択	2										
	グローバル科目	英語1	選必	2	English discussion	選択	2							8
		英語2	選必	2	English presentation	選択	2							
	リベラルアーツ科目	アカデミックスキル1	必修	2	心理学	選択	2	情報科学	選択	2				13
		アカデミックスキル2	必修	2	健康学	選択	2	データサイエンス	選択	2				
情報と倫理		履修指定	1											
キャリア科目	キャリア1	履修指定	1	クリエイティブの現場	選択	2	キャリア3	履修指定	1				6	
	新時代のキャリア	選択	1	ポートフォリオ専門実習	選択	1								
横断科目							芸術と社会	選択	2				2	
学部専門教育科目	実習科目	基礎実習1	必修	2	2年次実習1	必修	4	3年次実習1	必修	4	卒業研究実習1	必修	4	36
		基礎実習2	必修	2	2年次実習2	必修	4	3年次実習2	必修	4	卒業研究実習2	必修	4	
								社会実践実習1	必修	2	卒業研究	必修	4	
	基盤科目	メディア表現概論	必修	2	エクスターンシップ	必修	2	ライティング演習	選必	1				15
		メディア表現史	必修	2	メディアと知的財産権	必修	1	プレゼンテーション演習	選必	1				
		プログラミング基礎	必修	2				展示演習	選必	1				
		メディア論	選必	2				キャリア演習	選必	1				
	専攻導入科目	メディアイノベーション研究概論	選必	1										4
		メディアイノベーション初級演習	選必	1										
		メディアデザイン研究概論	選必	1										
		メディアデザイン研究演習	選必	1										
	学部選択科目	メディアとデザインの歴史	選択	1	視覚表現技術論1(映像)	選択	1	データビジュアライゼーション論	選択	1	音響工学2	選択	1	33
		メディアと美術の歴史	選択	1	視覚表現技術論2(グラフィック)	選択	1	メディアデザイン技法7(拡張映像技法)	選択	1	コンテンツ分析1	選択	1	
		画像工学1	選択	1	メディアと社会	選択	1	メディアデザイン技法8(先端表現)	選択	1	文化批評1	選択	1	
		画像工学2	選択	1	メディアと美学	選択	1	メディアデザイン演習3(ネットアート)	選択	1				
ゲームデザイン論		選択	1	メディア・アート論	選択	1	サブカルチャーとメディア	選択	1					
				テクノロジーと表現論	選択	1	ソーシャルメディア論	選択	1					
				メディアデザイン演習1(編集と構成)	選択	1	社会課題論	選択	1					
				メディアデザイン演習5(表現のためのプログラミング)	選択	1	サウンドスケープ論	選択	1					
				メディアデザイン演習7(モバイル表現)	選択	1	メディアデザイン技法5(空間映像表現)	選択	1					
				メディアデザイン技法2(3D表現)	選択	1	音響工学1	選択	1					
				メディアデザイン技法3(ゲーム表現)	選択	1	メディアデザイン技法6(ファブリケーション)	選択	1					
			メディアデザイン演習4(フィジカルコンピューティング)	選択	1	メディアデザイン演習6(表現のための数学)	選択	1						
			プログラミング発展2	選択	1									

メディア表現学部 メディア表現学科 メディアコミュニケーション専攻

「地域活性につながるような音楽に関係したイベントやプロジェクトを企画・運営することを通じて、社会課題解決を目指す学生」

科目区分	1年次			2年次			3年次			4年次			修得単位数	
	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	小計	合計
全学共通教育科目	導入プログラム	大学入門	履修指定	1									1	
	表現科目	オフィスソフトスキル入門	選必	2	グラフィックデザインソフトスキル	選必	1							4
		スポーツ実習1	選必	1										
	グローバル科目	英語1	選必	2	文化人類学	選択	2							8
		英語2	選必	2										
		グローバルヒストリー	選択	2										
	リベラルアーツ科目	アカデミックスキル1	必修	2	人類と人工知能	選択	2							13
		アカデミックスキル2	必修	2	サステナビリティと社会	選択	2							
		情報と倫理	履修指定	1										
		社会学	選択	2										
社会実践力育成プログラム				社会連携PBLプログラム1		2						2		
キャリア科目	キャリア1	履修指定	1	クリエイティブの現場	選択	2	キャリア3	履修指定	1				8	
	ソーシャルスキルトレーニング	選択	1	仕事体験2	選択	1	職業研究	選択	2					
横断科目													0	
学部専門教育科目	実習科目	基礎実習1	必修	2	2年次実習1	必修	4	3年次実習1	必修	4	卒業研究実習1	必修	4	36
		基礎実習2	必修	2	2年次実習2	必修	4	3年次実習2	必修	4	卒業研究実習2	必修	4	
	基盤科目	メディア表現概論	必修	2	エクスターンシップ	必修	2	ライティング演習	選必	1				13
		メディア表現史	必修	2	メディアと知的財産権	必修	1	プレゼンテーション演習	選必	1				
		プログラミング基礎	必修	2	メディア論	選必	2							
	専攻導入科目	メディアコミュニケーション研究概論	選必	1										4
		メディアコミュニケーション初級演習	選必	1										
		音楽メディア研究概論	選必	1										
		音楽メディア初級演習	選必	1										
	学部選択科目	コンテンツ産業論1	選択	1	コンテンツ分析2	選択	1	メディアコミュニケーション技法5(プロモーション制作)	選択	1				35
		コンテンツ産業論2	選択	1	ソーシャルメディア論	選択	1	メディアコミュニケーション技法6(広報制作)	選択	1				
		コンテンツ分析1	選択	1	社会課題論	選択	1	メディアコミュニケーション技法8((イベント制作)	選択	1				
					マーケティング論	選択	1	テクノロジーと表現論	選択	1				
				ブランディング論	選択	1	メディアデザイン演習7(モバイル表現)	選択	1					
				メディアコミュニケーション技法2(アンケート調査)	選択	1	メディア技術論1	選択	1					
				メディアコミュニケーション技法3(インタビュー調査)	選択	1	メディア技術論2	選択	1					
				メディア表現特講1	選択	1	ビジネスプロデュース論	選択	1					
				メディア表現特講2	選択	1	生成音楽論	選択	1					
				メディアコミュニケーション演習3(社会課題)	選択	1	プログラミング発展3	選択	1					
				メディアコミュニケーション演習4(異文化理解)	選択	1	広告メディア論	選択	1					
				音響工学1	選択	1	メディアミックス論	選択	1					
				サウンドスケープ論	選択	1	メディアコミュニケーション演習1(ビジネススキル1)	選択	1					
							メディアコミュニケーション演習2(ビジネススキル2)	選択	1					
							メディアコミュニケーション技法5(広告制作)	選択	1					
							メディアコミュニケーション技法7(番組制作)	選択	1					
						グローバルメディア表現演習	選択	1						
						文化批評1	選択	1						
						文化批評2	選択	1						

メディア表現学部 メディア表現学科 音楽表現専攻
 「ゲームや映像のサウンドデザインを修得したい学生」

科目区分	1年次			2年次			3年次			4年次			修得単位数		
	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	小計	合計	
全学共通教育科目	導入プログラム	大学入門	履修指定	1									1		
	表現科目	身体表現論	選択	2										4	
		芸術学	選択	2											
	グローバル科目	英語1	選択必修	2	English discussion	選択	2	グローバルヒストリー	選択	2				10	
		英語2	選択必修	2	English presentation	選択	2								
	リベラルアーツ科目	アカデミックスキル1	必修	2	心理学	選択	2	情報科学	選択	2				13	
		アカデミックスキル2	必修	2	健康学	選択	2	データサイエンス	選択	2					
情報と倫理		履修指定	1												
キャリア科目	キャリア1	履修指定	1	クリエイティブの現場	選択	2	キャリア3	履修指定	1				6		
	新時代のキャリア	選択	1	ポートフォリオ専門実習	選択	1									
横断科目							芸術と社会	選択	2				2		
学部専門教育科目	実習科目	基礎実習1	必修	2	2年次実習1	必修	4	3年次実習1	必修	4	卒業研究実習1	必修	4	36	124
		基礎実習2	必修	2	2年次実習2	必修	4	3年次実習2	必修	4	卒業研究実習2	必修	4		
								社会実践実習1	必修	2	卒業研究	必修	4		
	基盤科目	メディア表現概論	必修	2	エクスターンシップ	必修	2	ライティング演習	選択必修	1				15	
		メディア表現史	必修	2	メディアと知的財産権	必修	1	プレゼンテーション演習	選択必修	1					
		プログラミング基礎	必修	2				展示演習	選択必修	1					
		メディア論	選択必修	2				キャリア演習	選択必修	1					
	専攻導入科目	音楽メディア研究概論	選択必修	1										4	
		音楽メディア研究演習	選択必修	1											
		メディアデザイン研究概論	選択必修	1											
		メディアデザイン研究演習	選択必修	1											
	学部選択科目	メディアとデザインの歴史	選択	1	比較音楽論	選択	1	音楽メディア技法5 (トラックメイキング)	選択	1	データビジュアルライゼーション論	選択	1	33	
		ポピュラー音楽論	選択	1	音響工学1	選択	1	音楽メディア技法6 (音楽プログラミング)	選択	1	テクノロジーと表現論	選択	1		
		音響技術論1	選択	1	音響工学2	選択	1	音楽メディア技法7 (実践的な編曲の指導)	選択	1					
		音響技術論2	選択	1	音楽分析1	選択	1	音楽メディア技法8 (MA)	選択	1					
音楽理論1		選択	1	音楽分析2	選択	1	サブカルチャーとメディア	選択	1						
音楽理論2		選択	1	グローバルコンテンツ研究	選択	1	ソーシャルメディア論	選択	1						
メディア分析1		選択	1	音楽メディア演習2 (ゲームサウンド)	選択	1	社会課題論	選択	1						
				音楽メディア技法1 (リズム合奏)	選択	1	サウンドスケープ論	選択	1						
				メディアアート論	選択	1	ゲームデザイン論	選択	1						
				音楽メディア技法3 (効果音)	選択	1	生成音楽論	選択	1						
			音楽メディア技法4 (ミキシング)	選択	1	音響合成論	選択	1							
			作曲法1	選択	1										
			作曲法2	選択	1										

メディア表現学部 専門教育科目 科目一覧

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修/選択	授業形態	単位数	履修年次	ディプロマ・ポリシーとの相関				
							DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5
							知識と理解	創造的思考と考察	技術と表現	視点と協働	社会への関心と行動
実習科目	TmcZ1001	基礎実習1	必修	実習	2	1		●		●	
	TmcZ1002	基礎実習2	必修	実習	2	1		●		●	
	TmcZ2011	2年次実習1	必修	実習	4	2		●		●	
	TmcZ2012	2年次実習2	必修	実習	4	2		●		●	
	TmcZ3021	3年次実習1	必修	実習	4	3		●	●	●	
	TmcZ3022	3年次実習2	必修	実習	4	3		●	●	●	
	TmcZ3031	社会実践実習1	必修	実習	2	3		●		●	●
	TmcZ3032	社会実践実習2	必修	実習	2	3		●		●	●
	TmcZ4041	卒業研究実習1	必修	実習	4	4		●		●	●
	TmcZ4042	卒業研究実習2	必修	実習	4	4		●		●	●
研究業	TmcZ4081	卒業研究	必修	成果評定	4	4	●	●	●		
基盤科目	TmcZ1101	メディア表現概論	必修	講義	2	1	●				
	TmcZ1111	メディア表現史	必修	講義	2	1	●				
	TmcZ1121	プログラミング基礎	必修	演習	2	1	●		●		
	TmcZ2131	エクスターンシップ	必修	実習	2	2		●		●	●
	TmcZ2141	メディアと知的財産権	必修	講義	1	2	●				●
	TmcZ1151	メディア論	選択必修	講義	2	1・2・3・4	●				
	TmcZ1161	メディア数学	選択必修	講義	2	1・2・3・4	●				
	TmcZ3171	ライティング演習	選択必修	演習	1	3・4		●	●		●
	TmcZ3181	プレゼンテーション演習	選択必修	演習	1	3・4		●	●		●
	TmcZ3191	展示演習	選択必修	演習	1	3・4		●	●		●
	TmcZ3201	キャリア演習	選択必修	演習	1	3・4		●	●		●
専攻導入科目	TmcZ1301	メディアイノベーション研究概論	選択必修	講義	1	1・2・3・4	●				●
	TmcZ1311	メディアイノベーション初級演習	選択必修	演習	1	1・2・3・4	●		●		
	TmcZ1321	メディアデザイン研究概論	選択必修	講義	1	1・2・3・4	●				●
	TmcZ1331	メディアデザイン初級演習	選択必修	演習	1	1・2・3・4	●		●		
	TmcZ1341	メディアコミュニケーション研究概論	選択必修	講義	1	1・2・3・4	●				●
	TmcZ1351	メディアコミュニケーション初級演習	選択必修	演習	1	1・2・3・4	●		●		
	TmcZ1361	音楽メディア研究概論	選択必修	講義	1	1・2・3・4	●				●
	TmcZ1371	音楽メディア初級演習	選択必修	演習	1	1・2・3・4	●		●		

メディア表現学部 専門教育科目 科目一覧

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修／選択	授業形態	単位数	履修年次	ディプロマ・ポリシーとの相関				
							DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5
							知識と理解	創造的思考と考察	技術と表現	視点と協働	社会への関心と行動
学部選択科目	TmcZ1401	メディア分析1	選択	講義	1	1・2・3・4	●	●			
	TmcZ1402	メディア分析2	選択	講義	1	1・2・3・4	●	●			
	TmcZ1411	メディア技術論1	選択	講義	1	1・2・3・4	●	●			
	TmcZ1412	メディア技術論2	選択	講義	1	1・2・3・4	●	●			
	TmcZ2421	メディアサービスストラテジー1	選択	講義	1	2・3・4	●	●			
	TmcZ2422	メディアサービスストラテジー2	選択	講義	1	2・3・4	●	●			
	TmcZ2431	メディアビジネス論1	選択	講義	1	2・3・4	●	●			
	TmcZ2432	メディアビジネス論2	選択	講義	1	2・3・4	●	●			
	TmcZ2441	ビジネスプロデュース論	選択	講義	1	2・3・4	●	●			
	TmcZ2451	グローバルコンテンツ研究	選択	講義	1	2・3・4	●	●			
	TmcZ2461	ビジネスモデル論	選択	講義	1	2・3・4	●	●			
	TmcZ2471	グローバルUI/UXデザイン論	選択	講義	1	2・3・4	●	●			
	TmcZ2481	メディアイノベーション演習1	選択	演習	1	2・3・4			●	●	
	TmcZ3482	メディアイノベーション演習2	選択	演習	1	3・4			●	●	
	TmcZ3483	メディアイノベーション演習3	選択	演習	1	3・4			●	●	
	TmcZ3484	メディアイノベーション演習4	選択	演習	1	3・4			●	●	
	TmcZ3485	メディアイノベーション演習5	選択	演習	1	3・4			●	●	
	TmcZ2491	メディアイノベーション技法1	選択	実習	1	2・3・4			●	●	
	TmcZ2492	メディアイノベーション技法2	選択	実習	1	2・3・4			●	●	
	TmcZ2493	メディアイノベーション技法3	選択	実習	1	2・3・4			●	●	
	TmcZ2494	メディアイノベーション技法4	選択	実習	1	2・3・4			●	●	
	TmcZ3495	メディアイノベーション技法5	選択	実習	1	3・4			●	●	
	TmcZ3496	メディアイノベーション技法6	選択	実習	1	3・4			●	●	
	TmcZ3497	メディアイノベーション技法7	選択	実習	1	3・4			●	●	
	TmcZ3498	メディアイノベーション技法8	選択	実習	1	3・4			●	●	
	TmcZ1501	メディアとデザインの歴史	選択	講義	1	1・2・3・4	●	●			
	TmcZ1511	メディアと美術の歴史	選択	講義	1	1・2・3・4	●	●			
	TmcZ1521	画像工学1	選択	講義	1	1・2・3・4	●	●			
	TmcZ1522	画像工学2	選択	講義	1	1・2・3・4	●	●			
	TmcZ1531	ゲームデザイン論	選択	講義	1	1・2・3・4	●	●			
	TmcZ2541	メディアアート論	選択	講義	1	2・3・4	●	●			
	TmcZ2551	メディアと社会	選択	講義	1	2・3・4	●	●			
	TmcZ2561	メディアと美学	選択	講義	1	2・3・4	●	●			
	TmcZ2571	視覚表現技術論1	選択	講義	1	2・3・4	●	●			
	TmcZ2572	視覚表現技術論2	選択	講義	1	2・3・4	●	●			
	TmcZ2581	データビジュアライゼーション論	選択	講義	1	2・3・4	●	●			
	TmcZ2591	テクノロジーと表現論	選択	講義	1	2・3・4	●	●			
	TmcZ2601	メディアデザイン演習1	選択	演習	1	2・3・4			●	●	
	TmcZ2602	メディアデザイン演習2	選択	演習	1	2・3・4			●	●	

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修/選択	授業形態	単位数	履修年次	ディプロマ・ポリシーとの相関				
							DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5
							知識と理解	創造的思考と考察	技術と表現	視点と協働	社会への関心と行動
学部選択科目	TmcZ2603	メディアデザイン演習3	選択	演習	1	2・3・4			●	●	
	TmcZ2604	メディアデザイン演習4	選択	演習	1	2・3・4			●	●	
	TmcZ2605	メディアデザイン演習5	選択	演習	1	2・3・4			●	●	
	TmcZ2606	メディアデザイン演習6	選択	演習	1	2・3・4			●	●	
	TmcZ2607	メディアデザイン演習7	選択	演習	1	2・3・4			●	●	
	TmcZ2611	メディアデザイン技法1	選択	実習	1	2・3・4			●	●	
	TmcZ2612	メディアデザイン技法2	選択	実習	1	2・3・4			●	●	
	TmcZ2613	メディアデザイン技法3	選択	実習	1	2・3・4			●	●	
	TmcZ2614	メディアデザイン技法4	選択	実習	1	2・3・4			●	●	
	TmcZ3615	メディアデザイン技法5	選択	実習	1	3・4			●	●	
	TmcZ3616	メディアデザイン技法6	選択	実習	1	3・4			●	●	
	TmcZ3617	メディアデザイン技法7	選択	実習	1	3・4			●	●	
	TmcZ3618	メディアデザイン技法8	選択	実習	1	3・4			●	●	
	TmcZ1621	メディア産業論1	選択	講義	1	1・2・3・4	●	●			
	TmcZ1622	メディア産業論2	選択	講義	1	1・2・3・4	●	●			
	TmcZ1623	メディア産業論3	選択	講義	1	1・2・3・4	●	●			
	CcrZ1111	コンテンツ産業論1	選択	講義	1	1・2・3・4	●	●			
	CcrZ1112	コンテンツ産業論2	選択	講義	1	1・2・3・4	●	●			
	TmcZ1641	コンテンツ分析1	選択	講義	1	1・2・3・4	●	●			
	TmcZ1642	コンテンツ分析2	選択	講義	1	1・2・3・4	●	●			
	TmcZ2651	広告メディア論	選択	講義	1	2・3・4	●	●			
	TmcZ2661	ソーシャルメディア論	選択	講義	1	2・3・4	●	●			
	TmcZ2671	メディアミックス論	選択	講義	1	2・3・4	●	●			
	TmcZ2681	社会課題論	選択	講義	1	2・3・4	●	●			
	TmcZ2691	マーケティング論	選択	講義	1	2・3・4	●	●			
	TmcZ2701	ブランディング論	選択	講義	1	2・3・4	●	●			
	TmcZ2711	メディアコミュニケーション演習1	選択	演習	1	2・3・4			●	●	
	TmcZ2712	メディアコミュニケーション演習2	選択	演習	1	2・3・4			●	●	
	TmcZ2713	メディアコミュニケーション演習3	選択	演習	1	2・3・4			●	●	
	TmcZ2714	メディアコミュニケーション演習4	選択	演習	1	2・3・4			●	●	
	TmcZ2721	メディアコミュニケーション技法1	選択	実習	1	2・3・4			●	●	
	TmcZ2722	メディアコミュニケーション技法2	選択	実習	1	2・3・4			●	●	
	TmcZ2723	メディアコミュニケーション技法3	選択	実習	1	2・3・4			●	●	
	TmcZ2724	メディアコミュニケーション技法4	選択	実習	1	2・3・4			●	●	
	TmcZ3725	メディアコミュニケーション技法5	選択	実習	1	3・4			●	●	
	TmcZ3726	メディアコミュニケーション技法6	選択	実習	1	3・4			●	●	
	TmcZ3727	メディアコミュニケーション技法7	選択	実習	1	3・4			●	●	
	TmcZ3728	メディアコミュニケーション技法8	選択	実習	1	3・4			●	●	
	TmcZ1731	音楽理論1	選択	講義	1	1・2・3・4	●	●			

メディア表現学部 専門教育科目 科目一覧

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修／選択	授業形態	単位数	履修年次	ディプロマ・ポリシーとの相関				
							DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5
							知識と理解	創造的思考と考察	技術と表現	視点と協働	社会への関心と行動
学部選択科目	TmcZ1732	音楽理論2	選択	講義	1	1・2・3・4	●	●			
	TmcZ1741	音響技術論1	選択	講義	1	1・2・3・4	●	●			
	TmcZ1742	音響技術論2	選択	講義	1	1・2・3・4	●	●			
	TmcZ1751	サウンドスケープ論	選択	講義	1	1・2・3・4	●	●			
	TmcZ1761	ポピュラー音楽論	選択	講義	1	1・2・3・4	●	●			
	TmcZ2771	比較音楽論	選択	講義	1	2・3・4	●	●			
	TmcZ2781	音響工学1	選択	講義	1	2・3・4	●	●			
	TmcZ2782	音響工学2	選択	講義	1	2・3・4	●	●			
	TmcZ2791	音楽分析1	選択	講義	1	2・3・4	●	●			
	TmcZ2792	音楽分析2	選択	講義	1	2・3・4	●	●			
	TmcZ2801	作曲法1	選択	講義	1	2・3・4	●	●			
	TmcZ2802	作曲法2	選択	講義	1	2・3・4	●	●			
	TmcZ2811	音響合成論	選択	講義	1	2・3・4	●	●			
	TmcZ2821	生成音楽論	選択	講義	1	2・3・4	●	●			
	TmcZ2831	音楽メディア演習1	選択	演習	1	2・3・4			●	●	
	TmcZ2832	音楽メディア演習2	選択	演習	1	2・3・4			●	●	
	TmcZ2841	音楽メディア技法1	選択	実習	1	2・3・4			●	●	
	TmcZ2842	音楽メディア技法2	選択	実習	1	2・3・4			●	●	
	TmcZ2843	音楽メディア技法3	選択	実習	1	2・3・4			●	●	
	TmcZ2844	音楽メディア技法4	選択	実習	1	2・3・4			●	●	
	TmcZ3845	音楽メディア技法5	選択	実習	1	3・4			●	●	
	TmcZ3846	音楽メディア技法6	選択	実習	1	3・4			●	●	
	TmcZ3847	音楽メディア技法7	選択	実習	1	3・4			●	●	
	TmcZ3848	音楽メディア技法8	選択	実習	1	3・4			●	●	
	TmcZ1851	メディア表現特講1	選択	講義	1	1・2・3・4	●	●			●
	TmcZ1852	メディア表現特講2	選択	講義	1	1・2・3・4	●	●			●
	TmcZ1861	AIリテラシー	選択	講義	1	1・2・3・4	●	●			●
	TmcZ1871	文化批評1	選択	講義	1	1・2・3・4	●	●			●
	TmcZ1872	文化批評2	選択	講義	1	1・2・3・4	●	●			●
	TmcZ1881	サブカルチャーとメディア	選択	講義	1	1・2・3・4	●	●			
	TmcZ1891	教育メディア論	選択	講義	1	1・2・3・4	●	●			
	TmcZ1901	グローバルメディア表現演習	選択	演習	1	1・2・3・4			●	●	
	TmcZ2911	プログラミング発展1	選択	演習	1	2・3・4			●	●	
	TmcZ2912	プログラミング発展2	選択	演習	1	2・3・4			●	●	
	TmcZ2913	プログラミング発展3	選択	演習	1	2・3・4			●	●	
	TmcZ2914	プログラミング発展4	選択	演習	1	2・3・4			●	●	

ポリシーとカリキュラム構造

● 教育研究目的

芸術学部の教育研究目的は、自立した思考力によって新たな表現を創造するアーティストの資質を備えた、より良き社会人として生きる人間の育成です。多様な芸術表現の在り方を共有し、専門性の探求と領域横断的な交流により、主体的かつ創造的な価値を社会に対して提案できる力を養います。卒業時に身につけるべき要素を以下の5つとし、卒業要件を満たせばこれらを修得したものと認め、学位を授与します。

● 学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)

DP1	芸術と文化の多様性に関する基本的な知識と理解がある。	知識と理解 knowledge & understanding
DP2	領域と技法を超えた多角的な視点から対象の本質をとらえ、自ら問題点を見つけ創造的に取り組むことができる。	創造的思考と考察 creative thinking & observation
DP3	芸術領域の専門知識と制作技能、および他者の心に訴え行動を喚起する造形力を身につけている。	技術と表現 skills & expression
DP4	多様な他者との違いを認め、協働して課題解決に取り組むことができる。	他者理解と協働 mutual understanding & collaboration
DP5	より良い社会を創る意欲を持ち、学びを応用して社会への問題提起に自らの表現で取り組むことができる。	社会への関心と行動 interests & action

● 教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

芸術学部は、学位授与の方針を達成するために、全学共通教育科目、学部専門教育科目を体系的に編成し、講義、演習、実習等を適切に組み合わせた授業を開講します。また、科目のナンバリングおよびカリキュラム・マップにより、カリキュラムの体系を明示します。

教育内容、教育方法、学修成果の評価について以下のように定めます。

1. 教育内容

学部専門教育科目では、1年次には造形表現に必要な表現の多様性を学び、各分野の基礎知識を幅広く身につける科目を開講します。2年次は各自の専門分野に重要なアートシーンに触れるとともに、専門的な知識・技法・考察能力を身につける科目を開講します。3年次は専門を深化させると共に、創造的表現能力、総合的判断能力、実践的コミュニケーション力を領域横断的に養う科目を開講します。最終年次には、探究を自律的に計画・遂行し、公共的・学術的に表現する技法と作法を養います。

2. 教育方法

学生の主体性を伸ばすため、能動的学修の視点を取り入れた教育方法を実施します。

授業内・外の学修時間を考慮した授業内容を設計します。

学修成果の可視化を通じて、学生の自律的な学修を支援します。

3. 学修成果の評価

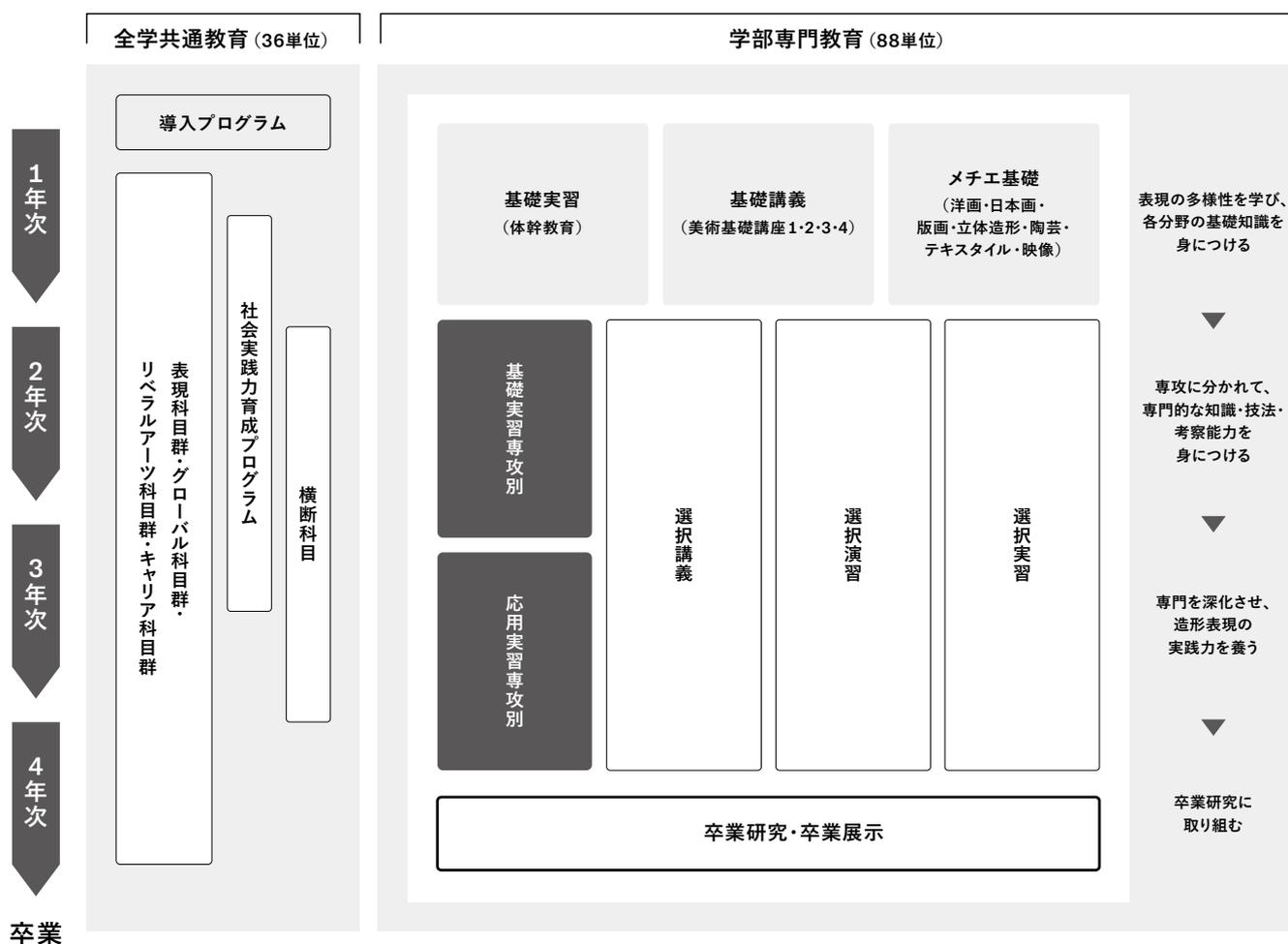
芸術学部では、学位授与の方針に掲げる能力・資質およびこれらの総合的な活用力の修得状況を、「進級時」「卒業時」の2つのレベルで把握し、評価します。各レベルの評価の実施方法は、以下のとおりとします。

(1) 進級時

進級時の学修成果は、学部所定の教育課程における進級要件達成状況により、総合的評価を行います。

(2) 卒業時

4年間の学修成果は、学部所定の教育課程における卒業要件達成状況により、総合的評価を行います。卒業論文・制作(必修)は、評価ルーブリックを活用し、複数教員によって多面的評価を行います。



造形学科

洋画専攻／日本画専攻／版画専攻／立体造形専攻／
陶芸専攻／テキスタイル専攻／映像専攻

芸術学部 造形学科 卒業要件

科目区分	必修科目					選択必修科目				選択科目	卒業に要する 単位(計)		
	進級 要件	科目名称	履修年次	単 位 数	小計	進級 要件	科目名称	単 位 数	小計	小計			
全学共通教育科目		導入プログラム									36 単位 以上		
		表現科目											
		グローバル科目					指定語学科目 (※1)	各2	4単位(※2)				
		リベラルアーツ科目	アカデミックスキル1	1	前期	2							
			アカデミックスキル2	1	後期	2							
		社会実践力育成プログラム											
		キャリア科目											
	横断科目												
学部専門教育科目	基礎実習科目	○	芸術基礎実習1	1	前期	6	60 単位				88 単位 以上		
		○	芸術基礎実習2	1	後期	6							
	基盤実習科目	◎	芸術造形実習1	2	1Q	4.5							
		◎	芸術造形実習2	2	2Q	4.5							
		◎	芸術造形実習3	2	3Q	4.5							
		◎	芸術造形実習4	2	4Q	4.5							
		●	芸術応用実習1	3	1Q	4.5							
		●	芸術応用実習2	3	2Q	4.5							
		●	芸術応用実習3	3	3Q	4.5							
	卒業研究科目		卒業研究1	4	1Q	2							
			卒業研究2	4	2Q	2							
			卒業研究3	4	3Q	2							
			卒業研究4	4	4Q	2							
			卒業研究発表	4	4Q	4							
	基盤講義科目	○	美術基礎講座1	1	1Q	1		4 単位					
		○	美術基礎講座2	1	2Q	1							
		○	美術基礎講座3	1	3Q	1							
○		美術基礎講座4	1	4Q	1								
学部選択科目													

- (※1) 日本語以外を外国語として学ぶものは、「英語1・2」の4単位を修得すること。
日本語を外国語として学ぶものは、「日本語1・2」の4単位を修得すること。
- (※2) 選択必修科目の要件を超えて単位修得した場合は、超過単位を同一科目区分の選択科目単位とみなす。
- (※3) 以下の履修指定科目における修得単位は、全学共通教育選択科目単位に含む。
1年次:「大学入門」「キャリア1」「情報と倫理」
3年次:「キャリア3」
- (※4) 「横断科目」の修得単位数は、8単位を上限に卒業要件単位数に含む。

進級要件

- 〈1年次から2年次／○印〉
○学部専門1年次必修科目16単位をすべて修得していること。
(「芸術基礎実習1」「芸術基礎実習2」「美術基礎講座1」「美術基礎講座2」「美術基礎講座3」「美術基礎講座4」合計6科目 16単位)
- 〈2年次から3年次／◎印〉
◎学部専門2年次必修科目の以下18単位をすべて修得していること。
(「芸術造形実習1」「芸術造形実習2」「芸術造形実習3」「芸術造形実習4」合計4科目 18単位)
- 〈3年次から4年次／●印〉
●学部専門3年次必修科目の以下18単位をすべて修得していること。
(「芸術応用実習1」「芸術応用実習2」「芸術応用実習3」「芸術応用実習4」合計4科目 18単位)

	必修実習	選択実習 (選択スキル)	必修基礎講義	選択講義
<p>1年次</p> <p>造形表現を学ぶための基礎的な能力を鍛える「基礎講義科目」と「体幹教育」、多様な技術や表現手段を体験する「基礎演習(メチエ基礎)」により、「基礎・体験・道標」を軸に表現することの「おもしろさ」と基礎となる能力を養う。</p>	<p>体幹</p> <ul style="list-style-type: none"> ・芸術基礎実習1 ・芸術基礎実習2 	<p>メチエ (選択基礎実習)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専攻基礎実習1 ・専攻基礎実習2 ・専攻基礎実習3 ・専攻基礎実習4 <p>選択演習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美術解剖学 <p>選択実習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・芸術社会実践実習1 ・芸術社会実践実習2 ・芸術社会実践実習3 ・芸術社会実践実習4 ・工芸1 ・工芸2 ・表現研究1 ・表現研究2 ・表現研究3 ・図法製図 	<ul style="list-style-type: none"> ・美術基礎講座1 ・美術基礎講座2 ・美術基礎講座3 ・美術基礎講座4 	<ul style="list-style-type: none"> ・美術概論1 ・美術史概論1 ・美術史概論2 ・美術史概論2 ・美術史特論1 ・美術史特論2 ・美術史特論3 ・美術史特論4 ・美術史特論5 ・美術工芸史1 ・美術工芸史2 ・美術工芸史3 ・視覚認知論
<p>2年次</p> <p>1年次で身に付けた能力を基礎に、7つの領域(専攻)の中から自身が興味・関心ある専攻を選択。専門教育への基礎的な導入実践によってメチエ、表現力、思考力を磨く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・芸術造形実習1 ・芸術造形実習2 ・芸術造形実習3 ・芸術造形実習4 	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会システム論 ・美術リテラシー1 ・美術リテラシー2 ・美術特講1 ・アートマネジメント論 		
<p>3年次</p> <p>2年次に引き続き、所属する専攻の専門教育をさらに実践する。技術力、表現力、思考力を深めるとともに創造力と社会への発信力を養い、自身の専門性、造形表現における方向性を確認していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・芸術応用実習1 ・芸術応用実習2 ・芸術応用実習3 ・芸術応用実習4 	<ul style="list-style-type: none"> ・美術概論2 ・美術特講2 		
<p>4年次</p> <p>3年間の学びで培った能力をさらに先鋭化させる。研究を集大成としての卒業研究に開花させていくながら、自身を社会へと繋げていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業研究1 ・卒業研究2 ・卒業研究3 ・卒業研究4 ・卒業研究発表 			



芸術学部 造形学科

「教養と実践力を備えたアーティストを目指す学生」

科目区分	1年次			2年次			3年次			4年次			修得単位数	
	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数		合計
全学共通教育科目	導入プログラム	大学入門	履修指定	1										1
	表現科目				グラフィックデザインソフトスキル	選択	1	オフィスソフトスキル入門	選択	2				4
						写真技法	選択	1						
	グローバル科目		英語1/日本語1	選択必修	2	海外文化研修プログラム	選択	2						
			英語2/日本語2	選択必修	2	和の伝統文化論	選択	2						
						グローバルヒストリー	選択	2						
						京都の伝統工芸講座1	選択	2						
	リベラルアーツ科目		アカデミックスキル1	必修	2						人類と人工知能	選択	2	
			アカデミックスキル2	必修	2									
			情報と倫理	履修指定	1									
社会実践力育成プログラム					京都の伝統工芸講座1	選択	1	京都の伝統産業実習	選択	2				
					京都の伝統工芸講座2	選択	1							
キャリア科目	キャリア1	履修指定	1				キャリア3	履修指定	1	クリエイティブの現場	選択	2	4	
横断科目					デザイン概論1	選択	1			社会芸術論	選択	2	4	
					マンガ概論1	選択	1							
学部専門教育科目	基礎実習科目・ 応用実習科目・ 卒業実習科目	芸術基礎実習1	必修	6	芸術造形実習1	必修	4.5	芸術応用実習1	必修	4.5	卒業研究1	必修	2	60
		芸術基礎実習2	必修	6	芸術造形実習2	必修	4.5	芸術応用実習2	必修	4.5	卒業研究2	必修	2	
					芸術造形実習3	必修	4.5	芸術応用実習3	必修	4.5	卒業研究3	必修	2	
					芸術造形実習4	必修	4.5	芸術応用実習4	必修	4.5	卒業研究4	必修	2	
	芸術学部 基盤科目	美術基礎講座1	必修	1										4
		美術基礎講座2	必修	1										
		美術基礎講座3	必修	1										
		美術基礎講座4	必修	1										
	芸術学部 共通科目	専攻基礎実習1	選択	2	美術史特論1(洋画史)	選択	1	美術特講1	選択	1	現代社会システム論	選択	1	24
		専攻基礎実習2	選択	2	美術工芸史3(文様史)	選択	1	美術特講2	選択	1	視覚認知論	選択	1	
		専攻基礎実習3	選択	2	美術史特論3(彫刻史)	選択	1	表現研究2	選択	2	アートマネジメント論	選択	1	
		専攻基礎実習4	選択	2				美術リテラシー1	選択	2				
		美術概論1	選択	1				美術リテラシー2	選択	1				
		美術史概論1	選択	1				美術概論2	選択	1				
		美術史概論2	選択	1										

芸術学部 専門教育科目 科目一覧

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修／選択	授業形態	単位数	履修年次	ディプロマ・ポリシーとの相関				
							DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5
							知識と理解	創造的思考と考察	技術と表現	視点と協働	社会への関心と行動
基盤講義科目	AfaZ1001	美術基礎講座1	必修	講義	1	1	●	●			
	AfaZ1002	美術基礎講座2	必修	講義	1	1	●	●			
	AfaZ1003	美術基礎講座3	必修	講義	1	1	●	●			
	AfaZ1004	美術基礎講座4	必修	講義	1	1	●	●			
基盤実習科目	AfaZ1011	芸術基礎実習1	必修	実習	6	1		●		●	●
	AfaZ1012	芸術基礎実習2	必修	実習	6	1		●		●	●
基盤実習科目	AfaZ2021	芸術造形実習1	必修	実習	4.5	2		●	●		
	AfaZ2022	芸術造形実習2	必修	実習	4.5	2			●	●	●
	AfaZ2023	芸術造形実習3	必修	実習	4.5	2		●	●		
	AfaZ2024	芸術造形実習4	必修	実習	4.5	2			●	●	●
	AfaZ3031	芸術応用実習1	必修	実習	4.5	3		●	●		
	AfaZ3032	芸術応用実習2	必修	実習	4.5	3			●	●	●
	AfaZ3033	芸術応用実習3	必修	実習	4.5	3		●	●		
	AfaZ3034	芸術応用実習4	必修	実習	4.5	3			●	●	●
卒業研究科目	AfaZ4101	卒業研究1	必修	実習	2	4		●	●		●
	AfaZ4102	卒業研究2	必修	実習	2	4			●	●	●
	AfaZ4103	卒業研究3	必修	実習	2	4		●	●		●
	AfaZ4104	卒業研究4	必修	実習	2	4			●	●	●
	AfaZ4111	卒業研究発表	必修	成果評定	4	4			●	●	●

芸術学部 専門教育科目 科目一覧

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修／選択	授業形態	単位数	履修年次	ディプロマ・ポリシーとの相関				
							DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5
							知識と理解	創造的思考と考察	技術と表現	視点と協働	社会への関心と行動
学部選択科目	AfaZ1201	専攻基礎実習1	選択	実習	2	1・2・3・4		●	●		
	AfaZ1202	専攻基礎実習2	選択	実習	2	1・2・3・4		●	●		
	AfaZ1203	専攻基礎実習3	選択	実習	2	1・2・3・4		●	●		
	AfaZ1204	専攻基礎実習4	選択	実習	2	1・2・3・4		●	●		
	AfaZ1211	芸術社会実践実習1	選択	実習	1	1・2・3・4		●		●	●
	AfaZ1212	芸術社会実践実習2	選択	実習	1	1・2・3・4		●		●	●
	AfaZ1213	芸術社会実践実習3	選択	実習	1	1・2・3・4		●		●	●
	AfaZ1214	芸術社会実践実習4	選択	実習	1	1・2・3・4		●		●	●
	AfaZ2221	工芸1	選択	実習	2	2・3・4		●	●		
	AfaZ2222	工芸2	選択	実習	2	2・3・4		●	●		
	AfaZ1231	美術解剖学	選択	演習	2	1・2・3・4	●		●		
	AfaZ1241	表現研究1	選択	実習	2	1・2・3・4		●	●		
	AfaZ2242	表現研究2	選択	実習	2	2・3・4		●		●	●
	AfaZ2243	表現研究3	選択	実習	2	2・3・4		●		●	●
	AfaZ2251	図法製図	選択	実習	2	2・3・4	●		●		
	AfaZ1261	美術概論1	選択	講義	1	1・2・3・4	●				
	AfaZ1262	美術概論2	選択	講義	1	1・2・3・4	●				
	AfaZ1271	美術史概論1	選択	講義	1	1・2・3・4	●				
	AfaZ1272	美術史概論2	選択	講義	1	1・2・3・4	●				
	AfaZ1281	美術史特論1	選択	講義	1	1・2・3・4	●				
	AfaZ1282	美術史特論2	選択	講義	1	1・2・3・4	●				
	AfaZ1283	美術史特論3	選択	講義	1	1・2・3・4	●				
	AfaZ1284	美術史特論4	選択	講義	1	1・2・3・4	●				
	AfaZ1285	美術史特論5	選択	講義	1	1・2・3・4	●				
	AfaZ1291	美術工芸史1	選択	講義	1	1・2・3・4	●				
	AfaZ1292	美術工芸史2	選択	講義	1	1・2・3・4	●				
	AfaZ1293	美術工芸史3	選択	講義	1	1・2・3・4	●				
	AfaZ2301	現代社会システム論	選択	講義	1	2・3・4	●				
	AfaZ2311	美術リテラシー1	選択	講義	1	2・3・4	●				
	AfaZ2312	美術リテラシー2	選択	講義	1	2・3・4	●				
	AfaZ1321	視覚認知論	選択	講義	1	1・2・3・4	●				
	AfaZ1331	美術特講1	選択	講義	1	1・2・3・4	●				
	AfaZ3332	美術特講2	選択	講義	1	3・4	●				
	AfaZ2341	アートマネジメント論	選択	講義	1	2・3・4	●				

ポリシーとカリキュラム構造

● 教育研究目的

デザイン学部の教育研究目的は、デザインによって論理的思考と感性を同時にバランス良く表現できる人間の育成です。モノやコト、社会やコミュニケーションなどデザインの領域が広がっている現代社会において、時代に即した新しい価値を創造する力を養います。卒業時に身につけているべき要素を以下の5つとし、卒業要件を満たせばこれらを身につけたものと認め、学位を授与します。

● 学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)

DP1	デザインに関する基本的な知識と理解がある。	知識と理解 knowledge & understanding
DP2	デザインシンキングを用いて様々な課題を見つけ出し、それらをデザインによって解決することができる。	創造的思考と考察 creative thinking & observation
DP3	他者に了解可能なデザインを表現する技術を身につけている。	技術と表現 skills & expression
DP4	多様な他者との違いを認め、協働して課題解決に取り組むことができる。	他者理解と協働 mutual understanding & collaboration
DP5	より良い社会を創る意欲を持ち、学びを応用して社会の課題解決に自ら取り組むことができる。	社会への関心と行動 interests & action

● 教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

デザイン学部は、学位授与の方針を達成するために、全学共通教育科目、学部専門教育科目を体系的に編成し、講義、演習、実習等を適切に組み合わせた授業を開講します。また、科目のナンバリングおよびカリキュラム・マップにより、カリキュラムの体系を明示します。

教育内容、教育方法、学修成果の評価について以下のように定めます。

1. 教育内容

学部専門科目では、作品を制作するための理論的根拠となる、デザイン領域に関する専門的な理論と歴史などを学ぶことのできる専門講義科目を開講します。さらに、各学科の実技実習および実技演習において、基礎技術を獲得させるとともに、新たな表現手法に対する探究心を喚起し、社会から必要とされるデザインを生み出す力を養います。最終年次には、卒業制作を課します。調査・研究・分析および作品制作・卒業論文作業を通じ、社会に向けた発信力を養います。

2. 教育方法

学生の主体性を伸ばすため、能動的学修の視点を取り入れた教育方法を実施します。

授業内・外の学修時間を考慮した授業内容を設計します。

学修成果の可視化を通じて、学生の自律的な学修を支援します。

3. 学修成果の評価

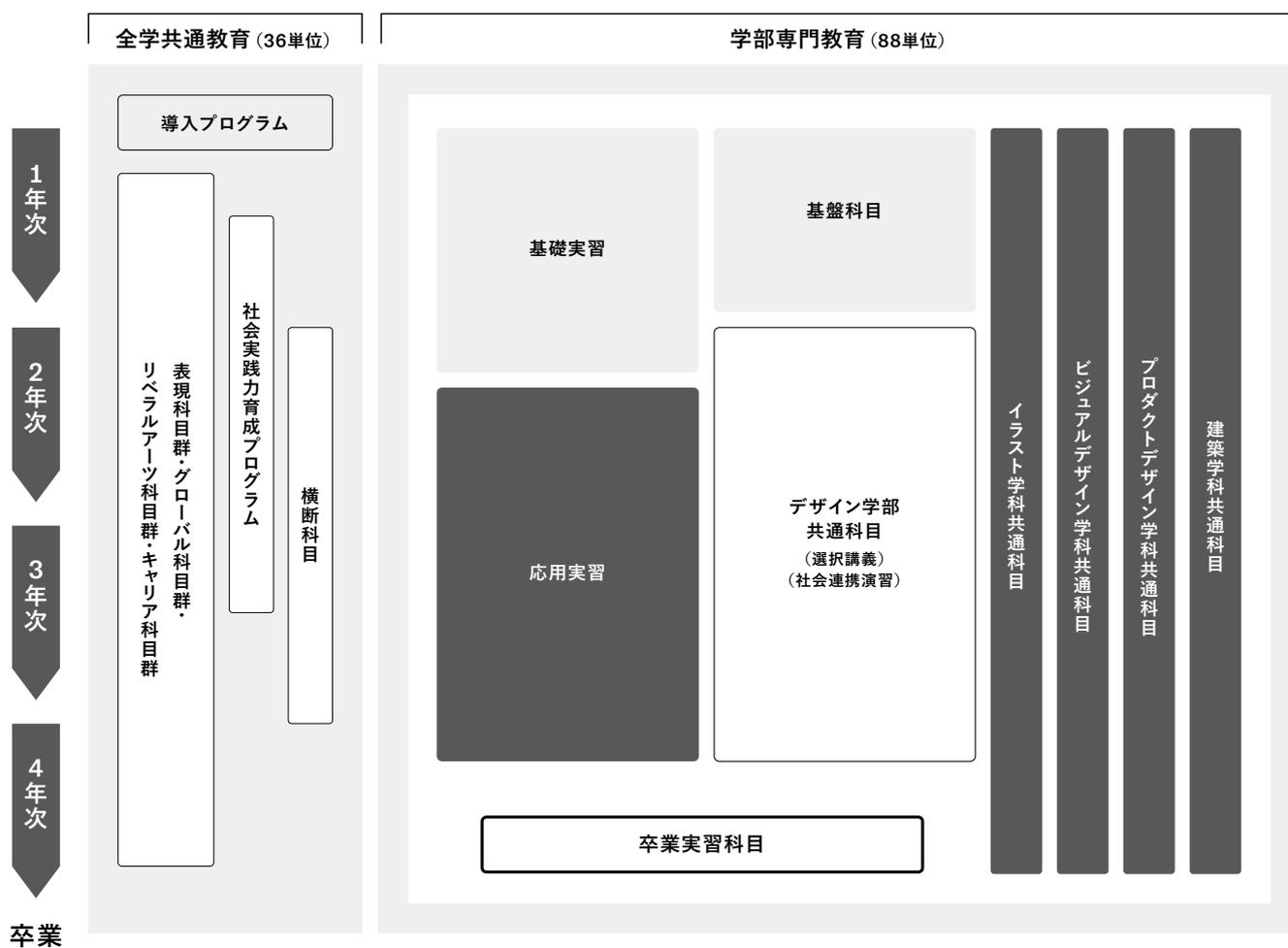
デザイン学部では、学位授与の方針に掲げる能力・資質およびこれらの総合的な活用力の修得状況を、「進級時」「卒業時」の2つのレベルで把握し、評価します。各レベルの評価の実施方法は、以下のとおりとします。

(1) 進級時

進級時の学修成果は、学部所定の教育課程における進級要件達成状況（単位取得、GPA）により、総合的評価を行います。

(2) 卒業時

4年間の学修成果は、学部所定の教育課程における卒業要件達成状況（単位取得、GPA）により、総合的評価を行います。卒業制作（必修）は、評価ルーブリックを活用し、複数教員によって多面的評価を行います。



デザイン学部 ビジュアルデザイン学科 卒業要件

科目区分	必修科目					選択必修科目				選択科目	卒業に要する 単位(計)	
	進級 要件	科目名称	履修年次	単位 数	小計	進級 要件	科目名称	単位 数	小計	小計		
全学共通教育科目	導入プログラム										28単位 以上 (※3※4)	36 単位 以上
	表現科目											
	グローバル科目						指定語学 科目(※1)	各2	4単位 (※2)			
	リベラルアーツ科目		アカデミックスキル1	1 前期	2	4単位						
			アカデミックスキル2	1 後期	2							
	社会実践力育成プログラム											
	キャリア科目											
横断科目												
学部専門教育科目	専門実習・演習科目	○ ビジュアルデザイン基礎実習1	1 前期	6	16単位						88 単位 以上	124 単位 以上
		○ ビジュアルデザイン技法1	1 前期	2								
		○ ビジュアルデザイン基礎実習2	1 後期	6	16単位							
		○ ビジュアルデザイン技法2	1 後期	2								
		◎ ビジュアルデザイン応用実習1	2 前期	6	12単位							
		◎ ビジュアルデザイン技法3	2 前期	2								
		◎ ビジュアルデザイン応用実習2	2 後期	6	12単位							
		◎ ビジュアルデザイン技法4	2 後期	2								
		● ビジュアルデザインプロジェクト実習1	3 前期	6	4単位							
		● ビジュアルデザインプロジェクト実習2	3 後期	6								
			ビジュアルデザイン表現研究	4 前期	4	4単位						
			ビジュアルデザインテーマ研究	4 後期	4							
			卒業制作・論文	4 後期	4							
	デザイン学部基盤科目		デザイン概論1	1 1Q	1	4単位						
		デザイン概論2	1 2Q	1								
		デザイン史1	1 3Q	1								
		デザイン史2	1 4Q	1								

- (※1) 日本語以外を外国語として学ぶものは、「英語1・2」の4単位を修得すること。
日本語を外国語として学ぶものは、「日本語1・2」の4単位を修得すること。
- (※2) 選択必修科目の要件を超えて単位修得した場合は、超過単位を同一科目区分の選択科目単位とみなす。
- (※3) 以下の履修指定科目における修得単位は、全学共通教育選択科目単位に含む。
1年次:「大学入門」「キャリア1」「情報と倫理」
3年次:「キャリア3」
- (※4) 「横断科目」の修得単位数は、8単位を上限に卒業要件単位数に含む。

進級要件

- 〈1年次から2年次／○印〉
○デザイン学部専門実習・演習科目の1年次必修科目16単位をすべて修得していること。
(「ビジュアルデザイン基礎実習1,2」「ビジュアルデザイン技法1,2」合計4科目 16単位)
- 〈2年次から3年次／◎印〉
◎デザイン学部専門実習・演習科目の必修科目12単位をすべて修得していること。
(「ビジュアルデザイン応用実習1,2」「ビジュアルデザイン技法3,4」合計4科目 16単位)
- 〈3年次から4年次／●印〉
●デザイン学部専門実習・演習科目の必修科目12単位をすべて修得していること。
(「ビジュアルデザインプロジェクト実習1,2」合計2科目 12単位)

デザイン学部 ビジュアルデザイン学科 カリキュラムマップ

教育目標

- 人の感性をダイレクトに刺激するビジュアルデザインの原理を学びつつ、多様な表現に対応できるよう、多彩な技法、スキルを設置し、学生の個性を根本とした社会に通じるビジュアルクリエイターを育成する。
- 1年生前期は、グラフィックデザインコースとデジタルクリエイションコース共通のビジュアルデザインの基礎授業をリレー形式で学ぶ。
- 1年生後期から2年生まで各コースに分かれ、各コースの基礎授業、応用授業、専門技法を学ぶ。
- 3年生は2年間で学んだ専門知識や技術をもとに、2コース合同による複数ある実践的なプロジェクトを各自が選ぶ。
- 4年生前期は個々の表現に磨きをかけ、後期は社会的なテーマを研究し、卒業制作作品を制作する。

		必修実習科目	必修技法科目	選択スキル科目	学部共通講義科目
1年次	合同	基礎実習1 色彩、ドローイング、文字 ロゴアイデア、コミュニケーション キャラクター、アニメーション	技法1 Photoshop Illustrator	スキル1~4 デッサン 写真スタジオ アトリエ工房 コンセプトアート	デザイン概論1/2 デザイン史1/2
	基礎 コース別	基礎実習2 グラフィックデザイン基礎 デジタルクリエイション基礎	技法2 グラフィックデザイン技法 DTP デジタルクリエイション基礎 3DCG、映像		
2年次	合同	応用実習1/2 グラフィックデザイン応用 画像、文字、アイデア デジタルクリエイション応用 3DCG、映像、ゲーム	技法3/4 グラフィックデザイン技法 DTP、WEB デジタルクリエイション技法 3DCG、映像、プログラミング	スキル5~8 書字 AIデザイン イラスト モーショングラフィック エンタメグラフィック プログラム	・家具史 ・製品材料学 ・プロダクト デザイン論 ・情報デザイン論 ・デザイン法規 ・色彩論 ・写真論 ・ビジュアルデザイン アート批評 ・イラストレーション 論1 ・イラストレーション 論2
	応用 コース別				・ファッション史 ・ファッション論 ・サステナブル デザイン論 ・近代建築論 ・CG史 ・グローバル デザイン論1 ・グローバル デザイン論2 ・グローバル デザイン論3 ・社会連携演習1 ・社会連携演習2 ・インテリア デザイン論1 ・インテリア デザイン論2
3年次	合同	プロジェクト実習1/2 広告、文字、模様 ビジュアルプロダクト 企画、映像、ゲーム、自然など		スキル9~12 DTP、ことば コンセプトアート 映像、グラフィック 3DCG エディトリアル 写真、WEB、コピー	・インテリア デザイン論1 ・インテリア デザイン論2 ・人間工学1 ・人間工学2 ・まちづくり デザイン論1 ・まちづくり デザイン論2 ・ランドスケープ デザイン論1 ・ランドスケープ デザイン論2
	応用				
4年次	合同	卒業制作 表現研究 テーマ研究 卒業制作・論文		スキル13~14 ポートフォリオ キャリア	
	卒業制作				

デザイン学部 ビジュアルデザイン学科 グラフィックデザインコース

「技能だけでなく知識にも秀でたグラフィックデザイナーを目指す学生」

科目区分	1年次			2年次			3年次			4年次			修得単位数		卒業要件
	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	小計	合計	
全学共通教育科目	導入プログラム	大学入門	履修指定	1									1		36
	表現科目	オフィスソフトスキル入門	選択	2	東洋美術史	選択	2	スポーツ実習1	選択	1				8	
					日本美術史	選択	2	スポーツ実習2	選択	1					
	グローバル科目	英語1/日本語1	選必	2										7	
		英語2/日本語2	選必	2											
	リベラルアーツ科目	アカデミックスキル1	必修	2	サステナビリティと社会	選択	2	心理学	選択	2				13	
		アカデミックスキル2	必修	2	自然科学概論	選択	2	ジェンダーと社会	選択	2					
社会実践力育成プログラム				国内ショートプログラム	選択	2							2		
キャリア科目	キャリア1	履修指定	1	キャリア2	選択	1	キャリア3	履修指定	1				4		
	ソーシャルスキルトレーニング	選択	1												
横断科目	美術基礎講座3	選択	1										1		
学部専門教育科目	デザイン学部 基盤科目	デザイン概論1	必修	1									4		
		デザイン概論2	必修	1											
		デザイン史1	必修	1											
		デザイン史2	必修	1											
	基礎実習科目	ビジュアルデザイン基礎実習1	必修	6	ビジュアルデザイン技法3	必修	2						124		
		ビジュアルデザイン技法1	必修	2	ビジュアルデザイン技法4	必修	2						20		
		ビジュアルデザイン基礎実習2	必修	6											
		ビジュアルデザイン技法2	必修	2											
	応用実習科目				ビジュアルデザイン 応用実習1	必修	6	ビジュアルデザイン プロジェクト実習1	必修	6				24	
					ビジュアルデザイン 応用実習2	必修	6	ビジュアルデザイン プロジェクト実習2	必修	6					
	卒業実習科目										ビジュアルデザイン 表現研究	必修	4	12	
											ビジュアルデザイン テーマ研究	必修	4		
											卒業制作・論文	必修	4		
学部共通科目				色彩論	選択	1	ビジュアルデザイン・ アート批評	選択	1						
専門選択科目	ビジュアルデザイン スキル1	選択	2	ビジュアルデザイン スキル5	選択	2	ビジュアルデザイン スキル9	選択	2	ビジュアルデザイン スキル15	選択	2	28		
	ビジュアルデザイン スキル2	選択	2	ビジュアルデザイン スキル6	選択	2	ビジュアルデザイン スキル10	選択	2	ビジュアルデザイン スキル16	選択	2			
	ビジュアルデザイン スキル3	選択	2	ビジュアルデザイン スキル7	選択	2	ビジュアルデザイン スキル11	選択	2						
				ビジュアルデザイン スキル8	選択	2	ビジュアルデザイン スキル13	選択	2						

デザイン学部 ビジュアルデザイン学科 履修モデル

● デザイン学部 ビジュアルデザイン学科 デジタルクリエイションコース
 「世界に通じるゲームクリエイター志望の学生」

科目区分	1年次			2年次			3年次			4年次			修得単位数		卒業要件
	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	小計	合計	
全学共通教育科目	導入プログラム	大学入門	履修指定	1									1		36
	表現科目	デッサン	選択	1	プログラミング1	選択	1	身体表現論	選択	2			7		
					プログラミング2	選択	1	西洋美術史	選択	2					
	グローバル科目	英語1/日本語1	選必	2	文化人類学	選択	2	グローバルヒストリー	選択	2			8		
		英語2/日本語2	選必	2											
	リベラルアーツ科目	アカデミックスキル1	必修	2	データサイエンス	選択	2	考古学	選択	2			13		
		アカデミックスキル2	必修	2	生物学	選択	2	人類と人工知能	選択	2					
キャリア科目	情報と倫理	履修指定	1												
		キャリア1	履修指定	1	キャリア2	選択	1	キャリア3	履修指定	1		5			
横断科目	京都の歴史	選択	2	クリエイティブの現場	選択	2						2			
学部専門教育科目	デザイン学部基盤科目	デザイン概論1	必修	1									4		
		デザイン概論2	必修	1											
		デザイン史1	必修	1											
		デザイン史2	必修	1											
	基礎実習科目	ビジュアルデザイン基礎実習1	必修	6	ビジュアルデザイン技法3	必修	2						20		
		ビジュアルデザイン技法1	必修	2	ビジュアルデザイン技法4	必修	2								
		ビジュアルデザイン基礎実習2	必修	6											
		ビジュアルデザイン技法2	必修	2											
	応用実習科目				ビジュアルデザイン応用実習1	必修	6	ビジュアルデザインプロジェクト実習1	必修	6			24		
					ビジュアルデザイン応用実習2	必修	6	ビジュアルデザインプロジェクト実習2	必修	6					
	卒業実習科目										ビジュアルデザイン表現研究	必修	4	12	
											ビジュアルデザインテーマ研究	必修	4		
										卒業制作・論文	必修	4			
学部共通科目				色彩論	選択	1	CG史	選択	1						
専門選択科目	ビジュアルデザインスキル1	選択	2	ビジュアルデザインスキル5	選択	2	ビジュアルデザインスキル9	選択	2	ビジュアルデザインスキル15	選択	2	28		
	ビジュアルデザインスキル2	選択	2	ビジュアルデザインスキル6	選択	2	ビジュアルデザインスキル10	選択	2	ビジュアルデザインスキル16	選択	2			
	ビジュアルデザインスキル3	選択	2	ビジュアルデザインスキル7	選択	2	ビジュアルデザインスキル11	選択	2						
				ビジュアルデザインスキル8	選択	2	ビジュアルデザインスキル13	選択	2						

カリキュラム

デザイン学部 ビジュアルデザイン学科 (履修モデル)

イラスト学科

デザイン学部 イラスト学科 卒業要件

科目区分	必修科目					選択必修科目					選択科目 小計	卒業に要する 単位(計)		
	進級 要件	科目名称	履修年次	単位 数	小計	進級 要件	科目名称	履修年次	単位 数	小計				
全学共通教育科目	導入プログラム											28単位 以上 (※3※4)	36 単位 以上	
	表現科目													
	グローバル科目						指定語学 科目(※1)		各2	4単位 (※2)				
	リベラルアーツ科目		アカデミックスキル1	1 前期	2	4単位								
			アカデミックスキル2	1 後期	2									
	社会実践力育成プログラム													
	キャリア科目													
横断科目														
学部専門教育科目	専門実習・演習科目	○ イラスト基礎実習1	1 前期	6	16単位	デジタル 表現	3 前期/ 後期	2	4単位					
		○ イラスト基礎実習2	1 後期	6		デジタル ドローイング	3 前期/ 後期	2						
		○ 描画1	1 前期/ 後期	2		ドローイング	3 前期/ 後期	2						
		○ PC基礎実習	1 前期/ 後期	2										
		◎ イラスト基礎実習3	2 前期	6	12単位									
		◎ イラスト基礎実習4	2 後期	6										
		● イラスト応用実習1	3 前期	6	12単位									
		● イラスト応用実習2	3 後期	6										
		イラスト卒業制作1	4 前期	4	12単位									
	イラスト卒業制作2	4 後期	4											
	卒業制作・論文	4 後期	4											
	デザイン学部基盤科目	デザイン概論1	1 1Q	1	4単位									
		デザイン概論2	1 2Q	1										
デザイン史1		1 3Q	1											
デザイン史2		1 4Q	1											

- (※1) 日本語以外を外国語として学ぶものは、「英語1・2」の4単位を修得すること。
日本語を外国語として学ぶものは、「日本語1・2」の4単位を修得すること。
- (※2) 選択必修科目の要件を超えて単位修得した場合は、超過単位を同一科目区分の選択科目単位とみなす。
- (※3) 以下の履修指定科目における修得単位は、全学共通教育選択科目単位に含む。
1年次:「大学入門」「キャリア1」「情報と倫理」
3年次:「キャリア3」
- (※4) 「横断科目」の修得単位数は、8単位を上限に卒業要件単位数に含む。

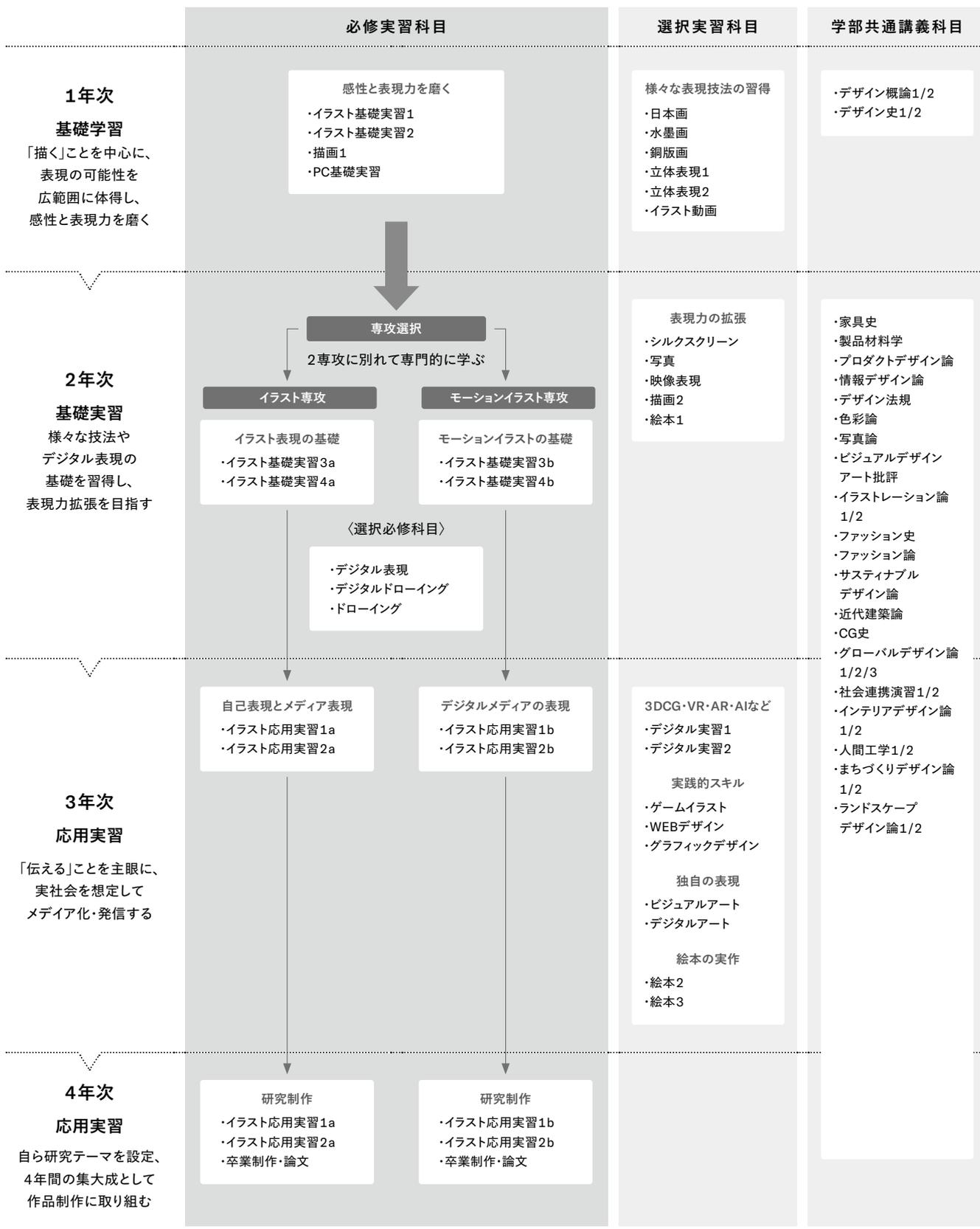
進級要件

- 〈1年次から2年次／○印〉
○デザイン学部専門実習・演習科目の1年次必修科目16単位をすべて修得していること。
〔イラスト基礎実習1,2〕〔描画1〕〔PC基礎実習〕合計4科目 16単位)
- 〈2年次から3年次／◎印〉
◎デザイン学部専門実習・演習科目の必修科目12単位をすべて修得していること。
〔イラスト基礎実習3,4〕合計2科目 12単位)
- 〈3年次から4年次／●印〉
●デザイン学部専門実習・演習科目の必修科目12単位をすべて修得していること。
〔イラスト応用実習1,2〕合計2科目 12単位)

デザイン学部 イラスト学科 カリキュラムマップ

教育目標

- 「描くこと」と「伝えること」をイラストの本質とし、様々なメディアにおけるビジュアルコミュニケーションも「描く」行為の延長と捉え、カリキュラムを配置する。
- 1年次は共通で学ぶ。「描くこと」を中心に取り組み、多様な表現技法に触れ、豊かなイメージや感性を養う。
- 2年次からは「イラスト専攻」「モーションイラスト専攻」2つの専攻に分かれて、専門的に学ぶ。
- 3、4年次では自己の表現を深めると同時に、実践的な科目を通してメディアの特性を理解し、「伝えること」を学ぶ。



デザイン学部 イラスト学科 履修モデル

● デザイン学部 イラスト学科 イラスト専攻

「表現力と知性を養い、イラストレーターや絵心を生かした職業を目指す学生」

科目区分	1年次			2年次			3年次			4年次			修得単位数		卒業要件	
	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	小計	合計		
全学共通教育科目	導入プログラム	大学入門	履修指定	1									1		36	
	表現科目				美術史	選択	2						4			
	グローバル科目	英語1/日本語1	選必	2	海外語学研修プログラム	選択	2	グローバルヒストリー	選択	2				10		
		英語2/日本語2	選必	2				文化人類学	選択	2						
	リベラルアーツ科目	アカデミックスキル1	必修	2	データサイエンス	選択	2							9		
		アカデミックスキル2	必修	2	ダイバーシティと社会	選択	2									
	社会実践力育成プログラム										社会連携PBLプログラム1	選択	2	2		
キャリア科目	キャリア1	履修指定	1	キャリア2	選択	1	キャリア3	履修指定	1	クリエイティブの現場	選択	2	7			
横断科目	メディア技術論1	選択	1				コンテンツ産業論1	選択	1	ゲームデザイン論	選択	1	3			
学部専門教育科目	デザイン学部基盤科目	デザイン概論1	必修	1									4	124	88	
		デザイン概論2	必修	1												
		デザイン史1	必修	1												
		デザイン史2	必修	1												
	基礎実習科目	イラスト基礎実習1	必修	6	イラスト基礎実習3	必修	6							32		
		イラスト基礎実習2	必修	2	イラスト基礎実習4	選必	6									
		描画1	必修	6	デジタル表現	必修	2									
		PC基礎実習	必修	2	デジタルドローイング	選必	2									
	応用実習科目						イラスト応用実習1	必修	6	イラスト応用実習2	必修	6	12			
	卒業実習科目									イラスト卒業制作1	必修	4	12			
										イラスト卒業制作2	必修	4				
										卒業制作・論文	必修	4				
学部共通科目				サステナブルデザイン論	選択	1	グローバルデザイン論1	選択	1				28			
				イラストレーション論1	選択	1	グローバルデザイン論2	選択	1							
				イラストレーション論2	選択	1	グローバルデザイン論3	選択	1							
専門選択科目				シルクスクリーン	選択	2	ゲームイラスト	選択	2							
				イラスト動画	選択	2	描画2	選択	2	絵本2	選択	2				
				銅版画	選択	2	絵本1	選択	2	グラフィックデザイン	選択	2				
							絵本3	選択	2							

デザイン学部 イラスト学科 モーションイラスト専攻

「表現力とデジタル技術力を身体感覚で備え表現できる、モーションイラストクリエイターを目指す学生」

科目区分	1年次			2年次			3年次			4年次			修得単位数		卒業要件	
	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	小計	合計		
全学共通教育科目	導入プログラム	大学入門	履修指定	1									1		36	
	表現科目				美術史	選択	2						4			
	グローバル科目	英語1/日本語1	選必修	2	海外語学研修プログラム	選択	2	グローバルヒストリー	選択	2			10			
	リベラル アーツ科目	アカデミックスキル1	必修	2	データサイエンス	選択	2						9			
		アカデミックスキル2	必修	2	ダイバーシティと社会	選択	2									
	社会実践力 育成 プログラム	情報と倫理	履修指定	1							社会連携PBLプログラム1	選択	2	2		
	キャリア 科目	キャリア1	履修指定	1	キャリア2	選択	1	キャリア3	履修指定	1	クリエイティブの現場	選択	2	7		
	横断科目	メディア技術論1	選択	1				職業研究		2	コンテンツ産業論1	選択	1	3		
学部専門教育科目	デザイン学部 基盤科目	デザイン概論1	必修	1									4	124		
		デザイン概論2	必修	1												
		デザイン史1	必修	1												
		デザイン史2	必修	1												
	基礎実習 科目	イラスト基礎実習1	必修	6	イラスト基礎実習3	必修	6						32	88		
		イラスト基礎実習2	必修	6	イラスト基礎実習4	選必修	6									
		描画1	必修	2	デジタル表現	必修	2									
		PC基礎実習	必修	2	デジタルドローイング	選必修	2									
	応用実習科目						イラスト応用実習1	必修	6	イラスト応用実習2	必修	6	12			
	卒業実習科目										イラスト卒業制作1	必修	4	12		
											イラスト卒業制作2	必修	4			
											卒業制作・論文	必修	4			
学部共通科目				サステイナブルデザイン論	選択	1	グローバルデザイン論1	選択	1				28			
				イラストレーション論1	選択	1	グローバルデザイン論2	選択	1							
				イラストレーション論2	選択	1	グローバルデザイン論3	選択	1	社会連携演習1	選択	1				
専門選択科目	立体表現1	選択	2	写真	選択	2	WEBデザイン	選択	2				28			
	水墨画	選択	2	映像表現	選択	2	デジタル実習1	選択	2							
	イラスト動画	選択	2	描画2	選択	2	ゲームイラスト	選択	2							
							デジタル実習2	選択	2							

プロダクトデザイン学科

デザイン学部 プロダクトデザイン学科 卒業要件

科目区分	必修科目					選択必修科目					選択科目	卒業に要する 単位(計)			
	進級 要件	科目名称	履修年次	単位 数	小計	進級 要件	科目名称	履修年次	単位 数	小計	小計				
全学 共通 教育 科目	導入プログラム											28単位 以上 (※3※4)	36 単位 以上		
	表現科目														
	グローバル科目						指定語学科目(※1)		各2	4単位 (※2)					
	リベラルアーツ科目		アカデミックスキル1	1	前期	2									
			アカデミックスキル2	1	後期	2									
	社会実践力 育成プログラム														
	キャリア科目 横断科目														
学部 専門 教育 科目	○	PD基礎実習1	1	前期	3	16単位	●	PD応用実習1	3	前期	3	6単位	28単位 以上	88 単位 以上	124 単位 以上
	○	PD基礎実習2	1	前期	3		●	PD応用実習2	3	前期	3				
	○	工芸1	1	前期	2		●	PD応用実習3	3	前期	3				
	○	PD基礎実習3	1	後期	3		●	PD応用実習4	3	前期	3				
	○	PD基礎実習4	1	後期	3		●	デザイン学部応用実習1	3	前期	3				
	○	工芸2	1	後期	2		●	PD応用実習5	3	後期	3				
	◎	PD基礎実習5	2	前期	3	16単位	●	PD応用実習6	3	後期	3	6単位			
	◎	PD基礎実習6	2	前期	3		●	PD応用実習7	3	後期	3				
	◎	PD基礎実習7	2	前期	2		●	PD応用実習8	3	後期	3				
	◎	PD基礎実習8	2	後期	3		●	デザイン学部応用実習2	3	後期	3				
	◎	PD基礎実習9	2	後期	3										
	◎	PD基礎実習10	2	後期	2										
	卒業制作 テーマ研究		卒業制作テーマ研究1	4	前期	3	12単位								
			卒業制作テーマ研究2	4	前期	1									
			卒業制作研究1	4	後期	3									
			卒業制作研究2	4	後期	1									
			卒業制作・論文	4	後期	4									
デザイン学部 基礎科目		デザイン概論1	1	1Q	1	4単位									
		デザイン概論2	1	2Q	1										
		デザイン史1	1	3Q	1										
		デザイン史2	1	4Q	1										

(※1) 日本語以外を外国語として学ぶものは、「英語1・2」の4単位を修得すること。

日本語を外国語として学ぶものは、「日本語1・2」の4単位を修得すること。

(※2) 選択必修科目の要件を超えて単位修得した場合は、超過単位を同一科目区分の選択科目単位とみなす。

(※3) 以下の履修指定科目における修得単位は、全学共通教育選択科目単位に含む。

1年次:「大学入門」「キャリア1」「情報と倫理」

3年次:「キャリア3」

(※4) 「横断科目」の修得単位数は、8単位を上限に卒業要件単位数に含む。

進級要件

〈1年次から2年次／○印〉

○デザイン学部専門実習・演習科目の必修科目16単位をすべて修得していること。

(「PD基礎実習1~4」「工芸1,2」合計6科目 16単位)

〈2年次から3年次／◎印〉

◎デザイン学部専門実習・演習科目の必修科目16単位をすべて修得していること。

(「PD基礎実習5~10」合計6科目 16単位)

〈3年次から4年次／●印〉

●デザイン学部専門実習・演習科目の選択必修科目のうち12単位を修得していること。

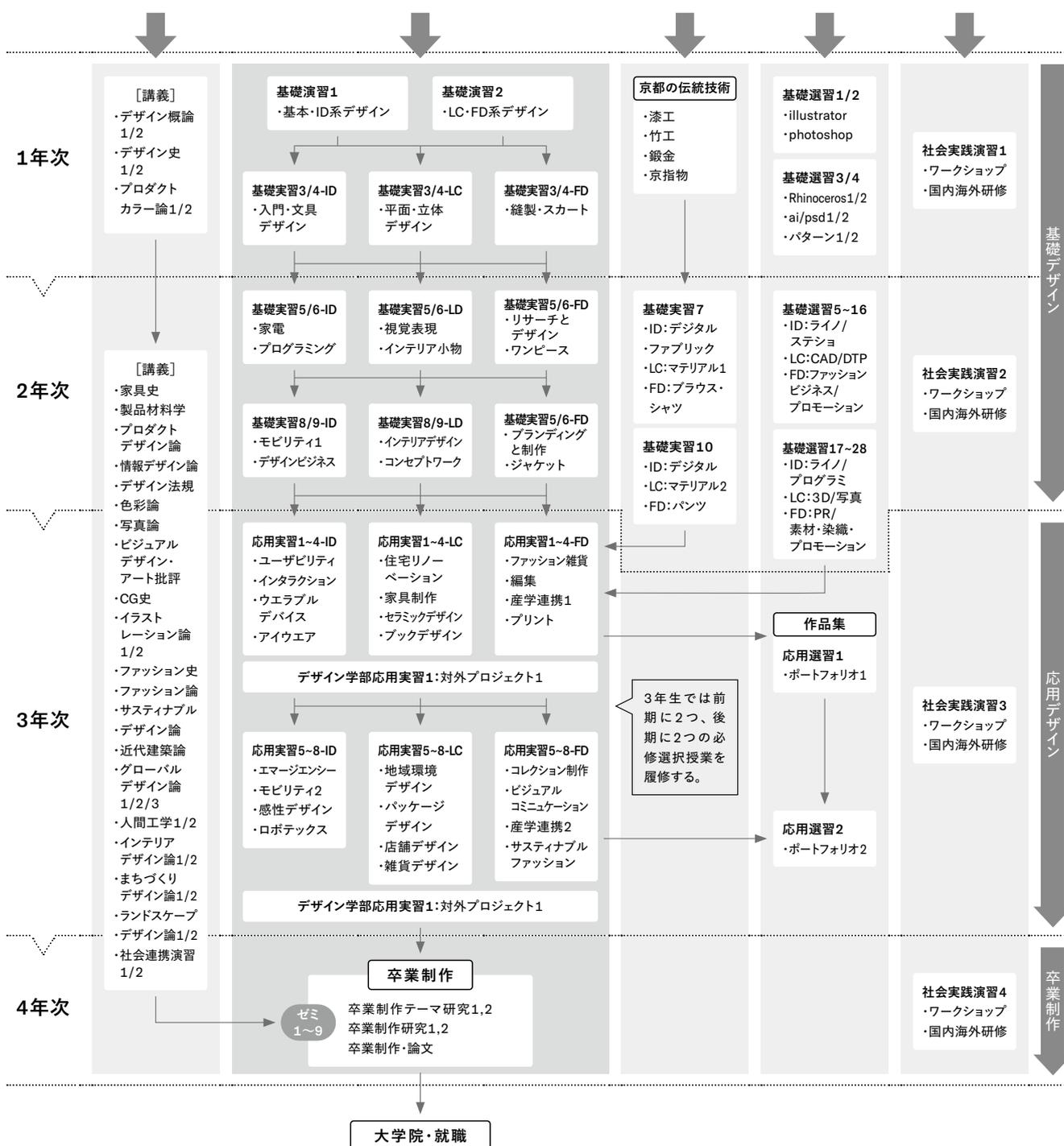
(「PD応用実習1~4」「デザイン学部応用実習1」のうち2科目6単位、「PD応用実習5~8」「デザイン学部応用実習2」のうち2科目6単位、合計4科目 12単位)

デザイン学部 プロダクトデザイン学科 カリキュラムマップ

教育目標

- 京都に立地する大学において、幅広い視野を持つ、人々の生活や社会に貢献するプロダクトデザイナーを育成する。
- 1年生前期は、「基本」、「インダストリアルデザイン系」、「ライフクリエイション系」、「ファッションデザイン系」の授業を全員が学ぶ。
- 1年生後期に、各自の希望で「インダストリアルデザイン専攻」、「ライフクリエイション専攻」、「ファッションデザイン専攻」に分かれる。
- 所属する専攻のみの授業を選択しても良いし、他専攻の授業を選択も可。希望により専攻変更も可(2年～3年次)。4年ゼミ選択も自由。

	講義系科目	デザイン系実習科目 ID専攻実習科目 LC専攻実習科目 FD専攻実習科目	素材系実習科目	技術系選択科目	社会実践演習
1年次	プロダクト	「デザインする心、考え方」を身につける	京都の伝統工芸	コンピュータ	授業時間外 (夏季・冬季)の ワークショップ 授業
2年次	デザインに必要な理論・知識を身につける	プロダクトデザインの基本と応用を身につける	各種素材の造形	パソコン、スキル	
3年次		幅広いプロダクトデザインの専門分野を理解する		ポートフォリオ	
4年次		デザインの総合力を発揮する			



デザイン学部 プロダクトデザイン学科 インダストリアルデザイン専攻
 「社会に新たな未来を創り出すインダストリアルデザイナーを目指す学生」

科目区分	1年次			2年次			3年次			4年次			修得単位数		卒業要件	
	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	小計	合計		
全学共通教育科目	導入プログラム	大学入門	履修指定	1									1		36	
	表現科目	デッサン	選択	1									1			
	グローバル科目	英語1/日本語1	選必	2	京都の伝統工芸講座1	選択	2	文化人類学	選択	2				10		
		英語2/日本語2	選必	2	京都の伝統工芸講座2	選択	2									
	リベラルアーツ科目	アカデミックスキル1	必修	2	人類と人工知能	選択	2	データサイエンス	選択	2				9		
		アカデミックスキル2	必修	2												
	社会実践力育成プログラム	情報と倫理	履修指定	1												
	キャリア科目	キャリア1	履修指定	1	社会連携PBLプログラム1	選択	2	京都の伝統産業実習	選択	2				4		
		新時代のキャリア	選択	1												
	横断科目	メディア技術論1		1	ソーシャルスキルトレーニング	選択	2	キャリア3	履修指定	1				7		
メディア技術論2			1				職業研究	選択	2				4			
学部専門教育科目	デザイン学部基盤科目	デザイン概論1	必修	1									4		88	
		デザイン概論2	必修	1												
		デザイン史1	必修	1												
		デザイン史2	必修	1												
	基礎実習科目	PD基礎実習1(基本・ID系デザイン)	必修	3	PD基礎実習5(家電)	必修	3							32		
		PD基礎実習2(LC・FD系デザイン)	必修	3	PD基礎実習6(プログラミング)	必修	3									
		工芸1(漆工・竹工・鍛金・京指物:クラス選択)	必修	2	PD基礎実習7(デジタルファブリケーション)	必修	2									
		PD基礎実習3(入門・文具デザイン課題)	必修	3	PD基礎実習8(モビリティ)	必修	3									
		PD基礎実習4(入門・文具デザイン課題)	必修	3	PD基礎実習9(デザインビジネス)	必修	3									
		工芸2(漆工・竹工・鍛金・京指物:クラス選択)	必修	2	PD基礎実習10(ユーザーインターフェイス)	必修	2									
	応用実習科目							PD応用実習3(ウェアラブルデバイス)	選必	3				12		
								PD応用実習4(アイウェア)	選必	3						
							PD応用実習5(エマージェンシー)	選必	3							
							PD応用実習7(感性デザイン)	選必	3							
卒業実習科目										卒業制作テーマ研究1(ゼミ:クラス選択)	必修	3	12			
										卒業制作テーマ研究2	必修	1				
										卒業制作研究1(ゼミ:クラス選択)	必修	3				
										卒業制作研究2	必修	1				
学科共通科目				プロダクトデザイン論	選択	1	デザイン法規	選択	1				12			
				人間工学1	選択	1	情報デザイン論	選択	1							
				人間工学2	選択	1	CG史	選択	1							
				製品材料学	選択	1	サステイナブルデザイン論	選択	1							
				家具史	選択	1	写真論	選択	1							
				社会連携演習1		2										
専門選択科目	プロダクトカラー論1	選択	1	PD基礎選習5(3D:ライノセラス3)	選択	1	PD応用選習1(ポートフォリオ1)	選択	1				28			
	プロダクトカラー論2	選択	1	PD基礎選習6(ステーションナリー1)	選択	1	PD応用選習2(ポートフォリオ2)	選択	1							
	PD基礎選習1(イラレ・フォトショ1/windows)	選択	1	PD基礎選習7(3D:ライノセラス4)	選択	1										
	PD基礎選習2(イラレ・フォトショ2/windows)	選択	1	PD基礎選習8(ステーションナリー2)	選択	1										
	PD基礎選習3(3D:ライノ1)	選択	1	PD基礎選習9(3D:ライノセラス5)	選択	1										
	PD基礎選習4(3D:ライノ2)	選択	1	PD基礎選習10(プログラミング1)	選択	1										
				PD基礎選習11(3D:ライノセラス6)	選択	1										
				PD基礎選習12(プログラミング2)	選択	1										

デザイン学部 プロダクトデザイン学科 ライフクリエイション専攻

「暮らしに豊かな楽しい日常を創りだす雑貨/インテリア/エディトリアルデザイナーを目指す学生」

科目区分	1年次			2年次			3年次			4年次			修得単位数		卒業要件
	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	小計	合計	
全学共通教育科目	導入プログラム	大学入門	履修指定	1									1		36
	表現科目				工学概論	選択	2	芸術学	選択	2			6		
	グローバル科目	英語1/日本語1	選必	2	京都の伝統工芸講座1	選択	2	文化人類学	選択	2			10		
		英語2/日本語2	選必	2	京都の伝統工芸講座2	選択	2								
	リベラルアーツ科目	アカデミックスキル1	必修	2				哲学		2			9		
		アカデミックスキル2	必修	2				サステナビリティと社会		2					
		情報と倫理	履修指定	1											
	社会実践力育成プログラム				社会連携PBLプログラム1	選択	2	京都の伝統産業実習	選択	2			4		
	キャリア科目	キャリア1	履修指定	1				キャリア3	履修指定	1			4		
								職業研究	選択	2					
横断科目	メディア技術論1	選択	1									2			
	メディア技術論2	選択	1												
学部専門教育科目	デザイン学部基礎科目	デザイン概論1	必修	1									4		
		デザイン概論2	必修	1											
		デザイン史1	必修	1											
		デザイン史2	必修	1											
	基礎実習科目	PD基礎実習1 (基本・ID系デザイン)	必修	3	PD基礎実習5 (グラフィック基礎)	必修	3						32		
		PD基礎実習2 (LC・FD系デザイン)	必修	3	PD基礎実習6 (インテリアプロダクト)	必修	3								
		工芸1(漆工・竹工・鍍金・京指物:クラス選択)	必修	2	PD基礎実習7 (マテリアル1)	必修	2								
		PD基礎実習3 (平面・立体デザイン課題)	必修	3	PD基礎実習8 (インテリアデザイン)	必修	3								
		PD基礎実習4 (平面・立体デザイン課題)	必修	3	PD基礎実習9 (コンセプトワーク)	必修	3								
		工芸2(漆工・竹工・鍍金・京指物:クラス選択)	必修	2	PD基礎実習10 (マテリアル2)	必修	2								
	応用実習科目							PD応用実習1 (住宅リノベーション)	選必	3			124		
								デ学部応用実習1 (産学連携)	選必	3			12		
							PD応用実習5 (地域環境デザイン)	選必	3						
							PD応用実習8 (雑貨デザイン)	選必	3						
卒業実習科目										卒業制作テーマ研究1 (ゼミ:クラス選択)	必修	3	12	88	
										卒業制作テーマ研究2	必修	1			
										卒業制作研究1 (ゼミ:クラス選択)	必修	3			
										卒業制作研究2	必修	1			
										卒業制作・論文	必修	4			
学科共通科目				プロダクトデザイン論	選択	1	ビジュアルデザイン・アート批評	選択	1						
				家具史	選択	1	ファッション論	選択	1						
				写真論	選択	1	製品材料学	選択	1						
				インテリアデザイン論1	選択	1	サステナブルデザイン論	選択	1						
				インテリアデザイン論2	選択	1	デザイン法規	選択	1						
				情報デザイン論	選択	1	色彩論	選択	1						
専門選択科目	プロダクトカラー論1	選択	1	PD基礎選習5(図面)	選択	1	PD応用選習1 (ポートフォリオ1)	選択	1			28			
	プロダクトカラー論2	選択	1	PD基礎選習6(DTP1)	選択	1	PD応用選習2 (ポートフォリオ2)	選択	1						
	PD基礎選習1(イラレ・フォトショ基礎1/Mac)	選択	1	PD基礎選習7(CAD)	選択	1									
	PD基礎選習2(イラレ・フォトショ基礎2/Mac)	選択	1	PD基礎選習8(DTP2)	選択	1									
	PD基礎選習3 (2D:イラレ・フォトショ1)	選択	1	PD基礎選習9 (3D:ライノセラス1)	選択	1									
	PD基礎選習4 (2D:イラレ・フォトショ2)	選択	1	PD基礎選習10(写真1)	選択	1									
				PD基礎選習11 (3D:ライノセラス2)	選択	1									
				PD基礎選習12(写真2)	選択	1									

デザイン学部 プロダクトデザイン学科 ファッションデザイン専攻

「より良い世界との幸せな接点を創りだすアパレル人材・ファッションデザイナーを目指す学生」

科目区分	1年次			2年次			3年次			4年次			修得 単位数	卒業 要件	
	科目名	必修/ 選択	単位 数	科目名	必修/ 選択	単位 数	科目名	必修/ 選択	単位 数	科目名	必修/ 選択	単位 数	合計		
全学共通教育科目	導入プログラム	大学入門	履修指定	1									1	36	
	表現科目				西洋美術史	選択	2	身体表現論	選択	2			8		
					東洋美術史		2	芸術学	選択	2					
	グローバル科目	英語1/日本語1	選必	2	京都の伝統工芸講座1	選択	2	文化人類学	選択	2			10		
		英語2/日本語2	選必	2	京都の伝統工芸講座2	選択	2								
	リベラルアーツ科目	アカデミックスキル1	必修	2				ジェンダーと社会	選択	2			9		
		アカデミックスキル2	必修	2											
社会実践力育成プログラム	情報と倫理	履修指定	1												
	サステナビリティと社会	選択	2												
キャリア科目	キャリア1	履修指定	1				キャリア3	履修指定	1			4			
							職業研究	選択	2			4			
学部専門教育科目	デザイン学部基盤科目	デザイン概論1	必修	1									4	88	
		デザイン概論2	必修	1											
		デザイン史1	必修	1											
		デザイン史2	必修	1											
	基礎実習科目	PD基礎実習1(基本・ID系デザイン)	必修	3	PD基礎実習5(立体裁断)	必修	3								32
		PD基礎実習2(LC・FD系デザイン)	必修	3	PD基礎実習6(縫製)	必修	3								
		工芸1(漆工・竹工・鍍金・京指物:クラス選択)	必修	2	PD基礎実習7(パターン3)	必修	2								
		PD基礎実習3(縫製・スカート課題)	必修	3	PD基礎実習8(立体裁断応用)	必修	3								
		PD基礎実習4(縫製・スカート課題)	必修	3	PD基礎実習9(MD展開と制作)	必修	3								
		工芸2(漆工・竹工・鍍金・京指物:クラス選択)	必修	2	PD基礎実習10(パターン4)	必修	2								
	応用実習科目							PD応用実習3(産学連携1)	選必	3					124
								PD応用実習4(プリント)	選必	3					
								PD応用実習5(コレクション制作)	選必	3					12
								PD応用実習8(サステナブルファッション)	選必	3					
	卒業実習科目										卒業制作テーマ研究1(ゼミ:クラス選択)	必修	3		12
											卒業制作テーマ研究2	必修	1		
											卒業制作研究1(ゼミ:クラス選択)	必修	3		
											卒業制作研究2	必修	1		
											卒業制作・論文	必修	4		
学科共通科目					プロダクトデザイン論	選択	1	ビジュアルデザイン・アート批評	選択	1					
					ファッション史	選択	1	デザイン法規	選択	1					
					ファッション論	選択	1	製品材料学	選択	1					
					インテリアデザイン論1	選択	1	写真論	選択	1					
					インテリアデザイン論2	選択	1	サステナブルデザイン論	選択	1					
					CG史	選択	1	色彩論	選択	1					
専門選択科目		プロダクトカラー論1	選択	1	PD基礎選習5(ファッションビジネス1)	選択	1	PD応用選習1(ポートフォリオ1)	選択	1			28		
		プロダクトカラー論2	選択	1	PD基礎選習6(プロモーション)	選択	1	PD応用選習2(ポートフォリオ2)	選択	1					
		PD基礎選習1(イラレ・フォトショ基礎1/Mac)	選択	1	PD基礎選習7(ファビジネス2)	選択	1								
		PD基礎選習2(イラレ・フォトショ基礎2/Mac)	選択	1	PD基礎選習8(VMD)	選択	1								
		PD基礎選習3(2D:イラレ・フォトショ1)	選択	1	PD基礎選習9(PR1)	選択	1								
		PD基礎選習4(2D:イラレ・フォトショ2)	選択	1	PD基礎選習10(ニット)	選択	1								
					PD基礎選習11(PR2)	選択	1								
					PD基礎選習12(染織)	選択	1								

プロダクトデザイン学科 二級建築士・木造建築士資格取得指定科目一覧

指定科目の分類	指定科目	単位数	配当年次	二級建築士・木造建築士	
建築設計製図	プロダクトデザイン応用実習1	3	3	3単位以上	
	プロダクトデザイン応用実習7	3	3		
	プロダクトデザイン基礎選習7	1	2~4		
建築計画 建築環境工学 建築設備	近代建築論	1	2~4	2単位以上	
	建築計画1	1	1~4		
	西洋建築史	2	1~4		
	住環境論	2	2~4		
	日本建築史	2	1~4		
	環境工学	2	3~4		
	近現代建築史	2	1~4		
	設備工学	2	3~4		
建築計画2	1	3~4			
構造力学 建築一般構造 建築材料	一般構造	2	1~4	3単位以上	
	建築力学	2	2~4		
	建築構造	2	2~4		
	建築構法実習	2	2~4		
	材料実験	2	3~4		
	建築材料学	2	2~4		
建築生産	伝統建築工法	2	2~4	1単位以上	
	建築施工	2	3~4		
	積算実習	2	3~4		
建築法規	建築法規	2	3~4	1単位以上	
その他	測量実習	2	2~4	適宜	
	インテリアデザイン論1	1	2~4		
	インテリアデザイン論2	1	2~4		
	人間工学1	1	2~4		
	人間工学2	1	2~4		
	まちづくりデザイン論1	1	2~4		
	まちづくりデザイン論2	1	2~4		
	ランドスケープデザイン論1	1	2~4		
	ランドスケープデザイン論2	1	2~4		
	プロダクトカラー論1	1	1~4		
	プロダクトカラー論2	1	1~4		
	プロダクトデザイン基礎選習5	1	2~4		
	プロダクトデザイン基礎選習9	1	2~4		
	プロダクトデザイン基礎選習11	1	2~4		
	建築フィールドワーク	2	2~4		
修得単位数 総合計				必要な実務経験年数	必要単位数
				0年	40単位以上
				1年	30単位以上
				2年	20単位以上

建築学科

デザイン学部 建築学科 卒業要件

科目区分	必修科目					選択必修科目					選択科目	卒業に要する 単位(計)		
	進級 要件	科目名称	履修年次	単位 数	小計	進級 要件	科目名称	履修年次	単位 数	小計	小計			
全学共通 教育科目	導入プログラム										28単位 以上 (※3※4)	36 単位 以上		
	表現科目													
	グローバル科目						指定語学科目(※1)		各2	4 単位 (※2)				
	リベラルアーツ 科目		アカデミックスキル1	1	前期	2								
			アカデミックスキル2	1	後期	2								
	社会実践力 育成プログラム													
	キャリア科目													
横断科目														
学部専門 教育科目	専門実習・ 演習科目	○	建築環境基礎実習1	1	1Q	1.5	◎	建築応用実習1	2	前期	3	3 単位	24単位 以上	88 単位 以上
		○	建築環境基礎実習2	1	2Q	1.5	◎	人間環境デザイン応用 実習1	2	後期	3	3 単位		
		○	建築環境基礎実習4	1	4Q	1.5	◎	建築応用実習2	2	前期	3	3 単位		
		○	製図模型実習1	1	1Q	1.5	◎	人間環境デザイン応用 実習2	2	後期	3	3 単位		
		○	製図模型実習2	1	2Q	1.5		仮想空間実習	2	後期	2	2 単位		
		○	製図模型実習3	1	3Q	1.5		自然環境実習	2	前期	2	2 単位		
		○	プレゼンテーション実習	1	4Q	1.5		環境づくり実践	2	後期	2	2 単位		
		○	建築環境デザイン概論	1	1Q	1	●	建築応用実習3	3	前期	6	3 単位		
		○	建築環境デザイン実習2	1	3Q	1	●	人間環境デザイン応用 実習3	3	後期	6	3 単位		
		○	建築環境デザイン実習3	1	4Q	1	●	建築応用実習4	3	前期	6	3 単位		
	◎	建築構法実習	2	前期	2		人間環境デザイン応用 実習4	3	後期	6	3 単位			
	◎	コンピューター基礎実習1	2	前期	3		材料実験	3	前期/ 後期	2	4 単位			
	◎	コンピューター基礎実習2	2	後期	3		コンピューター応用実習	3	前期/ 後期	2				
		卒業研究実習1	4	前期	4		素材応用実習	3	前期/ 後期	2	4 単位			
		卒業研究実習2	4	後期	4		異文化環境演習	3	前期/ 後期	2				
		卒業制作・論文	4	後期	4									
	デザイン学部 基盤科目		デザイン概論1	1	1Q	1						4 単位		
		デザイン概論2	1	2Q	1									
		デザイン史1	1	3Q	1									
		デザイン史2	1	4Q	1									

(※1) 日本語以外を外国語として学ぶものは、「英語1・2」の4単位を修得すること。

日本語を外国語として学ぶものは、「日本語1・2」の4単位を修得すること。

(※2) 選択必修科目の要件を超えて単位修得した場合は、超過単位を同一科目区分の選択科目単位とみなす。

(※3) 以下の履修指定科目における修得単位は、全学共通教育選択科目単位を含む。

1年次:「大学入門」「キャリア1」「情報と倫理」

3年次:「キャリア3」

(※4) 「横断科目」の修得単位数は、8単位を上限に卒業要件単位数を含む。

進級要件

〈1年次から2年次/○印〉

○デザイン学部専門実習・演習科目の1年次必修科目16単位をすべて修得していること。

(「建築環境基礎実習1,2,3,4」「製図模型実習1,2,3」「プレゼンテーション実習」「建築環境デザイン概論」「建築環境デザイン実習1,2,3」合計12科目 16単位)

〈2年次から3年次/◎印〉

◎デザイン学部専門実習・演習科目のうち必修科目8単位と選択必修科目のうち6単位の合計14単位を修得していること。

(「建築構法実習」「コンピューター基礎実習1,2」3科目 8単位、「建築応用実習1」「人間環境デザイン応用実習1」のうち3単位、「建築応用実習2」「人間環境デザイン応用実習2」のうち3単位、合計5科目 14単位)

〈3年次から4年次/●印〉

●デザイン学部専門実習・演習科目の選択必修科目12単位を習得していること。

(「建築応用実習3」「人間環境デザイン応用実習3」のうち6単位、「建築応用実習4」「人間環境デザイン応用実習4」のうち6単位を修得していること)

デザイン学部 建築学科(建築専攻/人間環境デザイン専攻) カリキュラムマップ

- 1年次 ヒトの体とモノや空間に関する知識・認識を深める
- 2年次 形態や空間に思想や意味をもたせる方法を習得する
- 3年次 実践的なデザイン能力や企画力を習得する
- 4年次 独創的で個性的なデザイン表現を追求する

*は建築士資格指定科目

	学部共通	専門理論	設計実技	技能・表現	
1年次	1Q	・デザイン概論1	・建築環境基礎実習1	・製図模型実習1	
	2Q	・デザイン概論2	・建築環境基礎実習2 ・建築環境デザイン実習1	・製図模型実習2	
	3Q	・デザイン史1	・近現代建築史*(遠隔) ・建築計画1*	・建築環境基礎実習3 ・建築環境デザイン実習2	・製図模型実習3
	4Q	・デザイン史2	・一般構造*	・建築環境基礎実習4 ・建築環境デザイン実習3	・プレゼンテーション実習
2年次	1Q	・西洋建築史*(遠隔) ・住環境論* ・地域学	・建築応用実習1(選必)	・建築構法実習 ・コンピューター基礎実習1	
	2Q	・仮想空間論(遠隔) ・建築材料学* ・地域学 ・建築環境デザイン論(遠隔)	・人間環境デザイン応用実習1(選必)	・測量演習(集中) ・建築構法実習 ・コンピューター基礎実習1	
	3Q	・建築力学(遠隔)* ・日本建築史*(遠隔) ・現場学 ・都市環境論(遠隔)	・建築応用実習2(選必)	・コンピュータ基礎実習2 ・仮想空間実習(選必)	
	4Q	・建築構造(遠隔)* ・伝統建築工法*(遠隔) ・現場学 ・コミュニティと社会論(遠隔)	・人間環境デザイン応用実習(選必)	・自然環境実習(選必) ・環境づくり実践(選必) 選必のうち、1科目を履修	
	コミュニティフィールドワーク(集中)		建築フィールドワーク(集中) 測量実習(集中授業)*	自然環境フィールドワーク	
3年次	1Q	・環境工学*	・建築応用実習3(選必) ・人間環境デザイン応用実習3(選必)	・材料実験(選必) ・コンピュータ応用実習(選必) ・素材応用実習(選必)	
	2Q	・設備工学*		・異文化環境演習(選必) 選必のうち、1科目2単位を履修	
	3Q	・建築計画2* ・建築施工*(遠隔)	・建築応用実習4(選必) ・人間環境デザイン応用実習4(選必)	・材料実験(選必) ・コンピュータ応用実習(選必) ・素材応用実習(選必)	
	4Q	・建築法規*(遠隔)		・積算実習 選必のうち、1科目2単位を履修	
				積算実習(集中授業)*	
4年次	1Q		・卒業研究実習1	・建築社会実践実習3	
	2Q				
	3Q		・卒業研究実習2	・建築社会実践実習4	
	4Q		・卒業制作・論文	【建築士資格取得講座】	
	建築社会実践実習1(ワークショップ、海外研修)		建築社会実践実習2(ワークショップ、海外研修)		

デザイン学部 建築学科 履修モデル

デザイン学部 建築学科 建築専攻

「広い知識を有する国際的な視野を持った建築家志望の学生」

科目区分	1年次			2年次			3年次			4年次			修得単位数		卒業要件	
	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	小計	合計		
全学共通教育科目	導入プログラム	大学入門	履修指定	1									1		36	
	表現科目	デッサン	選択	1			西洋美術史	選択	2				3			
	グローバル科目	英語1/日本語1	選必	2	京都の伝統工芸講座1	選択	2	English discussion	選択	2				14		
		英語2/日本語2	選必	2	京都の伝統工芸講座2	選択	2	Effective Presentation	選択	2						
	リベラルアーツ科目	アカデミックスキル1	必修	2				データサイエンス	選択	2				9		
		アカデミックスキル2	必修	2												
		情報と倫理	履修指定	1												
	社会実践力育成プログラム				社会連携PBLプログラム1	選択	2	社会連携PBLプログラム2	選択	2			4			
	キャリア科目	キャリア1	履修指定	1	クリエイティブの現場	選択	2	キャリア3	履修指定	1			4			
	横断科目							ゲームデザイン論	選択	1			1			
学部専門教育科目	デザイン学部基盤科目	デザイン概論1	必修	1									4	110		
		デザイン概論2	必修	1												
		デザイン史1	必修	1												
		デザイン史2	必修	1												
	基礎実習科目	建築環境基礎実習1	必修	1.5	建築構法実習	必修	2	材料実験	選必	2	コンピューター応用実習	選必	2		32	144
		建築環境基礎実習2	必修	1.5	コンピューター基礎実習1	必修	3	素材応用実習	選必	2						
		建築環境基礎実習3	必修	1.5	コンピューター基礎実習2	必修	3									
		建築環境基礎実習4	必修	1.5	仮想空間実習	選必	2									
		製図模型実習1	必修	1.5												
		製図模型実習2	必修	1.5												
		製図模型実習3	必修	1.5												
		プレゼンテーション実習	必修	1.5												
		建築環境デザイン概論	必修	1												
		建築環境デザイン実習1	必修	1												
		建築環境デザイン実習2	必修	1												
		建築環境デザイン実習3	必修	1												
	応用実習科目				建築応用実習1	必修	3	建築応用実習3	必修	6					18	
					建築応用実習2	必修	3	建築応用実習4	必修	6						
	卒業実習科目										卒業研究実習1	必修	4		12	
											卒業研究実習2	必修	4			
学科共通科目										卒業制作・論文	必修	4	1			
										ランドスケープデザイン論1	選択	1				
専門選択科目										ランドスケープデザイン論2	選択	1	44			
	近現代建築史	選択	2	住環境論	選択	2	環境工学	選択	2	建築社会実践実習3	選択	2				
	建築計画1	選択	1	西洋建築史	選択	2	設備工学	選択	2	建築社会実践実習4	選択	2				
	一般構造	選択	2	仮想空間論	選択	2	建築計画2	選択	1							
	建築社会実践実習1	選択	2	建築材料学	選択	2	建築施工	選択	2							
	建築社会実践実習2	選択	2	日本建築史	選択	2	建築法規	選択	2							
				建築力学	選択	2	積算実習	選択	2							
				伝統建築工法	選択	2										
				建築構造	選択	2										
				測量実習	選択	2										

デザイン学部 建築学科 人間環境デザイン専攻

「豊かな知見を背景に環境をデザインすることで社会問題を解決する専門家」

科目区分	1年次			2年次			3年次			4年次			修得単位数		
	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	小計	合計	
全学共通教育科目	導入プログラム	大学入門	履修指定	1									1		
	表現科目	美術史	選択	2									2		
	グローバル科目	英語1/日本語1	選必	2	日本文化概論	選択	1	サステナビリティと社会	選択	2					
		英語2/日本語2	選必	2	English Discussion	選択	2	グローバルヒストリー	選択	2					
					Effective Presentation	選択	2								
	リベラルアーツ科目	アカデミックスキル1	必修	2											
		アカデミックスキル2	必修	2											
		情報と倫理	履修指定	1											
	社会実践力育成プログラム				社会連携PBLプログラム1	選択	2								
					国内ショートプログラム	選択	2								
キャリア科目	キャリア1	履修指定	1	キャリア2	履修指定	1	キャリア3	履修指定	1						
							職業研究		2						
横断科目							グローバル共生社会論	選択	2	コンテンツ産業論1	選択	1			
										メディア技術論1	選択	1			
学部専門教育科目	デザイン学部基盤科目	デザイン概論1	必修	1											
		デザイン史1	必修	1											
		デザイン概論2	必修	1											
		デザイン史2	必修	1											
	基礎実習科目	建築環境基礎実習1	必修	1.5	建築構法実習	必修	2	異文化環境演習	選必	2	材料実験	選必	2		
		建築環境基礎実習2	必修	1.5	コンピューター基礎実習1	必修	3				コンピューター応用実習	選必	2		
		建築環境基礎実習3	必修	1.5	コンピューター基礎実習2	必修	3								
		建築環境基礎実習4	必修	1.5	自然環境実習	選必	2								
		製図模型実習1	必修	1.5	環境づくり実践	選必	2								
		製図模型実習2	必修	1.5											
		製図模型実習3	必修	1.5											
		プレゼンテーション実習	必修	1.5											
		建築環境デザイン概論	必修	1											
		建築環境デザイン実習1	必修	1											
	建築環境デザイン実習2	必修	1												
	建築環境デザイン実習3	必修	1												
	応用実習科目				人間環境デザイン応用実習1	選必	3	人間環境デザイン応用実習3(フィールドワーク)	選必	6					
					人間環境デザイン応用実習2	選必	3	人間環境デザイン応用実習4	選必	6					
	卒業実習科目										卒業研究実習1	4	4		
											卒業研究実習2	4	4		
										卒業制作・論文	4	4			
専門講義・共通科目							社会調査法	選択	1	批評理論	選択	1			
										グローバルデザイン論1	選択	1			
										グローバルデザイン論2	選択	1			
										グローバルデザイン論3	選択	1			
学科共通スキル科目	建築計画1	選択	1	住環境論	選択	2	建築法規	選択	2	建築社会実践実習3	選択	2			
				日本建築史	選択	2	建築構造	選択	2	建築社会実践実習4	選択	2			
				伝統建築工法	選択	2	建築社会実践実習2	選択	2						
				西洋建築史	選択	2									
				建築社会実践実習1	選択	2									
				地域学	選択	2									
			現場学	選択	2										

建築学科 建築士資格取得指定科目一覧

指定科目の分類	指定科目	単位数	配当年次	一級建築士		二級建築士・木造建築士	
				必要実務経験年数	必要単位数	必要実務経験年数	必要単位数
建築設計製図	建築環境基礎実習3	1.5	1	7単位以上		3単位以上	
	建築環境基礎実習4	1.5	1				
	プレゼンテーション実習	1.5	1				
	製図模型実習3	1.5	1				
	建築応用実習1	3	2~4				
	建築応用実習2	3	2~4				
	建築応用実習3	6	3~4				
	建築応用実習4	6	3~4				
建築計画	近現代建築史	2	1~4	7単位以上		2単位以上	
	建築計画1	1	1~4				
	住環境論	2	2~4				
	日本建築史	2	1~4				
	西洋建築史	2	1~4				
	建築計画2	1	3~4				
建築環境工学	環境工学	2	3~4	2単位以上			
建築設備	設備工学	2	3~4	2単位以上			
構造力学	建築力学	2	2~4	4単位以上			
	建築構造	2	2~4				
建築一般構造	建築構法実習	2	2	3単位以上		3単位以上	
	一般構造	2	1~4				
建築材料	材料実験	2	3~4	2単位以上			
	建築材料学	2	2~4				
建築生産	伝統建築工法	2	2~4	2単位以上		1単位以上	
	建築施工	2	3~4				
	積算実習	2	3~4				
建築法規	建築法規	2	3~4	1単位以上		1単位以上	
その他	建築環境デザイン実習1	1	1	適宜		適宜	
	建築環境デザイン実習2	1	1				
	コンピューター基礎実習1	3	2				
	コンピューター基礎実習2	3	2				
	測量実習	2	2~4				
	まちづくりデザイン論1	1	2~4				
	まちづくりデザイン論2	1	2~4				
	ランドスケープデザイン論1	1	2~4				
	ランドスケープデザイン論2	1	2~4				
修得単位数 総合計				必要な実務経験年数	必要単位数	必要な実務経験年数	必要単位数
				2年	60単位以上	0年	40単位以上
				3年	50単位以上	1年	30単位以上
				4年	40単位以上	2年	20単位以上

デザイン学部 専門教育科目 科目一覧

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修/選択	授業形態	単位数	履修年次	ディプロマ・ポリシーとの相関				
							DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5
							知識と理解	創造的思考と考察	技術と表現	視点と協働	社会への関心と行動
デザイン学部 基盤科目	DfdZ1001	デザイン概論1	必修	講義	1	1	●				
	DfdZ1002	デザイン概論2	必修	講義	1	1	●				
	DfdZ1011	デザイン史1	必修	講義	1	1	●				
	DfdZ1012	デザイン史2	必修	講義	1	1	●				
デザイン学部 共通科目	DfdZ2101	家具史	選択	講義	1	2・3・4	●				
	DfdZ2111	製品材料学	選択	講義	1	2・3・4	●				
	DfdZ2121	プロダクトデザイン論	選択	講義	1	2・3・4	●				
	DfdZ2131	情報デザイン論	選択	講義	1	2・3・4	●				
	DfdZ2141	デザイン法規	選択	講義	1	2・3・4	●				
	DfdZ2151	色彩論	選択	講義	1	2・3・4	●				
	DfdZ2161	写真論	選択	講義	1	2・3・4	●				
	DfdZ2171	ビジュアルデザイン・アート批評	選択	講義	1	2・3・4	●				
	DfdZ2181	イラストレーション論1	選択	講義	1	2・3・4	●				
	DfdZ2182	イラストレーション論2	選択	講義	1	2・3・4	●				
	DfdZ2191	ファッション史	選択	講義	1	2・3・4	●				
	DfdZ2201	ファッション論	選択	講義	1	2・3・4	●				
	DfdZ2211	サステイナブルデザイン論	選択	講義	1	2・3・4	●				
	DfdZ2221	近代建築論	選択	講義	1	2・3・4	●				
	DfdZ2231	CG史	選択	講義	1	2・3・4	●				
	DfdZ2241	グローバルデザイン論1	選択	講義	1	2・3・4	●				
	DfdZ2242	グローバルデザイン論2	選択	講義	1	2・3・4	●				
	DfdZ2243	グローバルデザイン論3	選択	講義	1	2・3・4	●				
	DfdZ1251	社会連携演習1	選択	演習	2	1・2・3・4				●	●
	DfdZ1252	社会連携演習2	選択	演習	2	1・2・3・4				●	●
	DfdZ2261	インテリアデザイン論1	選択	講義	1	2・3・4	●				
	DfdZ2262	インテリアデザイン論2	選択	講義	1	2・3・4	●				
	DfdZ2271	人間工学1	選択	講義	1	2・3・4	●				
	DfdZ2272	人間工学2	選択	講義	1	2・3・4	●				
	DfdZ2281	まちづくりデザイン論1	選択	講義	1	2・3・4	●				
	DfdZ2282	まちづくりデザイン論2	選択	講義	1	2・3・4	●				
	DfdZ2291	ランドスケープデザイン論1	選択	講義	1	2・3・4	●				
	DfdZ2292	ランドスケープデザイン論2	選択	講義	1	2・3・4	●				

ビジュアルデザイン学科 専門教育科目 科目一覧

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修／選択	授業形態	単位数	履修年次	ディプロマ・ポリシーとの相関				
							DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5
							知識と理解	創造的思考と考察	技術と表現	視点と協働	社会への関心と行動
基礎実習科目	DvdZ1301	ビジュアルデザイン基礎実習1	必修	実習	6	1	●	●	●		
	DvdZ1302	ビジュアルデザイン基礎実習2	必修	実習	6	1	●	●	●		
	DvdZ1311	ビジュアルデザイン技法1	必修	実習	2	1	●	●	●		
	DvdZ1312	ビジュアルデザイン技法2	必修	実習	2	1	●	●	●		
応用実習科目	DvdZ2401	ビジュアルデザイン応用実習1	必修	実習	6	2	●	●	●		
	DvdZ2402	ビジュアルデザイン応用実習2	必修	実習	6	2		●	●	●	
	DvdZ2413	ビジュアルデザイン技法3	必修	実習	2	2		●	●	●	
	DvdZ2414	ビジュアルデザイン技法4	必修	実習	2	2	●	●	●		
	DvdZ3421	ビジュアルデザインプロジェクト実習1	必修	実習	6	3		●		●	●
	DvdZ3422	ビジュアルデザインプロジェクト実習2	必修	実習	6	3		●		●	●
卒業実習科目	DvdZ4501	ビジュアルデザイン表現研究	必修	実習	4	4		●	●		
	DvdZ4511	ビジュアルデザインテーマ研究	必修	実習	4	4		●	●		●
	DvdZ4521	卒業制作・論文	必修	成果評定	4	4			●	●	●
学科共通スキル科目	DvdZ1601	ビジュアルデザインスキル1	選択	実習	2	1・2・3・4	●	●	●		
	DvdZ1602	ビジュアルデザインスキル2	選択	実習	2	1・2・3・4	●	●	●		
	DvdZ1603	ビジュアルデザインスキル3	選択	実習	2	1・2・3・4	●	●	●		
	DvdZ1604	ビジュアルデザインスキル4	選択	実習	2	1・2・3・4	●	●	●		
	DvdZ2605	ビジュアルデザインスキル5	選択	実習	2	2・3・4	●	●	●		
	DvdZ2606	ビジュアルデザインスキル6	選択	実習	2	2・3・4	●	●	●		
	DvdZ2607	ビジュアルデザインスキル7	選択	実習	2	2・3・4	●	●	●		
	DvdZ2608	ビジュアルデザインスキル8	選択	実習	2	2・3・4	●	●	●		
	DvdZ3609	ビジュアルデザインスキル9	選択	実習	2	3・4	●	●	●		
	DvdZ3610	ビジュアルデザインスキル10	選択	実習	2	3・4	●	●	●		
	DvdZ3611	ビジュアルデザインスキル11	選択	実習	2	3・4	●	●	●		
	DvdZ3612	ビジュアルデザインスキル12	選択	実習	2	3・4	●	●	●		
	DvdZ3613	ビジュアルデザインスキル13	選択	実習	2	3・4	●	●	●		
	DvdZ3614	ビジュアルデザインスキル14	選択	実習	2	3・4	●	●	●		
	DvdZ4615	ビジュアルデザインスキル15	選択	実習	2	4			●	●	●
	DvdZ4616	ビジュアルデザインスキル16	選択	実習	2	4			●	●	●
	DfdZ2901	基礎立体・彫塑	選択	演習	2	2・3・4			●		
	DfdZ2911	工芸	選択	演習	2	2・3・4			●		

イラスト学科 専門教育科目 科目一覧

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修/選択	授業形態	単位数	履修年次	ディプロマ・ポリシーとの相関				
							DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5
							知識と理解	創造的思考と考察	技術と表現	視点と協働	社会への関心と行動
基礎実習科目	DiiZ1301	イラスト基礎実習1	必修	実習	6	1	●	●			
	DiiZ1302	イラスト基礎実習2	必修	実習	6	1	●	●			
	DiiZ1311	描画1	必修	実習	2	1	●		●		
	DiiZ1321	PC基礎実習	必修	実習	2	1	●		●		
	DiiZ2303	イラスト基礎実習3	必修	実習	6	2	●	●	●		
	DiiZ2304	イラスト基礎実習4	必修	実習	6	2	●	●	●		
	DiiZ2331	デジタル表現	選択必修	実習	2	2・3・4	●		●		
	DiiZ2341	デジタルドローイング	選択必修	実習	2	2・3・4	●		●		
	DiiZ2351	ドローイング	選択必修	実習	2	2・3・4	●		●		
	DiiZ1361	日本画	選択	実習	2	1・2・3・4	●		●		
	DiiZ1371	水墨画	選択	実習	2	1・2・3・4	●		●		
	DiiZ1381	銅版画	選択	実習	2	1・2・3・4	●		●		
	DiiZ1391	イラスト動画	選択	実習	2	1・2・3・4	●		●		
	DiiZ1401	立体表現1	選択	実習	2	1・2・3・4		●	●		
	DiiZ1402	立体表現2	選択	実習	2	1・2・3・4		●	●		
	DiiZ2411	シルクスクリーン	選択	実習	2	2・3・4	●		●		
	DiiZ2421	写真	選択	実習	2	2・3・4	●		●	●	
	DiiZ2431	映像表現	選択	実習	2	2・3・4	●		●	●	
	DiiZ2312	描画2	選択	実習	2	2・3・4	●	●	●		
	DiiZ2441	絵本1	選択	実習	2	2・3・4	●	●	●		
DfdZ2901	基礎立体・彫塑	選択	演習	2	2・3・4			●			
DfdZ2911	工芸	選択	演習	2	2・3・4			●			
応用実習科目	DiiZ3501	イラスト応用実習1	必修	実習	6	3		●	●		●
	DiiZ3502	イラスト応用実習2	必修	実習	6	3		●	●		●
	DiiZ4511	イラスト卒業制作1	必修	実習	4	4		●	●		●
	DiiZ4512	イラスト卒業制作2	必修	実習	4	4		●	●	●	
	DiiZ4521	卒業制作・論文	必修	成果認定	4	4		●	●		●
	DiiZ3531	ゲームイラスト	選択	実習	2	3・4	●		●		●
	DiiZ3541	WEBデザイン	選択	実習	2	3・4	●		●		●
	DiiZ3551	グラフィックデザイン	選択	実習	2	3・4	●		●		●
	DiiZ3561	ビジュアルアート	選択	実習	2	3・4		●	●	●	
	DiiZ3571	デジタルアート	選択	実習	2	3・4		●	●	●	
	DiiZ3581	デジタル実習1	選択	実習	2	3・4	●	●	●		
	DiiZ3582	デジタル実習2	選択	実習	2	3・4	●	●	●		
	DiiZ3591	絵本2	選択	実習	2	3・4	●	●	●		
	DiiZ3592	絵本3	選択	実習	2	3・4	●	●	●		
	DiiZ2601	アートマネジメント論	選択	講義	1	2・3・4	●				

プロダクトデザイン学科 専門教育科目 科目一覧

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修／選択	授業形態	単位数	履修年次	ディプロマ・ポリシーとの相関				
							DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5
							知識と理解	創造的思考と考察	技術と表現	視点と協働	社会への関心と行動
基礎実習科目	DpdZ1301	工芸1	必修	実習	2	1			●		
	DpdZ1302	工芸2	必修	実習	2	1			●		
	DpdZ1311	プロダクトデザイン基礎実習1	必修	実習	3	1	●		●		
	DpdZ1312	プロダクトデザイン基礎実習2	必修	実習	3	1	●		●		
	DpdZ1313	プロダクトデザイン基礎実習3	必修	実習	3	1	●		●		
	DpdZ1314	プロダクトデザイン基礎実習4	必修	実習	3	1	●		●		
	DpdZ2315	プロダクトデザイン基礎実習5	必修	実習	3	2	●	●	●		
	DpdZ2316	プロダクトデザイン基礎実習6	必修	実習	3	2	●	●	●		
	DpdZ2317	プロダクトデザイン基礎実習7	必修	実習	2	2	●	●	●		
	DpdZ2318	プロダクトデザイン基礎実習8	必修	実習	3	2	●	●	●		
	DpdZ2319	プロダクトデザイン基礎実習9	必修	実習	3	2	●	●	●		
	DpdZ2320	プロダクトデザイン基礎実習10	必修	実習	2	2	●	●	●		
応用実習科目	DpdZ3401	プロダクトデザイン応用実習1	選択必修	実習	3	3・4		●		●	●
	DpdZ3402	プロダクトデザイン応用実習2	選択必修	実習	3	3・4		●		●	●
	DpdZ3403	プロダクトデザイン応用実習3	選択必修	実習	3	3・4		●		●	●
	DpdZ3404	プロダクトデザイン応用実習4	選択必修	実習	3	3・4		●		●	●
	DpdZ3405	プロダクトデザイン応用実習5	選択必修	実習	3	3・4		●		●	●
	DpdZ3406	プロダクトデザイン応用実習6	選択必修	実習	3	3・4		●		●	●
	DpdZ3407	プロダクトデザイン応用実習7	選択必修	実習	3	3・4		●		●	●
	DpdZ3408	プロダクトデザイン応用実習8	選択必修	実習	3	3・4		●		●	●
	DpdZ3411	デザイン学部応用実習1	選択必修	実習	3	3・4		●		●	●
	DpdZ3412	デザイン学部応用実習2	選択必修	実習	3	3・4		●		●	●
卒業実習科目	DpdZ4501	卒業制作テーマ研究1	必修	実習	3	4		●		●	●
	DpdZ4502	卒業制作テーマ研究2	必修	実習	1	4		●		●	●
	DpdZ4511	卒業制作研究1	必修	実習	3	4		●		●	●
	DpdZ4512	卒業制作研究2	必修	実習	1	4		●		●	●
	DpdZ4521	卒業制作・論文	必修	成果 評定	4	4		●		●	●
プロダクトデザイン学科選択科目	DpdZ1601	プロダクトカラー論1	選択	講義	1	1・2・3・4	●				
	DpdZ1602	プロダクトカラー論2	選択	講義	1	1・2・3・4	●				
	DpdZ1611	プロダクトデザイン基礎選習1	選択	実習	1	1・2・3・4	●		●		
	DpdZ1612	プロダクトデザイン基礎選習2	選択	実習	1	1・2・3・4	●		●		
	DpdZ1613	プロダクトデザイン基礎選習3	選択	実習	1	1・2・3・4	●		●		
	DpdZ1614	プロダクトデザイン基礎選習4	選択	実習	1	1・2・3・4	●		●		
	DpdZ2615	プロダクトデザイン基礎選習5	選択	実習	1	2・3・4	●		●		
	DpdZ2616	プロダクトデザイン基礎選習6	選択	実習	1	2・3・4	●		●		
	DpdZ2617	プロダクトデザイン基礎選習7	選択	実習	1	2・3・4	●		●		
	DpdZ2618	プロダクトデザイン基礎選習8	選択	実習	1	2・3・4	●		●		
	DpdZ2619	プロダクトデザイン基礎選習9	選択	実習	1	2・3・4	●		●		
	DpdZ2620	プロダクトデザイン基礎選習10	選択	実習	1	2・3・4	●		●		

プロダクトデザイン学科 専門教育科目 科目一覧

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修/選択	授業形態	単位数	履修年次	ディプロマ・ポリシーとの相関				
							DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5
							知識と理解	創造的思考と考察	技術と表現	視点と協働	社会への関心と行動
プロダクトデザイン学科選択科目	DpdZ2621	プロダクトデザイン基礎選習11	選択	実習	1	2・3・4	●		●		
	DpdZ2622	プロダクトデザイン基礎選習12	選択	実習	1	2・3・4	●		●		
	DpdZ3731	プロダクトデザイン応用選習1	選択	実習	1	3・4	●	●	●		
	DpdZ3732	プロダクトデザイン応用選習2	選択	実習	1	3・4	●	●	●		
	DpdZ1741	社会実践演習1	選択	演習	2	1・2・3・4		●		●	●
	DpdZ2742	社会実践演習2	選択	演習	2	2・3・4		●		●	●
	DpdZ3743	社会実践演習3	選択	演習	2	3・4		●		●	●
	DpdZ4744	社会実践演習4	選択	演習	2	4		●		●	●
	DfdZ2901	基礎立体・彫塑	選択	演習	2	2・3・4			●		
建築士資格科目	DpdZ1801	建築計画1	選択	講義	1	1・2・3・4	●	●			
	DpdZ1811	一般構造	選択	講義	2	1・2・3・4	●				
	DpdZ1821	西洋建築史	選択	講義	2	1・2・3・4	●		●		
	DpdZ2831	住環境論	選択	講義	2	2・3・4	●		●		
	DpdZ1841	日本建築史	選択	講義	2	1・2・3・4	●		●		
	DpdZ2851	建築力学	選択	講義	2	2・3・4	●				
	DpdZ3861	環境工学	選択	講義	2	3・4	●	●			
	DpdZ1871	近現代建築史	選択	講義	2	1・2・3・4	●				
	DpdZ2881	建築構造	選択	講義	2	2・3・4	●				
	DpdZ3891	設備工学	選択	講義	2	3・4	●	●			
	DpdZ2901	伝統建築工法	選択	講義	2	2・3・4	●		●		
	DpdZ2911	建築構法実習	選択	実習	2	2・3・4	●		●		
	DpdZ3921	建築法規	選択	講義	2	3・4	●		●		
	DpdZ3931	材料実験	選択	実習	2	3・4	●	●	●		
	DpdZ3941	建築施工	選択	講義	2	3・4	●		●		
	DpdZ2951	測量実習	選択	実習	2	2・3・4	●		●		
	DpdZ3961	積算実習	選択	実習	2	3・4	●		●		
	DpdZ3802	建築計画2	選択	講義	1	3・4	●	●			●
	DpdZ2971	建築材料学	選択	講義	2	2・3・4	●		●		
	DpdZ2981	建築フィールドワーク	選択	実習	2	2・3・4	●	●			●

建築学科 専門教育科目 科目一覧

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修／選択	授業形態	単位数	履修年次	ディプロマ・ポリシーとの相関				
							DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5
							知識と理解	創造的思考と考察	技術と表現	視点と協働	社会への関心と行動
建築学科専門科目	DarZ1301	建築環境基礎実習1	必修	実習	1.5	1	●	●	●		
	DarZ1302	建築環境基礎実習2	必修	実習	1.5	1	●	●	●		
	DarZ1303	建築環境基礎実習3	必修	実習	1.5	1		●	●		●
	DarZ1304	建築環境基礎実習4	必修	実習	1.5	1		●	●		●
	DarZ1311	製図模型実習1	必修	実習	1.5	1	●		●		
	DarZ1312	製図模型実習2	必修	実習	1.5	1	●		●		
	DarZ1313	製図模型実習3	必修	実習	1.5	1	●		●		
	DarZ1321	プレゼンテーション実習	必修	実習	1.5	1	●	●	●		
	DarZ1331	建築環境デザイン概論	必修	講義	1	1	●				●
	DarZ1341	建築環境デザイン実習1	必修	実習	1	1	●		●	●	
	DarZ1342	建築環境デザイン実習2	必修	実習	1	1		●	●		●
	DarZ1343	建築環境デザイン実習3	必修	実習	1	1		●	●		●
	DarZ2351	建築構法実習	必修	実習	2	2	●		●		
	DarZ2361	コンピューター基礎実習1	必修	実習	3	2	●		●		
	DarZ2362	コンピューター基礎実習2	必修	実習	3	2	●		●		
	DarZ2371	建築応用実習1	選択必修	実習	3	2・3・4		●	●		●
	DarZ2372	建築応用実習2	選択必修	実習	3	2・3・4		●	●		●
	DarZ2381	人間環境デザイン応用実習1	選択必修	実習	3	2・3・4		●	●		●
	DarZ2382	人間環境デザイン応用実習2	選択必修	実習	3	2・3・4		●	●		●
	DarZ2391	仮想空間実習	選択必修	実習	2	2・3・4	●	●	●		
	DarZ2401	自然環境実習	選択必修	実習	2	2・3・4	●	●		●	
	DarZ2411	環境づくり実践	選択必修	実習	2	2・3・4	●	●		●	
	DarZ3373	建築応用実習3	選択必修	実習	6	3・4		●	●		●
	DarZ3374	建築応用実習4	選択必修	実習	6	3・4		●	●		●
	DarZ3383	人間環境デザイン応用実習3	選択必修	実習	6	3・4	●	●			●
	DarZ3384	人間環境デザイン応用実習4	選択必修	実習	6	3・4		●		●	●
	DarZ3421	材料実験	選択必修	実習	2	3・4	●		●		
	DarZ3431	コンピューター応用実習	選択必修	実習	2	3・4		●	●		●
	DarZ3441	素材応用実習	選択必修	実習	2	3・4		●	●		●
	DarZ3451	異文化環境演習	選択必修	演習	2	3・4	●		●	●	●
	DarZ4461	卒業研究実習1	必修	実習	4	4		●	●	●	
	DarZ4462	卒業研究実習2	必修	実習	4	4		●	●	●	
	DarZ4471	卒業制作・論文	必修	成果評定	4	4		●	●		●
建築学科専門選択科目	DarZ1501	近現代建築史	選択	講義	2	1・2・3・4	●				
	DarZ1511	建築計画1	選択	講義	1	1・2・3・4	●	●			
	DarZ1521	一般構造	選択	講義	2	1・2・3・4	●				
	DarZ1531	建築社会実践実習1	選択	実習	2	1・2・3・4		●		●	●
	DarZ1532	建築社会実践実習2	選択	実習	2	1・2・3・4		●		●	●
	DarZ2541	自然環境フィールドワーク	選択	実習	1	2・3・4	●	●		●	

建築学科 専門教育科目 科目一覧

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修/選択	授業形態	単位数	履修年次	ディプロマ・ポリシーとの相関				
							DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5
							知識と理解	創造的思考と考察	技術と表現	視点と協働	社会への関心と行動
建築学科専門選択科目	DarZ2551	住環境論	選択	講義	2	2・3・4	●		●		
	DarZ2561	日本建築史	選択	講義	2	1・2・3・4	●		●		
	DarZ2571	伝統建築工法	選択	講義	2	2・3・4	●		●		
	DarZ2581	西洋建築史	選択	講義	2	1・2・3・4	●		●		
	DarZ2591	仮想空間論	選択	講義	2	2・3・4	●		●		
	DarZ2601	建築材料学	選択	講義	2	2・3・4	●		●		
	DarZ2611	建築力学	選択	講義	2	2・3・4	●				
	DarZ2621	建築構造	選択	講義	2	2・3・4	●				
	DarZ2631	測量実習	選択	実習	2	2・3・4	●		●		
	DarZ2641	建築フィールドワーク	選択	実習	2	2・3・4	●	●			●
	DarZ2651	建築環境デザイン論	選択	講義	1	2・3・4	●			●	●
	DarZ2661	地域学	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	DarZ2671	コミュニティと社会論	選択	講義	2	2・3・4	●			●	●
	DarZ2681	都市環境論	選択	講義	2	2・3・4	●			●	●
	DarZ2691	コミュニティフィールドワーク	選択	演習	2	2・3・4	●		●	●	
	DarZ2701	現場学	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	DarZ3711	環境工学	選択	講義	2	3・4	●	●			
	DarZ3721	設備工学	選択	講義	2	3・4	●	●			
	DarZ3512	建築計画2	選択	講義	1	3・4	●	●			●
	DarZ3731	建築施工	選択	講義	2	3・4	●				
DarZ3741	建築法規	選択	講義	2	3・4	●					
DarZ3751	積算実習	選択	実習	2	3・4	●		●			
DarZ4533	建築社会実践実習3	選択	実習	2	4		●		●	●	
DarZ4534	建築社会実践実習4	選択	実習	2	4		●		●	●	
人間環境デザイン専攻専門講義科目	DheZ2301	視覚認知論	選択	講義	1	2・3・4	●				
	DheZ2311	メディア産業論	選択	講義	1	2・3・4	●				
	DheZ2321	日本アニメーション史	選択	講義	1	2・3・4	●				
	DheZ2331	世界アニメーション史	選択	講義	1	2・3・4	●				
	DheZ2341	グローバルコンテンツ研究	選択	講義	1	2・3・4	●				
	DheZ2351	ソーシャルメディア論	選択	講義	1	2・3・4	●				
	DheZ2361	グローバル化とメディア	選択	講義	1	2・3・4	●				
	DheZ2371	伝統文化論	選択	講義	1	2・3・4	●				
	DheZ2381	批評理論	選択	講義	1	2・3・4	●				
	DheZ2391	日本・アジア関係史	選択	講義	1	2・3・4	●				
	DheZ2401	国際関係論	選択	講義	1	2・3・4	●				
	DheZ2411	社会調査法	選択	講義	1	2・3・4	●				
	DheZ2421	多文化共生論	選択	講義	1	2・3・4	●				
	DheZ2431	地域社会論	選択	講義	1	2・3・4	●				

ポリシーとカリキュラム構造

● 教育研究目的

マンガ学部の教育研究目的は、社会に存在する様々な課題解決にマンガやアニメーションやキャラクターデザインの技術、表現力を用いて挑んでいける人間の育成です。マンガやアニメーションやキャラクターを中心とした種々の表現する力を身につけ、時代の変化や技術の進歩に即応し広く社会に貢献できる力を養います。卒業時に身につけているべき要素を以下の5つとし、卒業要件を満たせばこれらを身につけたものと認め、学位を授与します。

● 学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)

DP1	日々進化するマンガあるいはアニメーション あるいはキャラクターに関する基本的な知識と理解がある。	知識と理解 knowledge & understanding
DP2	マンガやアニメーションやキャラクターが持つ 新たな表現の可能性を探求し、デジタルネットワークを含めた 未知なる表現領域を拓いてゆくことができる。	創造的思考と考察 creative thinking & observation
DP3	アナログ・デジタルを問わずマンガあるいはアニメーション あるいはキャラクターについての専門知識と自己を表現できる 制作技術を身につけている。	技術と表現 skills & expression
DP4	多様な他者との違いを認め、 協働して課題解決に取り組むことができる。	他者理解と協働 mutual understanding & collaboration
DP5	より良い社会を創る意欲を持ち、 学びを応用して社会の課題解決に自ら取り組むことができる。	社会への関心と行動 interests & action

● 教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

マンガ学部は、学位授与の方針を達成するために、全学共通教育科目、学部専門教育科目を体系的に編成し、講義、演習、実習等を適切に組み合わせた授業を開講します。また、科目のナンバリングおよびカリキュラム・マップにより、カリキュラムの体系を明示します。

教育内容、教育方法、学修成果の評価について以下のように定めます。

1. 教育内容

学部専門教育科目では、1年次には、マンガ、アニメーション、キャラクターの領域の初歩的な知識や制作技法を包括的に学び、各分野の基礎知識を幅広く身につける科目を開講します。2年次は各専門分野における重要な作品や最新の技術に触れる科目、専門的な知識・技法・考察能力を身につける科目を開講します。3年次は各専門に沿った技術・知識をより深化させると共に、作品制作に必要な実践的能力、作成した作品を検証、分析、練磨する能力を養う科目を開講します。最終年次には、探究を自律的に計画・遂行し、その成果を公共的・学術的に表現する技法と作法を養うために卒業制作・卒業論文を課します。

2. 教育方法

学生の主体性を伸ばすため、能動的学修の視点を取り入れた教育方法を実施します。

授業内・外の学修時間を考慮した授業内容を設計します。

学修成果の可視化を通じて、学生の自律的な学修を支援します。

3. 学修成果の評価

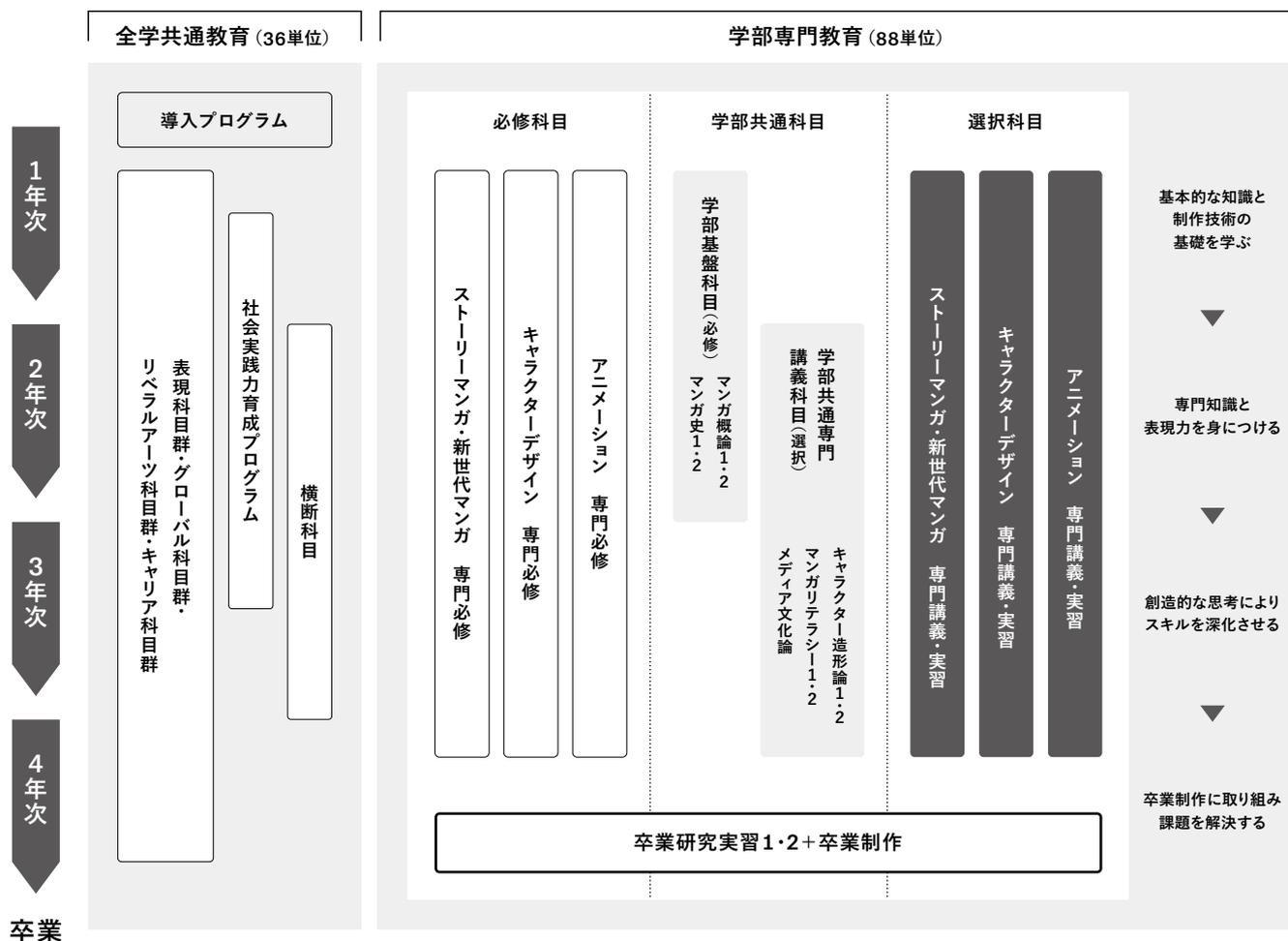
マンガ学部では、学位授与の方針に掲げる能力・資質およびこれらの総合的な活用力の修得状況を、「進級時」「卒業時」の2つのレベルで把握し、評価します。各レベルの評価の実施方法は、以下のとおりとします。

(1) 進級時

進級時の学修成果は、学部所定の教育課程における進級要件達成状況により、総合的評価を行います。

(2) 卒業時

4年間の学修成果は、学部所定の教育課程における卒業要件達成状況により、総合的評価を行います。卒業論文・制作（必修）は、評価ルーブリックを活用し、複数教員によって多面的評価を行います。



マンガ学科 ストーリーマンガコース／新世代マンガコース

マンガ学部 マンガ学科 卒業要件

科目区分	必修科目					選択必修科目				選択科目	卒業に要する 単位(計)
	進級 要件	科目名称	履修年次	単位 数	小計	進級 要件	科目名称	単位 数	小計	小計	
全学共通教育科目	導入プログラム									28単位 以上 (※3※4)	36 単位 以上
	表現科目										
	グローバル科目						指定語学科目 (※1)	各2	4単位 以上 (※2)		
	リベラルアーツ科目		アカデミックスキル1	1 前期	2	4単位					
		アカデミックスキル2	1 後期	2							
	社会実践力育成プログラム										
	キャリア科目										
横断科目											
学部専門教育科目	学部基盤科目	マンガ概論1	1 1Q	1	4単位					28単位 以上	88 単位 以上
		マンガ概論2	1 2Q	1							
		マンガ史1	1 3Q	1							
		マンガ史2	1 4Q	1							
	学部共通科目										
	学科専門科目(必修)	○ マンガデッサン1	1 前期	3	56単位						
		○ マンガデッサン2	1 後期	3							
		○ 絵画技法1	1 前期	3							
		○ 絵画技法2	1 後期	3							
		○ 基礎デジタル実習1	1 前期	2							
		○ 基礎デジタル実習2	1 後期	2							
		◎ 脚本実習1	2 前期	3							
		◎ 脚本実習2	2 後期	3							
		◎ 表現技法1	2 前期	3							
		◎ 表現技法2	2 後期	3							
		◎ デジタル実習1	2 前期	2							
		◎ デジタル実習2	2 後期	2							
		● マンガ創作実習1	3 前期	3							
		● マンガ創作実習2	3 後期	3							
		● マンガ制作実習1	3 前期	3							
		● マンガ制作実習2	3 後期	3							
	卒業研究実習1	4 前期	4								
	卒業研究実習2	4 後期	4								
卒業制作	4 後期	4									
学科専門科目(選択)											

- (※1) 日本語以外を外国語として学ぶものは、「英語1・2」の4単位を修得すること。
日本語を外国語として学ぶものは、「日本語1・2」の4単位を修得すること。
- (※2) 選択必修科目の要件を超えて単位修得した場合は、超過単位を同一科目区分の選択科目単位とみなす。
- (※3) 以下の履修指定科目における修得単位は、全学共通教育選択科目単位に含む。
1年次:「大学入門」「キャリア1」「情報と倫理」
3年次:「キャリア3」
- (※4) 「横断科目」の修得単位数は、8単位を上限に卒業要件単位数に含む。

進級要件

- <1年次から2年次/○印>
○学部専門1年次必修科目16単位をすべて修得していること。
(「マンガデッサン1・2」「絵画技法1・2」「基礎デジタル実習1・2」合計6科目 16単位)
- <2年次から3年次/◎印>
◎学部専門2年次必修科目の16単位をすべて修得していること。
(「脚本実習1・2」「表現技法1・2」「デジタル実習1・2」合計6科目 16単位)
- <3年次から4年次/●印>
●学部専門3年次必修科目の12単位をすべて修得していること。
(「マンガ創作実習1・2」「マンガ制作実習1・2」合計4科目 12単位)

	必修科目	学部基盤科目	選択科目
<p>1年次</p> <p>コースの学びに応じて、マンガを描く基礎となる知識と技術を学ぶ。同時に大学生として求められる幅広い教養を身につける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・マンガデッサン 1・2 ・絵画技法 1・2 ・基礎デジタル実習 1・2 	<ul style="list-style-type: none"> ・マンガ概論1・2 ・マンガ史1・2 	<p>学科共通</p> <p>講義系科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・脚本概論1・2 <p>実習系科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マンガクロッキー
<p>2年次</p> <p>さらなる技術の向上を目指すとともに応用力を身につけ、独自の個性を創出することを目指す。選択科目においてはマンガ領域のさまざまな技術や知識とともに、幅広い教養を身につける科目を履修する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・脚本実習 1・2 ・表現技法 1・2 		<p>学部共通</p> <p>講義系科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マンガリテラシー1・2 ・キャラクター造形論1・2 ・メディア文化論 <p>講義系科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マンガ社会文化概論 ・ウェブトゥーン論 ・BL論 ・新世代マンガ総合講座 1・2 ・マンガビジネス基礎講義 ・マンガ演出論1・2 ・メディア産業論 ・マンガ表現史 <p>実習系科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カラー演習1・2 ・動態描写技法1・2 ・マンガデザイン1・2 ・マンガ背景技法 ・基礎デッサン1・2 ・実用マンガ実習1・2 ・コラボレーション実習1・2 ・BLマンガ実習1・2
<p>3年次</p> <p>希望する領域毎にゼミに分かれて、様々な表現技法を学びながら専門的な作品制作に取り組む。社会に向けて発信することを意識しながら、実践的な学びを行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・マンガ創作実習 1・2 ・マンガ制作実習 1・2 		
<p>4年次</p> <p>4年間の集大成としての卒業制作に取り組む。最終的に卒業制作展において自身の作品を社会に向けて発信する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業研究実習 1・2 	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業制作 	

マンガ学部 マンガ学科 ストーリーマンガコース／新世代マンガコース 履修モデル

● マンガ学部 マンガ学科 ストーリーマンガコース／新世代マンガコース

「確かなマンガ制作技術と教養を結びつけた、訴求力ある作品を描くマンガ家志望の学生」

科目区分	1年次			2年次			3年次			4年次			修得 単位数	
	科目名	必修/ 選択	単位 数	科目名	必修/ 選択	単位 数	科目名	必修/ 選択	単位 数	科目名	必修/ 選択	単位 数	小計	合計
全学共通教育科目	導入プログラム	大学入門	履修指定	1									1	
	表現科目				デッサン	選択	1	芸術学	選択	2	東洋美術史	選択	2	10
						写真技法	選択	1	日本美術史	選択	2	西洋美術史	選択	2
	グローバル科目	英語1/日本語1	選必	2	文化人類学	選択	2	和の伝統文化論	選択	2	京都の伝統工芸講座1	選択	2	12
		英語2/日本語2	選必	2							京都の伝統工芸講座2	選択	2	
	リベラル アーツ科目	アカデミックスキル1	必修	2				文学	選択	2				7
		アカデミックスキル2	必修	2										
社会実践力 育成 プログラム				京都の伝統産業実習	選択	2							2	
キャリア 科目	キャリア1	履修指定	1	コミュニケーション実践実習	選択	1	キャリア3	履修指定	1				4	
横断科目										ゲームデザイン論	選択	1		
学部専門教育科目	マンガ学部 基盤科目	マンガ概論1	必修	1									4	
		マンガ概論2	必修	1										
		マンガ史1	必修	1										
		マンガ史2	必修	1										
	マンガ学部 共通科目							キャラクター造形論1	選択	2	メディア文化論	選択	2	6
								キャラクター造形論2	選択	2				
	専門科目 (必修)	マンガデッサン1	必修	3	脚本実習1	必修	3							28
		マンガデッサン2	必修	3	脚本実習2	必修	3							
		絵画技法1	必修	3	表現技法1	必修	3							
		絵画技法2	必修	3	表現技法2	必修	3							
		基礎デジタル実習1	必修	2										
		基礎デジタル実習2	必修	2										
専門科目 (必修)				デジタル実習1	必修	2	マンガ創作実習1	必修	3				16	
				デジタル実習2	必修	2	マンガ創作実習2	必修	3					
							マンガ制作実習1	必修	3					
							マンガ制作実習2	必修	3					
専門科目 (選択)										卒業研究実習1	必修	4	12	
										卒業研究実習2	必修	4		
										卒業制作	必修	4		
専門科目 (選択)	マンガクローッキー	選択	2	マンガ演出論1	選択	2	動態描写技法1	選択	2	実用マンガ実習1	選択	2	22	
	脚本概論1	選択	2	マンガ演出論2	選択	2	動態描写技法2	選択	2	実用マンガ実習2	選択	2		
	脚本概論2	選択	2	カラー演習1	選択	2								
				カラー演習2	選択	2								

	必修科目	選択科目
<p>1年次</p> <p>キャラクターデザインを学ぶ上で基礎となる知識と技術を学ぶ。同時に大学生として求められる幅広い教養を身につける。</p>	<p>学科専門科目 (選択必修)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャラクター造形基礎1~4 ・3Dグラフィックス基礎1~4 ・ゲームデザイン基礎1~4 <p>学部基礎科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マンガ概論1・2 ・マンガ史1・2 	<p>講義系科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エンターテインメント総合講座 ・空想生物デザイン論
<p>2年次</p> <p>さらなる技術の向上を目指すとともに応用力を身につけ、独自の個性を創出することを目指す。選択科目においてはキャラクターデザイン・3Dグラフィックス・ゲームデザイン領域のさまざまな技術や知識とともに、幅広い教養を身につける科目を履修する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・キャラクター造形応用1・2 ・3Dグラフィックス応用1・2 ・ゲームデザイン応用1・2 	<p>学部共通</p> <p>講義系科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マンガリテラシー1・2 ・キャラクター造形論1・2 ・メディア文化論 <p>講義系科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャラクター表現史 ・神話キャラクター論 ・ゲーム史 ・ゲーム産業論 <p>実技系科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・背景技法 ・表現実践技法(DTP・展示・発表) ・カメラ表現技法 ・絵本技法 ・クリーチャー作画実習 ・コスチューム作画実習 ・アナログ描画技法 ・ポートフォリオデザイン ・デジタルイラスト技法 ・動物作画実習 ・映像編集 ・人体研究1・2 ・デジタルソフト実習 ・デジタル動画技法 ・3Dモデリング技法 ・3Dテクスチャリング ・3D背景モデリング ・アナログフィギュア造形 ・デジタルフィギュア造形 ・ゲームUIデザイン ・ビジュアルストーリーテリング ・トランスメディアストーリーテリング ・ゲームプランニング ・アナログゲーム制作実習 ・ゲームエンジン実習 ・ゲーム編集技法 ・VRコンテンツ制作
<p>3年次</p> <p>希望する領域毎にゼミに分かれて、様々な表現技法を学びながら専門的な作品制作に取り組む。社会に向けて発信することを意識しながら、実践的な学びを行う。</p>	<p>学科専門科目 (必修)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャラクターデザイン研究1・2 ・キャラクターデザイン実践1・2 	
<p>4年次</p> <p>4年間の集大成としての卒業制作に取り組む。最終的に卒業制作展において自身の作品を社会に向けて発信する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業研究実習1・2 ・卒業制作 	

マンガ学部 キャラクターデザイン学科 履修モデル

● マンガ学部 キャラクターデザイン学科

「キャラクターづくりを通じて絵心を育み、コンテンツの創造と発信に意欲的に取り組みたい学生」

科目区分	1年次			2年次			3年次			4年次			修得 単位数		
	科目名	必修/ 選択	単位 数	科目名	必修/ 選択	単位 数	科目名	必修/ 選択	単位 数	科目名	必修/ 選択	単位 数	小計	合計	
全学共通教育科目	導入プログラム	大学入門	履修指定	1									1		
	表現科目				工芸概論	選択	2			身体表現論	選択	2	6		
	グローバル科目	英語1/日本語1	選必修	2	京都学	選択	2	日本史	選択	2			8		
	リベラル アーツ科目	アカデミックスキル1	必修	2				科学史	選択	2	心理学	選択	2	9	
		アカデミックスキル2	必修	2											
	社会実践力 育成 プログラム				国内ショートプログラム	選択	2	京都の伝統産業実習	選択	2			4		
	キャリア 科目	キャリア1	履修指定	1				キャリア3	履修指定	1	仕事体験1	選択	1	4	
	横断科目				ゲームデザイン論	選択	1	CG史	選択	1	社会芸術論	選択	2	4	
学部専門教育科目	マンガ学部 基盤科目	マンガ概論1	必修	1									4		
		マンガ概論2	必修	1											
		マンガ史1	必修	1											
		マンガ史2	必修	1											
	マンガ学部 共通科目				キャラクター造形論1	選択	2	メディア文化論	選択	2			4		
	学科専門 科目 (選択必修)	キャラクター造形基礎1	選必修	1.5	キャラクター造形応用1	選必修	3							30	
		キャラクター造形基礎2	選必修	1.5	キャラクター造形応用2	選必修	3								
		キャラクター造形基礎3	選必修	1.5	3Dグラフィックス応用1	選必修	3								
		キャラクター造形基礎4	選必修	1.5	3Dグラフィックス応用2	選必修	3								
		3Dグラフィックス基礎1	選必修	1.5											
		3Dグラフィックス基礎2	選必修	1.5											
		3Dグラフィックス基礎3	選必修	1.5											
		3Dグラフィックス基礎4	選必修	1.5											
		ゲームデザイン基礎1	選必修	1.5											
		ゲームデザイン基礎2	選必修	1.5											
	ゲームデザイン基礎3	選必修	1.5												
	ゲームデザイン基礎4	選必修	1.5												
	学科専門 科目 (必修)							キャラクターデザイン研究1	必修	3	卒業研究実習1	必修	4	24	
							キャラクターデザイン研究2	必修	3	卒業研究実習2	必修	4			
							キャラクターデザイン実践1	必修	3	卒業制作	必修	4			
学科専門 科目 (選択)	空想生物デザイン論	選択	2	キャラクター表現史	選択	2	神話キャラクター論	選択	2				26		
	エンターテイメント総合講座	選択	2	デジタルイラスト技法	選択	2	カメラ表現技法	選択	2						
				クリーチャー作画実習	選択	2	表現実践技法 (DTP・展示・発表)	選択	2						
				人体研究1	選択	2	ポートフォリオデザイン	選択	2						
				アナログフィギュア造形	選択	2	3D背景モデリング	選択	2						
			3Dモデリング技法	選択	2										

アニメーション学科 アニメーションコース

マンガ学部 アニメーション学科 卒業要件

科目区分	必修科目					選択必修科目					選択科目	卒業に要する 単位(計)	
	進級 要件	科目名称	履修年次	単位 数	小計	進級 要件	科目名称	履修年次	単位 数	小計			
全学 共通 教育 科目	導入プログラム										28 単位 以上 (※3※4)	36 単位 以上	
	表現科目												
	グローバル科目					指定語学科目(※1)			各2	4単位 以上 (※2)			
	リベラルアーツ 科目	アカデミックスキル1	1	前期	2	4単位							
		アカデミックスキル2	1	後期	2								
	社会実践力 育成プログラム												
	キャリア科目												
横断科目													
学部 専門 教育 科目	学部基盤科目	マンガ概論1	1	1Q	1	4単位						124 単位 以上	
		マンガ概論2	1	2Q	1								
		マンガ史1	1	3Q	1								
		マンガ史2	1	4Q	1								
	学部共通科目												
	学科専門科目 (必修)	○ アニメーション作画基礎1	1	前期	3	39 単位	● アニメーション実践実習1	3	前期	3	9単位 以上 (※2※5)		36 単位 以上
		○ アニメーション作画基礎2	1	後期	3		● アニメーション実践実習2	3	後期	3			
		○ アニメーション人体構造	1	後期	2		● アニメーション実践実習3	3	前期	3			
		○ アニメーションCG基礎1	1	前期	2		● アニメーション実践実習4	3	後期	3			
		○ アニメーションCG基礎2	1	後期	2		● アニメーション実践実習5	3	前期	3			
		◎ アニメーション作画1	2	前期	3		● アニメーション実践実習6	3	後期	3			
		◎ アニメーション作画2	2	後期	3		● アニメーション実践実習7	3	前期	3			
		◎ アニメーション表現技法1	2	前期	2		● アニメーション実践実習8	3	後期	3			
		◎ アニメーション表現技法2	2	後期	2		● アニメーション実践実習9	3	前期	3			
		◎ アニメーション演出基礎1	2	前期	2		● アニメーション実践実習10	3	後期	3			
		◎ アニメーション演出基礎2	2	後期	2		● アニメーション実践実習11	3	前期	3			
		● 卒業制作企画	3	後期	1		● アニメーション実践実習12	3	後期	3			
● 卒業研究実習1	4	前期	4										
● 卒業研究実習2	4	後期	4										
● 卒業制作	4	後期	4										
学科専門科目 (選択)													

- (※1) 日本語以外を外国語として学ぶものは、「英語1・2」の4単位を修得すること。
日本語を外国語として学ぶものは、「日本語1・2」の4単位を修得すること。
- (※2) 選択必修科目の要件を超えて単位修得した場合は、超過単位を同一科目区分の選択科目単位とみなす。
- (※3) 以下の履修指定科目における修得単位は、全学共通教育選択科目単位に含む。
1年次:「大学入門」「キャリア1」「情報と倫理」
3年次:「キャリア3」
- (※4) 「横断科目」の修得単位数は、8単位を上限に卒業要件単位数に含む。
- (※5) 9単位以上の選択必修科目を履修。また履修した選択必修科目は前期後期を通して履修することが好ましい。

進級要件

- 〈1年次から2年次／○印〉
○学科専門1年次必修科目において5科目すべての単位を修得していること。
- 〈2年次から3年次／◎印〉
◎学科専門2年次必修科目において、5科目以上の単位を修得していること。
- 〈3年次から4年次／●印〉
●学科専門1年次から3年次必修科目のすべての単位、および学科専門選択必修科目のうち3科目以上の単位を修得していること。

マンガ学部 アニメーション学科 カリキュラムマップ

教育目標

- アニメーション表現に必要な画力を身につけると共に、観察をとおし「動き」の本質を理解した上で、動きの持つ言語性、芝居の重要性にも着目する。また、それを作画、CG、ストップモーション等様々な表現手法で伝える基本的な技術・知識の習得を目指す。
- プロダクションのみならず作品制作に必要なプリプロダクション、ポストプロダクション領域も含めた全般的な技術・知識の獲得も重視し、作品制作を俯瞰的に見ることのできる能力を身につける。

	アニメーション学科			マンガ学部共通	
	(必修科目)	(選択必修科目)	(選択科目)	(基盤科目(必修))	(選択科目)
1年次 基礎学習 アニメーションを学ぶ上で 基礎となる 知識や技術を学ぶ	実習系科目 ・アニメーション 作画基礎1・2 ・アニメーション 人体構造 ・アニメーション CG基礎1・2		実習系科目 ・アニメーション 基礎研究 ・ファースト ステップ1・2 ・ドローイング1・2 講義系科目 ・日本 アニメーション史 ・世界 アニメーション史	実習系科目 ・マンガ概論 1・2 ・マンガ史1・2	
2年次 基礎実習 「動き」が持つ表現力の 深さを理解し、 様々な技法の習得による 自己の表現を探求する	実習系科目 ・アニメーション 作画1・2 ・アニメーション 表現技法1・2 ・アニメーション 演出基礎1・2		実習系科目 ・アクション ドローイング1・2 ・アニメーション 音響基礎1・2 ・アニメーション 3DCG1・2 ・ストップ モーション1・2		講義系科目 ・キャラクター 造形論1・2 ・マンガ リテラシー1・2 ・メディア文化論
3年次 応用実習 これまでの学習成果をもとに 自身の適性を見極め、 卒業制作の準備に入る	実習系科目 ・卒業制作企画	実習系科目 ・アニメーション 実践実習1～12 (作画・CG・音響・ 製本・実写・撮影 などの専門クラス にて構成) ※上記選択科目 から3科目(9単位) 以上を修得する	講義系科目 ・シナリオ技法1・2 ・アニメーション 作品作家研究1・2 実習系科目 ・アニメーション 応用技法1・2 ・エフェクト技法 1・2		
4年次 作品制作 4年間の学びの 集大成である卒業制作に チームまたは個人で 取り組む	卒業研究実習 1・2 卒業制作				

マンガ学部 アニメーション学科 履修モデル



マンガ学部 アニメーション学科

「アニメーター系志望学生;基本的なアニメート能力を身につけ、将来アニメーション業界で仕事に就きたい学生」

科目区分	1年次			2年次			3年次			4年次			修得 単位数		
	科目名	必修/ 選択	単位 数	科目名	必修/ 選択	単位 数	科目名	必修/ 選択	単位 数	科目名	必修/ 選択	単位 数	小計	合計	
全学共通教育科目	導入プログラム	大学入門	履修指定	1									1	127	
	表現科目	グラフィックデザイン ソフトスキル	選択	1	身体表現論	選択	2	写真技法	選択	1					6
					美学	選択	2								
	グローバル 科目	英語1/日本語1	選必	2	日本文化概論	選択	1	和の伝統文化論	選択	2					7
		英語2/日本語2	選必	2											
	リベラル アーツ科目	アカデミックスキル1	必修	2	ダイバーシティと社会	選択	2	人類と人工知能	選択	2					13
		アカデミックスキル2	必修	2	データサイエンス	選択	2	情報科学	選択	2					
		情報と倫理	履修指定	1											
	社会実践力 育成 プログラム				国内ショートプログラム	選択	2								2
	キャリア 科目	キャリア1	履修指定	1				キャリア3	履修指定	1					5
							ポートフォリオ基礎実習	選択	1						
								クリエイティブの現場	選択	2					
横断科目				コンテンツ産業論1	選択	1	ポピュラー音楽論	選択	1				2		
学部専門教育科目	マンガ学部 基盤科目	マンガ概論1	必修	1									4		
		マンガ概論2	必修	1											
		マンガ史1	必修	1											
		マンガ史2	必修	1											
	学科専門 科目	アニメーション作画基礎1	必修	3	アニメーション作画1	必修	3	アニメーション実践実習1 (作画)	選必	3	卒業研究実習1	必修	4	87	
		アニメーション作画基礎2	必修	3	アニメーション作画2	必修	3	アニメーション実践実習2 (作画)	選必	3	卒業研究実習2	必修	4		
		アニメーション人体構造	必修	2	アニメーション表現技法1	必修	2	アニメーション実践実習5 (音響)	選必	3	卒業制作	必修	4		
		アニメーションCG基礎1 (グラフィック)	必修	2	アニメーション表現技法2	必修	2	アニメーション実践実習6 (音響)	選必	3					
		アニメーションCG基礎2	必修	2	アニメーション演出基礎1	必修	2	アニメーション実践実習11 (撮影)	選必	3					
		ドローイング1	選択	2	アニメーション演出基礎2	必修	2	アニメーション実践実習12 (撮影)	選必	3					
		ドローイング2	選択	2	アニメーション音響基礎1	選択	2	卒業制作企画 (アカデミック)	必修	1					
		アニメーション基礎研究 (基礎理論)	選択	2	アニメーション音響基礎2	選択	2	アニメーション応用技法1	選択	2					
		日本アニメーション史 (歴史)	選択	2	ストップモーション1	選択	3	アニメーション応用技法2	選択	2					
		世界アニメーション史 (歴史)	選択	2	ストップモーション2	選択	3								
					アニメーション作品作家 研究1(歴史)	選択	2								
			アクションドローイング1	選択	2										
			アクションドローイング2	選択	2										

マンガ学部 アニメーション学科

「CG撮影系志望学生;基本的なアニメート能力を身につけ、将来アニメーション業界で仕事に就きたい学生」

科目区分	1年次			2年次			3年次			4年次			修得単位数		
	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	科目名	必修/選択	単位数	小計	合計	
全学共通教育科目	導入プログラム	大学入門	履修指定	1									1	127	
	表現科目	グラフィックデザインソフトスキル	選択	1	身体表現論	選択	2	写真技法	選択	1					6
					美学	選択	2								
	グローバル科目	英語1/日本語1	選必	2	日本文化概論	選択	1	和の伝統文化論	選択	2					7
		英語2/日本語2	選必	2											
	リベラルアーツ科目	アカデミックスキル1	必修	2	ダイバーシティと社会	選択	2	人類と人工知能	選択	2					13
		アカデミックスキル2	必修	2	データサイエンス	選択	2	情報科学	選択	2					
		情報と倫理	履修指定	1											
	社会実践力育成プログラム				国内ショートプログラム	選択	2						2		
	キャリア科目	キャリア1	履修指定	1				キャリア3	履修指定	1					5
							ポートフォリオ基礎実習	選択	1						
							クリエイティブの現場	選択	2						
横断科目				コンテンツ産業論1	選択	1	ポピュラー音楽論	選択	1			2			
学部専門教育科目	マンガ学部基盤科目	マンガ概論1	必修	1									4		
		マンガ概論2	必修	1											
		マンガ史1	必修	1											
		マンガ史2	必修	1											
	学部専門科目	アニメーション作画基礎1	必修	3	アニメーション作画1	必修	3	アニメーション実践実習3(CG)	選必	3	卒業研究実習1	必修	4	87	
		アニメーション作画基礎2	必修	3	アニメーション作画2	必修	3	アニメーション実践実習4(CG)	選必	3	卒業研究実習2	必修	4		
		アニメーション人体構造	必修	2	アニメーション表現技法1	必修	2	アニメーション実践実習5(音響)	選必	3	卒業制作	必修	4		
		アニメーションCG基礎1(グラススキル)	必修	2	アニメーション表現技法2	必修	2	アニメーション実践実習6(音響)	選必	3					
		アニメーションCG基礎2	必修	2	アニメーション演出基礎1	必修	2	アニメーション実践実習11(撮影)	選必	3					
		ドローイング1	選択	2	アニメーション演出基礎2	必修	2	アニメーション実践実習12(撮影)	選必	3					
		ドローイング2	選択	2	アニメーション音響基礎1	選択	2	卒業制作企画(アカデミススキル)	必修	1					
		アニメーション基礎研究(基礎理論)	選択	2	アニメーション音響基礎2	選択	2	エフェクト技法1	選択	2					
		日本アニメーション史(歴史)	選択	2	アニメーション3DCG1	選択	2	エフェクト技法2	選択	2					
		世界アニメーション史(歴史)	選択	2	アニメーション3DCG2	選択	2								
					アニメーション作品作家研究1(歴史)	選択	2								
					アニメーション作品作家研究2(歴史)	選択	2								
					アクションドローイング1	選択	2								
					アクションドローイング2	選択	2								

マンガ学部 専門教育科目 科目一覧

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修／選択	授業形態	単位数	履修年次	ディプロマ・ポリシーとの相関				
							DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5
							知識と理解	創造的思考と考察	技術と表現	視点と協働	社会への関心と行動
基礎科目 マンガ学部	MfmZ1001	マンガ概論1	必修	講義	1	1・2・3・4	●	●			
	MfmZ1002	マンガ概論2	必修	講義	1	1・2・3・4		●			●
	MfmZ1011	マンガ史1	必修	講義	1	1・2・3・4	●	●			
	MfmZ1012	マンガ史2	必修	講義	1	1・2・3・4	●				●
マンガ学部 共通科目	MfmZ2101	キャラクター造形論1	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	MfmZ2102	キャラクター造形論2	選択	講義	2	2・3・4	●	●	●		
	MfmZ2111	マンガリテラシー1	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	MfmZ2112	マンガリテラシー2	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	MfmZ2121	メディア文化論	選択	講義	2	2・3・4	●	●			

ストーリーマンガコース・新世代マンガコース 専門教育科目 科目一覧

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修／選択	授業形態	単位数	履修年次	ディプロマ・ポリシーとの相関				
							DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5
							知識と理解	創造的思考と考察	技術と表現	視点と協働	社会への関心と行動
ストーリーマンガ・新世代マンガコース 専門科目(必修)	MdmZ1201	マンガデッサン1	必修	実習	3	1		●	●		
	MdmZ1202	マンガデッサン2	必修	実習	3	1		●	●		
	MdmZ1211	絵画技法1	必修	実習	3	1		●	●		
	MdmZ1212	絵画技法2	必修	実習	3	1		●	●		
	MdmZ1221	基礎デジタル実習1	必修	実習	2	1		●	●		
	MdmZ1222	基礎デジタル実習2	必修	実習	2	1	●		●		
	MdmZ2231	脚本実習1	必修	実習	3	2	●		●		
	MdmZ2232	脚本実習2	必修	実習	3	2		●	●		
	MdmZ2241	表現技法1	必修	実習	3	2		●	●		
	MdmZ2242	表現技法2	必修	実習	3	2		●	●		
	MdmZ2251	デジタル実習1	必修	実習	2	2	●		●		
	MdmZ2252	デジタル実習2	必修	実習	2	2	●		●		
	MdmZ3261	マンガ創作実習1	必修	実習	3	3		●	●		●
	MdmZ3262	マンガ創作実習2	必修	実習	3	3		●	●		●
	MdmZ3271	マンガ制作実習1	必修	実習	3	3		●	●		●
	MdmZ3272	マンガ制作実習2	必修	実習	3	3		●	●		●
	MdmZ4281	卒業研究実習1	必修	実習	4	4		●	●	●	
	MdmZ4282	卒業研究実習2	必修	実習	4	4		●	●	●	
	MdmZ4291	卒業制作	必修	成果評定	4	4	●	●	●		

ストーリーマンガコース・新世代マンガコース 専門教育科目 科目一覧

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修/選択	授業形態	単位数	履修年次	ディプロマ・ポリシーとの相関				
							DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5
							知識と理解	創造的思考と考察	技術と表現	視点と協働	社会への関心と行動
ストーリーマンガ・新世代マンガコース専門科目(選択)	MdmZ1301	マンガクローッキー	選択	実習	2	1・2・3・4	●		●		
	MdmZ2311	カラー演習1	選択	実習	2	2・3・4	●	●	●		
	MdmZ2312	カラー演習2	選択	実習	2	2・3・4	●	●	●		
	MdmZ2321	動態描写技法1	選択	実習	2	2・3・4	●	●	●		
	MdmZ2322	動態描写技法2	選択	実習	2	2・3・4	●	●	●		
	MdmZ2331	マンガデザイン1	選択	実習	2	2・3・4	●	●	●		
	MdmZ2332	マンガデザイン2	選択	実習	2	2・3・4	●	●	●		
	MdmZ2341	マンガ背景技法	選択	実習	2	2・3・4	●	●	●		
	MdmZ2351	基礎デッサン1	選択	実習	2	2・3・4	●		●		
	MdmZ2352	基礎デッサン2	選択	実習	2	2・3・4	●		●		
	MdmZ2361	実用マンガ実習1	選択	実習	2	2・3・4		●		●	●
	MdmZ2362	実用マンガ実習2	選択	実習	2	2・3・4		●		●	●
	MdmZ2371	コラボレーション実習1	選択	実習	2	2・3・4		●		●	●
	MdmZ2372	コラボレーション実習2	選択	実習	2	2・3・4		●		●	●
	MdmZ2381	BLマンガ実習1	選択	実習	2	2・3・4		●	●	●	
	MdmZ2382	BLマンガ実習2	選択	実習	2	2・3・4		●	●	●	
	MdmZ1391	脚本概論1	選択	講義	2	1・2・3・4	●	●			
	MdmZ1392	脚本概論2	選択	講義	2	1・2・3・4	●	●			
	MdmZ2401	マンガ社会文化概論	選択	講義	2	2・3・4	●			●	●
	MdmZ2411	ウェブトゥーン論	選択	講義	2	2・3・4	●			●	●
ストーリーマンガ・新世代マンガコース専門科目(選択)	MdmZ2421	BL論	選択	講義	2	2・3・4	●			●	●
	MdmZ2431	新世代マンガ総合講座1	選択	講義	2	2・3・4	●		●		●
	MdmZ2432	新世代マンガ総合講座2	選択	講義	2	2・3・4	●		●		●
	MdmZ2441	マンガビジネス基礎講義	選択	講義	2	2・3・4	●			●	●
	MdmZ2451	マンガ演出論1	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	MdmZ2452	マンガ演出論2	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	MdmZ2461	メディア産業論	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	MdmZ2471	マンガ表現史	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	MfdZ2901	基礎立体・彫塑	選択	演習	2	2・3・4			●		
	MfdZ2911	工芸	選択	演習	2	2・3・4			●		

キャラクターデザイン学科 専門教育科目 科目一覧

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修／選択	授業形態	単位数	履修年次	ディプロマ・ポリシーとの相関				
							DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5
							知識と理解	創造的思考と考察	技術と表現	視点と協働	社会への関心と行動
キャラクターデザインコース 専門科目(選択必修)	McdZ1201	キャラクター造形基礎1	選択必修	実習	1.5	1	●		●		
	McdZ1202	キャラクター造形基礎2	選択必修	実習	1.5	1	●		●		
	McdZ1203	キャラクター造形基礎3	選択必修	実習	1.5	1	●		●		
	McdZ1204	キャラクター造形基礎4	選択必修	実習	1.5	1	●		●		
	McdZ1211	3Dグラフィックス基礎1	選択必修	実習	1.5	1	●		●		
	McdZ1212	3Dグラフィックス基礎2	選択必修	実習	1.5	1	●		●		
	McdZ1213	3Dグラフィックス基礎3	選択必修	実習	1.5	1	●		●		
	McdZ1214	3Dグラフィックス基礎4	選択必修	実習	1.5	1	●		●		
	McdZ1221	ゲームデザイン基礎1	選択必修	実習	1.5	1	●		●		
	McdZ1222	ゲームデザイン基礎2	選択必修	実習	1.5	1	●	●			
	McdZ1223	ゲームデザイン基礎3	選択必修	実習	1.5	1	●		●		
	McdZ1224	ゲームデザイン基礎4	選択必修	実習	1.5	1	●		●		
	McdZ2231	キャラクター造形応用1	選択必修	実習	3	2	●	●	●		
	McdZ2232	キャラクター造形応用2	選択必修	実習	3	2	●	●	●		
	McdZ2241	3Dグラフィックス応用1	選択必修	実習	3	2	●	●	●		
	McdZ2242	3Dグラフィックス応用2	選択必修	実習	3	2	●	●	●		
McdZ2251	ゲームデザイン応用1	選択必修	実習	3	2	●		●			
McdZ2252	ゲームデザイン応用2	選択必修	実習	3	2	●		●			
キャラクターデザインコース 専門科目(必修)	McdZ3301	キャラクターデザイン研究1	必修	実習	3	3		●		●	●
	McdZ3302	キャラクターデザイン研究2	必修	実習	3	3		●		●	●
	McdZ3311	キャラクターデザイン実践1	必修	実習	3	3	●		●	●	
	McdZ3312	キャラクターデザイン実践2	必修	実習	3	3	●		●	●	
	McdZ4321	卒業研究実習1	必修	実習	4	4		●	●	●	
	McdZ4322	卒業研究実習2	必修	実習	4	4		●	●	●	
	McdZ4331	卒業制作	必修	成果 評定	4	4		●	●		●
キャラクターデザインコース 専門科目(選択)	McdZ2411	3Dモデリング技法	選択	実習	2	2・3・4	●	●	●		
	McdZ2421	3Dテクスチャリング	選択	実習	2	2・3・4	●	●	●		
	McdZ2431	3D背景モデリング	選択	実習	2	2・3・4	●	●	●		
	McdZ2441	アナログフィギュア造形	選択	実習	2	2・3・4	●	●	●		
	McdZ2451	デジタルフィギュア造形	選択	実習	2	2・3・4	●	●	●		
	McdZ2461	背景技法	選択	実習	2	2・3・4	●	●	●		
	McdZ2471	表現実践技法	選択	実習	2	2・3・4	●	●	●		
	McdZ2481	カメラ表現技法	選択	実習	2	2・3・4	●	●	●		
	McdZ2491	絵本技法	選択	実習	2	2・3・4	●	●	●		
	McdZ2501	クリーチャー作画実習	選択	実習	2	2・3・4	●	●	●		
	McdZ2511	コスチューム作画実習	選択	実習	2	2・3・4	●	●	●		
	McdZ2521	アナログ描画技法	選択	実習	2	2・3・4	●	●	●		
	McdZ2531	ポートフォリオデザイン	選択	実習	2	2・3・4	●	●	●		
	McdZ2541	デジタルイラスト技法	選択	実習	2	2・3・4	●	●	●		

キャラクターデザイン学科 専門教育科目 科目一覧

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修/選択	授業形態	単位数	履修年次	ディプロマ・ポリシーとの相関				
							DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5
							知識と理解	創造的思考と考察	技術と表現	視点と協働	社会への関心と行動
キャラクターデザインコース専門科目(選択)	McdZ2551	動物作画実習	選択	実習	2	2・3・4	●	●	●		
	McdZ2561	映像編集	選択	実習	2	2・3・4	●	●	●		
	McdZ2571	人体研究1	選択	実習	2	2・3・4	●	●	●		
	McdZ2572	人体研究2	選択	実習	2	2・3・4	●	●	●		
	McdZ2581	デジタルソフト実習	選択	実習	2	2・3・4	●	●	●		
	McdZ2591	デジタル動画技法	選択	実習	2	2・3・4	●	●	●		
	McdZ2601	ゲームUIデザイン	選択	実習	2	2・3・4	●	●	●		
	McdZ2611	ビジュアルストーリーテリング	選択	実習	2	2・3・4	●	●	●		
	McdZ2621	トランスメディアストーリーテリング	選択	実習	2	2・3・4	●	●			●
	McdZ2631	ゲームプランニング	選択	実習	2	2・3・4	●	●	●		
	McdZ2641	アナログゲーム制作実習	選択	実習	2	2・3・4	●	●	●		
	McdZ2651	ゲームエンジン実習	選択	実習	2	2・3・4	●	●	●		
	McdZ3661	ゲーム編集技法	選択	実習	2	3・4	●	●	●		
	McdZ2671	VRコンテンツ制作	選択	実習	2	2・3・4	●	●	●		
	McdZ2681	キャラクター表現史	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
	McdZ1691	空想生物デザイン論	選択	講義	2	1・2・3・4	●		●		●
	McdZ2701	神話キャラクター論	選択	講義	2	2・3・4	●	●	●		
	McdZ1721	エンターテイメント総合講座	選択	講義	2	1・2・3・4	●	●			●
	McdZ2731	ゲーム史	選択	講義	2	2・3・4	●	●			
	McdZ2741	ゲーム産業論	選択	講義	2	2・3・4	●	●			●
MfdZ2901	基礎立体・彫塑	選択	演習	2	2・3・4			●			
MfdZ2911	工芸	選択	演習	2	2・3・4			●			

アニメーション学科 専門教育科目 科目一覧

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修／選択	授業形態	単位数	履修年次	ディプロマ・ポリシーとの相関				
							DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5
							知識と理解	創造的思考と考察	技術と表現	視点と協働	社会への関心と行動
講義科目	ManZ1201	日本アニメーション史	選択	講義	2	1・2・3・4	●				
	ManZ1211	世界アニメーション史	選択	講義	2	1・2・3・4	●				
学科専門実習科目	ManZ1301	アニメーション作画基礎1	必修	実習	3	1	●		●		
	ManZ1302	アニメーション作画基礎2	必修	実習	3	1	●		●		
	ManZ1311	アニメーション人体構造	必修	実習	2	1	●		●		
	ManZ1321	アニメーションCG基礎1	必修	実習	2	1	●		●		
	ManZ1322	アニメーションCG基礎2	必修	実習	2	1	●		●		
	ManZ1331	アニメーション基礎研究	選択	実習	2	1・2・3・4	●			●	●
	ManZ1341	ファーストステップ1	選択	実習	2	1・2・3・4	●	●			
	ManZ1342	ファーストステップ2	選択	実習	2	1・2・3・4	●	●	●		
	ManZ1351	ドローイング1	選択	実習	2	1・2・3・4			●		
	ManZ1352	ドローイング2	選択	実習	2	1・2・3・4			●		
	ManZ2361	アニメーション作画1	必修	実習	3	2	●	●	●		
	ManZ2362	アニメーション作画2	必修	実習	3	2		●	●		
	ManZ2371	アニメーション表現技法1	必修	実習	2	2	●		●		
	ManZ2372	アニメーション表現技法2	必修	実習	2	2	●		●		
	ManZ2381	アニメーション演出基礎1	必修	実習	2	2	●	●	●		
	ManZ2382	アニメーション演出基礎2	必修	実習	2	2		●	●		
	ManZ2391	アニメーション音響基礎1	選択	実習	2	2・3・4	●		●		
	ManZ2392	アニメーション音響基礎2	選択	実習	2	2・3・4	●		●		
	ManZ2401	アニメーション3DCG1	選択	実習	2	2・3・4	●		●		
	ManZ2402	アニメーション3DCG2	選択	実習	2	2・3・4	●		●		
	ManZ2411	ストップモーション1	選択	実習	3	2・3・4	●		●		
	ManZ2412	ストップモーション2	選択	実習	3	2・3・4		●	●	●	
	ManZ2421	アニメーション作品作家研究1	選択	講義	2	2・3・4	●				
	ManZ2422	アニメーション作品作家研究2	選択	講義	2	2・3・4	●				
	ManZ2431	アクションドローイング1	選択	実習	2	2・3・4			●		
	ManZ2432	アクションドローイング2	選択	実習	2	2・3・4			●		
	ManZ2441	シナリオ技法1	選択	実習	1	2・3・4	●	●			
	ManZ2442	シナリオ技法2	選択	実習	1	2・3・4	●	●			
	ManZ3451	卒業制作企画	必修	実習	1	3	●	●		●	
	ManZ3461	アニメーション実践実習1	選択必修	実習	3	3・4	●	●	●		
	ManZ3462	アニメーション実践実習2	選択必修	実習	3	3・4			●	●	●
	ManZ3463	アニメーション実践実習3	選択必修	実習	3	3・4		●	●		
	ManZ3464	アニメーション実践実習4	選択必修	実習	3	3・4		●	●		
	ManZ3465	アニメーション実践実習5	選択必修	実習	3	3・4		●	●		●
	ManZ3466	アニメーション実践実習6	選択必修	実習	3	3・4		●	●		●
	ManZ3467	アニメーション実践実習7	選択必修	実習	3	3・4		●	●		●
ManZ3468	アニメーション実践実習8	選択必修	実習	3	3・4		●	●		●	

アニメーション学科 専門教育科目 科目一覧

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修／選択	授業形態	単位数	履修年次	ディプロマ・ポリシーとの相関				
							DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5
							知識と理解	創造的思考と考察	技術と表現	視点と協働	社会への関心と行動
学科専門実習科目	ManZ3469	アニメーション実践実習9	選択必修	実習	3	3・4			●	●	●
	ManZ3470	アニメーション実践実習10	選択必修	実習	3	3・4			●	●	●
	ManZ3471	アニメーション実践実習11	選択必修	実習	3	3・4		●	●		●
	ManZ3472	アニメーション実践実習12	選択必修	実習	3	3・4		●	●		●
	ManZ3481	アニメーション応用技法1	選択	実習	2	3・4		●	●		
	ManZ3482	アニメーション応用技法2	選択	実習	2	3・4		●	●		
	ManZ3491	エフェクト技法1	選択	実習	2	3・4			●		
	ManZ3492	エフェクト技法2	選択	実習	2	3・4			●		
	ManZ4501	卒業研究実習1	必修	実習	4	4	●	●	●		
	ManZ4511	卒業研究実習2	必修	実習	4	4			●	●	●
	ManZ4521	卒業制作	必修	成果評定	4	4	●	●	●		
	MfdZ2901	基礎立体・彫塑	選択	演習	2	2・3・4			●		
	MfdZ2911	工芸	選択	演習	2	2・3・4			●		

7

大学院 Graduate School

- P.158 人文学研究科 修士課程
- P.162 芸術研究科 博士前期課程
- P.166 デザイン研究科 修士課程
- P.170 マンガ研究科 博士前期課程
- P.176 博士前期課程・修士課程 様式見本
- P.177 博士前期課程・修士課程 カリキュラム構成／科目一覧
- P.178 博士前期課程・修士課程 科目一覧
- P.180 芸術研究科 博士後期課程
- P.184 マンガ研究科 博士後期課程

人文学研究科 修士課程

教育方針

● 育成人材像

グローバルな観点から思考し、リベラルアーツに基づいてより良い社会を創る意欲を持ち、多様な人々と協働し、世界の様々な問題に対する新しい価値を表現し、提供できる人間。

● 教育研究目的

人文学研究科修士課程の教育研究目的は、多角的な視座と追究的な思考をもって物事を認識するとともに、絶えず自己に立ち戻り問い直しながら理解を深め、そうした人文知をもってより良い社会の創出に資することのできる研究者ないし高度専門職業人を育成することです。主体的かつ開かれた創造的な思考力を発揮し、他者と相互に価値を共有しながら新たな価値を社会に見出し表明する力を養います。所定の修了要件をみたし、かつディプロマ・ポリシーに定める5つの能力を修得した者に学位(修士:人文学)を授与します。

● ディプロマ・ポリシー

人文学研究科修士課程を修了した者は、本学カリキュラムを通じて身につけた次の5つの能力をもって、各専門分野を牽引する人材として活躍することが期待されます。

知識と理解	専門分野における新旧の研究成果を熟知するとともに、それによって培われた知性と人間性で社会の発展に貢献できる。
創造的思考と考察	対象を深く考察し既成の枠組みにとらわれない位置づけを試み、複数の視点から問題の本質と問題解決の方向・方法を探ることができる。
技術と表現	各分野での確固たる技術に立脚した追究によって価値観の枠組みを問い直し、社会の関心を得ることができる。
視点と協働	多様な価値観のもとで他者と協調しながら課題解決に取り組むことができる。
社会への関心と行動	高度なコミュニケーション、課題設定などを通して、専門性に立脚しつつ総合的な観点から社会や文化の発展に貢献することができる。

● カリキュラム・ポリシー

人文学研究科修士課程は、学士課程の教育をさらに発展させ、ディプロマ・ポリシーに基づく学位授与を達成するために、共通基盤科目、専門特講科目、専門研究科目を体系的に編成し、講義と演習を適切に組み合わせた授業を開講します。また、科目のナンバリングおよびカリキュラム・マップにより、カリキュラムの体系を明示します。

共通基盤科目

共通基盤科目では、各自の専門分野を社会とのかかわりのなかに位置づけ、新しい価値観を見出し表明するのに欠かせない基礎的な能力を高める科目群を配置しています。それらを通じて、プレゼンテーション、英語読解、社会調査、論文執筆などの実践的方法を学ぶことができます。また、PBL(Project-Based Learning)型演習によって高度な社会実践力を養うことができます。

専門特講科目

専門特講科目は、人文学の諸領域に関する高度な専門的講義で構成されています。一定の条件のもと、他研究科の講義を受講することも可能です。他の分野・ジャンルに関する歴史、理論、現代社会とのかかわりについて深く学際的に学ぶことで、一層高度な知性やより高い水準での協働を領域横断的に育むことができます。

専門研究科目

専門研究科目では、学士課程よりもさらに専門的な知識や技法を習得することを目的としています。より専門的な特殊講義を通じて人文学における研究に慣熟する一方、継続的な演習を通じて自身の研究を進めていきます。指導教員を中心とした指導体制のもと、計画書の定期的な提出、各研究室での個別指導、ゼミ報告の実施によって研究の進捗を可視化し、2年間で修士論文の作成を目指します。

修士論文については、2年次前期末および後期中ごろに実施される修士論文中間報告会を通じて、他分野の教員を交えた段階的な指導とチェックの機会が設けられています。また、2年次後期末に実施される修士論文最終報告会は口頭試験を兼ねており、その後、主査と副査からなる学位審査会において厳正に判定され、修了可否についての最終的な評価が下されます。

修了要件

科目区分	修了要件	
共通基盤科目	必修2単位を含む6単位以上	左記30単位以上を修得のうえ 修士論文を提出し 学位審査に合格すること
専門特講科目	人文学研究科から4単位以上および 他研究科から2単位以上、計8単位以上	
専門研究科目	必修8単位を含む16単位以上	

学位審査スケジュール

年次	時期	行事・提出物
1年	4月上旬	◇全研究科合同オリエンテーション ◇人文学研究科オリエンテーション
	8月上旬	◆修士論文中間報告会(前期)
	10月下旬	◆修士論文中間報告会(後期)
	2月上旬	◆修士論文最終報告会 ※2年生の報告を聴講
2年	4月上旬	◇人文学研究科オリエンテーション
	8月上旬	◆修士論文中間報告会(前期)
	10月下旬	◆修士論文中間報告会(後期)
	12月上旬	「学位申請書(修士論文最終題目届)」提出
	1月中旬	「修士論文」提出 「修士論文要旨(和文・英文双方)」提出
	2月上旬	◆修士論文最終報告会 ◆学位審査会
	2月下旬	「修士論文」【完全版】提出 「論文要旨(和文・英文双方)」【完全版】提出
3月20日	◆学位授与式	

※具体的な日程や提出方法は、各年度の始めにお知らせします。

研究指導体制

①指導教員

指導を受けられる教員については、4月のオリエンテーション時にお知らせします。

②指導体制

指導教員1名が主に指導をするとともに、人文学部／国際文化学部の教員も学生および指導教員の求めに応じて適宜、研究に関する助言を与えます。指導教員は1年次前期末に決定します。

1年次前期中は「人文学合同演習」の担当者がアドバイザー教員として1年生を指導し、1年次後期には前期末に決定した指導教員(主査)が「人文学基礎演習」で1年生を指導します。2年次では、「人文学演習1」(前期)および「人文学演習2」(後期)で、指導教員が学位論文の主査として修士論文作成にむけて2年生を指導します。

※詳細は、4月のオリエンテーション時にお知らせします。

各種行事における評価・判定

課程の修了に向け、以下の報告会および審査会が開かれます。

1年次:修士論文中間報告会(前期)、修士論文中間報告会(後期)、修士論文最終報告会

2年次:修士論文中間報告会(前期)、修士論文中間報告会(後期)、修士論文最終報告会、学位審査会

これらの行事では、ルーブリック評価により、評価・判定を行いません。

※詳細は、4月のオリエンテーション時にお知らせします。

機関リポジトリへの登録

学位審査に合格した修士論文もしくは修士論文要旨は機関リポジトリに登録掲載します。

本要領は、本学大学院人文学研究科修士課程に在籍する学生の学位論文に関する研究指導および論文提出等について、本学大学院学則および本学大学院学位規程に基づき、実施に必要な要項を定める。

(1) 課程修了までの流れ

- 学生は、修士論文を在学期間内に提出し、審査を受けなくてはならない。
- 修士論文に関する研究指導は、大学院の研究指導を担当する教員がおこなう。
- 修士論文は、学生の独自性と当該研究分野についての広い理解を示すものでなければならない。
- 学生は、学位申請書、修士論文および修士論文要旨を指定された期日までに、指定された窓口へ提出しなければならない。
- 修士論文が提出された場合は、学位審査委員会を設け、審査をおこなう。
- 学位審査委員会は、提出された修士論文の内容に関した研究分野の専任指導教員(主査)と、研究科委員会において認定された2名以上の専任教員等(副査)により組織する。研究科委員会が必要と認めた場合は、本学教員・他大学教員・研究所の所員等、人文学研究科に所属しない者を審査委員に加えることができる。ただし、学外者の審査委員は、原則1名までとする。
- 学生は、修士論文の審査に先立ち、自らの研究成果を内外に発表するため、研究発表会(修士論文最終報告会)において発表しなければならない。
- 最終試験は、修士論文を提出した者に対し、提出された論文を中心として口頭または筆記によりおこなう。
- 修士論文の審査および最終試験は、学位審査委員がおこなう。その可否は、学位審査委員会の報告に基づき、研究科委員会の議を経て、決定する。
- 課程修了の認定を受けた者の修士論文は、修士論文集という形で社会に公表し、また情報館において永久保存する。

(2) 修士論文について

①使用言語

- 修士論文の執筆用語は原則日本語とする。ただし、指導教員が適当と認めた場合、人文学研究科委員会の承認を経て、日本語以外の言語を用いることができる。

②書式

- 白紙A4サイズに黒インクで印刷すること。
- マイクロソフトWord形式での提出を原則とする。
- 横書き(1頁の字数は40字×40行)を基本とし、必要に応じて縦書きを認める。
- 枚数の制限は設けない。
- 外表紙、中表紙および本文の形式については様式2・4(P.188)を参照すること。
- 副本はコピー機による複写を可とする。
- 複写は片面とし、鮮明で支障なく読めるものであること。
- 正本、副本ともにフラットファイルに綴じられていること。
- 指導教員の署名を必要とする。
- 以上の書式以外で作成された論文は受け付けない。

③提出

- 提出期限は1月中旬を基本とし、研究科委員会で決定し、通知する。
- まずは、データ(Wordファイル)を所定のフォームより提出すること。
- その後、正本1部、副本3部を教務チーム窓口へ提出すること。
- 所定の期限を過ぎた提出は受け付けない。

(3) 修士論文要旨について

①使用言語および書式

- 要旨は和文・英文双方で作成すること。和文は1,000字、英文は300words程度とする。
- 表紙および本文は様式3・4(P.178)を参照し、本文は修士論文と同一の書式とする

②提出

- 提出期限は修士論文の提出期限と同様とする。
- まずは、データ(Wordファイル)を所定のフォームより提出すること。
- その後、修士論文とは別紙にした修士論文要旨の表紙および本文の正本1部、副本3部を教務チーム窓口へ提出すること。
- 所定の期限を過ぎた提出は受け付けない。

芸術研究科 博士前期課程

教育方針

● 育成人材像

グローバルな観点から思考し、リベラルアーツに基づいてより良い社会を創る意欲を持ち、多様な人々と協働し、世界の様々な問題に対する新しい価値を表現し、提供できる人間。

● 教育研究目的

芸術研究科博士前期課程の教育研究目的は、高度な技法と思考をもって独創的な表現を創造するアーティストないしは高度専門職業人の育成です。主体的な創造性を発揮し、他者と協働することで新たな価値を社会に向けて創出する力を養います。所定の修了要件をみたし、かつ5つの能力(ディプロマ・ポリシー)を習得した者に学位(修士:芸術)を授与します。

● ディプロマ・ポリシー

芸術研究科博士前期課程を修了した者は、本学カリキュラムを通じて身につけた次の5つの能力をもって、各専門分野を牽引する人材として活躍することが期待されます。

知識と理解	専門分野における新旧の研究制作の成果を熟知するとともに、それによって培われた知性と人間性で社会の発展に貢献できる。
創造的思考と考察	対象をより深く考察することができ、複数の視点から芸術や美術教育に関する問題解決の方法を探ることができる。
技術と表現	各分野での確固たる技術に立脚した表現で現代社会の共感・関心を得ることができる。
視点と協働	多様な価値観のもとで他者と協調しながら芸術や社会に関わる課題解決に取り組むことができる。
社会への関心と行動	高度なコミュニケーション、課題設定などを通じて、総合的な観点から、広く社会や教育の発展に貢献することができる。

● カリキュラム・ポリシー

芸術研究科博士前期課程は、学士課程の教育をさらに発展させ、学位授与(ディプロマ・ポリシー)を達成するために、共通基盤科目、専門特講科目、専門研究科目を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を開講します。また、科目のナンバリングおよびカリキュラム・マップにより、カリキュラムの体系を明示します。

共通基盤科目

共通基盤科目では、各自の専門分野を社会とのかかわりのなかに位置づけ、新しい価値観を創出するのに欠かせない基礎的な能力を高める科目群を配置しています。それらを通じて、プレゼンテーション、英語読解、作品調査、展示手法などの実践的方法を学ぶことができます。また、PBL(Project-Based Learning)型演習によって高度な社会実践力を養うことができます。

専門特講科目

専門特講科目は、芸術理論、美術史、現代アートに関する高度な専門的講義で構成されています。一定の条件のもと、他研究科の講義を受講することも可能です。他の分野・ジャンルに関する歴史、理論、現代社会とのかかわりについて深く学ぶことで、一層高度な知性やより高い水準での協働を領域横断的に育むことができます。

専門研究科目

専門研究科目では、学士課程よりもさらに専門的な知識や技法を修得することを目的としています。複数教員による指導体制のもと、計画書の定期的な提出、8つの専攻での個別指導、ゼミ報告の実施によって研究制作の進捗を可視化し、2年間での修士論文ないしは修士作品の作成を目指します。

修士論文ないしは修士作品については、2年次に8専攻合同で実施される中間発表を通じて、他専攻の教員を交えた段階的な指導とチェックの機会が設けられています。また、2年次2月の学位審査会では、修士論文および修士作品について、専攻を異にする複数教員によってルーブリック評価が実施されます。その厳格な運用を通じて、提出作品の可否について判定が下されます。

修了要件

科目区分	修了要件	
共通基盤科目	必修2単位を含む6単位以上	左記30単位以上を修得のうえ 修士論文または修士作品を提出し 学位審査に合格すること
専門特講科目	芸術研究科から4単位以上および 他研究科から2単位以上、計8単位以上	
専門研究科目	必修16単位以上	

学位審査スケジュール

年次	時期	行事・提出物
1年	4月上旬	◇全研究科合同オリエンテーション ◇芸術研究科オリエンテーション
	8月上旬	◆中間報告会 ※2年生の報告を聴講
	2月中旬	◆最終発表会 ※2年生の発表を聴講
2年	4月上旬	◇芸術研究科オリエンテーション
	8月上旬	◆中間報告会
	12月上旬	「学位申請書(修士論文・修士作品最終題目届)」提出
	1月中旬	「修士論文」または「修士作品」提出 「修士論文要旨」または「修士作品要旨」提出
	2月中旬	◆最終発表会 ◆学位審査会 ◆修了制作展
	3月20日	◆学位授与式

※具体的な日程や提出方法は、各年度の始めにお知らせします。

研究指導体制

①指導教員

指導を受けられる教員については、4月のオリエンテーション時にお知らせします。

②指導体制

指導教員(主査)1名+副査2名=計3名

指導教員は1年次4月のオリエンテーション時に、副査は2年次前期中に決定します。

※詳細は、4月のオリエンテーション時にお知らせします。

各種行事における評価・判定

課程の修了に向け、以下の報告会および審査会が開かれます。

1年次:なし ※2年次の報告会および発表会を聴講

2年次:中間報告会、最終発表会、学位審査会

これらの行事では、ルーブリック評価により、評価・判定を行いません。

※詳細は、4月のオリエンテーション時にお知らせします。

機関リポジトリへの登録

学位審査に合格した修士論文もしくは修士論文要旨、修士作品もしくは修士作品要旨は機関リポジトリに登録掲載します。

(1) 修士論文・作品について

【修士論文】

①使用言語

論文の執筆用語は原則として日本語とする。ただし、研究分野の性質上、あるいは研究成果を発表するうえでの必要性に鑑み、研究科委員会において認められた場合のみ英語での論文執筆を可とする。英語で論文を執筆する場合は、論文提出時に必ず日本語訳を添付すること。

②書式

- 白紙A4サイズに黒インクで印刷のこと。
- PC使用可。
- 横書き（特に和文の縦書きを希望する場合は、研究指導教員と協議のうえ、研究科長に届け出ること）。
- 使用言語を日本語とする場合は400字詰め原稿50枚以上（注釈・資料を除く）、またはPC使用の場合はA4用紙で20,000字以上（10.5ポイント、1行40字、40行、注釈・資料を除く）とすること。
- 使用言語を英語とする場合は原則 PCを使用し、11,000words以上（注釈・資料を除く）とすること。またA4用紙にダブルスペースにより作成すること。
- 目次の頁を設けること。
- 本文には下段中央に頁数を付与すること。ただし、目次、参考文献、資料等には頁数を付与しないか、別立てで頁数を付与すること。
- 脚注は各頁毎、あるいは各章毎、あるいは本文の最後にまとめる形式のいずれかにすること。
- 本文と注は通しで頁数を付与すること。
- 表紙および本文の形式については、様式2・4(P.176)を参照すること。
- 表紙には研究指導教員の署名・捺印を必要とする。
- 副本は、複写を可とする。
- 複写は片面または両面いずれも可とする。ただし、鮮明で支障なく読めるものであること。
- 以上の書式以外で作成された論文は受け付けない。

③提出

- 提出期限は1月中旬を基本とし、研究科委員会で決定し、通知する。
- まずは、データ（Wordファイル）を所定のフォームより提出すること。
- その後、正本1部、副本3部をそれぞれファイリングのうえ、教務チーム窓口へ提出すること。
- 所定の期限を過ぎた提出は受け付けない。

【修士作品】

- 提出期限は1月中旬を基本とし、研究科委員会で決定し、通知する。
 - 以下2点を教務チーム窓口へ提出すること。
1. 表紙（様式2）：1部
 2. 修士作品の概要がわかるもの（右記、参考例を参照）：1部
- ※1、2は白紙A4サイズに黒インクで印刷すること。1は研究指導教員の署名・捺印を必要とする。
- 所定の期限を過ぎた提出は受け付けない。

(2) 修士論文・作品要旨について

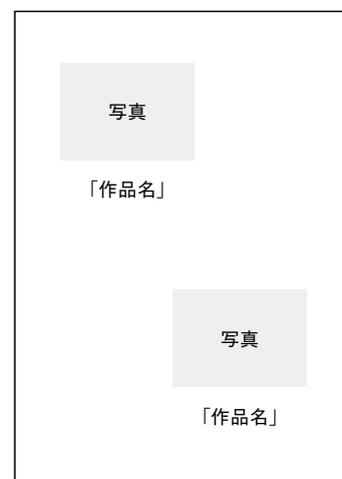
①使用言語および書式

- 要旨の表紙は様式3(P.176)、要旨の本文は様式4(P.176)の書式に従うこと。
- 要旨の本文の文字数は以下の通りとする。
修士論文要旨：日本語2,000字程度または英語1,100words程度
修士作品要旨：日本語800字程度または英語440words程度
- 白紙A4サイズに黒インクで印刷すること。

②提出

- 提出期限は修士論文・作品の提出期限と同様とする。
- まずは、データ（Wordファイル）を所定のフォームより提出すること。
- その後、以下を教務チーム窓口へ提出すること。
修士論文要旨：表紙および本文の正本1部、副本3部
修士作品要旨：表紙および本文の正本1部
- 所定の期限を過ぎた提出は受け付けない。

参考例



※写真の掲載数は任意とする。
写真の下部にはタイトル、サイズ等を掲載。

デザイン研究科 修士課程

教育方針

● 育成人材像

グローバルな観点から思考し、リベラルアーツに基づいてより良い社会を創る意欲を持ち、多様な人々と協働し、世界の様々な問題に対する新しい価値を表現し、提供できる人間。

● 教育研究目的

デザイン研究科修士課程の教育研究目的は、高度な技法と思考をもって独創的な表現を創造するデザイナーないしデザイン理論研究者の育成です。主体的な創造性を発揮し、他者と協働することで新たな価値を社会に向けて創出する力を養います。所定の修了要件をみたし、かつ5つの能力(ディプロマ・ポリシー)を習得した者に学位(修士:芸術)を授与します。

● ディプロマ・ポリシー

修士課程を修了した者は、本学カリキュラムを通じて身につけた次の5つの能力をもって、各専門分野を牽引する人材として活躍することが期待されます。

知識と理解	専門分野における新旧の研究制作の成果を熟知するとともに、それによって培われた知性と人間性で社会の発展に貢献できる。
創造的思考と考察	対象をより深く考察することができ、複数の視点から問題解決の方法を探ることができる。
技術と表現	各分野での確固たる技術に立脚した表現で社会の共感・関心を得ることができる。
視点と協働	多様な価値観のもとで他者と協調しながら課題解決に取り組むことができる。
社会への関心と行動	高度なコミュニケーション、課題設定などを通して、総合的な社会的観点から社会や教育の発展に貢献することができる。

● カリキュラム・ポリシー

デザイン研究科修士課程は、学士課程の教育をさらに発展させ、学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)を達成するために、共通基盤科目、専門特講科目、専門研究科目を体系的に編成し、講義と演習、実習を適切に組み合わせた授業を開講します。また、科目のナンバリングおよびカリキュラム・マップにより、カリキュラムの体系を明示します。

共通基盤科目

共通基盤科目では、各自の専門分野を社会とのかかわりのなかに位置づけ、新しい価値観を創出するのに欠かせない基礎的な能力を高める科目群を配置しています。それらを通じて、プレゼンテーション、英語読解、作品調査などの実践的方法を学ぶことができます。また、PBL(Project-Based Learning)型演習によって高度な社会実践力を養うことができます。

専門特講科目

専門特講科目は、各領域に関する高度な専門的講義で構成されています。一定の条件のもと、他研究科の講義を受講することが可能です。他の分野・ジャンルに関する歴史、理論、現代社会とのかかわりについて深く学ぶことで、一層高度な知性やより高い水準での協働を領域横断的に育むことができます。

専門研究科目

専門研究科目では、学士課程よりもさらに専門的な知識や技法を習得することを目的としています。複数教員による指導体制のもと、計画書の定期的な提出、2つの専攻(デザイン専攻と建築専攻)での個別指導、ゼミ報告の実施によって研究制作の進捗を可視化し、2年間で修士作品ないしは修士論文の作成を目指します。

修士作品ないしは修士論文については、2年次8月に実施される中間報告会を通じて、他領域の教員を交えた段階的な指導とチェックの機会が設けられています。また、2年次2月に実施される学位審査会では、複数教員が参加するルーブリック評価による厳正な判定が実施され、修了可否についての最終的な評価が下されます。

修了要件

科目区分	修了要件	
共通基盤科目	必修2単位を含む6単位以上	左記30単位以上を修得のうえ 修士論文または修士作品を提出し 学位審査に合格すること
専門特講科目	デザイン研究科から4単位以上および 他研究科から2単位以上、計8単位以上	
専門研究科目	必修16単位以上	

学位審査スケジュール

年次	時期	行事・提出物
1年	4月上旬	◇全研究科合同オリエンテーション ◇デザイン研究科オリエンテーション
	8月上旬	◆中間報告会 ※2年生の報告を聴講
	2月中旬	◆最終発表会 ※2年生の発表を聴講
2年	4月上旬	◇デザイン研究科オリエンテーション
	8月上旬	◆中間報告会
	12月上旬	「学位申請書(修士論文・修士作品最終題目届)」提出
	1月中旬	「修士論文」または「修士作品」提出 「修士論文要旨」または「修士作品要旨」提出
	2月中旬	◆最終発表会 ◆学位審査会 ◆修了制作展
	3月20日	◆学位授与式

※具体的な日程や提出方法は、各年度の始めにお知らせします。

研究指導体制

①指導教員

指導を受けられる教員については、4月のオリエンテーション時にお知らせします。

②指導体制

〈デザイン専攻〉

主指導教員1名+副指導教員2名=計3名

指導教員は1年次4月のオリエンテーションにて決定します。

※詳細は、4月のオリエンテーション時にお知らせします。

〈建築専攻〉

主指導教員1名+副指導教員2名=計3名

指導教員は1年次後期末、副指導教員は2年次前期末に、それぞれ面談のうえ、決定します。

1年次では、「建築研究1,2」にて、短期課題を課し、各担当教員が指導します。2年次では、「建築研究3,4」にて、主指導教員が修士作品および研究報告書作成にむけて指導します。

※詳細は、4月のオリエンテーション時にお知らせします。

各種行事における評価・判定

課程の修了に向け、以下の報告会および審査会が開かれます。

1年次:進級展及び進級発表会

2年次:中間報告会、最終発表会、学位審査会

これらの行事では、ルーブリック評価により、評価・判定を行ないます。

評価に関しては、主査・副査を指導教員とは別の教員が担当します。

※詳細は、4月のオリエンテーション時にお知らせします。

機関リポジトリへの登録

学位審査に合格した修士論文要旨もしくは修士論文、修士作品要旨もしくは修士作品は京都精華大学機関リポジトリに登録掲載します。

(1) 修士論文・作品について

【修士論文】

①使用言語

論文の執筆用語は原則として日本語とする。ただし、研究分野の性質上、あるいは研究成果を発表するうえでの必要性に鑑み、研究科委員会において認められた場合のみ英語での論文執筆を可とする。英語で論文を執筆する場合は、論文提出時に必ず日本語訳を添付すること。

②書式

- 白紙A4サイズに黒インクで印刷のこと。
- PC使用可。
- 横書き（特に和文の縦書きを希望する場合は、研究指導教員と協議のうえ、研究科長に届け出ること）。
- 使用言語を日本語とする場合は400字詰め原稿50枚以上（注釈・資料を除く）、またはPC使用の場合はA4用紙で20,000字以上（10.5ポイント、1行40字、40行、注釈・資料を除く）とすること。
- 使用言語を英語とする場合は原則 PCを使用し、11,000words以上（注釈・資料を除く）とすること。またA4用紙にダブルスペースにより作成すること。
- 目次の頁を設けること。
- 本文には下段中央に頁数を付与すること。ただし、目次、参考文献、資料等には頁数を付与しないか、別立てで頁数を付与すること。
- 脚注は各頁毎、あるいは各章毎、あるいは本文の最後にまとめる形式のいずれかにすること。
- 本文と注は通しで頁数を付与すること。
- 表紙および本文の形式については、様式2・4(P.176)を参照すること。
- 表紙には研究指導教員の署名・捺印を必要とする。
- 副本は、複写を可とする。
- 複写は片面または両面いずれも可とする。ただし、鮮明で支障なく読めるものであること。
- 以上の書式以外で作成された論文は受け付けない。

③提出

- 提出期限は1月中旬を基本とし、研究科委員会で決定し、通知する。
- まずは、データ（Wordファイル）を所定のフォームより提出すること。
- その後、正本1部、副本3部をそれぞれファイリングのうえ、教務チーム窓口へ提出すること。
- 所定の期限を過ぎた提出は受け付けない。

【修士作品】

- 提出期限は1月中旬を基本とし、研究科委員会で決定し、通知する。
- 以下2点を教務チーム窓口へ提出すること。
 1. 表紙（様式2）：1部
 2. 修士作品の概要がわかるもの（右記、参考例を参照）：1部
- ※1、2は白紙A4サイズに黒インクで印刷すること。1は研究指導教員の署名・捺印を必要とする。
- 所定の期限を過ぎた提出は受け付けない。

(2) 修士論文・作品要旨について

①使用言語および書式

- 要旨の表紙は様式3(P.176)、要旨の本文は様式4(P.176)の書式に従うこと。
- 要旨の本文の文字数は以下の通りとする。

修士論文要旨：日本語2,000字程度または英語1,100words程度

修士作品要旨：日本語800字程度または英語440words程度
- 白紙A4サイズに黒インクで印刷すること。

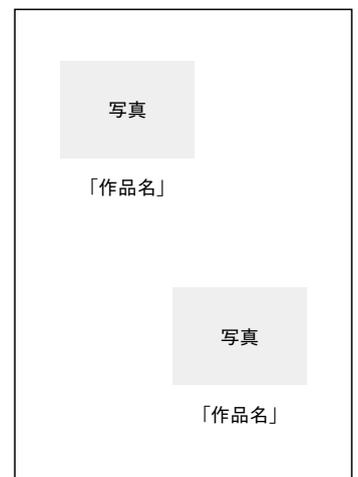
②提出

- 提出期限は修士論文・作品の提出期限と同様とする。
- まずは、データ（Wordファイル）を所定のフォームより提出すること。
- その後、以下を教務チーム窓口へ提出すること。

修士論文要旨：表紙および本文の正本1部、副本3部

修士作品要旨：表紙および本文の正本1部
- 所定の期限を過ぎた提出は受け付けない。

参考例



※写真の掲載数は任意とする。
写真の下部にはタイトル、サイズ等を掲載。

マンガ研究科 博士前期課程

教育方針

● 育成人材像

グローバルな観点から思考し、リベラルアーツに基づいてより良い社会を創る意欲を持ち、多様な人々と協働し、世界の様々な問題に対する新しい価値を表現し、提供できる人間。

● 教育研究目的

マンガ研究科博士前期課程の教育研究目的は、高度な技法と思考をもって独創的な表現を創造するアーティストないしは高度専門職業人の育成です。主体的な創造性を発揮し、他者と協働することで新たな価値を社会に向けて創出する力を養います。所定の修了要件をみたし、かつ5つの能力(ディプロマ・ポリシー)を習得した者に学位(修士:芸術)を授与します。

● ディプロマ・ポリシー

マンガ研究科博士前期課程を修了した者は、本学カリキュラムを通じて身に付けた次の5つの能力をもって、各専門分野を牽引する人材として活躍することが期待されます。

知識と理解	専門分野における新旧の制作ないし研究の成果を熟知するとともに、それによって培われた知性と人間性で社会の発展に貢献できる。
創造的思考と考察	対象をより深く考察することができ、複数の視点からマンガやアニメーション教育に関する問題解決の方法を探ることができる。
技術と表現	各分野での確固たる技術に立脚した表現で現代社会の共感・関心を得ることができる。
視点と協働	多様な価値観のもとで他者と協調しながらマンガやアニメーションさらには社会に関わる課題解決に取り組むことができる。
社会への関心と行動	高度なコミュニケーション、課題設定などを通して、総合的な観点から広く社会や教育の発展に貢献することができる。

● カリキュラム・ポリシー

マンガ研究科博士前期課程は、学士課程の教育をさらに発展させ、学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)を達成するために、共通基盤科目、専門特講科目、専門研究科目を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を開講します。また、科目のナンバリングおよびカリキュラム・マップにより、カリキュラムの体系を明示します。

共通基盤科目

共通基盤科目では、各自の専門分野を社会とのかかわりのなかに位置づけ、新しい価値観を創出するのに欠かせない基礎的な能力を高める科目群を配置しています。それらを通じて、プレゼンテーション、英語読解、作品調査、展示手法などの実践的方法を学ぶことができます。また、PBL(Project-Based Learning)型演習によって高度な社会実践力を養うことができます。

専門特講科目

専門特講科目は、マンガ理論に関する高度な専門的講義で構成されています。一定の条件のもと、他研究科の講義を受講することが可能です。他の分野・ジャンルに関する歴史、理論、現代社会とのかかわりについて深く学ぶことで、一層高度な知性やより高い水準での協働を領域横断的に育むことができます。

専門研究科目

専門研究科目では、学士課程よりもさらに専門的な知識や技法を習得することを目的としています。複数教員による指導体制のもと、計画書の定期的な提出、ゼミにおける報告や発表によって研究制作の進捗を可視化し、2年間での修士論文の執筆ないしは修士作品の制作を目指します。

修士論文ないしは修士作品については、2年次前期に実施される中間報告会を通じて、複数の教員を交えた段階的な指導とチェックの機会が設けられています。また、2年次後期に実施される学位審査会では、修士論文および修士作品について、複数教員によってルーブリック評価が実施されます。その厳格な運用を通じて、提出作品および論文の可否について判定が下されます。

修了要件

科目区分	修了要件	
共通基盤科目	必修2単位を含む6単位以上	左記30単位以上を修得のうえ 修士論文または修士作品を提出し 学位審査に合格すること
専門特講科目	マンガ研究科から4単位以上および 他研究科から2単位以上、計8単位以上	
専門研究科目	必修8単位、選択科目8単位以上 (実技系はマンガ学基礎演習1・2、 理論系はマンガ学基礎講義1・2を修得すること)、 計16単位以上	

学位審査スケジュール

年次	時期	行事・提出物
1年	4月上旬	◇全研究科合同オリエンテーション ◇マンガ研究科オリエンテーション・主査の決定
	8月上旬	◆構想報告会(公開) ※2年生の報告を聴講
	11月中旬	◆中間報告会(公開) ※2年生の報告を聴講
	2月上旬	◆学位審査会 ※2年生の発表を聴講
2年	4月上旬	◇マンガ研究科オリエンテーション
	6月下旬	副査の決定・報告
	8月上旬	◆構想報告会(公開)
	11月中旬	◆中間報告会(公開)
	12月上旬	「学位申請書(修士論文・修士作品最終題目届)」提出
	1月中旬	「修士論文」または「修士作品」提出 「修士論文要旨」または「修士作品要旨」提出
	2月上旬	◆学位審査会(公開)
	2月中旬	◆修了制作展(修士作品のみ)
	3月20日	◆学位授与式

※具体的な日程や提出方法は、各年度の始めにお知らせします。

研究指導体制

①指導教員

指導を受けられる教員については、4月のオリエンテーション時にお知らせします。

②指導体制

指導教員(主査)1名+副査2名=計3名

指導教員は1年次4月のオリエンテーション時に、副査は2年次前期中に決定します。

また、理論系においては、2年次前期中に指導教員を変更できる機会があります。

※詳細は、4月のオリエンテーション時にお知らせします。

各種行事における評価・判定

課程の修了に向け、以下の報告会および審査会が開かれます。

1年次:なし ※2年次の報告会および発表会を聴講

2年次:構想報告会、中間報告会、学位審査会

学位審査会では、ルーブリック評価により、評価・判定を行ないます。

※詳細は、4月のオリエンテーション時にお知らせします。

機関リポジトリへの登録

学位審査に合格した修士論文もしくは修士論文要旨、修士作品もしくは修士作品要旨は京都精華大学機関リポジトリに登録掲載します。

(1) マンガ研究科修士論文・修士作品の学位審査基準

① 修士論文の学位審査基準

- 当該論文に独創的な問題設定があり、当該領域の先行研究を踏まえたうえで、当該領域の学術的発展に貢献していること。
- 当該論文が調査研究や資料の把握において学問の倫理に従っていること。
- 当該論文が（アニメーションやその他の隣接ジャンルを含む）広義のマンガ文化を主な研究対象としながら、他研究領域に対しても開かれた論述をしていること。

② 修士作品の学位審査基準

- 当該作品が独創的または普遍的な表現領域の可能性を探索し、社会に対して自らの深い思考が具体化されていること。
- 当該作品が表現方法・内容において社会に対して明確なコンセプトを持ち、それに沿ったテーマと素材、技法を選択し、制作されていること。
- 当該作品が多角的視点と想像力に基づき、柔軟で応用力のある制作技術や高度な作法を用い、十分な完成度が認められること。

(2) 修士論文の提出について

① 使用言語

- 論文の執筆言語は原則として日本語とする。ただし、研究分野の性質上、あるいは研究成果を発表する上での必要性に鑑み、研究科委員会において認められた場合のみ英語での執筆を可とする。

② 書式

- 白紙A4サイズに黒インクで印刷のこと。
- PC使用が望ましい。
- 横書き（特に和文の縦書きを希望する場合は、研究指導教員と協議の上、研究科長に届け出ること）。
- 使用言語を日本語とする場合は400字詰め原稿50枚以上（注釈・資料を含む）、またはPC使用の場合はA4用紙で20,000字以上（注釈・資料を含む。文書全体の書式設定において、1行あたりの文字数を40字、1ページあたりの行数を40行に指定のうえ、本文の文字サイズを11ポイント、注釈の文字サイズを9ポイントに設定）とすること。
- 使用言語を英語とする場合は原則PCを使用し、11,000words以上（注釈・資料を含む）とすること。
- また、使用言語を英語とする場合、フォントはTimesNewRomanを使用し、12ポイントとしたうえで、A4用紙1ページあたり35行で作成すること。
- 目次の頁を設けること。
- 本文には下段中央に頁数を付与すること。目次、参考文献、資料等にも頁数を付与すること。
- 図版にはキャプションを付ける。その中には、通し番号と出典（ページ数も含む）を挙げる。キャプションに加え、「参考文献」一覧の直後に、キャプションの全データを含む「図版一覧」を載せる。
- 注記は、脚注または文末注のいずれかにすること。本文と注は通しで頁数を付与すること。注記の書式、参考文献一覧、引用の方法については[マンガ研究科修士論文執筆細則]を参照。
- 表紙および本文の形式については、様式2・4(P.176)を参照すること。表紙には研究指導教員の署名・捺印を必要とする。
- 副本は、コピー機による複写を可とする。
- 複写は片面または両面いずれも可とする。ただし、鮮明で支障なく読めるものであること。
- 以上の書式以外で作成された論文は受け付けない。

③ 提出について

- 正本1部、副本3部をファイリングして提出すること。あわせてそのデータを提出すること。データのフォーマットは、マイクロソフトWordまたはリッチテキスト形式を指定する。Word形式以外の図版などに関しては、提出前に問い合わせること。
- 所定の期限を過ぎた論文および関係書類は受け付けない。
- 修士論文および修士論文要旨の公開に応じる場合は許諾書を記入すること。

④ 修士論文要旨の提出について

- 表紙および本文は様式3・4(P.176)を参照し、本文は修士論文と同一の書式とする。
- 要旨は日本語で作成すること。ただし、英語での論文執筆の場合、英語の要旨に加え、日本語の要旨も作成すること。
- 和文の場合は2,000字程度、英文の場合は1,100words程度とし、A4用紙を使用すること。
- 提出期限は修士論文の提出期限と同様とする。
- まずは、データ（Wordファイル）を所定のフォームより提出すること。
- その後、修士論文要旨の表紙（様式3）および本文（様式4）の正本1部、副本3部を教務チーム窓口へ提出すること。
- 所定の期限を過ぎた提出は受け付けない。

(3) 修士作品の提出について

① 修士作品の提出

- 所定の期日までに以下2点を提出すること。
 1. 表紙(様式2):1部
 2. 修士作品の概要がわかるもの(右記、参考例を参照):1部

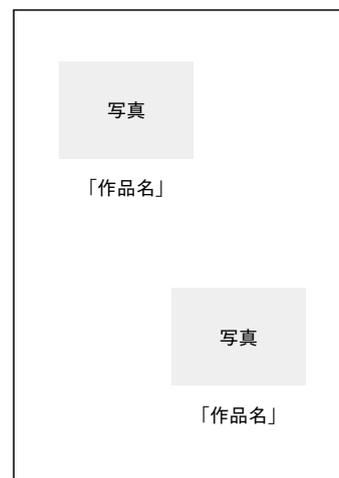
※1、2は白紙A4サイズに黒インクで印刷すること。
※1には研究指導教員の署名・捺印を必要とする。

② 修士作品の要旨の提出

- 要旨の表紙は様式3(P.176)、要旨の本文は様式4(P.176)の書式に従うこと。
- 要旨の本文の文字数は以下のとおりとする。
修士作品要旨:日本語800字程度または英語440words程度
- 所定の期日までに以下3点を提出すること。
 1. 表紙(様式3):1部
 2. 本文(様式4):1部
 3. データ:1点

※1、2は白紙A4サイズに黒インクで印刷すること。

参考例



※写真の掲載数は任意とする。
写真の下部にはタイトル、サイズ等を掲載。

(1) 本文

章、節、等々の項目を分けた構成とする。本文中の見出しは左揃えを原則とする。

(2) 修士論文の提出について

- ① 文章は、原則として常用漢字を用い、かなづかいは現代かなづかいと新送りがなに従うものとする。ただし、特別の事由(引用など)があるときは、この限りではない。
- ② 句読点は、'、' および '。' とする。
- ③ カギカッコの用法は以下のとおり。
「 」: (マンガ) 作品名、論文名あるいは引用文の表示に用いる。
『 』: 文中における書名、(マンガ誌を含む) 誌(紙) 名の表示に用いる。
- ④ 数字、ローマ字は半角文字とする。
- ⑤ 外国の固有名詞: 文中初出の人名は、必要に応じてフルネームをカタカナ書きし(ミドルネームの頭文字は原語のままでよい)、その後() で原綴りを付記する。地名、研究機関名等もこれに準ずる。

(3) 文献の直接・間接引用

引用は、目的上正当な範囲に限ること。また必ず出典を(頁数に至まで) 明示すること。本文中および注の文中に下記のように入れる。

[著者名または編者名 □ 刊行年 : 頁数]

- 例: 吉村 2001 : 299;
例: ベルント編 2010 : 2

同一文献から何度も引用する場合も、ibid、上掲書などとせず、上記方式の表記をくりかえす。

(4) 注

注は脚注の機能を使って本文中の当該事項の後に表記し、番号順にする。なお、本文と注とはポイントが異なり、本文を11p、注を9pとする。注には、(本文中行う) 出典表記以外の情報を入れる。(例えば、「～参照」、また補足的解説など)

(5) 図表

図表に番号を付けて、この番号を本文中にも、図表のキャプションにもあげる。本文中で図版の説明をする際、対応する図版を明示する。「図1」、「表3」のように表す。図表のタイトルはキャプションの形で、図の場合は図の下に、表の場合は表の上につける。他の文献から図版を引用する場合には、キャプションの末尾に出典を必ず明示する。出典の記載法は、引用文献の場合に準ずる(引用は公正な慣行に従い、引用の目的上正当な範囲に限ること)。

表記例) 番号、タイトル、出典(頁数を含む)

図版のキャプション(番号、タイトル、出典を含む一覧)は、一括して原稿の最後(つまり文献一覧後)にまとめ、番号順に記載する。

(6) 参考文献

(この参考文献という言葉を用いる。参考文献、引用文献、文献等は不可。)

参考文献一覧は論文末に一括して作成する。参考文献とは、本文中または注において引用などの形で使用したもの(文献、ウェブサイトなど)を指す。マンガ作品を別の一覧にする。

- ① 文献の配列は著者姓名のアルファベット順か、五十音順とする。外国人についても姓名とする。

例: Berndt, Jaqueline または
ベルント、ジャクリーヌ [ベルント・ジャクリーヌは不可]

- ② 記載は以下のようにする。
外国語の雑誌および単行本は題名をイタリックとする。

- a) 雑誌論文の場合、著者名(改行)、年号、「論文名」、「誌名」、巻(号)、頁数の順とする。

馬淵東一
1935「高砂族の系譜」『民族学研究』1(1), pp.1-16.
HOWELL, Signe
1985 *Formal Speech Act as One Discourse. In: Man*, 21(1), pp.79-101.

- b) 論文集に掲載されている論文の場合、著者名(改行)、年号、「論題」、「論文集名」、編者名、出版社、頁数(最初～最終)の順とする。

蒲生正男
1949「奄美の民俗・社会」『日本民族学大系』12、大間知篤三、岡正雄、桜田勝徳、関敬吾、最上孝敬編、平凡社、pp.7-21.
MEAD, Margaret
1955 *Implication of Insight-II. In: Childhood in Contemporary Cultures*. Margaret
MEAD and Martha WOLFENSTEIN, eds, pp.449-461.
University of Chicago Press.

- c) 単行本の場合、著者名(改行)、年号、「書名」、出版社の順とする。

岩淵功一
2001『トランスナショナル・ジャパン』岩波書店
IWABUCHI Koichi
2002 *Recentering Globalization: Popular Culture and Japanese Transnationalism*. Duke University Press

- d) マンガ作品の場合、マンガ家または原作者・作画者、「題名」『連載雑誌名』(初出年号)、論文に使用した単行本版の出版社、出版年の順とする。

二ノ宮和子「のだめカンタービレ」『KISS』(2001-2010)、
全25巻、講談社(コミックスKiss)、2002年～2010年

様式見本

※様式についての詳細は、4月のオリエンテーション時にお知らせします。

様式1 | 学位申請書(最終題目届)見本

_____年____月____日

京都精華大学大学院
_____研究科長 殿

学位申請書

京都精華大学学位規程第5条の規定により、下記の修士論文または修士作品および関係書類を添えて申請いたします。

記

修士論文・修士作品題目
「 _____ 」

概略(作品にあつては、その解説も記入すること)

研究科：_____ 専攻：_____ 分野(領域)：_____

学籍番号：_____ 氏名：_____ 印

指導教員承認印 _____ 印

以上

様式2 | 論文・作品題名(表紙)見本

論文・作品題名

京都精華大学大学院 研究科 専攻 分野(領域)

提出日付：_____

学籍番号：_____

氏 名：_____ 印

研究指導教員名：_____ 印

様式3 | 要旨・(表紙)見本

修士論文・作品要旨

論文・作品題名

京都精華大学大学院 研究科 専攻 分野(領域)

提出日付：_____

学籍番号：_____

氏 名：_____ 印

様式4 | 本文見本

※Title, Chapter, etc. の区切りに当たる場合の上端余白は、
和文では、3.5cm
英文では、5.0cm を目安とする。

※約 2.5cm

※約 2.5cm

※約 2.5cm

※約 2.5cm

カリキュラム構成／科目一覧

カリキュラム構成

京都精華大学大学院の教育課程の大きな特長は、研究科や領域、そして作家／研究者の違いも超えて、立場の異なる者が交流しながら学ぶことです。まず、4研究科を横断する「共通基盤科目」では、表現の根本思想・哲学を学ぶ「表現特論」、表現の創造過程を学び多様なイメージ形成能力の育成をはかる「知的創造特論」のほか、社会に展開するプロジェクトを運営するための企画力を養う科目、実際に学外団体とのコラボレーションを行う実践的な科目など、社会と連携したプログラムが設置されています。また、各研究科の専門的な講義科目である「専門特講科目」においては、個々の研究テーマに沿って他研究科の科目を受講することができます。「専門研究科目」では、各領域において各自の研究テーマに沿った作品制作、理論研究を行います。

人文学研究科	芸術研究科	デザイン研究科	マンガ研究科
共通基盤科目			
<ul style="list-style-type: none"> ・表現特論 ・知的創造特論 ・プロジェクト企画演習 	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクトワーク演習1 ・プロジェクトワーク演習2 ・プレゼンテーション演習 	<ul style="list-style-type: none"> ・学術論文演習1 ・学術論文演習2 ・原書講読1 ・原書講読2 	
専門特講科目			
<ul style="list-style-type: none"> ・表象領域特講1 ・表象領域特講2 ・表象領域特講3 ・表象領域特講4 	<ul style="list-style-type: none"> ・芸術理論特講 ・表現領域特講1 ・表現領域特講2 ・表現領域特講3 ・表現領域特講4 	<ul style="list-style-type: none"> ・デザイン理論特講 ・創造領域特講1 ・創造領域特講2 ・創造領域特講3 ・創造領域特講4 	<ul style="list-style-type: none"> ・マンガ理論特講 ・マンガ領域特講1 ・マンガ領域特講2 ・マンガ領域特講3 ・マンガ領域特講4
専門研究科目			
<ul style="list-style-type: none"> ・人文学合同演習 ・人文学基礎演習 ・人文学演習1 ・人文学演習2 ・人文学特殊講義1 ・人文学特殊講義2 ・人文学特殊講義3 ・人文学特殊講義4 ・人文学特殊講義5 ・人文学特殊講義6 	<ul style="list-style-type: none"> ・芸術研究1 ・芸術研究2 ・芸術研究3 ・芸術研究4 	<div style="background-color: #cccccc; padding: 2px; text-align: center; font-weight: bold;">デザイン専攻</div> <ul style="list-style-type: none"> ・デザイン研究1 ・デザイン研究2 ・デザイン研究3 ・デザイン研究4 <div style="background-color: #cccccc; padding: 2px; text-align: center; font-weight: bold;">建築専攻</div> <ul style="list-style-type: none"> ・建築研究1 ・建築研究2 ・建築研究3 ・建築研究4 ・建築設計特講 ・先端建築技術特講 ・建築家倫理特講 ・建築構造演習 ・建築設備演習 ・建築設計監理演習 	<ul style="list-style-type: none"> ・マンガ研究1 ・マンガ研究2 ・マンガ研究3 ・マンガ研究4 ・マンガ学基礎演習1 ・マンガ学基礎演習2 ・マンガ学基礎講義1 ・マンガ学基礎講義2 ・マンガ学特殊講義1 ・マンガ学特殊講義2 ・マンガ学特殊講義3 ・マンガ学特殊講義4

博士前期課程・修士課程 科目一覧

共通基盤科目

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修/選択	授業形態	単位数	配当年次	ディプロマ・ポリシーとの相関				
							DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5
							知識と理解	創造的思考と考察	技術と表現	視点と協働	社会への関心と行動
全研究科共通	GMC50015	表現特論	選択	講義	2	1・2	●	●	●		
	GMC50115	知的創造特論	必修	講義	2	1	●	●		●	●
	GMC50215	プロジェクト企画演習	選択	演習	2	1・2				●	●
	GMC50315	プロジェクトワーク演習1	選択	演習	2	1・2				●	●
	GMC50325	プロジェクトワーク演習2	選択	演習	2	1・2		●		●	●
	GMC50415	プレゼンテーション演習	選択	演習	2	1・2			●		●
	GMC50515	学術論文演習1	選択	演習	2	1・2	●	●	●	●	
	GMC50525	学術論文演習2	選択	演習	2	1・2	●	●	●		●
	GMC50615	原書講読1	選択	講義	2	1・2	●	●			
GMC50625	原書講読2	選択	講義	2	1・2	●	●				

専門特講科目

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修/選択	授業形態	単位数	配当年次	ディプロマ・ポリシーとの相関				
							DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5
							知識と理解	創造的思考と考察	技術と表現	視点と協働	社会への関心と行動
人文学研究科	GMH50115	表象領域特講1	選択	講義	2	1・2	●	●			
	GMH50125	表象領域特講2	選択	講義	2	1・2	●	●			
	GMH50135	表象領域特講3	選択	講義	2	1・2	●	●			
	GMH50145	表象領域特講4	選択	講義	2	1・2	●	●			
芸術研究科	GMA50015	芸術理論特講 ※ ¹	必修	講義	2	1・2	●		●		●
	GMA50115	表現領域特講1	選択	講義	2	1・2		●	●		
	GMA50125	表現領域特講2	選択	講義	2	1・2		●	●		
	GMA50135	表現領域特講3	選択	講義	2	1・2			●	●	
	GMA50145	表現領域特講4	選択	講義	2	1・2		●	●		
デザイン研究科	GMD50015	デザイン理論特講 ※ ²	必修	講義	2	1・2	●	●	●		
	GMD50115	創造領域特講1	選択	講義	2	1・2	●	●			
	GMD50125	創造領域特講2	選択	講義	2	1・2	●	●			
	GMD50135	創造領域特講3	選択	講義	2	1・2	●	●			●
	GMD50145	創造領域特講4	選択	講義	2	1・2	●	●			●
マンガ研究科	GMM50015	マンガ理論特講 ※ ³	必修	講義	2	1・2	●	●			
	GMM50115	マンガ領域特講1	選択	講義	2	1・2		●	●		
	GMM50125	マンガ領域特講2	選択	講義	2	1・2	●		●	●	
	GMM50135	マンガ領域特講3	選択	講義	2	1・2		●			●
	GMM50145	マンガ領域特講4	選択	講義	2	1・2	●	●		●	

※¹ 芸術研究科生のみ履修可

※² デザイン研究科生のみ履修可

※³ マンガ研究科生のみ履修可

専門研究科目

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修/選択	授業形態	単位数	配当年次	ディプロマ・ポリシーとの相関				
							DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5
							知識と理解	創造的思考と考察	技術と表現	視点と協働	社会への関心と行動
人文学研究科	GMH51115	人文学特殊講義1	選択	演習	2	1・2	●	●			
	GMH51125	人文学特殊講義2	選択	演習	2	1・2	●	●			
	GMH51135	人文学特殊講義3	選択	演習	2	1・2	●	●			
	GMH51145	人文学特殊講義4	選択	演習	2	1・2	●	●			
	GMH51155	人文学特殊講義5	選択	演習	2	1・2	●	●			
	GMH51165	人文学特殊講義6	選択	演習	2	1・2	●	●			
	GMH51215	人文学合同演習	必修	演習	2	1	●	●	●	●	●
	GMH51315	人文学基礎演習	必修	演習	2	1	●	●	●	●	●
	GMH51416	人文学演習1	必修	演習	2	2	●	●	●	●	●
GMH51426	人文学演習2	必修	演習	2	2	●	●	●	●	●	
芸術研究科	GMA60015	芸術研究1	必修	演習	4	1		●	●		
	GMA60025	芸術研究2	必修	演習	4	1			●	●	●
	GMA60036	芸術研究3	必修	演習	4	2	●	●	●		
	GMA60046	芸術研究4	必修	演習	4	2		●	●	●	●
デザイン専攻	GMD60015	デザイン研究1	必修	実習	4	1	●	●	●	●	●
	GMD60025	デザイン研究2	必修	実習	4	1	●	●	●	●	●
	GMD60036	デザイン研究3	必修	実習	4	2	●	●	●	●	●
	GMD60046	デザイン研究4	必修	実習	4	2	●	●	●	●	●
デザイン研究科 建築専攻	GMD65015	建築研究1	必修	実習	4	1	●	●	●	●	●
	GMD65025	建築研究2	必修	実習	4	1	●	●	●	●	●
	GMD65036	建築研究3	必修	実習	4	2	●	●	●	●	●
	GMD65046	建築研究4	必修	実習	4	2	●	●	●	●	●
	GMD55015	建築設計特講	選択	講義	2	1・2	●	●			
	GMD55115	先端建築技術特講	選択	講義	2	1・2	●		●		
	GMD55215	建築家倫理特講	選択	講義	2	1・2	●			●	
	GMD65115	建築構造演習	選択	演習	2	1・2	●		●		
	GMD65215	建築設備演習	選択	演習	2	1・2	●		●		
GMD65315	建築工事監理演習	選択	演習	4	1・2	●		●			
マンガ研究科	GMM61011	マンガ研究1	必修	演習	2	1	●	●			
	GMM61021	マンガ研究2	必修	演習	2	1	●	●			
	GMM61032	マンガ研究3	必修	演習	2	2	●	●	●		
	GMM61042	マンガ研究4	必修	演習	2	2	●	●	●	●	●
	GMM62011	マンガ学基礎演習1 ※ ¹	選択必修	演習	2	1	●		●	●	
	GMM62021	マンガ学基礎演習2 ※ ¹	選択必修	演習	2	1	●		●	●	
	GMM52111	マンガ学基礎講義1 ※ ²	選択必修	講義	2	1	●	●		●	
	GMM52121	マンガ学基礎講義2 ※ ²	選択必修	講義	2	1	●	●		●	
	GMM51111	マンガ学特殊講義1	選択	講義	2	1・2	●	●			
	GMM51121	マンガ学特殊講義2	選択	講義	2	1・2	●	●			
	GMM51131	マンガ学特殊講義3	選択	講義	2	1・2	●	●			
	GMM51141	マンガ学特殊講義4	選択	講義	2	1・2	●	●			

※¹ 実技系研究科生のみ履修可

※² 理論系研究科生のみ履修可

芸術研究科 博士後期課程

教育方針

● 育成人材像

グローバルな観点から思考し、リベラルアーツに基づいてより良い社会を創る意欲を持ち、多様な人々と協働し、世界の様々な問題に対する新しい価値を表現し、提供できる人間。

● 教育研究目的

芸術研究科博士後期課程の教育研究目的は、芸術にまつわる領域における高度な知性と思考をもって、将来の美術教育を担う学術研究者あるいは高度専門職業人を育成することです。伝統と倫理を尊重し、他者と協働しながら、関心のある分野や対象について深く考究することを通じて先進的な研究に取り組む力を養います。所定の修了要件をみたし、5つの能力(ディプロマ・ポリシー)を習得し、かつ提出した学位論文審査に合格した者に学位(博士:芸術)を授与します。

● ディプロマ・ポリシー

芸術研究科博士後期課程を修了した者は、本学カリキュラムを通じて身に付けた次のような能力をもって、芸術にまつわる専門分野を牽引するアーティストないしは研究者・教育者として活躍することが期待されます。

知識と理解	過去から現在に至る研究成果のなかで、未来の展望を予測し、自身の研究をその中に正しく位置づけることができる。
創造的思考と考察	研究対象を多角的に分析し、独創的な見解を創出することができる。
技術と表現	調査対象について複数の資料を的確に整理し、複数の観点から論理的・一貫性のある論文および独創的な表現をまとめ上げることができる。
視点と協働	特定の分野において確固たる研究者ないしはアーティストとして自立し、専門分野の問題解決を先導することができる。
社会への関心と行動	高度なコミュニケーションおよび、みずからの分析力と総合力を基盤として、芸術にまつわる知見をもって社会や教育の発展に貢献することができる。

博士学位論文および博士作品は、専門分野の研究者ないしはアーティストとして将来専門的な職業に従事するのに必要な研究能力と学識が認められるものでなくてはなりません。よって、本学規約で定める形式を満たしたうえで、以下に挙げる項目に基づいて厳正に審査されます。

- (1) 問題設定と研究テーマの妥当性・独自性
- (2) 体系的・全体構成の適切性
- (3) 先行研究の調査・既往研究との関連性
- (4) 方法論の妥当性
- (5) 論旨・主張の整合性と一貫性
- (6) 表現・表記の適切さ

● カリキュラム・ポリシー

京都精華大学大学院博士後期課程では、修士課程の教育をさらに発展させ、学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)を達成するために、主査1名・副査2名以上の複数教員による個別具体的な指導を実施します。さらに、表現研究計画演習、表現総合研究(1～3)という授業編成で隣接分野への理解を深めながら、研究テーマ、研究計画、調査手法、論文執筆および作品制作をより専門的に学修していきます。定期的に研究記録書を記載・提出することで研究・調査の進捗を可視化し、博士論文提出および学位審査展開催を目指します。

自主的かつ真摯に研究に取り組むことを前提として、博士論文の作成および作品制作は段階的に進められます。まず「公開報告会」で1年間の研究成果を公にすること、新たに探究するべき課題を見いだすことが求められます。次に「学位審査予備審査会」にて博士學位論文の執筆と学位審査展の開催をするに足る学術的素養を身に付けているのか、3名以上の指導者による審査を受け、審査に合格した者が学位論文提出と学位審査展開催の資格を得ることができます。最終的に「学位審査会」および「学位審査展」にて、主査1名、副査2名以上の教員によって評価が実施されます。その厳格な運用を通じて、提出論文および提出作品の可否について判定が下されます。

修了要件

科目区分	修了要件	
表現研究計画演習	2単位	左記14単位以上を修得のうえ 博士論文・博士作品を提出し 審査及び試験に合格すること
表現総合研究1～3	計12単位(4単位×3科目)	

審査スケジュール

実施期間	行事・提出物
1年次	4月 ◇博士後期課程オリエンテーション 「研究指導教員グループ申請書(書式1)」提出
	7月 「研究記録書(書式2)」前期分提出 「研究計画書(書式3)」提出
	1月 「研究記録書(書式2)」後期分提出 「研究状況報告書(書式4)」提出
	2月 ◆公開報告会
2年次	4月 ◇博士後期課程オリエンテーション 「研究指導教員グループ申請書(書式1)」提出 ※必要な院生のみ
	7月 「研究記録書(書式2)」前期分提出
	1月 「研究記録書(書式2)」後期分提出 「研究状況報告書(書式4)」提出
	2月 ◆中間報告会(業績&研究)
3年次	4月 ◇博士後期課程オリエンテーション 「研究指導教員グループ申請書(書式1)」提出 ※必要な院生のみ
	6月 「研究業績一覧」提出 「学位審査予備審査申請書」提出 「学位審査予備審査論文・予備審査作品」提出
	7月 「研究記録書(書式2)」前期分提出
	8月 ◆業績審査会 ◆予備審査会
	9月 「学位申請書」提出 ※予備審査合格者対象
	11月 「学位請求論文・学位請求作品」提出 「研究記録書(書式2)」後期分提出 「研究状況報告書(書式4)」提出
	12月 ◆学位審査展・学位審査会

※具体的な日程や提出方法は、各年度の始めにお知らせします。

研究指導体制

①指導教員

指導を受けられる教員については、4月のオリエンテーション時にお知らせします。

②指導体制

主指導教員1名+副指導教員(理論)1名+副指導教員(領域不問)1名=計3名以上

③論文指導チューター

週に1日、博士後期課程共同研究室に論文指導チューターが在室し、研究に必要な資料の探し方や文の構成、留学生の場合には日本語の添削などを補助します。 ※詳細は、4月のオリエンテーション時にお知らせします。

芸術研究科博士後期課程 科目一覧

科目ナンバリングコード	科目名	必修/選択	授業形態	単位数	配当年次	ディプロマ・ポリシーとの相関				
						DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5
						知識と理解	創造的思考と考察	技術と表現	視点と協働	社会への関心と行動
GDA50017	表現研究計画演習	必修	演習	2	1	●	●	●	●	●
GDA60017	表現総合研究1	必修	実習	4	1	●	●		●	
GDA60028	表現総合研究2	必修	実習	4	2	●		●	●	
GDA60039	表現総合研究3	必修	実習	4	3	●			●	●

「表現研究計画演習」(担当:理論担当教員)

授業の概要および目的	各々の研究範囲とその研究テーマに応じて、指導教員との面談を重ねながら、博士後期課程3年間における研究計画を立案する。総合的な芸術表現の視点を獲得するため、研究方法に対する理解を深め、制作と理論のバランスがとれた調和ある研究計画の設定を行う。
授業計画	週1回、博士後期課程1年次全員が集まり、理論的な文献の講読、自らの作品の分析、あるいは研究に関する発表等を行い、各々にふさわしい理論的サポートを行う。状況に応じてレポートを課すこともある。研究計画の立案が必須となり、「研究計画書」を提出する。7月中旬に主指導教員、副指導教員を交えて学生の3年間の研究計画に関する報告会を開催する。その後、報告会を踏まえた上で、研究計画書を作成し直し、メールへの添付ファイルの形で主指導教員・副指導教員・教務チームへ提出する。
成績評価	授業への参加度

「表現総合研究1」(担当:主指導教員)

授業の概要および目的	主指導教員1名と副指導教員2名以上が、学生の研究領域のテーマに応じて分担または合同で研究指導を行う。次年度に設定される「表現総合研究2」の指導の前提となる研究である。
授業計画	各院生の研究テーマを考慮した上、決定する。
成績評価	授業への参加度(出席、意見や質問の積極度、授業活性化への貢献など) 授業中の口頭発表

「表現総合研究2」（担当:主指導教員）

授業の概要および目的	主指導教員の指導を中心としながら、各自の制作・研究を徹底的に進めて行く。前期・後期を通じて、学位審査予備審査論文・予備審査作品の作成を指導する。
授業計画	各自の制作・研究を深めていくため、主指導教員の指導を中心としながら、同時に幅広く思考していけるように、主指導教員のコーディネートによる副指導教員等の指導・関わりを設ける。実施内容、実施時間、実施場所は主指導教員との話し合いにより決定、進行していく。「表現総合研究2」において主指導教員・副指導教員・その他から指導、助言を受けるごとに、その主題・議論の題目・内容、日時を記録しておくため、学生は研究記録書を作成し、学期末に教務チームへ提出する。指導、助言はメールや電話などを含む。
成績評価	授業への参加度（出席、意見や質問の積極度、授業活性化への貢献など） 授業中の口頭発表 予備審査論文・予備審査作品の内容および予備審査会での口頭試問の内容

「表現総合研究3」（担当:主指導教員）

授業の概要および目的	主指導教員・副指導教員を中心に「表現総合研究1」・「表現総合研究2」における研究の成果を踏まえ、各学生の制作・研究の集大成を目的に指導にあたる。これは学位（博士）申請に関わる論文と作品の審査に直結し、学生の修了要件として単位化される。
授業計画	各自の制作・研究を深めていくため、主指導教員の指導を中心としながら、同時に幅広く思考していけるように、主指導教員のコーディネートによる副指導教員等の指導・関わりを設ける。実施内容、実施時間、実施場所は主指導教員との話し合いにより決定、進行していく。「表現総合研究3」において主指導教員・副指導教員・その他から指導、助言を受けるごとに、その主題・議論の題目・内容、日時を記録しておくため、学生は研究記録書を作成し、学期末に教務チームへ提出する。指導、助言はメールや電話などを含む。
成績評価	授業への参加度（出席、意見や質問の積極度、授業活性化への貢献など） 授業中の口頭発表 予備審査論文・予備審査作品の内容および予備審査会での口頭試問の内容

※希望により、博士前期課程に開設される基礎理論関係科目および学部開設される専門講義科目の履修を認める場合があります。
履修に関しては、教務チームと相談のうえ、科目登録を行ってください。

各種行事における評価・判定

各年次で、以下の報告会または審査会が開かれます。

1年次:公開報告会

2年次:中間報告会

3年次:業績審査会、予備審査会、学位審査会

これらの行事では、ルーブリック評価により、評価・判定を行います。

ルーブリックに関する詳細は、4月のオリエンテーション時にお知らせします。

機関リポジトリへの登録

博士論文・作品の審査及び試験に合格した博士論文・博士作品は、京都精華大学機関リポジトリに登録掲載します。

マンガ研究科 博士後期課程

教育方針

● 育成人材像

グローバルな観点から思考し、リベラルアーツに基づいてより良い社会を創る意欲を持ち、多様な人々と協働し、世界の様々な問題に対する新しい価値を表現し、提供できる人間。

● 教育研究目的

マンガ研究科博士後期課程の教育研究目的は、マンガやアニメーションの領域における高度な知性と思考をもって、将来のマンガ・アニメーション教育を担う学術研究者あるいは高度専門職業人の育成です。過去と倫理を尊重し、他者と協働しながら、関心のある分野や対象について深く考究することを通じて先進的な研究に取り組む力を養います。所定の修了要件をみたし、5つの能力(ディプロマ・ポリシー)を習得し、かつ提出した学位論文審査に合格した者に学位(博士:芸術)を授与します。

● ディプロマ・ポリシー

マンガ研究科博士後期課程を修了した者は、本学カリキュラムを通じて身に付けた次のような能力をもって、大学において専門分野を牽引する高度専門職業人ないしは研究者・教育者として活躍することが期待されます。

知識と理解	過去から現在に至る研究成果のなかで、未来の展望を予測し、自身の研究をその中に正しく位置づけることができる。
創造的思考と考察	研究対象を多角的に分析し、独創的な見解を創出することができる。
技術と表現	調査対象について複数の資料を的確に整理し、複数の観点から論理的・一貫性のある論文をまとめ上げることができる。
視点と協働	特定の分野において確固たる研究者として自立し、専門分野の問題解決を先導することができる。
社会への関心と行動	高度なコミュニケーションおよび、みずからの分析力と総合力を基盤として、マンガ・アニメーションにまつわる知見をもって社会や教育の発展に貢献することができる。

博士学位論文は、専門分野の研究者として将来専門的な職業に従事するのに必要な研究能力と学識が認められるものでなくてはなりません。よって、本学規約で定める形式を満たしたうえで、以下に挙げる項目に基づいて厳正に審査されます。

- (1) 問題設定と研究テーマの妥当性・独自性
- (2) 論文の体系性・全体構成の適切性
- (3) 先行研究の調査・既往研究との関連性
- (4) 方法論の妥当性
- (5) 論旨・主張の整合性と一貫性
- (6) 表現・表記の適切さ
- (7) 学会もしくは一般社会における価値

● カリキュラム・ポリシー

京都精華大学大学院博士後期課程では、博士前期課程の教育をさらに発展させ、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を達成するために、主査1名・副査2名以上の複数教員による個別具体的な指導を実施します。さらに、マンガ研究計画演習、マンガ総合研究（1～3）という授業編成で研究領域の理解と思考を深め、文献・資料収集・分析の方法を身に付け、研究テーマ、研究計画、調査手法、文章作成をより専門的に学修していきます。定期的に研究記録書を記載・提出することで研究・調査の進捗を可視化し、3年次での博士論文完成を目指します。

自主的かつ真摯に研究に取り組むことを前提として、博士論文の作成は段階的に進められます。2年次以降には、まず「業績審査」において博士学位論文を執筆するに足る業績を持ち、学術的素養を身に付けているのか、3名以上の指導者による審査を受けます。この業績審査に合格した者は博士学位論文の構想を事前に審査する「学位審査予備審査」を3年次以降に受ける資格を得ます。この予備審査を通過した者が博士学位論文を提出できます。提出された論文は「学位審査会」で審査され、主査1名、副査2名以上の教員によって評価が実施されます。なお、予備審査、学位審査の各段階においては、それぞれの基準を示したルーブリックによる厳格な審査が実施され、最終的に提出論文の可否についての判定が下されます。

修了要件

科目区分	修了要件	
マンガ研究計画演習	2単位	左記14単位以上を修得のうえ 博士論文を提出し 審査及び試験に合格すること
マンガ総合研究1～3	計12単位（4単位×3科目）	

審査スケジュール

実施期間	行事・提出物
1年次	4月 ◇博士後期課程オリエンテーション 「研究指導教員グループ申請書（書式1）」提出
	7月 「研究記録書（書式2）」前期分提出 「研究計画書（書式3）」提出
	1月 「研究記録書（書式2）」後期分提出 「研究状況報告書（書式4）」提出
2年次	4月 ◇博士後期課程オリエンテーション 「研究指導教員グループ申請書（書式1）」提出 ※必要な院生のみ
	7月 「研究記録書（書式2）」前期分提出
	10月 ◆中間報告会（業績&研究）
	1月 「研究記録書（書式2）」後期分提出 「研究状況報告書（書式4）」提出
3年次	4月 ◇博士後期課程オリエンテーション 「研究指導教員グループ申請書（書式1）」提出 ※必要な院生のみ
	7月 「研究業績一覧」提出 「学位審査予備審査申請書」提出 「学位審査予備審査論文」提出 「研究記録書（書式2）」前期分提出
	10月 ◆業績審査会 ◆予備審査会
	11月 「学位申請書」提出 ※予備審査合格者対象
	1月 「学位請求論文」提出 「研究記録書（書式2）」後期分提出 「研究状況報告書（書式4）」提出
	2月 ◆学位審査会

※具体的な日程や提出方法は、各年度の始めにお知らせします。

研究指導体制

①指導教員

指導を受けられる教員については、4月のオリエンテーション時にお知らせします。

②指導体制

主指導教員1名+副指導教員2名以上=計3名以上

③論文指導チューター

週に1日、博士後期課程共同研究室に論文指導チューターが在室し、研究に必要な資料の探し方や文の構成、留学生の場合には日本語の添削などを補助します。 ※詳細は、4月のオリエンテーション時にお知らせします。

マンガ研究科博士後期課程 科目一覧

科目ナンバリングコード	科目名	必修/選択	授業形態	単位数	配当年次	ディプロマ・ポリシーとの相関				
						DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5
						知識と理解	創造的思考と考察	技術と表現	視点と協働	社会への関心と行動
GDM50017	マンガ研究計画演習	必修	演習	2	1	●	●			
GDM60017	マンガ総合研究1	必修	実習	4	1	●	●	●	●	
GDM60028	マンガ総合研究2	必修	実習	4	2	●	●	●	●	
GDM60028	マンガ総合研究3	必修	実習	4	3	●	●	●	●	●

「マンガ研究計画演習」(担当:理論担当教員)

授業の概要および目的	各々の研究範囲とその研究テーマに応じて、指導教員との面談を重ねながら、博士後期課程3年間における研究計画を立案する。総合的なマンガ表現の視点を獲得するため、研究方法に対する理解を深め、制作と理論のバランスがとれた調和ある研究計画の設定を行う。
授業計画	週1回、博士後期課程1年次全員が集まり、理論的な文献の講読、自らの作品の分析、あるいは研究に関する発表等を行い、各々にふさわしい理論的サポートを行う。状況に応じてレポートを課すこともある。研究計画の立案が必須となり、「研究計画書」を提出する。7月中旬に主指導教員、副指導教員を交えて学生の3年間の研究計画に関する報告会を開催する。その後、報告会を踏まえた上で、研究計画書を作成し直し、メールへの添付ファイルの形で主指導教員・副指導教員・教務チームへ提出する。
成績評価	出席・積極的参加 30% 研究計画書の内容 30% 報告会の発表内容 40%

「マンガ総合研究1」(担当:主指導教員)

授業の概要および目的	主指導教員1名と副指導教員2名以上が、学生の研究領域のテーマに応じて分担または合同で研究指導を行う。これは、次年度に設定される「マンガ総合研究2」の指導の前提となる研究である。
授業計画	各自の制作・研究を深めていくため、主指導教員の指導を中心としながら、同時に幅広く思考していけるように、主指導教員のコーディネートによる副指導教員等の指導・関わりを設ける。実施内容、実施時間、実施場所は主指導教員との話し合いにより決定、進行していく。「マンガ研究計画演習」「マンガ総合研究1」において主指導教員・副指導教員・その他から指導、助言を受ける毎に、その主題・議論の題目・内容、日時を記録しておくため、学生は研究記録書を作成し、学期末に教務チームへ提出する。指導、助言はメールや電話等を含む。また、後期に公開シンポジウム形式の研究計画報告会を開催し、自身の研究計画についてプレゼンテーションを行う。
成績評価	授業への参加度(出席、意見や質問の積極度、授業活性化への貢献など) 50% 授業中の口頭発表 50%

「マンガ総合研究2」(担当:主指導教員)

授業の概要および目的	主指導教員の指導を中心としながら、各自の制作・研究を徹底的に進めて行く。博士論文資格試験のための予習も行う。
授業計画	各自の制作・研究を深めていくため、主指導教員の指導を中心としながら、同時に幅広く思考していけるように、主指導教員のコーディネートによる副指導教員等の指導・関わりを設ける。実施内容、実施時間、実施場所は主指導教員との話し合いにより決定、進行していく。10月にこれまでの業績について報告する「中間報告会」を開催する。「マンガ総合研究2」において主指導教員・副指導教員・その他から指導、助言を受けるごとに、その主題・議論の題目・内容、日時を記録しておくため、学生は研究記録書を作成し、学期末に教務チームへ提出する。
成績評価	授業への参加度(出席、意見や質問の積極度、授業活性化への貢献など) 50% 授業中の口頭発表 50%

「マンガ総合研究3」(担当:主指導教員)

授業の概要および目的	主指導教員・副指導教員を中心に「マンガ総合研究1」・「マンガ総合研究2」における研究の成果を踏まえ、各学生の制作・研究の集大成を目的に指導にあたる。これは学位(博士)申請に関わる論文と作品の審査に直結し、学生の修了要件として単位化される。
授業計画	各自の制作・研究を深めていくため、主指導教員の指導を中心としながら、同時に幅広く思考していけるように、主指導教員のコーディネートによる副指導教員等の指導・関わりを設ける。実施内容、実施時間、実施場所は主指導教員との話し合いにより決定、進行していく。10月上旬には学位請求論文の提出要件を満たしているかどうかを審査する「業績審査会」を開催する。また、「予備審査」を経て「学位審査」を行う。「マンガ総合研究3」において主指導教員・副指導教員・その他から指導、助言を受けるごとに、その主題・議論の題目・内容、日時を記録しておくため、学生は研究記録書を作成し、学期末に教務チームへ提出する。
成績評価	授業への参加度(出席、意見や質問の積極度、授業活性化への貢献など) 50% 授業中の口頭発表 50%

※希望により、博士前期課程に開設される基礎理論関係科目および学部開設される専門講義科目の履修を認める場合があります。履修に関しては、教務チームと相談のうえ、科目登録を行ってください。

各種行事における評価・判定

各年次で、以下の報告会または審査会が開かれます。

2年次:中間報告会

3年次:業績審査会、予備審査会、学位審査会

予備審査会と学位審査会では、ルーブリック評価により、評価・判定を行います。

ルーブリックに関する詳細は、4月のオリエンテーション時にお知らせします。

機関リポジトリへの登録

博士論文の審査及び試験に合格した博士論文は、京都精華大学機関リポジトリに登録掲載します。

8

資格課程

Qualification
Course

資格課程の概要

1. 京都精華大学で取得できる資格

本学には、いくつかの資格を取得する課程を置いています。いずれも、資格ごとに必要な科目や単位数等の要件があり、それらを満たせば資格取得ができます。取得できる資格は、入学年度、所属学部、学科、コース・専攻によって異なります。詳細は、以下の表にて確認してください。

人文学部生が取得できる資格

学部	学科	コース	教職							日本語 教員	博物館 学芸員	図書館 司書
			中学校一種免許			高等学校一種免許						
			社会	国語	英語	地理歴史	国語	公民	英語			
人文	人文	歴史	○	-	-	○	-	-	-	-	○	○
		文学	-	○	-	-	○	-	-	-	○	○
		社会	○	-	-	-	-	○	-	-	○	○
	国際教養	国際文化	-	-	○	-	-	-	○	-	○	○
		国際日本学	-	-	-	-	-	-	-	○※ ¹	○	○

メディア表現学部生が取得できる資格

学部	学科	専攻	教職		博物館 学芸員	図書館 司書
			高等学校一種免許状			
			情報			
メディア表現	メディア表現	全専攻	○		○	○

芸術・デザイン・マンガ学部生が取得できる資格

学部	学科	コース・専攻	教職			一級 建築士 (受験資格)	二級 建築士 (受験資格)	木造 建築士 (受験資格)	博物館 学芸員	図書館 司書
			中学校 一種免許状	高等学校 一種免許状						
				美術	美術					
芸術	造形	全専攻	○	○	○	-	-	-	○	○
デザイン	イラスト	イラスト	○	○	-	-	-	-	○	○
		グラフィックデザイン	○	○	-	-	-	-	○	○
	ビジュアル デザイン	デジタルクリエイション	-	-	-	-	-	-	○	○
		プロダクト デザイン	全専攻	○	○	○	-	○※ ²	○※ ²	○
	建築	建築	-	-	-	○※ ³	○※ ³	○※ ³	-	-
人間環境デザイン		-	-	-	-	○※ ³	○※ ³	-	-	
マンガ	マンガ	全コース	○	○	-	-	-	-	○	○
	キャラクター デザイン	キャラクターデザイン	○	○	-	-	-	-	○	○
	アニメーション	アニメーション	○	○	-	-	-	-	○	○

※¹ 国際日本学専攻の「登録日本語教員」に関する情報は、P.79～81の「登録日本語教員」ページにて確認してください。

※² プロダクトデザイン学科の「二級建築士」「木造建築士」に関する情報は、P.125の「建築士」ページにて確認してください。

※³ 建築学科の「一級建築士」「二級建築士」「木造建築士」に関する情報は、P.130の「建築士」ページにて確認してください。

1. 履修の心得

教職課程は、中学校・高等学校の教員として働くために必要な教育職員免許状を取得するために設置された課程です。この時期は、人間形成の過程でこころと身体が著しく発達する重要な期間です。本学の教職課程では、そのような重要な時期の教育を担う人材を育成するという教育目標のもと、「人間を尊重し、多様な価値観・文化を受容するとともに、広い視野と論理的思考に基づき、多様な人々と共生・協働することができる教師」を輩出することを目指します。これらの方針を理解したうえで、次に記すような熱意ある学生の履修を望みます。

- 教育に関心があり、教員になりたいと思っている人
- 人と関わる仕事がしたいと思っている人
- 粘り強く、継続して学び続ける姿勢を持っている人
- 教育をとおして、地域や社会に役立ちたいと思っている人

2. 教育職員免許状を取得するための要件

教職課程は、所属する学部、学科、コース・専攻におけるカリキュラム（教育課程）とは異なる別のカリキュラムです。教育職員免許状を取得するためには、所属先の卒業要件に加えて次の3つの教育職員免許状取得要件を満たす必要があります。

教育職員免許状の取得要件

- (1) 取得したい免許状の課程に登録していること。
- (2) 学士の学位を有する（所属学部を卒業すること）。
- (3) 取得したい免許状の課程において定められた科目の単位を修得すること。
 - ①「教職に関する科目（P.193参照）」の要件を満たすこと。
 - ②「教科に関する科目（P.194～205参照）」の要件を満たすこと。

3. 課程登録

各種免許状を取得するためには、1年次の定められた期間に課程登録に関する申請手続きを必ず行なってください。手続き方法は、次のとおりです。

課程登録手続き方法

- (1) 1年次の定められた登録期間に、セイカ・ポータルにて申請する。
※申請方法は、セイカ・ポータルにて告知します。
- (2) 証明書自動発行機にて、所定の課程登録料（30,000円）を納付し、登録料納付書を入手する。
- (3) 登録料納付書を教務チーム窓口へ提出する。

4. 4年間の流れ

年次	時期	事項
1年	4月 初旬	「教職に関する科目」「教科に関する科目」の前期科目履修開始
	10月 初旬	「教職に関する科目」「教科に関する科目」の後期科目履修開始
	1月 下旬	資格課程ガイダンス 課程登録申請手続き（～2月初旬）※登録料が必要
2年	9月 下旬	介護等体験事前指導実施（中学校一種免許状取得希望者のみ）
	1月 初旬	介護等体験先（府県）決定 介護等体験説明会・申請（1回目）
3年	3月 下旬	資格課程ガイダンス 教育実習予定校への訪問・内諾依頼（～9月）
	4月 下旬	介護等体験説明会・申請（2回目）
	5月 上旬	介護等体験（前期）開始（～8月）
	10月 上旬	介護等体験（後期）開始（～3月）
	3月 下旬	資格課程ガイダンス
4年	5月 上旬	教育実習開始
	10月 下旬	第1回教育職員免許状申請説明会（ポータル掲示）
	11月 下旬	第2回教育職員免許状申請説明会
	3月 下旬	教育職員免許状取得

教職課程の履修について悩んでいる場合は、1年次配当科目を履修し、自分に向いているか、4年次まで続けることができそうか、検討してください。

1年次1・2月に「課程登録」の申請手続きを行ってください。この手続きによって、「教職課程を履修する」という正式な意思表示をすることになります。

教育実習の期間は、中学校一種免許状取得希望者の場合は3週間以上、高等学校一種免許状取得希望者の場合は2週間以上です。

5. 履修上の注意

- 次の科目については、3年次を終えるまでに必ず修得してください。
これらの科目の単位を修得しておかなければ、4年次の「教育実習I・II」「教職実践演習」を履修することができません。

対象科目

「教職論」「教育原論」「教育心理学」「教育制度論」「教育課程論」「道徳教育論※1」
「特別活動論」「教育方法論」「生徒・進路指導論」「教育相談」「教科教育法※2」

※1 中学校の免許状を取得する場合のみ（高等学校の免許状のみを取得する場合は不要）

※2 課程登録を行なった免許状に関する「教科教育法」を修得してください。詳細は、P.193「教職に関する科目一覧（全学部共通）」を参照してください。

- 免許状ごとに取得要件が定められています。
所属学科・コース・専攻および免許状に応じた「教職に関する科目一覧」および「教科に関する科目」の要件をそれぞれ満たしてください。
「教職に関する科目一覧」はP.193、「教科に関する科目」はP.194～205の所属学科、コース・専攻ページにて確認してください。
- 中学校教諭一種免許状を取得するためには、「介護等体験」を行なう必要があります。

6. 介護等体験

- 中学校教諭一種免許状の取得をするためには、定められた期間に「介護等体験」を必ず終えなければなりません。
- 手続等の詳細については、2年次前期に、対象者へセイカ・ポータルにて通知します。
- 「介護等体験」は通常の科目ではありませんので、通常の履修登録は不要です。しかし定められた期間に必要な手続きを必ず行ってください。

「介護等体験事前指導」

時期 | 2年次前期 概要 | 課題の提出

「介護等体験」

時期 | 3年次前期／後期 期間 | 特別支援学校2日間、社会福祉施設5日間 実施機関 | 各派遣先

7. 教職に関する科目一覧(全学部共通)

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修		授業形態	単位数	履修推奨年次				備考
			中	高			1年	2年	3年	4年	
教育の基礎的理解に関する科目	CQT50013	教職論	★	★	講義	2		○	○		
	CQT50111	教育原論	★	★	講義	2	○	○	○		
	CQT50211	教育心理学	★	★	講義	2	○	○	○		
	CQT50311	教育制度論	★	★	講義	2	○	○	○		
	CQT50412	教育課程論	★	★	講義	2		○	○		
	CQT50352	特別支援教育論	★	★	講義	1		○	○		
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	CQT51012	道徳教育論	★		講義	2		○	○		
	CQT51112	特別活動論	★	★	講義	2		○	○		
	CQT51212	教育方法論	★	★	講義	2		○	○		
	CQT51512	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	★	★	講義	1		○	○		
	CQT51312	生徒・進路指導論	★	★	講義	2		○	○		
	CQT51412	教育相談	★	★	講義	2		○	○		
	CQT51052	総合的な学習の時間の指導論	★	★	講義	1		○	○		
教科及び教科の指導法に関する科目	CQT50712	国語科教育法I	★	★	講義	2		○			国語科取得希望者のみ
	CQT50722	国語科教育法II	★	★	講義	2		○			国語科取得希望者のみ
	CQT50733	国語科教育法III	★	★	講義	2			○		国語科取得希望者のみ
	CQT50743	国語科教育法IV	★	★	講義	2			○		国語科取得希望者のみ
	CQT50953	社会科地歴科教育法I	★	★	講義	2		○			社会科、地歴科取得希望者のみ
	CQT50963	社会科地歴科教育法II	★	★	講義	2		○			社会科、地歴科取得希望者のみ
	CQT50913	社会科公民科教育法I	★	★	講義	2			○		社会科、公民科取得希望者のみ
	CQT50923	社会科公民科教育法II	★	★	講義	2			○		社会科、公民科取得希望者のみ
	CQT50812	英語科教育法I	★	★	講義	2		○			英語科取得希望者のみ
	CQT50822	英語科教育法II	★	★	講義	2		○			英語科取得希望者のみ
	CQT50833	英語科教育法III	★	★	講義	2			○		英語科取得希望者のみ
	CQT50843	英語科教育法IV	★	★	講義	2			○		英語科取得希望者のみ
	CQT50813	情報科教育法I		★	講義	2		○			情報科取得希望者のみ
	CQT50823	情報科教育法II		★	講義	2		○			情報科取得希望者のみ
	CQT50513	美術科教育法I	★	★	講義	2		○			美術科(中/高)取得希望者のみ
	CQT50523	美術科教育法II	★	★	講義	2		○			美術科(中/高)取得希望者のみ
CQT50613	美術科・工芸科教育法I	★	★	講義	2		○	○	※ ²	美術科(中)、工芸科取得希望者のみ	
CQT50623	美術科・工芸科教育法II	★	★	講義	2		○	○	※ ²	美術科(中)、工芸科取得希望者のみ	
教育実践に関する科目	CQT60014	事前・事後指導	★	★	演習	1				○	通年
	CQT90014	教育実習I	★	★	学外実習	2				○	
	CQT90024	教育実習II	★		学外実習	2				○	
	CQT52114	教職実践演習	★	★	演習	2				○	

8. 学部・学科・コース別 教科に関する科目一覧

人文学部 人文学科 歴史コース(社会科・地理歴史科)

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修/選択必修		授業形態	単位数	履修推奨年次				備考
			中	高			1年	2年	3年	4年	
			社会	地歴							
教科又は教職に関する科目	CggZ1381	日本史	★	★	講義	2	○	○	○	○	
	CggZ1401	グローバルヒストリー	★	★	講義	2	○	○	○	○	
	CggZ1391	東洋史	★	★	講義	2	○	○	○	○	
	HdhZ2211	歴史学概論		★	講義	2		○			
	HdhZ3241	歴史学研究		★	講義	2			○		
	HfhZ1401	京都の歴史	●	●	講義	2	○	○	○	○	社会科取得希望者は いずれか1科目選択必修
	HfhZ2441	日本芸能史	●	●	講義	2		○	○	○	
	HfhZ2451	日本思想史	●	●	講義	2		○	○	○	
	HfhZ2461	日本社会史	●	●	講義	2		○	○	○	
	HfhZ2471	日本文化史	●	●	講義	2		○	○	○	
	HfhZ2481	日本民俗学	●	●	講義	2		○	○	○	
	HfhZ1431	日本・アジア関係史	●	★	講義	2	○	○	○	○	
	HdhZ2271	日本古代史特講		●	講義	2		○	○	○	いずれか2科目選択必修
	HdhZ2281	日本中世史特講		●	講義	2		○	○	○	
	HdhZ2291	日本近世史特講		●	講義	2		○	○	○	
	HdhZ2301	日本近代史特講		●	講義	2		○	○	○	
	CggZ1371	地理学	★	★	講義	2	○	○	○	○	
	HfhZ2421	地誌学	★	★	講義	2		○	○	○	
	HfhZ2491	歴史地理学	★	★	講義	2		○	○	○	
	Claz1571	法学	★		講義	2	○	○	○	○	
	Claz1561	政治学	★		講義	2	○	○	○	○	
	Claz1601	社会学	★		講義	2	○	○	○	○	
	Claz1591	経済学	★		講義	2	○	○	○	○	
	HfhZ21721	ジェンダー論	●		講義	2	○	○	○	○	いずれか1科目選択必修
	HfhZ2781	多文化共生論	●		講義	2		○	○	○	
	Claz1511	哲学	★		講義	2	○	○	○	○	
	Claz1521	倫理学	★		講義	2	○	○	○	○	
Claz1551	宗教学	★		講義	2	○	○	○	○		
大学が独自に 設定する科目	CQT53012	人権教育論	★	★	講義	2	○	○	○	○	
	CQT53051	障がい者理解	★	★	講義	2	○	○	○	○	
	CQT53071	学校安全論	★	★	講義	2	○	○	○	○	
	CQT60012	学校ボランティア	★	★	講義	2	○	○	○	○	
第66条の6に定める科目 教育職員免許法施行規則	Claz1581	日本国憲法	★	★	講義	2	○	○	○	○	
	CetZ1151	スポーツ実習1	★	★	実習	1	○	○	○	○	教職クラスを受講
	CetZ1152	スポーツ実習2	★	★	実習	1	○	○	○	○	教職クラスを受講
	CggZ1211	英語1	★	★	演習	2	○				
	CggZ1212	英語2	★	★	演習	2	○				
	CetZ1041	オフィスソフトスキル入門	★	★	実習	2	○	○	○	○	

[★:必修、●:選択必修]

人文学部 人文学科 文学コース(国語科)

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修/選択必修		授業形態	単位数	履修推奨年次				備考
			中	高			1年	2年	3年	4年	
			国語	国語							
教科又は教職に関する科目	CggZ2341	日本語学	★	★	講義	2		○	○	○	
	HfhZ2511	くずし字読解	★	★	講義	2		○	○	○	
	HfhZ2521	古典文法	★	★	講義	2		○	○	○	
	CggZ1351	言語学	★	★	講義	2	○	○	○	○	
	HdhZ2221	文学概論	★	★	講義	2		○			
	HdhZ3251	文学研究	★	★	講義	2			○		
	HfhZ1581	日本文学史	★	★	講義	2	○	○	○	○	
	HfhZ2541	書誌学	★	★	講義	2		○	○	○	
	HfhZ1561	説話・口承文学	★	★	講義	2	○	○	○	○	
	HdhZ2311	日本上代文学講読	●	●	講義	2		○	○	○	いずれか2科目選択必修
	HdhZ2321	日本中古文学講読	●	●	講義	2		○	○	○	
	HdhZ2331	日本中世文学講読	●	●	講義	2		○	○	○	
	HdhZ2341	日本近世文学講読	●	●	講義	2		○	○	○	
	HdhZ2351	日本近代文学講読	●	●	講義	2		○	○	○	
HfhZ2501	漢文学	★	★	講義	2		○	○	○		
HfhZ2551	書道	★		講義	2		○	○	○		
大学が独自に設定する科目	CQT53012	人権教育論	★	★	講義	2	○	○	○	○	
	CQT53051	障がい者理解	★	★	講義	2	○	○	○	○	
	CQT53071	学校安全論	★	★	講義	2	○	○	○	○	
	CQT60012	学校ボランティア	★	★	講義	2	○	○	○	○	
第66条の6に定める科目	ClaZ1581	日本国憲法	★	★	講義	2	○	○	○	○	
	CetZ1151	スポーツ実習1	★	★	実習	1	○	○	○	○	教職クラスを受講
	CetZ1152	スポーツ実習2	★	★	実習	1	○	○	○	○	教職クラスを受講
	CggZ1211	英語1	★	★	演習	2	○				
	CggZ1212	英語2	★	★	演習	2	○				
	CetZ1041	オフィスソフトスキル入門	★	★	実習	2	○	○	○	○	

[★：必修、●：選択必修]

資格課程

教職課程(科目一覧 人文学部)

8. 教科に関する科目一覧

人文学部 人文学科 社会コース(社会科・公民科)

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修/選択必修		授業形態	単位数	履修推奨年次				備考
			中	高			1年	2年	3年	4年	
			社会	公民							
教科又は教職に関する科目	CggZ1381	日本史	★		講義	2	○	○	○	○	
	CggZ1401	グローバルヒストリー	★		講義	2	○	○	○	○	
	CggZ1391	東洋史	★		講義	2	○	○	○	○	
	HfhZ1401	京都の歴史	●		講義	2	○	○	○	○	いずれか1科目選択必修
	HfhZ2441	日本芸能史	●		講義	2		○	○	○	
	HfhZ2451	日本思想史	●		講義	2		○	○	○	
	HfhZ2461	日本社会史	●		講義	2		○	○	○	
	HfhZ2471	日本文化史	●		講義	2		○	○	○	
	HfhZ2481	日本民俗学	●		講義	2		○	○	○	
	HfhZ1431	日本・アジア関係史	●		講義	2	○	○	○	○	
	CggZ1371	地理学	★		講義	2	○	○	○	○	
	HfhZ2421	地誌学	★		講義	2		○	○	○	
	HfhZ2491	歴史地理学	★		講義	2		○	○	○	
	Claz1571	法学	★	★	講義	2	○	○	○	○	
	Claz1561	政治学	★	★	講義	2	○	○	○	○	
	HfhZ2711	国際関係論		★	講義	2		○	○	○	
	Claz1601	社会学	★	★	講義	2	○	○	○	○	
	Claz1591	経済学	★	★	講義	2	○	○	○	○	
	HdhZ2231	社会学概論		★	講義	2		○			
	HdhZ3261	社会学研究		★	講義	2			○		
	HdhZ2361	現代社会特講1		●	講義	2		○	○	○	いずれか2科目選択必修
	HdhZ2362	現代社会特講2		●	講義	2		○	○	○	
	HdhZ2363	現代社会特講3		●	講義	2		○	○	○	
	HdhZ2364	現代社会特講4		●	講義	2		○	○	○	
	HdhZ2365	現代社会特講5		●	講義	2		○	○	○	
	HfhZ1721	ジェンダー論	●		講義	2	○	○	○	○	いずれか1科目選択必修
	HfhZ2781	多文化共生論	●		講義	2		○	○	○	
	Claz1511	哲学	★	★	講義	2	○	○	○	○	
	Claz1521	倫理学	★	★	講義	2	○	○	○	○	
	Claz1551	宗教学	★	★	講義	2	○	○	○	○	
大学が独自に設定する科目	CQT53012	人権教育論	★	★	講義	2	○	○	○	○	
	CQT53051	障がい者理解	★	★	講義	2	○	○	○	○	
	CQT53071	学校安全論	★	★	講義	2	○	○	○	○	
	CQT60012	学校ボランティア	★	★	講義	2	○	○	○	○	
第66条の6に定める科目	Claz1581	日本国憲法	★	★	講義	2	○	○	○	○	
	CetZ1151	スポーツ実習1	★	★	実習	1	○	○	○	○	教職クラスを受講
	CetZ1152	スポーツ実習2	★	★	実習	1	○	○	○	○	教職クラスを受講
	CggZ1211	英語1	★	★	演習	2	○				
	CggZ1212	英語2	★	★	演習	2	○				
	CetZ1041	オフィスソフトスキル入門	★	★	実習	2	○	○	○	○	

[★:必修、●:選択必修]

人文学部 国際教養学科 国際文化コース(英語科)

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修/選択必修		授業形態	単位数	履修推奨年次				備考
			中	高			1年	2年	3年	4年	
			英語	英語							
教科又は教職に関する科目	HfhZ2841	英語学概論1	★	★	講義	2		○	○	○	
	HfhZ2842	英語学概論2	★	★	講義	2		○	○	○	
	CggZ1351	言語学	●	●	講義	2	○	○	○	○	いずれか1科目選択必修
	HfhZ2881	心理言語学	●	●	講義	2		○	○	○	
	HfhZ2891	社会言語学	●	●	講義	2		○	○	○	
	HfhZ2851	英語文学1	★	★	講義	2		○	○	○	
	HfhZ2852	英語文学2	★	★	講義	2		○	○	○	
	HfhZ2861	English Communication Intermediate	★	★	実習	2		○			
	CggZ2261	English Communication Advanced1	★	★	演習	2			○		
	CggZ2262	English Communication Advanced2	★	★	演習	2			○		
	HfhZ2871	World Englishes	●	●	実習	2		○	○	○	いずれか1科目選択必修
	CggZ2241	English Discussion	●	●	演習	2		○	○	○	
	CggZ2251	Effective Presentation	●	●	演習	2		○	○	○	
	HdlZ2211	国際文化概論	★	★	講義	2		○			
	HdlZ3231	国際文化研究	★	★	講義	2			○		
HdlZ2251	国際文化特講1	●	●	講義	2		○	○		いずれか2科目選択必修	
HdlZ2253	国際文化特講3	●	●	講義	2		○	○			
HdlZ2254	国際文化特講4	●	●	講義	2		○	○			
大学が独自に設定する科目	CQT53012	人権教育論	★	★	講義	2	○	○	○	○	
	CQT53051	障がい者理解	★	★	講義	2	○	○	○	○	
	CQT53071	学校安全論	★	★	講義	2	○	○	○	○	
	CQT60012	学校ボランティア	★	★	講義	2	○	○	○	○	
第66条の6に定める科目	ClaZ1581	日本国憲法	★	★	講義	2	○	○	○	○	
	CetZ1151	スポーツ実習1	★	★	実習	1	○	○	○	○	教職クラスを受講
	CetZ1152	スポーツ実習2	★	★	実習	1	○	○	○	○	教職クラスを受講
	CggZ1211	英語1	★	★	演習	2	○				
	CggZ1212	英語2	★	★	演習	2	○				
	CetZ1041	オフィスソフトスキル入門	★	★	実習	2	○	○	○	○	

[★:必修、●:選択必修]

8. 教科に関する科目一覧

メディア表現学部 メディア表現学科(情報科)

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修/選択 高 情報	授業形態	単位数	履修推奨年次				備考
						1年	2年	3年	4年	
教科又は教職に関する科目	ClaZ1751	情報と倫理	★	講義	1	○				
	ClaZ1631	情報科学	★	講義	2	○	○	○	○	
	TmcZ1301	メディアイノベーション研究概論	★	講義	1	○	○	○	○	
	TmcZ1311	メディアイノベーション初級演習	★	演習	1	○	○	○	○	
	TmcZ1411	メディア技術論1	★	講義	1	○	○	○	○	
	TmcZ1121	プログラミング基礎	★	演習	2	○				
	TmcZ1401	メディア分析1	★	講義	1	○	○	○	○	
	TmcZ2911	プログラミング発展1	★	演習	1		○	○	○	
	TmcZ1101	メディア表現概論	★	講義	2	○				
	TmcZ2912	プログラミング発展2	★	演習	1		○	○	○	
	TmcZ1111	メディア表現史	★	講義	2	○				
	TmcZ2141	メディアと知的財産権	★	講義	1		○			
	TmcZ1891	教育メディア論	★	実習	2	○	○	○	○	
	TmcZ2431	メディアビジネス論1	★	講義	1		○	○	○	
TmcZ2432	メディアビジネス論2	★	講義	1		○	○	○		
TmcZ2131	エクスターンシップ	★	講義	2		○	○	○		
大学が独自に設定する科目	CQT53012	人権教育論	★	講義	2	○	○	○	○	
	CQT53051	障がい者理解	★	講義	2	○	○	○	○	
	CQT53071	学校安全論	★	講義	2	○	○	○	○	
	CQT60012	学校ボランティア	★	講義	2	○	○	○	○	
第66条の6に定める科目	ClaZ1581	日本国憲法	★	講義	2	○	○	○	○	
	CetZ1151	スポーツ実習1	★	実習	1	○	○	○	○	教職クラスを受講
	CetZ1152	スポーツ実習2	★	実習	1	○	○	○	○	教職クラスを受講
	CggZ1211	英語1	★	演習	2	○				
	CggZ1212	英語2	★	演習	2	○				
	CetZ1041	オフィスソフトスキル入門	★	実習	2	○	○	○	○	

[★:必修、●:選択必修]

芸術学部 造形学科(美術科・工芸科)

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修/選択必修			授業形態	単位数	履修推奨年次				備考	
			中	高				1年	2年	3年	4年		
			美術	美術	工芸								
教科又は教職に関する科目	AfaZ2021	芸術造形実習1	★	★		実習	4.5		○				
	AfaZ2022	芸術造形実習2	★	★		実習	4.5		○				
	AfaZ1011	芸術基礎実習1	★	★		実習	6	○					
	AfaZ1012	芸術基礎実習2	★	★	★	実習	6	○					
	AfaZ2221	工芸1	★		★	実習	2		○	○	○		
	AfaZ2222	工芸2	★		★	実習	2		○	○	○		
	AfaZ2251	図法製図			★	実習	2		○	○	○		
	CetZ1071	美学	★	★		講義	2	○	○	○	○		
	CetZ1091	美術史	★	★	★	講義	2	○	○	○	○		
	AfaZ2341	アートマネジメント論	★	★	★	演習	1		○	○	○		
	CetZ1101	日本美術史	★	★		講義	2	○	○	○	○		
	CetZ1111	東洋美術史	★	★		講義	2	○	○	○	○		
	CetZ1121	西洋美術史	★	★		実習	2	○	○	○	○		
	CetZ1061	芸術学	★	★		講義	2	○	○	○	○		
	CorZ113101	デザイン概論1	★	★	★	講義	1	○	○	○	○		
	CorZ113201	デザイン概論2	★	★	★	講義	1	○	○	○	○		
	CetZ1081	工芸概論			★	講義	2	○	○	○	○		
	CggZ2431	京都の伝統工芸講座1			★	講義	2		○	○	○		
	CggZ2432	京都の伝統工芸講座2			★	講義	2		○	○	○		
	AfaZ1291	美術工芸史1			★	講義	1	○	○	○	○		
AfaZ1292	美術工芸史2			★	講義	1	○	○	○	○			
AfaZ1293	美術工芸史3			★	講義	1	○	○	○	○			
大学が独自に設定する科目	CQT53012	人権教育論	●	●	●	講義	2	○	○	○	○	いずれか3科目以上選択必修	
	CQT53031	現代学校論	●	●	●	講義	2	○	○	○	○		
	CQT53051	障がい者理解	●	●	●	講義	2	○	○	○	○		
	CQT53071	学校安全論	●	●	●	講義	2	○	○	○	○		
	CQT60012	学校ボランティア	●	●	●	講義	2	○	○	○	○		
第66条の6に定める科目	ClaZ1581	日本国憲法	★	★	★	講義	2	○	○	○	○		
	CetZ1151	スポーツ実習1	★	★	★	実習	1	○	○	○	○	教職クラスを受講	
	CetZ1152	スポーツ実習2	★	★	★	実習	1	○	○	○	○	教職クラスを受講	
	CggZ1211	英語1	★	★	★	演習	2	○					
	CggZ1212	英語2	★	★	★	演習	2	○					
	CetZ1041	オフィスソフトスキル入門	★	★	★	実習	2	○	○	○	○		

[★:必修、●:選択必修]

8. 教科に関する科目一覧

デザイン学部 ビジュアルデザイン学科 グラフィックデザインコース(美術科)

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修/選択必修		授業形態	単位数	履修推奨年次				備考
			中	高			1年	2年	3年	4年	
			美術	美術							
教科又は教職に関する科目	DvdZ1301	ビジュアルデザイン基礎実習1	★	★	実習	6	○				
	DvdZ2401	ビジュアルデザイン応用実習1	★	★	実習	6		○			
	DfdZ2901	基礎立体・彫塑	★	★	演習	2		○	○	○	
	DfdZ1001	デザイン概論1	★	★	講義	1	○				
	DfdZ1002	デザイン概論2	★	★	講義	1	○				
	DfdZ2171	ビジュアルデザイン・アート批評	★	★	講義	1		○	○	○	
	DfdZ2211	サステイナブルデザイン論	★	★	講義	1		○	○	○	
	DvdZ3421	ビジュアルデザインプロジェクト実習1	★	★	講義	6			○		
	DfdZ2911	工芸	★		演習	2		○	○	○	
	CetZ1071	美学	★	★	講義	2	○	○	○	○	
	CetZ1091	美術史	★	★	講義	2	○	○	○	○	
	CetZ1101	日本美術史	★	★	講義	2	○	○	○	○	
	CetZ1111	東洋美術史	★	★	講義	2	○	○	○	○	
	CetZ1121	西洋美術史	★	★	講義	2	○	○	○	○	
	CetZ1061	芸術学	★	★	講義	2	○	○	○	○	
科目が独自に設定する	CQT53012	人権教育論	★	★	講義	2	○	○	○	○	
	CQT53031	現代学校論	★	★	講義	2	○	○	○	○	
第66条の6に定める科目	Claz1581	日本国憲法	★	★	講義	2	○	○	○	○	
	CetZ1151	スポーツ実習1	★	★	実習	1	○	○	○	○	教職クラスを受講
	CetZ1152	スポーツ実習2	★	★	実習	1	○	○	○	○	教職クラスを受講
	CggZ1211	英語1	★	★	演習	2	○				
	CggZ1212	英語2	★	★	演習	2	○				
	CetZ1041	オフィスソフトスキル入門	★	★	実習	2	○	○	○	○	

[★:必修、●:選択必修]

デザイン学部 イラスト学科(美術科)

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修/選択必修		授業形態	単位数	履修推奨年次				備考
			中	高			1年	2年	3年	4年	
			美術	美術							
教科又は教職に関する科目	DilZ1301	イラスト基礎実習1	★	★	実習	6	○				
	DilZ1302	イラスト基礎実習2	★	★	実習	6	○				
	DilZ1401	立体表現1	★	★	実習	2	○	○	○	○	
	DilZ1402	立体表現2	★	★	実習	2	○	○	○	○	
	DfdZ2901	基礎立体・彫塑	★	★	演習	2		○	○	○	
	DfdZ1001	デザイン概論1	★	★	講義	1	○				
	DfdZ1002	デザイン概論2	★	★	講義	1	○				
	DfdZ2171	ビジュアルデザイン・アート批評	★	★	講義	1		○	○	○	
	DilZ1391	イラスト動画	★	★	実習	2	○	○	○	○	
	DilZ2431	映像表現	★	★	実習	2		○	○	○	
	DfdZ2911	工芸	★		演習	2		○	○	○	
	CetZ1071	美学	★	★	講義	2	○	○	○	○	
	CetZ1091	美術史	★	★	講義	2	○	○	○	○	
	CetZ1101	日本美術史	★	★	講義	2	○	○	○	○	
	CetZ1111	東洋美術史	★	★	講義	2	○	○	○	○	
	CetZ1121	西洋美術史	★	★	講義	2	○	○	○	○	
	CetZ1061	芸術学	★	★	講義	2	○	○	○	○	
CetZ2601	アートマネジメント論	★	★	講義	1		○	○	○		
大学が独自に設定する科目	CQT53012	人権教育論	★	★	講義	2	○	○	○	○	
	CQT53031	現代学校論	★	★	講義	2	○	○	○	○	
第66条の6に定める科目	ClaZ1581	日本国憲法	★	★	講義	2		○	○	○	
	CetZ1151	スポーツ実習1	★	★	実習	1	○	○	○	○	教職クラスを受講
	CetZ1152	スポーツ実習2	★	★	実習	1	○	○	○	○	教職クラスを受講
	CggZ1211	英語1	★	★	演習	2	○				
	CggZ1212	英語2	★	★	演習	2	○				
	Cetz1041	オフィスソフトスキル入門	★	★	実習	2	○	○	○		

[★:必修、●:選択必修]

8. 教科に関する科目一覧

デザイン学部 プロダクトデザイン学科(美術科・工芸科)

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修/選択必修			授業形態	単位数	履修推奨年次				備考
			中	高				1年	2年	3年	4年	
			美術	美術	工芸							
教科又は教職に関する科目	DpdZ1311	プロダクトデザイン基礎実習1	★	★		実習	3	○				
	DpdZ1312	プロダクトデザイン基礎実習2	★	★		実習	3	○				
	DpdZ2319	プロダクトデザイン基礎実習9	★	★	★	実習	3		○			
	DfdZ1001	デザイン概論1	★	★	★	講義	1	○				
	DfdZ1002	デザイン概論2	★	★	★	講義	1	○				
	DfdZ1011	デザイン史1	★	★	★	講義	1	○				
	DfdZ1012	デザイン史2	★	★	★	講義	1	○				
	DfdZ2121	プロダクトデザイン論	★	★	★	講義	1		○	○	○	
	DfdZ2171	ビジュアルデザイン・アート批評	★	★	★	演習	1		○	○	○	
	DpdZ1601	プロダクトカラー論1	★	★	★	講義	1	○	○	○	○	
	DpdZ1602	プロダクトカラー論2	★	★	★	講義	1	○	○	○	○	
	DpdZ1301	工芸1	★		★	実習	2	○				
	DpdZ1302	工芸2	★		★	実習	2	○				
	DpdZ2616	プロダクトデザイン基礎選習6			★	演習	1		○	○	○	
	CetZ1071	美学	★	★		講義	2	○	○	○	○	
	CetZ1091	美術史	★	★	★	講義	2	○	○	○	○	
	CetZ1101	日本美術史	●	●		講義	2	○	○	○	○	いずれか1科目選択必修
	CetZ1111	東洋美術史	●	●		講義	2	○	○	○	○	
	CetZ1121	西洋美術史	●	●		講義	2	○	○	○	○	
	CetZ1061	芸術学	●	●		講義	2	○	○	○	○	
CetZ1081	工芸概論			★	講義	2	○	○	○	○		
CggZ2431	京都の伝統工芸講座1			★	講義	2		○	○	○		
CggZ2432	京都の伝統工芸講座2			★	講義	2		○	○	○		
科目 設定する 大学が 独自に 定める	CQT53012	人権教育論	★	★	★	講義	2	○	○	○	○	
	CQT53031	現代学校論	★	★	★	講義	2	○	○	○	○	
第66 教育 職員の 免状 法施行 規則 に 定める 科目	ClaZ1581	日本国憲法	★	★	★	講義	2	○	○	○	○	
	CetZ1151	スポーツ実習1	★	★	★	実習	1	○	○	○	○	教職クラスを受講
	CetZ1152	スポーツ実習2	★	★	★	実習	1	○	○	○	○	教職クラスを受講
	CggZ1211	英語1	★	★	★	演習	2	○				
	CggZ1212	英語2	★	★	★	演習	2	○				
	CetZ1041	オフィスソフトスキル入門	★	★	★	実習	2	○	○	○	○	

[★:必修、●:選択必修]

マンガ学部 マンガ学科 ストーリーマンガコース(美術科)／新世代マンガコース(美術科)

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修/選択必修		授業形態	単位数	履修推奨年次				備考
			中	高			1年	2年	3年	4年	
			美術	美術							
教科又は教職に関する科目	MdmZ1201	マンガデッサン1	★	★	実習	3	○				
	MdmZ1202	マンガデッサン2	★	★	実習	3	○				
	MdmZ2241	表現技法1	★	★	実習	3		○			
	MdmZ2242	表現技法2	★	★	実習	3		○			
	MdmZ2351	基礎デッサン1	★	★	実習	2		○	○	○	
	MdmZ2352	基礎デッサン2	★	★	実習	2		○	○	○	
	MfdZ2901	基礎立体・彫塑	★	★	演習	2		○	○	○	
	MdmZ2331	マンガデザイン1	★	★	実習	2		○	○	○	
	MdmZ2332	マンガデザイン2	★	★	実習	2		○	○	○	
	MfdZ2911	工芸	★		演習	2		○	○	○	
	CetZ1071	美学	★	★	講義	2	○	○	○	○	
	CetZ1091	美術史	★	★	講義	2	○	○	○	○	
	CetZ1101	日本美術史	★	★	講義	2	○	○	○	○	
	CetZ1111	東洋美術史	★	★	講義	2	○	○	○	○	
	CetZ1121	西洋美術史	★	★	講義	2	○	○	○	○	
	CetZ1061	芸術学	★	★	講義	2	○	○	○	○	
科目設定する	CQT53012	人権教育論	★	★	講義	2	○	○	○	○	
	CQT53031	現代学校論	★	★	講義	2	○	○	○	○	
第66条の6に定める科目	ClaZ1581	日本国憲法	★	★	講義	2	○	○	○	○	
	CetZ1151	スポーツ実習1	★	★	実習	1	○	○	○	○	教職クラスを受講
	CetZ1152	スポーツ実習2	★	★	実習	1	○	○	○	○	教職クラスを受講
	CggZ1211	英語1	★	★	演習	2	○				
	CggZ1212	英語2	★	★	演習	2	○				
	CetZ1041	オフィスソフトスキル入門	★	★	実習	2	○	○	○	○	

[★:必修、●:選択必修]

8. 教科に関する科目一覧

マンガ学部 キャラクターデザイン学科(美術科)

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修/選択必修		授業形態	単位数	履修推奨年次				備考
			中	高			1年	2年	3年	4年	
			美術	美術							
教科又は教職に関する科目	McdZ1202	キャラクター造形基礎2	★	★	実習	1.5	○	○	○	○	
	McdZ1203	キャラクター造形基礎3	★	★	実習	1.5	○	○	○	○	
	McdZ1204	キャラクター造形基礎4	★	★	実習	1.5	○	○	○	○	
	McdZ2571	人体研究1	★	★	実習	2		○	○	○	
	McdZ2572	人体研究2	★	★	実習	2		○	○	○	
	McdZ2491	絵本技法	★	★	実習	2		○	○	○	
	McdZ1214	3Dグラフィックス基礎4	★	★	実習	1.5	○	○	○	○	
	McdZ2441	アナログフィギュア造形	★	★	実習	2		○	○	○	
	McdZ1221	ゲームデザイン基礎1	★	★	実習	1.5	○	○	○	○	
	McdZ2451	デジタルフィギュア造形	★	★	実習	2		○	○	○	
	MfdZ2911	工芸	★		演習	2		○	○	○	
	CetZ1071	美学	★	★	講義	2	○	○	○	○	
	CetZ1091	美術史	★	★	講義	2	○	○	○	○	
	CetZ1101	日本美術史	★	★	講義	2	○	○	○	○	
	CetZ1111	東洋美術史	★	★	講義	2	○	○	○	○	
	CetZ1121	西洋美術史	★	★	講義	2	○	○	○	○	
	McdZ2681	キャラクター表現史	★	★	講義	2		○	○	○	
	MfmZ2121	メディア文化論	★	★	講義	2		○	○	○	
大学が独自に設定する科目	CQT53012	人権教育論	★	★	講義	2	○	○	○	○	
	CQT53051	障がい者理解	★	★	講義	2	○	○	○	○	
	CQT53071	学校安全論	★	★	講義	2	○	○	○	○	
	CQT60012	学校ボランティア	★	★	講義	2	○	○	○	○	
第66条の6に定める科目	ClaZ1581	日本国憲法	★	★	講義	2	○	○	○	○	
	CetZ1151	スポーツ実習1	★	★	実習	1	○	○	○	○	教職クラスを受講
	CetZ1152	スポーツ実習2	★	★	実習	1	○	○	○	○	教職クラスを受講
	CggZ1211	英語1	★	★	演習	2	○				
	CggZ1212	英語2	★	★	演習	2	○				
	CetZ1041	オフィスソフトスキル入門	★	★	実習	2	○	○	○	○	

[★:必修、●:選択必修]

マンガ学部 アニメーション学科(美術科)

科目 区分	科目 ナンバリング コード	科目名	必修/選択必修		授業 形態	単 位 数	履修推奨年次				備考
			中	高			1年	2年	3年	4年	
			美術	美術							
教科又は教職に関する科目	ManZ1301	アニメーション作画基礎1	★	★	実習	3	○				
	ManZ1302	アニメーション作画基礎2	★	★	実習	3	○				
	ManZ1351	ドローイング1	★	★	実習	2	○	○	○	○	
	ManZ1352	ドローイング2	★	★	実習	2	○	○	○	○	
	MfdZ2901	基礎立体・彫塑	★	★	演習	2		○	○	○	
	ManZ1311	アニメーション人体構造	★	★	実習	2	○				
	ManZ2371	アニメーション表現技法1	★	★	実習	2		○			
	ManZ2372	アニメーション表現技法2	★	★	実習	2		○			
	MfdZ2911	工芸	★		演習	2		○	○	○	
	CetZ1071	美学	★	★	講義	2	○	○	○	○	
	CetZ1091	美術史	★	★	講義	2	○	○	○	○	
	CetZ1101	日本美術史	★	★	講義	2	○	○	○	○	
	CetZ1111	東洋美術史	★	★	講義	2	○	○	○	○	
	CetZ1121	西洋美術史	★	★	講義	2	○	○	○	○	
CetZ1061	芸術学	★	★	講義	2	○	○	○	○		
科目 設定 する 大学 が 独自 に 設 定 す る	CQT53012	人権教育論	★	★	講義	2	○	○	○	○	
	CQT53031	現代学校論	★	★	講義	2	○	○	○	○	
第66 条の 6に 定め る 科 目 規 則	ClaZ1581	日本国憲法	★	★	講義	2	○	○	○	○	
	CetZ1151	スポーツ実習1	★	★	実習	1	○	○	○	○	教職クラスを受講
	CetZ1152	スポーツ実習2	★	★	実習	1	○	○	○	○	教職クラスを受講
	CggZ1211	英語1	★	★	演習	2	○				
	CggZ1212	英語2	★	★	演習	2	○				
	CetZ1041	オフィスソフトスキル入門	★	★	実習	2	○	○	○	○	

[★:必修、●:選択必修]

9. 専修免許状の取得について(大学院生対象)

専修免許状とは、一種免許状(学部を卒業することで取得できる免許状)を基礎にして、大学院で所定の単位を修得し、修了することで取得できる免許状です。現在の教員採用試験において必要とされる免許状は一種免許状がほとんどですが、一方で高等学校を中心に指導教科に関する専門的な知識や力量が求められる傾向が高まりつつあります。一種免許状を基礎に、修士課程、博士前期課程での高度な学修をとおして得た知見を教員として活かしたいと思うみなさんに必要な免許状と言えます。

- 前提となる一種免許状を取得していること
例) 中学校教諭専修免許状(美術)の取得を希望する場合→中学校教諭一種免許状(美術)を取得していることが条件
- 修士の学位を有すること(修士課程・博士前期課程を修了すること)
- 以下の「教科又は教職に関する科目」を24単位以上修得すること
- 免許取得希望者は、1年次終了までに教務チームに申し出ること

芸術研究科

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	クラス	必修/選択必修			授業形態	単位数	備考
				中	高				
				美術	美術	工芸			
(大学が独自に設定する科目) 教科又は教職に関する科目	GMC50015	表現特論		★	★	★	講義	2	
	GMA50015	芸術理論特講		★	★	★	講義	2	
	GMA50115	表現領域特講1		●	●	●	講義	2	4単位以上選択必修
	GMA50125	表現領域特講2		●	●	●	講義	2	
	GMA50135	表現領域特講3		●	●	●	講義	2	
	GMA50145	表現領域特講4		●	●	●	講義	2	
	GMA60015	芸術研究1		★	★	★	実習	4	
	GMA60025	芸術研究2		★	★	★	実習	4	
	GMA60036	芸術研究3		★	★	★	実習	4	
	GMA60046	芸術研究4		★	★	★	実習	4	

デザイン研究科

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	クラス	必修/選択必修			授業形態	単位数	備考
				中	高				
				美術	美術	工芸			
(大学が独自に設定する科目) 教科又は教職に関する科目	GMC50015	表現特論		★	★	★	講義	2	
	GMD50015	デザイン理論特講		★	★	★	講義	2	
	GMD50115	創造領域特講1		●	●	●	講義	2	4単位以上選択必修
	GMD50125	創造領域特講2		●	●	●	講義	2	
	GMD50135	創造領域特講3		●	●	●	講義	2	
	GMD50145	創造領域特講4		●	●	●	講義	2	
	GMD60015	デザイン研究1		★	★	★	実習	4	
	GMD60025	デザイン研究2		★	★	★	実習	4	
	GMD60036	デザイン研究3		★	★	★	実習	4	
	GMD60046	デザイン研究4		★	★	★	実習	4	

[★:必修、●:選択必修]

マンガ研究科

科目 区分	科目 ナンバリング コード	科目名	クラス	必修/選択必修		授業 形態	単 位 数	備考
				中	高			
				美術	美術			
(大学が独自に設定する科目) 教科又は教職に関する科目	GMC50015	表現特論		★	★	講義	2	
	GMM50015	マンガ理論特講		★	★	講義	2	
	GMM50115	マンガ領域特講1		●	●	講義	2	4単位以上選択必修
	GMM50125	マンガ領域特講2		●	●	講義	2	
	GMM50135	マンガ領域特講3		●	●	講義	2	
	GMM50145	マンガ領域特講4		●	●	講義	2	
	GMM61011	マンガ研究1		★	★	演習	2	
	GMM61021	マンガ研究2		★	★	演習	2	
	GMM61032	マンガ研究3		★	★	演習	2	
	GMM61042	マンガ研究4		★	★	演習	2	
	GMM62011	マンガ学基礎演習1 ※ ¹		●	●	演習	2	4単位以上選択必修
	GMM62021	マンガ学基礎演習2 ※ ¹		●	●	演習	2	
	GMM52111	マンガ学基礎講義1 ※ ²		●	●	講義	2	4単位以上選択必修
	GMM52121	マンガ学基礎講義2 ※ ²		●	●	講義	2	
	GMM51111	マンガ学特殊講義1		●	●	講義	2	4単位以上選択必修
	GMM51121	マンガ学特殊講義2		●	●	講義	2	
GMM51131	マンガ学特殊講義3		●	●	講義	2		
GMM51141	マンガ学特殊講義4		●	●	講義	2		

※¹ 実技系研究生のみ履修可

※² 理論系研究生のみ履修可

人文学研究科

科目 区分	科目 ナンバリング コード	科目名	クラス	必修/選択必修		授業 形態	単 位 数	備考
				中	高			
				社会	公民			
(大学が独自に設定する科目) 教科又は教職に関する科目	GMH50115	表象領域特講1		★	★	講義	2	
	GMH50125	表象領域特講2		★	★	講義	2	
	GMH50135	表象領域特講3		★	★	講義	2	
	GMH50145	表象領域特講4		★	★	講義	2	
	GMH51115	人文学特殊講義1		★	★	講義	2	
	GMH51125	人文学特殊講義2		★	★	講義	2	
	GMH51135	人文学特殊講義3		★	★	講義	2	
	GMH51145	人文学特殊講義4		★	★	講義	2	
	GMH51215	人文学合同演習		★	★	講義	2	
	GMH51315	人文学基礎演習		★	★	講義	2	
	GMH51416	人文学演習1		★	★	講義	2	
	GMH51426	人文学演習2		★	★	講義	2	

[★:必修、●:選択必修]

博物館学芸員課程

1. 博物館学芸員課程履修の心得

博物館法に基づき、博物館において資料の収集や保管、展示、調査研究をおこなう専門的職員を一般に博物館学芸員といいます。「博物館」と呼ばれるものにも様々な館種があり、歴史・芸術・自然科学・民族などの博物館だけではなく、動物園、水族館、植物園などにおいても専門職としての職域が開かれています。本学では『博物館に関する科目』の単位を修得する中で、博物館学芸員に必要な資質・能力を積極的に身につけたいと考える右記のような熱意ある学生の履修を望みます。

- 博物館に興味があり、博物館学芸員になりたい人
- 一成人としてマナーを守り、謙虚な気持ちで博物館実習に臨める人
- 生涯学習に関心がある人

2. 博物館学芸員資格を取得するための要件

博物館学芸員課程は、みなさんが所属する学部・学科・コース・専攻におけるカリキュラム（教育課程）とは異なる別のカリキュラムです。博物館学芸員課程独自の科目があり、所属先の卒業要件とは異なる要件が定められています。資格を取得するためには、次の3つの要件を満たす必要があります。

博物館学芸員資格の取得要件

- (1) 博物館学芸員課程に登録していること。
- (2) 学士の学位を有する(所属学部を卒業すること)。
- (3) 博物館学芸員課程において定められた科目の単位を修得すること。

3. 課程登録

博物館学芸員資格を取得するためには、2年次の定められた期間に課程登録に関する申請手続きを必ず行なってください。手続き方法は、次のとおりです。

課程登録手続き方法

- (1) 2年次の定められた登録期間に、セイカ・ポータルにて申請する。
- (2) 証明書自動発行機にて、所定の課程登録料(20,000円)を納付し、登録料納付書を入手する。
- (3) 登録料納付書を教務チーム窓口へ提出する。

4. 4年間の流れ

1年	4月	学芸員資格に関する科目履修開始	1月	資格課程ガイダンス(課程登録手続き)		
3年	4月	資格課程ガイダンス	12月	博物館実習予備登録説明会		
4年	4月	資格課程ガイダンス	8月頃	博物館実習	3月下旬	学芸員資格取得(卒業式)

5. 履修上の注意

3年次を終えるまでに、次の要件を満たしてください。これらの要件を満たしていない場合、4年次の「博物館実習」を履修することができません。

- 以下科目のうち18単位以上修得すること。
- 「博物館実習」を除くA群必修科目の単位。
 - B群選択科目(2系列以上にわたり、4単位以上を修得してください)。

6. 博物館学芸員課程 履修科目一覧

国際文化学部 科目一覧

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修/選択	授業形態	単位数	履修推奨年次				備考
						1年	2年	3年	4年	
A群	CQG50011	生涯学習概論	必修	講義	2	○	○			
	CQM50011	博物館概論	必修	講義	2	○	○			
	CQM50113	博物館経営論	必修	講義	2		○			
	CQM50213	博物館資料論	必修	講義	2		○			
	CQM50313	博物館資料保存論	必修	講義	2			○		
	CQM50412	博物館展示論	必修	講義	2			○		
	CQM50512	博物館教育論	必修	講義	2			○		
	CQM50612	博物館情報・メディア論	必修	講義	2		○			
	CQM60014	博物館実習	必修	実習	3				○	通年
B1群	HfhZ1561	説話・伝承史	選択	講義	2		○	○		B1～B6までの B群6系列の中から、 2系列以上にわたり、 2科目4単位以上を 選択必修
B2群	CetZ1101	日本美術史	選択	講義	2	○	○	○		
	CetZ1111	東洋美術史	選択	講義	2	○	○	○		
B3群	ClaZ1611	考古学	選択	講義	2	○	○	○		
B4群	ClaZ1621	民俗学	選択	講義	2	○	○	○		
B5群	ClaZ1661	自然科学概論	選択	講義	2	○	○	○		
B6群	ClaZ1681	生物学	選択	講義	2	○	○	○		

メディア表現・芸術・デザイン・マンガ学部 科目一覧

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修/選択	授業形態	単位数	履修推奨年次				備考
						1年	2年	3年	4年	
A群	CQG50011	生涯学習概論	必修	講義	2	○	○	○		
	CQM50011	博物館概論	必修	講義	2	○	○			
	CQM50113	博物館経営論	必修	講義	2			○		
	CQM50213	博物館資料論	必修	講義	2			○		
	CQM50313	博物館資料保存論	必修	講義	2			○		
	CQM50412	博物館展示論	必修	講義	2		○	○		
	CQM50512	博物館教育論	必修	講義	2		○	○		
	CQM50612	博物館情報・メディア論	必修	講義	2		○	○		
	CQM60014	博物館実習	必修	実習	3				○	通年
B1群	CetZ1091	美術史	選択	講義	2	○	○	○		B1～B5までの B群5系列の中から、 2系列以上にわたり、 2科目4単位以上を 選択必修
	CetZ1121	西洋美術史	選択	講義	2	○	○	○		
	CetZ1101	日本美術史	選択	講義	2	○	○	○		
	CetZ1111	東洋美術史	選択	講義	2	○	○	○		
B2群	ClaZ1611	考古学	選択	講義	2	○	○	○		
B3群	ClaZ1621	民俗学	選択	講義	2	○	○	○		
B4群	ClaZ1661	自然科学概論	選択	講義	2	○	○	○		
B5群	ClaZ1681	生物学	選択	講義	2	○	○	○		

図書館司書課程

1. 履修の心得

「図書館」とは、図書、記録その他必要な資料を収集し、整理し、保存して、一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資することを目的とする施設です。「司書」とは、都道府県や市町村の公共図書館等で図書館資料の選択、発注及び受け入れから、分類、目録作成、貸出業務、レファレンス、読書案内などを行う専門的職員です。

現在の図書館は、情報技術の急速な発展により、図書館相互のネットワーク機能や館内の検索機能、データベースの多機能化、情報の発信など様々な機能が向上しています。一方で、そうした機能を多様な人びとが利用できるよう更なるサービスの向上が求められています。図書館司書として働くためには、このような社会状況を認識し、対応できる人材とならなくてはなりません。本学の図書館司書課程では、次に記すような熱意ある学生の履修を望みます。

- 生涯学習に関心がある人
- 資料収集・分析に取り組むことができる人
- 粘り強く、継続して学び続ける姿勢を持っている人
- コミュニケーション能力のある人
- 芸術、文化などの面で自らの知識を伸ばし、地域や社会に役立ちたいと思っている人

2. 図書館司書資格を取得するための要件

図書館司書課程は、みなさんが所属する学部・学科・コース・専攻におけるカリキュラム(教育課程)とは異なる別のカリキュラムです。図書館司書課程独自の科目があり、所属先の卒業要件とは異なる要件が定められています。資格を取得するためには、次の3つの要件を満たす必要があります。

図書館司書資格の取得要件

- (1) 図書館司書課程に登録していること。
- (2) 学士の学位を有する(所属学部を卒業すること)。
- (3) 図書館司書課程において定められた科目の単位を修得すること。

3. 課程登録

図書館司書資格を取得するためには、1年次後期後半に実施する課程登録に関する申請手続きを必ず行なってください。手続き方法は、次のとおりです。

課程登録手続き方法

- (1) 定められた登録期間に、セイカ・ポータルにて申請する。※申請方法は、セイカ・ポータルにて告知します。
- (2) 証明書自動発行機にて、所定の課程登録料(10,000円)を納付し、登録料納付書を入手する。
- (3) 登録料納付書を教務チーム窓口へ提出する。

4. 4年間の流れ

1年	4月	司書資格に関する科目履修開始	1月	資格課程ガイダンス
3年	4月	資格課程ガイダンス		
4年	4月	資格課程ガイダンス	3月下旬	司書資格取得(卒業式)

5. 履修上の注意

履修条件

次の科目には履修順序や履修条件の指定があります。

①情報サービス系

- 「情報サービス論」「情報サービス演習1」「情報サービス演習2」の3科目は、同一年次に履修すること。
- 「情報サービス演習1」「情報サービス演習2」の履修は、「情報サービス論」の単位修得を前提条件とする。

②情報資源組織系

- 「情報資源組織論」「情報資源組織演習1」「情報資源組織演習2」の3科目は、同一年次に履修すること。
- 「情報資源組織演習1」「情報資源組織演習2」の履修は、「情報資源組織論」の単位修得を前提条件とする。

6. 図書館司書課程 履修科目一覧

科目区分	科目ナンバリングコード	科目名	必修/選択	授業形態	単位数	履修推奨年次				備考
						1年	2年	3年	4年	
基礎科目	CQG50011	生涯学習概論	必修	講義	2	○	○	○	○	
	CQL50001	図書館概論	必修	講義	2	○	○	○	○	
	CQL50013	図書館制度・経営論	必修	講義	2			○	○	
	CQL50113	図書館情報技術論	必修	講義	2			○	○	
図書館サービスに関する科目	CQL50212	図書館サービス概論	必修	講義	2		○	○	○	
	CQL50312	児童サービス論	必修	講義	2		○	○	○	
	CQL50412	情報サービス論	必修	講義	2		○	○	○	同一年次に履修すること
	CQL50512	情報サービス演習1	必修	演習	1		○	○	○	
	CQL60012	情報サービス演習2	必修	演習	1		○	○	○	
図書館情報資源に関する科目	CQL60022	図書館情報資源概論	必修	演習	2		○	○	○	
	CQL50613	情報資源組織論	必修	講義	2			○	○	同一年次に履修すること
	CQL60113	情報資源組織演習1	必修	演習	1			○	○	
	CQL60123	情報資源組織演習2	必修	演習	1			○	○	
大学が独自に設定する科目	CQL51013	図書館サービス特論	選択必修	講義	2			○	○	2科目以上選択必修
	CQL51312	書誌学※	選択必修	講義	2			○	○	
	CQL51413	芸術資料特論	選択必修	講義	2			○	○	
	CQL61013	図書館実習	選択必修	実習	2			○	○	通年

※国際文化学部生は学部開講の「書誌学」の科目の単位を修得してください。

9

諸規程

School Regulations

※2026年2月時点の情報です。変更される場合がありますので、
最新情報は大学webサイトで確認してください。

第1章 | 総則

【目的】

第1条 本学は学校教育法および教育基本法の規定するところに従い、大学教育を施し、広く知識を授けるとともに、深奥な学問芸術を研究・教授し、よりよき社会人としての人間形成を行うことを目的とする。

【自己評価等】

第2条 本学は、教育研究水準の向上を図り、本学の目的および社会的使命を達成するため、本学における教育研究活動等の状況について自ら点検および評価を行い、その結果を公表する。

- 2 前項の点検および評価を行うため、委員会を設ける。
- 3 委員会に関する規程は、これを別に定める。
- 4 点検、評価の項目等については、別にこれを定める。

【学部、学科、入学定員および収容定員】

第3条 本学に次の学部・学科をおく。

芸術学部

造形学科

デザイン学部

イラスト学科

ビジュアルデザイン学科

プロダクトデザイン学科

建築学科

マンガ学部

マンガ学科

キャラクターデザイン学科

アニメーション学科

メディア表現学部

メディア表現学科

人文学部

人文学科

国際教養学科

2 前項の学部・学科の入学定員および収容定員は次のとおりとする。

学部	学科	入学定員	収容定員
芸術学部	造形学科	140人	560人
デザイン学部	イラスト学科	67人	268人
	ビジュアルデザイン学科	74人	296人
	プロダクトデザイン学科	77人	308人
	建築学科	56人	224人
マンガ学部	マンガ学科	128人	512人
	キャラクターデザイン学科	112人	448人
	アニメーション学科	84人	336人
メディア表現学部	メディア表現学科	177人	708人
人文学部	人文学科	47人	188人
	国際教養学科	30人	120人

【人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的】

第3条の2 前条の学部・学科の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は次のとおりとする。

芸術学部

人間の多様性を理解した上で、幅広い視野から適切な表現方法を用いてコミュニケーションをとることができ、さらに芸術によって培われる専門性と創造力で人類社会の諸課題に取り組むことができる主体性をもった人間形成を目的とする。

造形学科

伝統的造形芸術の知識技法にとどまらず、多角的な観察と自立した思考力によって新たな表現を創造する能力と造形芸術を開拓できる資質を備えた人材の養成を行う。

デザイン学部

デザイン領域において高度な技法知識を修得し新たな可能性を探究すること、および自立した思考によってグローバル社会および地域社会に現実的に貢献するデザイナー・プランナーの資質を備えた、よりよき社会人としての人間形成を行うことを目的とする。

イラスト学科

デザインやアートといった多様なフィールドで展開が可能となるイラスト領域において、現実の社会に貢献できる資質を備えた人材の養成を行う。

ビジュアルデザイン学科

情報技術の発展によってその目的および手法が飛躍的に拡大した視覚デザインの領域において、現実の社会に貢献できる資質を備えた人材の養成を行う。

プロダクトデザイン学科

社会活動や生活に使用される道具、器具、装置、衣服などのデザインの領域において、現実の社会に貢献できる資質を備えた人材の養成を行う。

建築学科

環境、建築、居住空間などのデザイン・設計の領域において、現実の社会に貢献できる資質を備えた人材の養成を目的とする。

マンガ学部

マンガ文化の再評価とともに重要視されるマンガやアニメーション、キャラクターの制作と理論について多角的な教育研究を行い新たな可能性を探究すること、およびマンガ文化の継承と発展に貢献する資質を備えた、よりよき社会人としての人間形成を行うことを目的とする。

マンガ学科

マンガの作品史、表現などについての理論および技法の修得にとどまらず、実践によってマンガ表現の発展に貢献できる資質を備えた人材の養成を目的とする。

キャラクターデザイン学科

キャラクターの作品史、表現などについての理論および技法の修得にとどまらず、実践によってキャラクター表現の発展に貢献できる資質を備えた人材の養成を目的とする。

アニメーション学科

アニメーションの作品史、表現などについての理論および技法の修得にとどまらず、実践によってアニメーションの発展に貢献できる資質を備えた人材の養成を目的とする。

メディア表現学部

メディアと情報に関する広範な知識と専門的な表現技能を活用した豊かな人間性を育む文化表現を通して、コンテンツの制作やメディアの活用、新しいビジネスモデルの構想などによって次世代の産業界の発展に貢献する資質を備えた、人間形成を行うことを目的とする。

メディア表現学科

技術革新が進む人類社会において、急激に変化し続けるメディアと産業システムの動向をふまえたうえで、豊かな文化の発展にも寄与し、時代の先端を切り開くコンテンツ、メディア、新たなビジネスモデルを創造できる人材の養成を目的とする。

人文学部

国際的な視野と体験を重視し、地球環境問題の深刻化、情報技術化、経済のグローバル化の時代に求められる人間の社会と文化についての学際的な教育研究を行うこと、および自立した思考力によって現実の社会と文化に貢献する資質を備えた、よりよき社会人としての人間形成を行うことを目的とする。

人文学科

日本の「文学」、「歴史」、「社会」を研究対象とし、日本を基点とした世界の文化と社会を多角的に捉え、課題の解決に貢献し、より良い共生社会の実現と世界の発展に寄与できる人材の養成を目的とする。

国際教養学科

グローバルとローカル双方のアプローチから、世界と日本の関わりを文化や社会の視点から多角的に捉え、課題の解決に貢献し、より良い共生社会の実現と世界の発展に寄与できる人材の養成を目的とする。

[大学院]

第4条 本学に大学院をおく。

2 大学院の学則は、別に定める。

[修業年限]

第5条 本学の修業年限は4年とする。ただし、8年を超えて在学することはできない。

2 学長が有益と認めるときは、他の大学等における修学期間を修業年限に算入することができる。ただし、修業年限については1年を超えて算入することはできない。

3 前項の規定は、外国の大学における修学期間についても準用する。

第2章 | 学年・学期および休業日

[学年]

第6条 本学の学年は4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

[学期および授業日数]

第7条 1学年の授業期間は定期試験の日数を含めて35週にわたることを原則とし、1学年を分けて次の2学期4クォーターとする。

① 前期(4月1日から9月30日まで)、第1クォーター(4月1日から学長が年度ごとに定める日まで)、第2クォーター(学長が年度ごとに定める日から9月30日まで)

② 後期(10月1日から3月31日まで)、第3クォーター(10月1日から学長が年度ごとに定める日まで)、第4クォーター(学長が年度ごとに定める日から3月31日まで)

2 前項に定める授業期間について、学長が必要と認めるときは、開始日および終了日を変更することができる。

[休業日]

第8条 休業日は次のとおりとする。

① 日曜日

② 国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日

③ 春季・夏季・秋季・冬季の休業期間は、学長が年度ごとに定める。

2 学長が必要と認めるときは、臨時に休業日を設け、または休業日を変更することができる。

3 学長が必要と認めるときは、休業日に授業を行うことができる。

第3章 | 教育課程・単位・教育課程の履修

[教育課程の編成]

第9条 本学は、学部および学科等の教育上の目的を達成するために必要な授業科目を開設し、体系的に教育課程を編成する。

2 教育課程は、各授業科目を必修科目、選択科目に分け、これを各年次に配当して編成する。

[授業科目および単位数]

第10条 本学の授業科目および単位数は別表I、別表II、別表III、別表IVのとおりとする。

2 学長は他学部および他学科が開設する授業科目の中から学部交流科目および学科交流科目を定め、当該学部および学科の卒業に必要な単位とすることができる。

[授業の方法]

第10条の2 授業は、講義、演習、実験、実習もしくは実技のいずれかにより、またはこれらの併用により行う。

2 学長が教育上有益と認めるときは、前項の授業を、多様なメディアを高度に利用して、教室等以外の場所で授業を行うことができる。

3 前項により与えることができる単位数は60単位を超えないものとする。

4 第2項の規定により実施する授業科目については、学長が定め学生に通知するものとする。

5 第1項の授業の一部を、本校の校舎及び附属施設以外の場所で行うことができる。

[単位計算方法]

第11条 各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、前条の授業の方法に応じ、その授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、おおむね15時間から45時間までの範囲で別に定める授業の時間をもって1単位として単位数を計算するものとする。ただし、芸術等の分野における個人指導による実技の授業については、別に定める時間の授業をもって1単位とすることができる。

2 前項の規定にかかわらず、卒業研究、卒業論文、卒業制作、学外学修・個別課題学習等の授業科目および公の技能審査等による認定を受けた者については、これらに必要な学修等を考慮して、適切な単位数を定めることができる。

[教育課程の履修]

第12条 学生は原則として、別表Iに定める教育課程に従い、各年次に配当された授業科目を履修する。

2 学生が各年次所定の授業科目を履修しない場合、または所定の単位を修得しない場合は、次学年に進級することができない。進級に関する事項は別にこれを定める。

3 卒業に必要な単位は、124単位とする。

[他の大学、専門職大学又は短期大学における授業科目の履修等]

第13条 学長が教育上有益と認めるときは、学生が他の大学または短期大学の授業科目を履修することを認める。

2 前項の規定に基づいて学生が履修した単位は60単位を超えない範囲で、本学で修得したものとみなすことができる。

3 前項の規定は、学生が外国の大学に留学する場合に準用する。

4 留学に関する規程は、別にこれを定める。

[大学以外の教育施設等における学修]

第14条 学長が本学における教育水準を有し、教育上有益と認めるときは、学生が行う高等専門学校専攻科における学修、修業年限2年以上の専修学校専門課程における学修、文部科学大臣の認定を受けた技能審査の合格に係る学修を本学における履修とみなし単位を与えることができる。

2 前項により与えることができる単位数は、前条第2項の規定による単位数とあわせて60単位を超えないものとする。

[入学前の既修得単位等の認定]

第15条 学長が教育上有益と認めるときは、学生が本学入学前に大学または短期大学において履修した授業科目について修得した単位を本学で修得したものとみなすことができる。

2 学長が教育上有益と認めるときは、本学に入学する前に行った前条第1項に規定する学修を本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

3 前2項により修得したものとみなし、または与えることのできる単位数は、編入学、転入学の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、第13条第2項および前条第2項の規定による単位数とあわせて60単位を超えないものとする。

[特別聴講生]

第16条 他の大学等の学生で、当該他の大学等との協議に基づき、本学において授業科目を履修することを志願する者については特別聴講生として、学長がこれを許可することがある。

2 特別聴講生に関する規程は本条に定めるもののほか、別にこれを定める。

[履修登録]

第17条 学生は履修しようとする授業科目を每学期始め、所定の期日までに届け出なければならない。

2 学生は当該学部が定める登録上限単位数の範囲内で履修登録しなければならない。

[資格の取得]

第18条 本学に教育職員免許状授与の所要資格を得させるための課程をおく。本学において教育職員免許状の取得を希望する者は、教育職員免許法および教育免許法施行規則に基づき、本学が別表IIに定める教職および教科に関する専門科目を履修し、その単位を修得しなければならない。

本学における教育職員免許状の教科および種類は、以下の表に掲げるとおりとする。

学部	学科	免許状の種類(教科)
芸術学部	造形学科	中学校教諭一種免許状(美術) 高等学校教諭一種免許状(美術) 高等学校教諭一種免許状(工芸)
	イラスト学科	中学校教諭一種免許状(美術) 高等学校教諭一種免許状(美術)
デザイン学部	ビジュアルデザイン学科	中学校教諭一種免許状(美術) 高等学校教諭一種免許状(美術)
	プロダクトデザイン学科	中学校教諭一種免許状(美術) 高等学校教諭一種免許状(美術) 高等学校教諭一種免許状(工芸)
マンガ学部	マンガ学科	中学校教諭一種免許状(美術) 高等学校教諭一種免許状(美術)
	キャラクターデザイン学科	中学校教諭一種免許状(美術) 高等学校教諭一種免許状(美術)
	アニメーション学科	中学校教諭一種免許状(美術) 高等学校教諭一種免許状(美術)
メディア表現学部	メディア表現学科	高等学校教諭一種免許状(情報)
人文学部	人文学科	中学校教諭一種免許状(国語) 中学校教諭一種免許状(社会) 高等学校教諭一種免許状(国語) 高等学校教諭一種免許状(地理歴史) 高等学校教諭一種免許状(公民)
	国際教養学科	中学校教諭一種免許状(英語) 高等学校教諭一種免許状(英語)

2 図書館司書の資格を取得しようとする者は、図書館法および図書館法施行規則に基づき、本学が別表Ⅲに定める図書館司書課程に関する授業科目を履修し、その単位を修得しなければならない。図書館司書課程を設置する学部および学科は、以下の表に掲げるとおりとする。

学部	学科
芸術学部	造形学科
デザイン学部	イラスト学科
	ビジュアルデザイン学科
	プロダクトデザイン学科
マンガ学部	マンガ学科
	キャラクターデザイン学科
	アニメーション学科
メディア表現学部	メディア表現学科
人文学部	人文学科
	国際教養学科

3 博物館学芸員の資格を取得しようとする者は、博物館法および博物館法施行規則に基づき、本学が別表Ⅳに定める図書館司書課程に関する授業科目を履修し、その単位を修得しなければならない。博物館学芸員課程を設置する学部および学科は、以下の表に掲げるとおりとする。

学部	学科
芸術学部	造形学科
デザイン学部	イラスト学科
	ビジュアルデザイン学科
	プロダクトデザイン学科
マンガ学部	マンガ学科
	キャラクターデザイン学科
	アニメーション学科
メディア表現学部	メディア表現学科
人文学部	人文学科
	国際教養学科

4 人文学部国際教養学科に登録日本語教員課程をおく。所定する科目や履修等については別に定める。

第4章 | 教育課程修了の認定・単位の授与・卒業および称号

[教育課程修了の認定]

第19条 教育課程修了の認定は授業科目の試験、研究報告の成績を審査し、その結果に基づき、教授会の審議を経て学長が行う。

2 成績の評価はS(100点~90点)、A(89点~80点)、B(79点~70点)、C(69点~60点)、F(59点以下)、K(評価対象外)とし、S、A、B、Cをもって合格とする。

3 成績の評価をせず単位の認定のみを行う場合はN(認定)を用いる。

4 総合成績評価としてGPAを用いる場合は、第2項の成績評価のSを4、Aを3、Bを2、Cを1、FおよびKを0の評点に置き換え、履修科目の単位数で乗じた点数の合計を、総履修科目単位数で除して算出する。なおNの評価を受けた授業科目はGPA算出の対象外とする。

[単位の授与]

第20条 学長は、別表IからIVに定める授業科目を履修した学生に対し、当該授業科目の試験および研究報告の成績を審査し、その結果に基づき、教授会の審議を経て、相当する数の単位を与える。

[卒業]

第21条 学長は本学の学部に4年以上在学し、第12条に規定する卒業に必要な単位を修得し、かつ学費等納入金について大学への諸債務を滞納していない者について、教授会の審議を経て卒業を認定する。

2 学長は卒業を認定した者に対し、学位記を授与する。

[学位の授与]

第22条 本学の芸術学部、デザイン学部およびマンガ学部を卒業した者に、学士(芸術)の学位を授与する。

2 本学のメディア表現学部を卒業した者に、学士(メディア表現)の学位を授与する。

3 本学の人文学部を卒業した者に、学士(人文学)の学位を授与する。

第5章 | 入学・編入学・転入学・休学・復学・退学・転学・除籍および再入学

[入学]

第23条 本学の入学は学年の始めとする。

2 前項の規定にかかわらず、人文学部については、後期からの入学を認めることができる。

[入学資格]

第24条 本学の第1年次に入学することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者でなければならない。

① 高等学校または中等教育学校を卒業した者

② 通常の課程による12年の学校教育を修了した者(通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む)

③ 外国において学校教育における12年の課程を修了した者、またはこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者

④ 文部科学大臣の指定した者

⑤ 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者

⑥ 専修学校の高等課程(修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以降に修了した者

⑦ 高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者(旧規程による大学入学資格検定に合格した者を含む。)

⑧ 相当の年齢に達し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があるものと本学が認めた者

[入学志願手続および合否判定]

第25条 入学を志願する者は、本学所定の出願書類に別表Vに定める入学検定料を添えて提出しなければならない。

2 提出の方法、時期、同時に提出すべき書類等については別に定める。

3 学長は入学を志願する者に対して入学試験を実施する。

4 学長は入学試験を受験した者に対して、教授会における合否判定の審議を経て、結果を通知する。

【入学手続金の納入および入学許可】

第26条 入学試験に合格した者は、学長が指定する期日までに所定の納付金を納入し、かつ必要書類を提出しなければならない。

2 学長は、前項の規定により所定の納付金を納入し、必要書類を提出した者に対して、入学を許可する。

【編入学】

第27条 本学の第3年次および編入学を希望する者については、選考のうえ、学長はこれを許可することができる。

2 第3年次に編入学できる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- ① 大学を卒業した者、または大学に2年以上在学した者
 - ② 短期大学または高等専門学校を卒業した者
 - ③ 専修学校の専門課程を修了した者のうち、学校教育法第132条の規定により大学に編入学できる者
- 3 第2年次に編入学できる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。
- ① 大学に1年以上在学した者
 - ② 短期大学または高等専門学校を卒業した者
- 4 前2項の規定により入学を許可された者がすでに履修した科目および単位の取扱いについては、別にこれを定める。

【転入学】

第28条 他の大学に1年以上在学してから、本学の学部転入学しようとする者について、選考のうえ、既に在学していた大学および履修した授業科目の内容と成績とを考慮して、学長は入学を許可することができる。

2 本条により入学を許可された者の修学年限は、他大学における在学年数が1年であった者は3年、2年以上であった者は2年とし、それぞれ6年、4年を超えて在学することはできない。

3 転入学を許可された者が既に履修した授業科目および単位の取扱いについては、別に定めるところによる。

【転学部、転学科】

第28条の2 転学部および転学科に関する規程は、別にこれを定める。

【休学】

第29条 学生が疾病その他の事由によって1ヶ月以上就学することができなときは、保証人と連署のうえ、所定の様式により願出、休学することができる。

2 休学期間は1年以内とする。ただし、特別の理由がある場合は1年を限度として、休学期間の延長を認めることができる。

3 前項の定めに関わらず、学長が特別な理由があると認めるときは、休学期間を延長することができる。

4 休学の期間は通算して4年を超えることができない。

5 休学の期間は、第5条に定める修学年限および在学年限に算入しない。

6 休学期間中の学費は、半期20,000円、通年40,000円とし、納入等に関する規定は第34条による。

7 休学に関する規程は、本条に定めるもののほか、別にこれを定める。

【復学】

第30条 休学者が復学しようとするときは、保証人連署のうえ、所定の様式により願出、学長の許可を得たうえ復学することができる。

2 復学は、学期の始めからとする。

3 復学に関する規程は、本条に定めるもののほか、別にこれを定める。

【退学および転学】

第31条 疾病、その他の事由によって退学または転学しようとする者は、保証人連署のうえ、所定の様式により退学願または転学願を提出しなければならない。

2 退学および転学に関する規程は、本条に定めるもののほか、別にこれを定める。

3 懲戒による退学に関する規程は、第50条に定めるもののほか、別にこれを定める。

【除籍】

第32条 学長は、学生が各号のいずれかに該当するときは、学生を除籍する。

- ① 第5条に規定する在学年限を超えた者
- ② 第29条第2項および第3項に規定する休学年限を超えた者
- ③ 所定の授業料等学費の納付を怠り、その督促を受けてもこれを納付しない者
- ④ 第30条の復学手続きのない者
- ⑤ 本学での就学の意思のない者
- ⑥ 本人が死亡したとき
- ⑦ その他、学長が相当の理由を認めた者

2 除籍に関する規程は、本条に定めるもののほか、別にこれを定める。

【再入学】

第33条 退学または除籍となった者が、保証人連署のうえ、所定の様式により再入学を願出したときは、教授会の審議を経て、学長がこれを許可することができる。

2 再入学を願出することのできる期間は、退学または除籍の日より2年以内とする。

3 再入学は学期の始めからとする。

4 再入学に関する規程は、本条に定めるもののほか、別にこれを定める。

第1節 | 入学検定料、入学金および授業料

【学費等納付金および手数料】

第34条 入学検定料、入学金および授業料は、別表Vの①のとおりとする。

2 前項に規定する既納の入学検定料、入学金および授業料等の学費は、原則として返還しない。

3 前項の規定にかかわらず、入学許可を得た者で、指定の期日までに入学手続の取り消しを願出した者については、入学金またはこれに相当する金額を除く学費を返還する。

4 入学検定料以外の手数料については、別にこれを定める。

5 学費納入等に関する規定は、本条に定めるもののほか、別にこれを定める。

第2節 | 職員組織および教授会

【職員組織】

第35条 本学に学長、副学長、教授、准教授、講師、助教、助手、事務職員、その他の職員をおく。

2 学長は本学則に定める職務を行い、所属職員を統督する。

3 副学長は、学長の職務を助ける。

4 教授、准教授、講師、助教、助手、事務職員、その他の職員の職務は、学校教育法、その他の法令および本学諸規程の定めるところによる。

【教授会】

第36条 本学の教育研究に関する事項を審議するために教授会をおく。

2 教授会は、これを分けて全学教授会と学部教授会とする。

3 教授会に関する規程は、本条に定めるもののほか、別にこれを定める。

【全学教授会】

第36条の2 全学教授会は、学長、専任の教授・准教授および講師を構成員として、これを組織する。

2 全学教授会は、前項に定める者の他、必要に応じ他の教職員などの出席を求めることができる。

3 全学教授会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- ① 全学に関する重要事項
- ② 各学部間の連絡調整に関する事項
- ③ 全学共通の教育課程の編成に関する事項
- ④ 全学共通の授業科目の担当に関する事項
- ⑤ 教員の人事に関する事項
- ⑥ その他学長が必要と認める事項

【学部教授会】

第36条の3 学部教授会は、各学部所属する専任の教授・准教授および講師を構成員として、これを組織する。

2 学部教授会は、前項に定める者の他、必要に応じ他の教職員などの出席を求めることができる。

3 学部教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うにあたり意見を述べることができるものとする。

- ① 学生の入学（編入学・転入学を含む）、卒業および課程の修了
- ② 学位の授与
- ③ 前2号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、学部教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの
- ④ 学部教授会は、前項に規定するもののほか、学長及び学部長（以下、この項において「学長等」という。）がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。

第3節 | 聴講生・科目等履修生・委託生・研究生・外国人留学生・帰国生徒および社会人

[聴講生]

第37条 本学の教職課程科目のうち「教職に関する専門科目」について聴講しようとする者があるときは、本学の教育・研究に支障のない場合に限り教授会の審議を経て、学長がこれを許可する。

- 2 聴講を許可する授業科目は1年度につき12単位とし、在学年限は1年以内とする。
- 3 学長は、特定の授業科目を履修し、その単位を修得した聴講生に対して、単位修得証明書を交付することができる。
- 4 聴講料等の納付金については、別表Vの③に定めるところによる。
- 5 聴講生に関する規程は、本条に定めるもののほか、別にこれを定める。

[科目等履修生]

第38条 本学の学生以外の者が本学の特定の授業科目を履修しようとするときは、本学の教育・研究に支障がない限り、教授会の審議を経て、学長がこれを許可することができる。

- 2 履修を許可する授業科目の単位数は、1年度につき12単位とし、在学年限は1年以内とする。
- 3 学長は、特定の授業科目を履修し、その単位を修得した科目等履修生に対し、単位修得証明書を交付することができる。
- 4 科目等履修の納付金については、別表Vの④に定めるところによる。
- 5 科目等履修生に関する規程は、本条に定めるもののほか、別にこれを定める。

[委託生]

第39条 公共団体その他の機関から本学の特定の学科に修学を委託されたときは、選考のうえこれを受託し、委託の目的に合致する特定の授業科目の履修について、学長がこれを許可することができる。

- 2 前項の特定の授業科目の履修およびその単位は、委託者の希望を考慮し教授会の審議を経て、学長が決定する。
- 3 学長は、特定の授業科目を聴講し、その単位を修得した委託生に対し、単位修得証明書を交付することができる。
- 4 委託生の委託料は、別表Vの①に規定する授業料相当額とする。
- 5 委託生に関する規程は、本条に定めるもののほか、別にこれを定める。

[研究生]

第40条 本学の専任教員のもとで研究しようとする者があるときは、教授会の審議を経て、学長がこれを許可することができる。

- 2 研究生の授業料等の学費は、別表Vの⑤に定めるところによる。
- 3 研究生に関する規程は、本条に定めるもののほか、別にこれを定める。

[外国人留学生]

第41条 勉学の目的をもった外国人で、第24条に定める要件を充足する者が本学への入学を志願するときは、選考のうえ、学長が入学を許可することができる。

- 2 外国人留学生に関する規程は、本条に定めるもののほか、別にこれを定める。

[帰国生徒]

第42条 長期間の海外生活を経験した者で、第24条に定める要件を充足する者が本学への入学を志願するときは、選考のうえ、学長が入学を許可することができる。

- 2 帰国生徒に関する規程は、本条に定めるもののほか、別にこれを定める。

[社会人]

第43条 社会的経験を有する者で、第24条に定める要件を充足する者が本学への入学を志願するときは、選考のうえ、学長が入学を許可することができる。

- 2 社会人に関する規程は、本条に定めるもののほか、別にこれを定める。

第4節 | 公開講座および履修証明プログラム

[公開講座]

第44条 本学に公開講座をおくことができる。

- 2 公開講座は、一般市民に対し本学の教育を公開し、学問・芸術の研究向上に資することを目的とする。
- 3 公開講座に関する規程は、本条に定めるもののほか、別にこれを定める。

[履修証明プログラム]

第44条の2 本学に履修証明プログラムをおくことができる。

- 2 履修証明プログラムは、本学および他大学の学生以外の社会人等を対象として、体系的な知識、技術等の習得を目指す課程とする。
- 3 履修証明プログラムに関する規程は、本条に定めるもののほか、別にこれを定める。

第5節 | 情報館

[情報館]

第45条 本学に情報館をおき、教育および研究活動に必要な図書、文献、画像、視聴覚資料および研究資料を収集管理し、教職員、学生および一般市民の利用に供する。

- 2 情報館に関する規程は、本条に定めるもののほか、別にこれを定める。

第6節 | 保健施設および学生寮

[保健施設]

第46条 本学に教職員および学生の保健衛生を管理するために、保健室をおく。

- 2 学生は、毎年定められた時期に健康診断を受けなければならない。

[学生寮]

第47条 本学に学生寮をおく。

- 2 学生寮に関する規程は、別にこれを定める。

第7節 | 育英奨学制度

[育英奨学制度]

第48条 本学に育英奨学制度を設ける。

- 2 育英奨学制度に関する規程は、別にこれを定める。

第8節 | 賞罰

[表彰]

第49条 学長は、品行・学業とも優秀で他の模範となる学生に対して、表彰を行うことがある。

[懲戒]

第50条 学長は学則または規則に違反し、その他学生の本分に背く行為のあった学生に対して、教授会の審議を経て懲戒する。

- 2 懲戒は訓告、停学および退学とする。
- 3 前項の退学は、次の各号のいずれかに該当する者に対して行う。
 - ① 品行不良で改善の見込みがないと認められる者
 - ② 正当の理由なく、出席が常でない者
 - ③ 大学の秩序を乱し、その他学生の本分に背く者
- 4 学生の懲戒に関する規程は、本条に定めるもののほか、別にこれを定める。

附則

(略)

第43項 この学則は、2026(令和8)年4月1日から実施する。

※別表I～Vは省略

第1章 | 総則

[目的]

第1条 京都精華大学大学院(以下「本大学院」という。)は、学術の理論および応用を研究・教授し、その深奥を究めて文化の進展に寄与することを目的とする。

[自己評価等]

第2条 本大学院は、教育研究水準の向上を図り、本大学院の目的および社会的使命を達成するため、本大学院における教育研究活動等の状況について自ら点検および評価を行い、その結果を公表する。

2 前項の点検および評価を行うため、委員会を設ける。

3 委員会に関する規程は、これを別に定める。

4 点検、評価の項目等については、これを別に定める。

5 本大学院は、第1項の点検および評価の結果について、本大学院の教職員以外の者による検証を行うものとする。

[研究科]

第3条 本大学院に次の研究科をおく。

芸術研究科
デザイン研究科
マンガ研究科
人文学研究科

[課程]

第4条 本大学院に博士課程および修士課程をおく。

2 博士課程は、前期2年の課程(以下「博士前期課程」という。)および後期3年の課程(以下「博士後期課程」という。)に区分する。

3 博士前期課程は、修士課程として取り扱うものとする。

4 博士前期課程および修士課程は、広い視野にたつて精妙な学識を修め、専攻分野における研究能力または高度の専門性を要する職業等に必要の高度の能力を養うものとする。

5 博士後期課程は、専攻分野について研究者として自立して研究活動を行い、またはその高度な専門的業務に従事するに必要な研究能力およびその基礎となる豊かな学識を養うものとする。

[専攻および収容定]

第5条 研究科の専攻ならびにその入学定員および収容定員は、別表第1のとおりとする。

[人材の育成に関する目的その他の教育研究上の目的]

第5条の2 本大学院の研究科・専攻の人材の育成に関する目的その他の教育研究上の目的は、次のとおりとする。

芸術研究科 芸術専攻 博士前期課程

専門領域にとらわれない多角的視点と柔軟な想像力を養い、芸術表現のさらなる探究を目的とし、新しい芸術文化の発信と高度な専門的技術を有した人材の養成を目的とする。

芸術研究科 芸術専攻 博士後期課程

多種多様な芸術表現のジャンルを整理・融合させながら専門応用能力を養い、制作と理論との調和を軸に、高度に洗練された芸術表現手法と芸術理論の探究を目的とし、新しい芸術文化の発信と活性化に貢献できる人材の養成を目的とする。

デザイン研究科 デザイン専攻 修士課程

デザイン分野の社会動向に広い視野と見識を備え、デザイン受容者の潜在的ニーズの分析・研究を深め、実践的に社会に貢献できる高度な専門的技術を有した人材の養成を目的とする。

デザイン研究科 建築専攻 修士課程

社会動向に広い視野と見識を持ち、建築分野において多様な側面から分析・研究を深め、実践的に社会に貢献できる高度な専門的技術を有した人材の養成を目的とする。

マンガ研究科 マンガ専攻 博士前期課程

国際的にも注目されるマンガ・アニメーション分野において、体系的な学術研究を深め、次代を担う新しい文化の発展に貢献できる高度な専門的技術を有した人材の養成を目的とする。

マンガ研究科 マンガ専攻 博士後期課程

国内外の様々な要請に対応可能なマンガ・アニメーション分野について、多角的視点から学術研究を行い、制作および理論に関する特に高度な能力を有した人材の育成を目的とする。

人文学研究科 人文学専攻 修士課程

人文諸科学を総合する学際的なアプローチにて、現代社会が直面する現実課題の探求を体系化し、実践的に社会に貢献できる高度な専門的技術を有した人材の養成を目的とする。

[研究科委員会および博士後期課程委員会]

第6条 本大学院に研究科委員会および博士後期課程委員会をおく。

2 研究科委員会は、研究科の授業を担当する教授、准教授、講師および助教をもって組織し、研究科長がこれを招集し、その議長となる。

3 研究科の責任者を研究科長とする。ただし、学部長との兼任を妨げない。

4 博士後期課程委員会は、当該研究科博士後期課程の担当教員をもって組織し、研究科長がこれを招集し、その議長となる。

[研究科委員会および博士後期課程委員会の審議事項]

第7条 研究科委員会は、博士前期課程および修士課程に関し、また博士後期課程委員会は博士後期課程に関し、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

(1) 学生の入学(転入学を含む)、および課程の修了

(2) 学位の授与

(3) 前2号に掲げるもののほか、教育に関する重要な事項で、研究科委員会または博士後期課程委員会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの

2 研究科委員会は、学長及び研究科長(以下この項において「学長等」という。)がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。

[学費等納付金および手数料]

第8条 入学検定料、入学金および授業料等の学費は、別表第2の通りとする。

2 前項に規定する既納の入学検定料、入学金および授業料等の学費は、原則として返還しない。

3 前項の規定にかかわらず、入学許可を得た者で、指定の期日までに入学手続の取り消しを願った者については、入学金またはこれに相当する金額を除く学費を返還する。

4 入学検定料以外の手数料については、別にこれを定める。

5 学費納入に関する規程は、本条に定めるものの他、別にこれを定める。

第2章 | 学年・学期・休業日・修業年限等

[学年]

第9条 大学院の学年は4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

[学期および授業日数]

第9条の2 1学年の授業日数は定期試験の日数を含めて35週、210日を下らないものとし、1学年を分けて次の学期とする。

① 前期 4月1日より9月30日まで

② 後期 10月1日より3月31日まで

[休業日]

第9条の3 休業日は次のとおりとする。

① 日曜日

② 国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日

③ 春季・夏季・冬季の休業期間は、年度ごとに定める

2 学長が必要と認めたときは、臨時に休業日を設け、または休業日を変更することができる。

3 学長が必要と認めたときは、休業日に授業を行うことができる。

[修業年限]

第10条 博士前期課程および修士課程の標準修業年限は、2年とする。

2 博士後期課程の標準修業年限は、3年とする。

[在学年限]

第11条 博士前期課程および修士課程の学生は、4年を超えて在学することができない。

- 2 博士後期課程の学生は、6年を超えて在学することができない。
- 3 学長が有益と認めるときは、他の大学院研究科等における修学期間を修業年限に算入することができる。ただし、他の大学院研究科等における修学期間については1年を超えて算入することはできない。

第3章 | 入学・休学・退学等

[入学の時期]

第12条 入学の時期は、学年の始めとする。

[入学資格]

第13条 博士前期課程および修士課程に入学することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者でなければならない。

- (1) 学校教育法第83条に定める大学を卒業した者
 - (2) 学校教育法第104条第4項の規定により、学士の学位を授与された者
 - (3) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者
 - (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を日本において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者
 - (5) 日本において、外国の大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置づけられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するもの当該課程を修了した者
 - (6) 専修学校の専門課程(修業年限が4年以上であること、その他の文部科学が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以降に修了した者
 - (7) 文部科学大臣の指定した者
 - (8) 学校教育法第102条第2項の規定により大学院に入学した者であって、本大学院において、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認められたもの
 - (9) 大学に3年以上在学した者であって、本大学院において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認められたもの
 - (10) 外国において15年の課程を修了した者、外国の学校が行う通信教育における授業科目を日本において履修することにより当該外国の学校教育における15年の課程を修了した者、または日本において外国の大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育における15年の課程を修了したとされるものに限る。)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置づけられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するもの当該課程を修了した者で、本大学院において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認められたもの
 - (11) 本大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、22歳に達したものの
- 2 博士後期課程に入学することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者でなければならない。
- (1) 修士の学位または専門職学位を有する者
 - (2) 外国において修士の学位または専門職学位に相当する学位を授与された者
 - (3) 文部科学大臣の指定した者
 - (4) 本大学院において、個別の入学資格審査により、修士の学位または専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者で、24歳に達したものの
 - (5) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を日本において履修し、修士の学位または専門職学位に相当する学位を授与された者
 - (6) 日本において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置づけられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するもの当該課程を修了し、修士の学位または専門職学位に相当する学位を授与された者
 - (7) 国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者
 - (8) 外国の学校、第6号の指定を受けた教育施設または国際連合大学の教育課程を履修し、大学院設置基準第16条の2に規定する試験および審査に相当するものに合格し、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者
 - (9) 大学を卒業した後、大学、研究所等において2年以上研究に従事した者で、大学院において当該研究の成果等により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると本大学院が認めた者

[入学者の選考]

- 第14条** 入学志願者に対しては、入学試験を行う。
- 2 入学試験に関し必要な事項は、別にこれを定める。

[入学許可等]

- 第15条** 入学試験に合格した者は、学長が指定する期日までに所定の納付金を納入し、かつ必要書類を提出しなければならない。
- 2 学長は、前項の規定により所定の納付金を納入し、かつ必要書類を提出した者に対し、入学を許可する。

[再入学]

- 第16条** 退学した者または除籍となった者が、保証人連署のうえ、所定の様式により再入学を願い出たときは、研究科委員会または博士後期課程委員会の審議を経て、学長はこれを許可することができる。
- 2 再入学を願い出ることのできる期間は、退学の日または除籍の日より2年以内とする。
- 3 再入学の時期は学期の始めからとする。
- 4 再入学に関する規程は、本条に定めるもののほか、別にこれを定める。

[転入学]

第17条 他の大学院に1年以上在籍した後、本大学院の研究科に転入学しようとする者については、選考のうえ、既に在学した大学院において履修した授業科目の内容と成績等を考慮し、学長は入学を許可することができる。

[休学]

- 第18条** 学生が疾病その他の事由によって3ヶ月以上就学することができないときは、保証人連署のうえ、所定の様式により願い出て、休学することができる。
- 2 休学期間は1年以内とする。ただし、特別の理由がある場合は1年を限度として、休学期間の延長を認めることができる。
- 3 休学の期間は通算して、博士前期課程および修士課程にあっては2年、博士後期課程にあっては3年を超えることができない。
- 4 休学の期間は、第10条および第11条に定める修業年限および在学年限に算入しない。
- 5 休学期間中の学費は、半期20,000円、通年40,000円とし、納入等に関する規定は第8条による。
- 6 休学に関する規程は、本条に定めるもののほか、別にこれを定める。

[復学]

- 第19条** 休学者が復学しようとするときは、保証人連署のうえ、所定の様式により願い出て、学長の許可を得て復学することができる。
- 2 復学の時期は学期の始めからとする。
- 3 復学に関する規程は、本条に定めるもののほか、別にこれを定める。

[退学]

- 第20条** 疾病、その他の事由によって退学または転学しようとする者は、保証人連署のうえ、所定の様式により願い出なければならない。
- 2 退学および転学に関する規程は、本条に定めるもののほか、別にこれを定める。
- 3 懲戒による退学に関する規程は、第37条に定めるもののほか、別にこれを定める。

[除籍]

- 第21条** 学長は、学生が次の各号のいずれかに該当するときは、研究科委員会または博士後期課程委員会の審議を経て、学生を除籍する。
- (1) 第11条に規定する在学年限を超えた者
 - (2) 第18条第2項および第3項に規定する休学年限を超えた者
 - (3) 所定の授業料等学費の納付を怠り、その督促を受けてもこれを納入しない者
 - (4) 第19条に規定する復学手続きのない者
 - (5) 本大学院での就学意思のない者
 - (6) 本人が死亡したとき
 - (7) その他、学長が相当の理由を認めるとき
- 2 除籍に関する規程は、本条に定めるもののほか、別にこれを定める。

第4章 | 授業

[授業科目および単位数]

- 第22条** 本大学院の芸術研究科において開設する授業科目および単位数は、別表第3-1に定める。
- 2 本大学院のデザイン研究科において開設する授業科目および単位数は、別表第3-2に定める。
- 3 本大学院のマンガ研究科において開設する授業科目および単位数は、別表第3-3に定める。
- 4 本大学院の人文科学研究科において開設する授業科目および単位数は、別表第3-4に定める。

[学部開設科目等の履修]

第22条の2 学長は、教育研究上の必要に応じて、学生に授業科目を指定して、学部、本大学院の他研究科、他専攻および他課程が開設する授業科目を履修させることができる。

[単位の認定]

第23条 学長は、授業科目を履修した学生に対して、当該授業科目の試験および研究報告の成績を審査し、その結果に基づき、研究科委員会の審議を経て、相当する数の単位を与える。

[他の大学院との交流]

第24条 学長は、教育上有益と認めるときは、他の大学院との協定に基づき、その大学院(以下「交流協定校」という。)との間に学生を交流し、学生に必要な授業科目を履修させ、または研究指導を受けさせることができる。

2 前項の規定に基づいて学生が履修した単位は、15単位を超えない範囲で、本大学院で履修したものとみなすことができる。

3 交流協定校の認定、交流協定校における学生の履修した授業科目の単位の認定、その他、他の大学院との交流に関する重要事項については、研究科委員会の審議を経て学長が決定する。

4 本条第2項の規定は、外国の大学院において授業科目を履修した場合においても準用する。

5 他の大学院との交流に関して実施上必要とされる具体的措置については、別にこれを定める。

[研究指導]

第25条 本大学院に在学する学生は、担当教員による研究指導を受けなければならない。

2 学長が教育上有益と認めるときは、学生は他の大学院または研究所等において必要な研究指導を受けることができる。ただし、当該研究指導を受ける期間は、博士前期課程および修士課程の学生にあっては1年を超えないものとする。

[入学前の既修得単位等の認定]

第26条 学長が教育上有益と認めるときは、学生が本大学院入学前に他大学院において履修した授業科目について修得した単位を本大学院で修得したものとみなすことができる。ただし、学部学生として履修した科目については認めない。

2 前項の規定により修得したものとみなし、博士前期課程および修士課程の修了要件である単位数に算入することのできる単位数は、15単位を超えないものとし、かつ第24条第2項に定めるものと合わせて20単位を超えないものとする。

第5章 | 課程の修了および学位

[博士前期課程および修士課程の修了]

第27条 博士前期課程および修士課程に2年以上在学し、修了の要件となる単位を修得し、必要な研究指導を受けたうえ、修士論文または修士作品についての研究成果の審査および最終試験に合格し、かつ学費等納入金について大学への諸債務を滞納していない者に対し、研究科委員会の審議を経て、学長が修了を認定する。

2 前項の審査および最終試験については、別にこれを定める。

3 在学期間については、優れた研究業績をあげた者については、当該課程に1年以上在学すれば足りるものとする。

[博士後期課程の修了]

第27条の2 博士後期課程に3年以上在学し、修了の要件となる単位を修得し、必要な研究指導を受けたうえ、博士論文(研究科により博士作品を加える。以下「博士論文等」という)の審査および最終試験に合格し、かつ学費等納入金について大学への諸債務を滞納していない者に対し、博士後期課程委員会の審議を経て、学長が修了を認定する。

2 前項の審査および最終試験については、別にこれを定める。

3 在学期間については、優れた研究業績をあげた者については、博士前期課程に2年以上在学し、当該課程を修了した場合にあっては、博士後期課程に1年以上、前条第3項の規定による在学期間をもって修了した場合にあっては、博士課程に3年(当該在学期間を含む。)以上在学すれば足りるものとする。

4 前項の規定にかかわらず、第13条第2項第2号から第4号までの規定により、大学院への入学資格に関し修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者で優れた研究業績をあげた者の在学期間については、博士後期課程に1年以上在学すれば足りるものとする。

[学位の授与]

第28条 学長は、博士前期課程および修士課程の修了を認定した者に対して、修士の学位を授与する。

2 学長は、博士後期課程の修了を認定した者に対して、博士の学位を授与する。

3 博士の学位は、本大学院の博士後期課程を経ない者であっても、本大学院の行う博士論文等の審査に合格し、かつ当該課程を修了した者と同等以上の学力を有することを確認した者に対しても授与することができる。

4 修士および博士の学位の授与については、学長が定める。

5 本大学院が授与する学位の種類および専攻分野の名称は、次の通りとする。

芸術研究科	博士前期課程 修士(芸術)
	博士後期課程 博士(芸術)
デザイン研究科	修士課程 修士(芸術)
マンガ研究科	博士前期課程 修士(芸術)
	博士後期課程 博士(芸術)
人文学研究科	修士課程 修士(人文学)

6 学位に関する規程は、本条に定めるもののほか、別にこれを定める。

第6章 | 委託生・研究生・特別交流学生・科目等履修生および外国人留学生

[委託生]

第29条 本大学院において研修することについて、国・地方公共団体または他の教育機関から委託された者(外国人留学生を除く。)があるときは、本大学院における教授および研究に支障のない場合に限り、選考のうえ、研究科委員会の審議を経て、委託生として学長が入学を許可することができる。

2 委託生の委託料は、別表第2の①に規定する一般学生の授業料相当額とする。

[研究生]

第30条 本大学院の専任教員のもとで研究しようとする者があるときは、研究科委員会の審議を経て、学長がこれを許可することができる。

2 研究生の授業料等の学費は、別表第2の②に定めるところによる。

3 研究生に関する規程は、本条に定めるもののほか、別にこれを定める。

[特別交流学生]

第31条 第24条に規定する交流協定校の大学院学生が、特別交流学生として特定の授業科目の履修または研究指導を受けることについて、研究科委員会の審議を経て、学長がこれを許可することができる。

2 特別交流学生に関する規程は、本条に定めるもののほか、別にこれを定める。

[科目等履修生]

第32条 本大学院以外の者で1または複数の授業科目を履修することを希望する者があるときは、本大学院における教育および研究に支障がなく、また、本大学院が指定する科目に限り、学長がこれを許可することができる。

2 履修を許可する授業科目の単位数は、1年度につき12単位以内とし、在学年限は1年以内とする。

3 科目等履修料等の納付金については、別表第2の③に定めるところによる。

4 科目等履修生に関する規程は、本条に定めるもののほか、別にこれを定める。

[外国人留学生]

第33条 勉学の目的を持った外国人で、第13条の要件を充足する者が、本大学院への入学を志願するときは、選考のうえ、学長が入学を許可することができる。

2 外国人留学生に関する規程は、本条に定めるもののほか、別にこれを定める。

[教育免許状の取得・種類]

第34条 中学校教諭1種免許状および高等学校教諭1種免許状授与の所要資格を有する者で、当該免許状同一教科に係る中学校教諭専修免許状および高等学校教諭専修免許状授与の所要資格を取得しようとする者は、教育職員免許法および教育職員免許法施行規則に定める所要の単位を修得しなければならない。

2 本大学院において当該所要資格を取得できる中学校教諭専修免許状および高等学校教諭専修免許状の免許教科の種類は、中学校教諭専修免許状(美術・社会)および高等学校教諭専修免許状(美術・工芸・公民)とする。

[学芸員資格の取得]

第35条 博物館学芸員の資格を取得しようとする者は、博物館法および同法施行規則に定めるところにより、学部において開設する博物館学芸員に関する科目を履修し、その単位を修得しなければならない。

第7章 | 賞罰

[表彰]

第36条 学長は、人物、学業ともに優秀な学生に対して、これを表彰する。

[懲戒]

第37条 学長は、本大学院の学則または規程に違反し、その他学生としての本分に反した者で、研究科委員会または博士後期課程委員会の審議を経て懲戒する。
2 学生の懲戒に関する規程は、本条に定めるもののほか、別にこれを定める。

第8章 | 補則

[補則]

第38条 この大学院学則の施行に関して必要な細則は、学長が定める。

附則

(略)

第24項 この学則は、2026(令和8)年4月1日から施行し、2026年度入学生から適用する。ただし、第9条の3第1項および第32条第2項については、2025年度以前入学生においても適用する。

※別表第1～3は省略

[目的]

第1条 この規程は、京都精華大学学則(以下「大学学則」という。)および京都精華大学大学院学則(以下「大学院学則」という。)の規定に基づき、京都精華大学(以下「本学」という。)が授与する学位について必要な事項を定めることを目的とする。

[学位の種類]

第2条 本学において授与する学位および付記する専攻分野の名称は、次のとおりとする。

- (1) 人文学部 学士(人文学)
- (2) メディア表現学部 学士(メディア表現)
- (3) 芸術学部 学士(芸術)
- (4) デザイン学部 学士(芸術)
- (5) マンガ学部 学士(芸術)
- (6) 人文学研究科 修士(人文学)
- (7) 芸術研究科 修士(芸術)
..... 博士(芸術)
- (8) デザイン研究科 修士(芸術)
- (9) マンガ研究科 修士(芸術)
..... 博士(芸術)

[学位授与の要件]

第3条 学士の学位は、本大学学則の定めるところにより、本学学部の課程を修了した者に授与する。
2 修士の学位は、本大学院学則の定めるところにより、本大学院博士前期課程および修士課程を修了した者に授与する。
3 博士の学位は、本大学院学則の定めるところにより、本大学院の博士後期課程を修了した者に授与する。
4 前項に定める者のほか、博士の学位は、本大学院学則の規定に基づき、博士論文(研究科により博士作品を加える。以下「博士論文等」という)の審査および試験に合格し、かつ本大学院博士課程を修了した者と同等以上の学力を有することが認定された者にも授与することができる。

[審査対象]

第4条 本大学院学則に規定する審査を受けるべき博士論文等、修士論文、修士作品または特定の課題についての研究の成果は、次の表に掲げるとおりとする。

研究科・課程	審査対象
芸術研究科博士後期課程	博士論文および博士作品
芸術研究科博士前期課程	修士論文または修士作品
デザイン研究科修士課程	修士論文または修士作品
マンガ研究科博士後期課程	博士論文
マンガ研究科博士前期課程	修士論文または修士作品
人文学研究科修士課程	修士論文または修士作品

[学位論文等の提出]

第5条 修士の学位を得ようとする者は、所定の学位申請書(別表第1)に修士論文または修士作品(以下、「修士論文等」という。)を添え、研究科長に提出しなければならない。
2 博士の学位を得ようとする者は、所定の学位申請書(別表第1)に博士論文等、博士論文の要旨、参考論文のあるときは当該参考論文を添え、研究科長に提出しなければならない。
3 修士論文等または博士論文等の提出の時期および試験の期日、方法については、別に定める。

[学位授与の申請]

第6条 第3条第4項により博士の学位論文を提出して学位の授与を申請する者は、学位申請書に、博士論文等、博士論文の要旨、参考論文のあるときは当該参考論文、研究業績一覧、履歴書(別表第2)に論文審査料を添えて学長に提出するものとする。
2 前項における論文審査料については、これを別に定める。
3 提出された博士論文等については、博士後期課程委員会の審議を経て、学長が受理する。
4 学長は前項により提出された博士論文等の審査を研究科長に付託する。
5 受理した博士論文等、博士論文の要旨、参考論文、研究業績一覧、履歴書および論文審査料は返還しない。

[学位論文等の審査]

第7条 研究科長は修士論文等または博士論文等(以下「学位論文等」という。)の提出または付託を受けたときは、研究科委員会または博士後期課程委員会にその審査を依頼する。

2 研究科委員会または博士後期課程委員会は、前項の依頼に基づき、学位論文等の審査を行うものとする。

3 研究科委員会または博士後期課程委員会は、学位論文等を審査するため、学位論文等ごとに審査委員会を設ける。

[審査委員会]

第8条 審査委員会は、提出された学位論文等の内容に関する専門分野の指導教員と、研究科委員会において選出された関連分野の教員2名以上を加えて組織する。

2 提出された学位論文等の審査にあたって、審査委員会は研究科長の承認を得て他の大学院または研究所等の教員等を審査委員に加えることができる。

3 審査委員会は、学位論文等の審査および試験を行うものとし、試験は、学位論文等を中心として口頭試問の方法によって行うものとする。

[審査結果の報告]

第9条 審査委員会は、審査および試験の結果について、文書により研究科長に報告しなければならない。

[課程修了および授与資格の審議]

第10条 研究科長は前条の報告に基づき、博士後期課程委員会または研究科委員会に学位論文等の審査および試験の結果を提案し、博士後期課程委員会または研究科委員会はその課程の修了の可否について審議する。

2 第3条第4項により学位の申請のあった者については、学位授与要件の有無について、審議する。

3 本条第1項および第2項に規定する審議は、構成員の3分の2以上が出席する博士後期課程委員会または研究科委員会において行い、出席者の過半数が審議結果に賛成しなければならない。

[審議結果の認定]

第11条 研究科委員会が前条第1項および第2項の審議を行ったときは、研究科長は速やかに文書により学長に報告し、学長がこれを認定する。

[学位の授与]

第12条 学長は、課程の修了または授与資格を認定した者に学位記を授与する。また、学位を授与できない者には、その旨を通知する。

[学位記の様式]

第13条 学位記の様式は別表第3、別表第4、別表第5および別表第6のとおりとする。

[学位論文、学位作品の保存]

第14条 本大学院で学位を授与された者は、学位論文1部または学位作品写真1部の原本ならびに磁気媒体を本学情報館に提供するものとし、博士の学位を授与された者は、国立国会図書館にも提供しなければならない。

[学位の名称の使用]

第15条 本大学院で学位を授与された者が学位の名称を用いるときは、当該専攻分野の名称を記し、当該学位を授与した本大学院名を付記するものとする。

[学位授与の報告]

第16条 本大学院において博士の学位を授与したときは、学長は、当該博士の学位を授与した日から3か月以内に、学位授与報告書を文部科学大臣に報告するものとする。

[博士論文要旨の公表]

第17条 本学は、博士の学位を授与したときは、「学位規則」(昭和28年4月1日、文部省令第9号)の定めにより、当該博士の学位を授与した日から3か月以内に、当該博士の学位に係る論文の内容の要旨および論文審査の結果の要旨をインターネットの利用により公表するものとする。

[博士論文等の公表]

第18条 博士の学位を授与された者は、当該博士の学位を授与された日から1年以内に当該博士の学位の授与に係る論文の全文および作品を公表するものとする。ただし、当該博士の学位を授与される前に公表したときは、この限りではない。

2 前項の規定にかかわらず、博士の学位を授与された者は、やむを得ない事由がある場合には、本学の承認を受けて、当該博士の学位の授与に係る論文の全文に代えてその内容を要約したものを公表することができる。この場合において、本学は、その論文の全文を求めに応じて閲覧に供するものとする。

3 博士の学位を授与された者が行う前2項の規定による公表は、本学の協力を得て、インターネットの利用により行うものとする。

[学位の取消]

第19条 学長は本学において学位を授与された者に次の事実があったときは、学位を取り消し、学位簿より削除し、学位記を返付せしめ、かつ、その旨を公表する。

(1) 不正な方法によって、学位の授与を受けた事実が判明したとき

(2) 名誉を汚辱する行為があったとき

[雑則]

第20条 本規程に定めるもののほか、必要な事項は別に定める。

[事務担当部署]

第21条 この規程に関する事務は、教学グループが担当する。

[改廃]

第22条 この規程の改廃は、常務理事会の議を経て、学長が行う。

附則

(略)

10 この規程は、2025(令和7)年4月1日から施行する。ただし、2024年度以前に国際文化学部へ入学した者は第2条第1項第1号を「国際文化学部 学士(文化)」を学位として取り扱うものとする。

11 この規程は、2026(令和8)年4月1日から施行する。ただし、第13条に定める学位記の様式のうち別表第3から別表第5までについては、2026年3月に発行するものから適用する。

なお、第2条第1号に定める学位の取扱いについては、次のとおりとする。

(1) ポピュラーカルチャー学部に入学者の学位は、「ポピュラーカルチャー学部 学士(芸術)」とする。

(2) 2020年度以前に人文学部に入学者の学位は、「人文学部 学士(人文)」とする。

(3) 2025年度に国際文化学部へ入学した者の学位は、「国際文化学部 学士(人文学)」とする。

(4) 附則10ただし書きについては、「第2条第1号を」を削除のうえ引き続き適用するものとする。

また、第3条から第7条および第18条に掲げる審査対象および公表対象について、2025年度以前に大学院芸術研究科博士後期課程に入学した者は「博士論文」のみを対象とする。

※別表第1～6は省略

京都精華大学 履修規程

第1章 | 総則

[目的]

第1条 この規程は、京都精華大学学則（以下「大学学則」という。）の規定に基づき、京都精華大学（以下「本学」という。）における入学から卒業までの授業科目（以下「科目」という。）の履修登録、受講、単位修得方法等に関し必要な事項を定める。

第2章 | 単位の修得

[科目の開講方法]

第2条 科目の開講方法はクォーター制およびセメスター制で開講する。

2 本規程におけるクォーター制とは、第1クォーター、第2クォーター、第3クォーター、第4クォーターの各学期をもって各科目を完結させる制度のことをいう。

3 本規程におけるセメスター制とは、前期または後期の各学期をもって各科目を完結させる制度のことをいう。

[授業時間]

第3条 授業時間は次の表に掲げるとおりとする。

1講時	2講時	3講時	4講時	5講時	6講時
9:00 ～10:30	10:40 ～12:10	13:00 ～14:30	14:40 ～16:10	16:20 ～17:50	18:00 ～19:30

[単位の修得]

第4条 当該学期の履修登録を行った科目（以下「履修科目」という。）について単位を修得することができる。

2 履修科目の単位を修得するためには、授業および授業外学修を行い、大学学則第19条の規定に従って60点以上の成績評価を取得しなければならない。

3 単位は、各授業科目のシラバスに基づき、学習意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価し授与されるものとする。

4 原則として、履修科目の授業にはすべて出席しなければならない。

5 代人に受講させる等、授業出席に関して不正行為と判断された場合は、当該科目の成績評価は0点となり、単位を修得できない。

6 学期末試験および授業時間内に実施される中間テストならびに小テスト等の各種試験において、不正行為と判断された場合は、当該科目のみならず、当該学期の全履修科目の成績評価は0点となり、単位を修得できない場合がある。

7 課題レポート・課題作品や卒業論文・卒業制作の作成において、剽窃またはインターネットからのコピー・アンド・ペースト等の不正行為と判断された場合は、当該科目のみならず、当該学期の全履修科目の成績評価は0点となり、単位を修得できない場合がある。

8 前2項における不正行為の判定や成績評価については別に定める。

[履修登録]

第5条 履修登録とは、履修する科目を、自らの責任において、大学の指定した方法により登録することをいう。

第6条 履修登録は原則、学期ごとに行い、所定の期間内に完了しなければならない。

2 所定の期間内に履修登録を行わなかった場合は、当該学期における登録はなかったものとし、授業への出席や各種試験受験等の事実に関わらず、単位を修得できない。

3 やむをえない事情により所定の期間内に履修登録を完了できない場合は、あらかじめ教学グループに申し出て許可を得なければならない。

4 履修登録においては、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載したシラバスを、当該年度に開講する授業科目ごとに作成し、公開する。

5 履修登録は、授業外学修に要する学修時間を考慮するとともに、4年間の学修計画を立て、進級、卒業要件等を自ら確認したうえで慎重に行わなければならない。

6 本規程に定めるもののほか、履修に関わる必要な事項は、別途公示する。

7 履修確認後は、登録した科目の変更や追加等は原則として認められない。やむを得ず科目の変更や追加等の必要がある場合は、指定された期間内に、指示された方法で、自らの責任において履修変更等の手続を行わなければならない。

第7条 履修科目の取消は、原則として認められない。やむを得ず取り消す必要がある場合は、指定された期間内に、指示された方法で、自らの責任において履修取消の手続を行わなければならない。

2 履修取消について指示された方法で手続を行った場合でも、卒業要件や履修者数などの理由で取消が認められない場合がある。

3 手続を行わずに放棄した科目の成績評価については、大学学則第19条第3項

に定めるGPAの算出時に算入する。

[履修上限単位]

第8条 各学期（各クォーター）に履修登録できる単位数は、10単位を限度とする。ただし、次の各号に定める科目等の単位数は、これに算入しない。

(1) 教職に関する科目 (2) 博物館学芸員に関する科目

(3) 図書館司書に関する科目

(4) 大学コンソーシアム京都等による本学が認めた単位互換科目

2 前項の規定にかかわらず、集中授業形式で開講される授業（以下「集中授業」という。）の履修は、各学期の履修登録上限単位数に含めない。ただし、年度内の集中授業の履修登録上限単位数は8単位とし、後期から入学または復学等した場合は4単位とする。

3 前々項の規定にかかわらず、教務委員会が必要と判断した場合は、各学期の限度となる単位を超えた履修を認めることがある。

[配当年次]

第9条 当該科目が履修可能な学年を配当年次という。上級配当年次の科目を、原則として下級年次の学生が履修することはできない。

2 前項の規定にかかわらず、教務委員会が特に教育上有益と判断した場合は、上級配当年次の科目の履修を認めることがある。

[不開講科目]

第10条 年度や学期によって開講されない科目がある。

2 授業開講人数基準については、「京都精華大学授業開講基準」に定める。

3 授業開講人数基準によって不開講となった科目において当該科目の履修者が希望する場合には他の科目を相当単位数分、新たに登録することができる。

[履修者数の制限]

第11条 科目によって、授業を円滑に開講するために履修者数を制限することができる。

2 前項にもとづき、履修登録を行う前に抽選または選考を行うことがある。

3 抽選または選考が必要な科目について、これを経ないで履修登録を行った場合は、当該科目の登録は無効となる。

[既修得科目の履修]

第12条 単位を修得した科目は、再度履修することはできない。

[同一時限の重複履修]

第13条 当該学期の同一時限に重複して科目を履修することはできない。

[再履修]

第14条 不合格になった科目を再度履修登録することを再履修という。

[標準修得標準単位数]

第14条の2 4年間で卒業するための各学年における標準的な修得単位数を標準修得単位数とし、31単位と定める。

[授業料未納者の扱い]

第15条 授業料その他納付金の未納者は、当該学期の履修登録は無効となり、授業への出席や各種試験受験等の事実にかかわらず、単位を修得することができない。

[出席等の取扱]

第16条 授業への出席に際しては、常時、学生証を携帯しなければならない。

2 学生証の不携帯は、担当教員の判断により欠席として扱われることがある。

[公欠]

第17条 当該授業への不参加を欠席として扱わないことを公欠という。当該授業における教授内容（各種の試験やレポートの提出を含む）を免除するものではない。公欠となる欠席の理由については別表第1に定める。

[長期欠席]

第18条 1ヶ月を超えて欠席することを長期欠席という。長期欠席をする学生は、授業担当教員に連絡するとともに、診断書等を教務チームに提出しなければならない。ただし、本規程第17条に定める公欠には該当しない。

[成績評価]

第19条 履修科目の成績は、学期末試験、期中のテスト等の試験、レポート、授業への参加度等を総合評価する。具体的な評価方法と評価基準は、履修科目の担当教員がシラバスにて公示する。

〔成績通知〕

第20条 成績は学期ごとに大学が定める方法によって学生本人および学費支弁者に対して通知する。

〔Grade Point〕

第21条 履修科目に応じて、相応するGrade Pointを付与する。Grade Pointの付与基準は大学学則第19条第3項に定める。

第22条 学生が学修の成果を自ら検証するための指標として、Grade Point Average(以下「GPA」という)を算出する。

2 GPAを算出するための対象科目(以下「GPA対象科目」という)は、原則として卒業要件単位に算入する全科目とする。ただし、単位認定科目等、成績点数の表記がない科目は除外する。

3 履修取消について指示された方法で手続を行い、取消が認められた科目は、GPAの算出から除外する。

〔成績評価〕

第23条 成績評価は、次学期における他の科目の履修可否や留学等学内の諸制度の選考における判定基準として利用される。

2 GPAの算出対象科目は、過年度の不合格科目も含めた卒業要件の対象となる全履修科目とする。

3 一旦不合格になった科目を次学期以降に再履修した場合は、当該科目の成績が更新される。

〔進級、留年、成績不良による退学勧告〕

第23条の2 大学学則第12条第2項に定める進級とは、当該学年での学修を修了し、次学年での学修を開始することをいう。進級するためには、各学年において次の各項の進級要件を充足しなければならない。ただし、本学が派遣する1年以上の長期留学参加者はこの限りではない。

2 1年次生が2年次へ進級するための要件は、別表第2の1に定める。

3 2年次生が3年次へ進級するための要件は、別表第2の2に定める。

4 3年次生が4年次へ進級するための要件は、別表第2の3に定める。

第23条の3 前条に定める進級要件を充足できない者は、大学学則第12条第2項に基づき当該年次に留年となる。

2 留年者に対して当該学部は教員が面談指導を行う。面談結果とGPA等を勘案し成業の見込がないと判断した場合は、当該学部運営会議の議を経て、学部長は当該学生に休学及び退学勧奨を行うことができる。

3 面談指導には、学費支弁者等を同伴させることができる。

〔編入学〕

第24条 大学学則第27条に定める編入学を許可された者が入学する前の大学等において修得した単位のうち、入学する年次において以下の通り定めた範囲で本学において履修し、修得したものとみなすことができる。

2年次編入学者 30単位 3年次編入学者 62単位

第25条 単位認定の手続は、入学までに、次の各号に定める書類を添付して、指定した期日までに本学へ申請しなければならない。

(1) 出身大学、短期大学、高等専門学校または専修学校の既修得単位を証明する成績証明書または単位修得証明書

(2) 既修得科目のシラバス

第26条 認定対象科目は、本学科目の中から教務委員会が適当と認める科目とする。

第27条 単位の認定は、申請手続時に提出された成績証明書、講義概要等により判断する。

2 次の各号のいずれかに該当する場合は、単位を認定しないことがある。

(1) 既修得科目の授業時間数および単位計算方法が本学の基準に準じたものでない場合

(2) 成績評価が低い場合

第28条 編入学生の修業年限は以下の通りとする。

2年次編入学生 3年 3年次編入学生 2年

第29条 編入学生の在学年限は以下に定める期限を越えることはできない。

2年次編入学生 6年 3年次編入学生 4年

第30条 大学学則第18条第1項から第3項に定める資格においては、本規程第29条に定める修業年限の期間の範囲内で修得できないことがある。

〔転入学〕

第31条 転入学については大学学則第28条に定める。

〔転学部、転学科〕

第32条 転学部および転学科に関する規程は、別にこれを定める。

〔入学前の既修得単位認定の取扱〕

第33条 単位認定の手続は、入学後、指定した期日までに教学グループへ次の各号に定める書類を添えて申請しなければならない。

(1) 出身大学、短期大学、高等専門学校または専修学校の既修得単位を証明する成績証明書または単位修得証明書

(2) 既修得科目のシラバス

第34条 認定対象科目は、大学学則第15条の規定にもとづき、大学又は短期大学における既修得単位の認定にあたって、本学が指定する科目とする。

第35条 既修得単位の認定は、60単位を超えない範囲で行う。

第36条 単位の認定は、申請手続時に提出された成績証明書、シラバス等により教務委員会からこれを委託された教務部長がこれを判断する。

2 次の各号のいずれかに該当する場合は、単位を認定しないことがある。

(1) 既修得科目の授業時間数および単位計算方法が本学の基準に準じたものでない場合

(2) 成績評価が低い場合

3 教務委員会が必要と判断した科目は、試験等を課すことがある。

〔技能審査等の合格に係る学修により認定できる単位〕

第37条 大学学則第14条により次の各号のいずれかに該当する資格試験(以下「試験」という)で、次項に定める成績基準を満たした場合、本学における全学共通教育科目として開講する授業科目の一部を履修したものとみなし、単位を与えることができるものとする。

(1) 実用英語技能検定試験(以下「英検」という。)

(2) TOEFL(Test of English as a Foreign Language)

(3) TOEIC(Test of English for International Communication)

(4) IELTS(International English Language Testing System)

(5) JLPT(日本語能力試験) (6) JPT(日本語能力試験)

2 前項に規定する試験での単位認定の成績基準、授業科目及び認定単位数は、別表第3に定める。ただし、認定時において、当該授業科目の単位を既に修得している場合は、その単位数を控除して認定する。

3 上記第1項による単位認定の手続は、入学後、指定した期日までに教学グループへ次の各号に定める書類を添えて申請しなければならない。

(1) 当該資格試験に関する認定(合格)通知書又は成績証明書(ただし、原本に限る。)

(2) 本学が定める所定の単位認定申込書

4 教務委員会は、当該授業科目にあたる「英語」並びに「日本語」について、上記第3項によって申し出があった場合、単位認定にあたり、必要に応じて申請者と面談の上、その適切性を判断する場合がある。

〔暴風警報、特別警報、交通機関運休による休校、休講措置〕

第38条 次の各号のいずれかに該当する場合は、休校・休講措置をとることとする。その場合の条件は別表第4の1および別表第4の2に基づく。

(1) 気象庁が発表する気象警報において、「京都府南部」(もしくはその細分区域である「南丹・京丹波」、「京都・亀岡」、「山城中部」、「山城南部」のいずれかの地域)に暴風警報、もしくは特別警報が発令されたとき。

(2) JR在来線(米原～神戸)、叡山電鉄(鞍馬線)、京都市営地下鉄、および京阪電鉄(本線)、阪急電鉄(京都線)、近畿日本鉄道(京都線)のいずれかが運休になり、なおかつバス等の代替手段がないとき。

2 第1項の規定には、大雨洪水警報ないし大雪警報は含まれない。

3 第1項の規定にかかわらず、災害その他特別の事由がある場合は、学長の判断により臨時に休講の措置を講ずることがある。

〔雑則〕

第39条 本規程に定めるもののほか、必要な事項は別に定める。

〔事務担当部署〕

第40条 この規程に関する事務は、教学グループが担当する。

〔改廃〕

第41条 この規程の改廃は、常務理事会の議を経て、学長が行う。

附則

別表第1(第17条関係)

公欠として認められる事由

事由	要件	日数
忌引	1親等の血族または配偶者	7日
	2親等の直系血族	3日
	1親等の姻族	3日
	上記以外の3親等以内の血族	1日
	2親等以内の姻族	1日
通学経路の交通機関が事故などにより不通になった場合		当該事由が解消されるまで
教育実習、博物館実習、介護等体験、学外実習		当該実習期間
学校感染症	学校保健安全法に定める感染症を罹患した場合	学校保健安全法施行規則に定められた期間
外国人留学生の在留申請等手続き		1日(入国管理局出頭当日)
裁判員制度による裁判への参加		制度により定められた期間

別表第2の1(第23条の2関係)

1年次生が2年次へ進級するための要件

学部・学科・コース	要件
国際文化学部人文学科・グローバルスタディーズ学科	・学部専門1年次必修科目の10単位をすべて修得していること
メディア表現学部 メディア表現学科	・学部専門1年次必修科目の4単位(「基礎実習1・2」合計2科目4単位)を修得していること ・専攻導入科目から4単位以上を修得していること ・1年次終了時に総修得単位数(卒業要件に含まない資格課程等の単位を除く)が20単位以上に達していること
芸術学部造形学科	・学部専門1年次必修科目の16単位をすべて修得していること
デザイン学部(全学科)	・学部専門1年次必修科目の16単位をすべて修得していること ※学部基盤科目の必修科目(「デザイン概論1・2」「デザイン史1・2」)は除く
マンガ学部マンガ学科 (ストーリーマンガコース・新世代マンガコース)	・コース専門科目の1年次必修科目の16単位をすべて修得していること ※学部基盤科目の必修科目(「マンガ概論1・2」「マンガ史1・2」)は除く
マンガ学部マンガ学科 (キャラクターデザインコース)	・コース専門科目の1年次選択必修科目の12単位を修得していること ※学部基盤科目の必修科目(「マンガ概論1・2」「マンガ史1・2」)は除く
マンガ学部 アニメーション学科	・学部専門1年次必修科目の12単位を修得していること ※学部基盤科目の必修科目(「マンガ概論1・2」「マンガ史1・2」)は除く

別表第2の2(第23条の2関係)

2年次生が3年次へ進級するための要件

学部・学科・コース	要件
国際文化学部人文学科	・学部専門2年次必修科目の20単位をすべて修得していること ・学部専門2年次選択必修科目「歴史学概論」「文学概論」「社会学概論」の中から所属専攻の科目2単位を修得していること
国際文化学部 グローバルスタディーズ学科	・学部専門2年次必修科目の20単位をすべて修得していること ・学部専門2年次選択必修科目「国際文化概論」「国際日本学概論」のうち所属専攻の科目2単位を修得していること
メディア表現学部 メディア表現学科	・学部専門2年次必修科目の8単位(「2年次実習1・2」合計2科目8単位)をすべて修得していること ・学部専門基盤科目の1年次必修科目の6単位(「メディア表現概論」「メディア表現史」「プログラミング基礎」合計3科目6単位)をすべて修得していること ・2年次終了時に総修得単位数(卒業要件に含まない資格課程等の単位を除く)が50単位以上に達していること
芸術学部造形学科	・学部専門2年次必修科目の18単位をすべて修得していること
デザイン学部イラスト学科	・学部専門2年次必修科目の12単位をすべて修得していること
デザイン学部 ビジュアルデザイン学科	・学部専門2年次必修科目の16単位をすべて修得していること
デザイン学部 プロダクトデザイン学科	・学部専門2年次必修科目の16単位をすべて修得していること
デザイン学部建築学科	・学部専門2年次必修科目の8単位をすべて修得していること ・学部専門2年次選択必修科目の「建築応用実習1・2」「人間環境デザイン応用実習1・2」から2科目6単位を修得していること
マンガ学部マンガ学科 (ストーリーマンガコース・新世代マンガコース)	・コース専門科目の2年次必修科目の16単位をすべて修得していること
マンガ学部マンガ学科 (キャラクターデザインコース)	・コース専門科目の2年次選択必修科目のうち、3領域から2領域の科目それぞれ1と2の両方を修得していること(4科目12単位以上)。キャラクター造形応用領域は「キャラクター造形応用1・2」、3Dグラフィックス応用領域は「3Dグラフィックス応用1・2」、ゲームデザイン応用領域は「ゲームデザイン応用1・2」。
マンガ学部 アニメーション学科	・学部専門1・2年次必修科目で10科目以上を修得していること ※学部基盤科目の必修科目(「マンガ概論1・2」「マンガ史1・2」)は除く

別表第2(第23条の2関係)の3
3年次生が4年次へ進級するための要件

学部・学科・コース	要件
国際文化学部人文学科	<ul style="list-style-type: none"> 学部専門3年次必修科目の6単位をすべて修得していること 学部専門3年次選択必修科目の「歴史学研究」「文学研究」「社会学研究」の中から所属専攻の科目2単位を修得していること
国際文化学部 グローバルスタディーズ学科	<ul style="list-style-type: none"> 学部専門3年次必修科目の6単位をすべて修得していること 学部専門3年次選択必修科目「国際文化研究」「国際日本学研究」のうち所属専攻の科目2単位を修得していること
メディア表現学部 メディア表現学科	学部専門3年次必修科目の12単位をすべて修得していること
芸術学部造形学科	学部専門3年次必修科目の18単位をすべて修得していること
デザイン学部イラスト学科・ ビジュアルデザイン学科	学部専門3年次必修科目の12単位をすべて修得していること
デザイン学部 プロダクトデザイン学科	<ul style="list-style-type: none"> 学部専門3年次選択必修科目(「プロダクトデザイン応用実習1-4」「デザイン学部応用実習1」から2科目6単位、「プロダクトデザイン応用実習5-8」「デザイン学部応用実習2」から2科目6単位、合計4科目12単位)で12単位以上を修得していること
デザイン学部建築学科	<ul style="list-style-type: none"> 学部専門3年次選択必修科目「建築応用実習3・4」「人間環境デザイン応用実習3・4」から2科目12単位を修得していること
マンガ学部マンガ学科 (ストーリーマンガコース・ 新世代マンガコース)	コース専門科目の3年次必修科目の12単位をすべて修得していること
マンガ学部マンガ学科 (キャラクターデザインコース)	コース専門科目の3年次必修科目の12単位をすべて修得していること
マンガ学部 アニメーション学科	<ul style="list-style-type: none"> 学部専門1・2・3年次必修科目のすべての単位を修得していること ※学部基盤科目の必修科目(「マンガ概論1・2」「マンガ史1・2」)は除く 学部専門3年次選択必修科目のうち3科目以上を修得していること(「アニメーション実践実習1-12」)

別表第3(第37条関係)技能審査等の合格に係る学修により認定できる単位
①2025年度以降入学者対象

対象科目	成績基準(スコア/級)	授業科目及び認定単位数
英語科目	TOEIC (L&R) 550点以上	「英語1」、「英語2」の4単位を認定する。
	TOEFL (iBT) 54点以上	
	TOEFL (ITP) 480点以上	
	IELTS 5.5点以上	
	英検 準1級以上	「英語1」の2単位を認定する。
	TOEIC (L&R) 500点以上	
	TOEIC (iBT) 42点以上	
科目 日本語	TOEFL (ITP) 440点以上	申請があった場合、教務委員会で審議の上、学長に提案し、学長が適切と認めた場合、相当数の科目並びに単位を認定する。
	IELTS 4.5点以上	
	その他の資格試験	
	日本語能力試験 JLPT N1以上 JPT 660点以上	

(略)

別表第4の1(第38条関係)
休校・休講の判断基準(気象警報)

基準時刻	条件	休校・休講の措置
午前7時	警報が解除されている	平常授業実施
	警報が解除されていない	午前中休講
午前9時	警報が解除されている	3講時より平常授業実施
	警報が解除されていない	終日休校

9時よりも後に警報発令となった場合は、その時点から休講とする。

別表第4の2(第38条関係)
休校・休講の判断基準(交通機関運行の状況)

基準時刻	条件	休校・休講の措置
午前7時	運行が再開されている	平常授業実施
	運行が再開されていない	午前中休講
午前9時	運行が再開されている	3講時より平常授業実施
	運行が再開されていない	終日休校

9時よりも後に警報発令となった場合は、その時点から休講とする。

京都精華大学 各種試験およびレポート等における不正行為に関する規程

【目的】

第1条 この規程は、京都精華大学履修規程第4条第8項の規定および京都精華大学大学院学則に基づき、本学の実施する各種試験およびレポート、課題作品・論文等における不正行為について、判定や成績評価に関する必要な事項を定めることを目的とする。

【定義】

第2条 この規程における用語の定義は、次のとおりとする。

- (1) 各種試験 授業科目において実施される試験、テスト
 - (2) レポート 授業科目において実施されるレポート試験
 - (3) 課題作品・論文 授業科目において指示された課題作品、卒業論文・卒業制作、修士論文・修士作品、博士論文・博士作品
- 2** この規程における「不正行為」とは、教務委員会において承認された「不正行為の取り扱いおよび防止に関するガイドライン」において定めた行為、および教務委員会において不正と判断した行為とする。

【事案の報告】

第3条 科目担当教員等は、不正と疑われる行為が発生した場合は、当該科目の開講学部長等を通して速やかに教務部長に報告するものとする。

【調査委員会】

第4条 教務部長は、前条の報告の後、速やかに教務委員会の下に調査委員会を設置して、事実の確認および当該学生に対する事情聴取を行い、不正行為の判定と成績評価を決定する。

2 調査委員会は、教務部長が委員長となり、当該学生が所属する学部等の教務委員を含む教務部長が指名した4名以上の教員で構成する。また、教学担当副学長は必要に応じて陪席することができる。

3 不正行為と判定した場合、成績評価は行為の重大性や悪質性により、当該科目の成績評価を0点とするか、当該学期の全履修科目の成績評価を0点とするか等を決定する。

【当該学生への通知】

第5条 教務部長は、不正行為の判定や成績評価が決定した場合は、速やかに当該学生に通知するものとする。

【不服申立て】

第6条 当該学生は、不服申立てする場合は7日以内に理由を記した文書を教務部長に提出することができる。

2 教務部長は、不服申立てがあった場合は、再度調査委員会を開催して審議しなければならない。なお、この再度の調査結果に対する不服申し立ては認めない。

【事務担当部署】

第7条 この規程に関する事務は、教学グループが担当する。

【改廃】

第8条 この規程の改廃は、常務理事会の議を経て、学長が行う。

附 則

- 1 この規程は、2020年10月19日に制定し、同日から施行する。
- 2 2021年2月15日改定・施行
- 3 2023年12月11日に改定し、2024年4月1日から施行する。
- 4 2025年1月15日に改定し、2025年4月1日から施行する。

京都精華大学大学院 博士前期課程および修士課程 学位審査規則

[目的]

第1条 本規則は「京都精華大学大学院学則」および「京都精華大学学位規程」に基づき、京都精華大学(以下、「本学」という。)大学院博士前期課程および修士課程に在籍する学生の修了および修士論文、または修士作品の審査について必要な事項を定めるものである。

[学位取得の要件]

- 第2条** 修士の学位を得ようとする者は、課程に2年以上在学し、かつ修了の要件となる単位を修得しなければならない。
- 2** 修士の学位を得ようとする者は、修了予定学年の指定された期日までに、修士論文あるいは修士作品の審査を受けなければならない。
- 3** 第2項の修士論文あるいは修士作品の審査を受けようとする者は、審査に先立ち、学会、報告会、展覧会等により自らの研究成果を学内外に発表しなければならない。

[学位申請書の提出]

第3条 修士論文あるいは修士作品の審査を受けようとする者は、各研究科が別に定める「修士論文・修士作品提出要領」に基づき、指定された期日までに専任指導教員が署名・捺印の上、研究科長宛に「学位申請書」を提出しなければならない。

[修士論文・修士作品の提出]

第4条 修士論文あるいは修士作品は、各研究科が別に定める「修士論文・修士作品提出要領」に基づき、修士論文要旨、修士作品要旨を添付の上、指定された期日までに研究科長あてに提出しなければならない。

[学位審査委員会]

第5条 研究科長は、研究科委員会の議を経て、学位審査委員会を設置する。

[学位審査委員会の構成]

- 第6条** 学位審査委員会は、当該学生が在籍する研究科の研究科委員会において、資格を認定された3名以上の教員により構成し、うち1名以上は専任教員とする。
- 2** 前項の構成員に加え、研究科委員会が必要と認めた場合、他学部教員、他大学教員、他研究機関研究員、作家等、当該研究科に所属しない者を原則1名まで審査委員とすることができる。

[学位審査基準]

第7条 学位審査は以下の基準により厳正に行うものとする。

(1) 修士論文の学位審査基準

- ① 当該論文が学術的、社会的意義において価値を持ち、関連分野での貢献が期待できる内容であること
- ② 当該論文がテーマ、問題設定、研究内容について独創的であり、明確な結論を導き出していること
- ③ 当該論文がテーマに応じた研究・分析・手法や資料により論述が展開されていること

(2) 修士作品の学位審査基準

- ① 当該作品が独創的または普遍的な表現領域の可能性を探求し、社会に対して自らの深い思考が具体化されていること
- ② 当該作品が表現方法・内容において社会に対して明確なコンセプトを持ち、それに沿ったテーマと素材、技法を選択し、制作されていること
- ③ 当該作品が多角的視点と想像力に基づき、柔軟で応用力のある制作技術や高度な作法を用い、十分な完成度が認められること

[学位審査方法]

第8条 学位審査委員会は、修士論文あるいは修士作品を提出した者に対して、口述試問または筆記試験により審査を行う。

[審査結果の報告と修了の審議]

第9条 学位審査委員会は審査の可否結果を研究科長あてに報告する。研究科長は第2条の学位取得の要件を満たし、かつ第8条の審査に合格した者を研究科委員会に諮り、課程修了の審議を行う。

[学位の授与]

- 第10条** 研究科長は、第9条の研究科委員会において課程修了の審議を受けた者について学長に報告し、学長がこれを認定する。
- 2** 学長は前項の認定者に対して学位を授与する。

[修士論文・修士作品の保管]

第11条 第10条で課程修了の認定を受けた者の修士論文は正本として、また修士作品はデジタルデータもしくは図録等写真として本学情報館に永久保存する。

[事務担当部署]

第12条 この規則に関する事務は、教学グループが担当する。

[改廃]

第13条 この規則の改廃は、常務理事会が行う。

附則

(略)

- 4** 2024年7月8日に改定・施行する。

京都精華大学大学院(芸術研究科) 博士後期課程 学位審査規則

京都精華大学大学院芸術研究科

【目的】

第1条 この規則は、「京都精華大学学位規程」(以下「学位規程」という。)第3条第3項に基づく博士の学位(以下「課程博士」という。)の審査について定めるものである。

【学位審査予備審査】

第2条 京都精華大学大学院芸術研究科博士後期課程(以下「後期課程」という。)に在学し、博士論文および博士作品(以下「博士論文等」という)を提出しようとするものは、事前に学位審査予備審査に合格しなければならない。

2 予備審査を受けようとする者は博士後期課程委員会が指定する期日までに第3項に定める書類を提出しなければならない。

3 予備審査に際し提出する書類およびその書式は、以下に定めるものとする。

- (1) 学位審査予備審査申請書(様式第1号) 1部
- (2) 研究業績一覧(様式任意) 1部

(3) 学位申請予備審査論文(以下「予備審査論文」という。) 5部

① 予備審査論文の使用言語は、日本語とする。ただし、指導教員ならびに博士後期課程委員会が認めた場合に限り、英語での予備審査論文の提出を可とする。

② 予備審査論文は、「はじめに(序論)」、「本論」、「おわりに(結論)」などの章節およびそれらの題目、すなわち博士論文の構成を明確にする目次を記すこと。

③ 予備審査論文は、使用言語を日本語とする場合は、400字詰め原稿用紙25枚以上(引用・資料を除く。)、またはPCを使用し、A4用紙横書き(余白:上30mm・下30mm・左35mm・右30mm)で、10,000字以上(10.5ポイント、1行40字、40行、引用・資料を除く。)とすること。

使用言語を英語とする場合は、原則PCを使用し、A4用紙横書き(余白:上30mm・下30mm・左35mm・右30mm)でダブルスペースにより5,500words以上(1ページ:25行、フォント:タイムズニューローマン、11ポイント、引用・資料を除く。)とすること。

④ 予備審査論文の使用言語を英語とする場合は、予備審査論文とともに日本語の論文要旨を提出すること。日本語の論文要旨は、原則PCを使用し、A4用紙横書き(余白:上30mm・下30mm・左35mm・右30mm)に全文3,000字以上(10.5ポイント、1行40字、40行、引用・資料を除く。)とし、各章(各節)ごとに記すこと。

⑤ 予備審査論文には、それぞれの部分(章・節などについて)の概略を簡潔に記すこと。

⑥ 予備審査論文は、中央下にページ番号を記すこと。

(4) 予備審査作品の要旨(様式任意) 5部

① 予備審査作品の概要がわかるものを日本語800字程度または英語440words程度にて作成、提出すること。

② 写真の掲載数は任意とする。

【学位審査予備審査会】

第3条 学位審査予備審査会の構成は、以下に掲げる者とする。

(1) 博士後期課程委員会委員長

(2) 当該年度におけるすべての指導教員

(3) 上記の他に、博士後期課程委員会委員長が必要と認めるときは、研究科長と協議のうえ、研究科に所属する教員若干名を構成員とすることができる。

2 学位審査予備審査会委員長は博士後期課程委員会委員長とする。

【審査基準】

第4条 学位審査予備審査(以下「予備審査」という。)における審査は、以下の基準に基づいて厳正に行うものとする。

(1) 本学博士後期課程の修了要件単位の取得(またはその見込み)の確認

(2) 当該予備審査論文および予備審査作品が、本学が授与する博士の学位を授与するにふさわしいものとして完成する見込みの有無

(3) 当該予備審査論文および予備審査作品の属する研究領域において、独創性ある展開の可能性の有無

(4) 当該予備審査論文および予備審査作品の属する研究領域の発展に貢献する可能性の有無

(5) 当該予備審査論文および予備審査作品に、他の研究領域を含む学際性ある展開の可能性の有無

【合否の判定】

第5条 予備審査における合否の判定は、学位審査予備審査会構成員の3分の2以上が出席(4週間以上の出張者・欠勤者、休職者および学外研究員を定足数から除外する。)し、かつ、出席者の過半数が賛成しなければならない。

【審査結果の通知】

第6条 学位審査予備審査における審査結果については、博士後期課程委員会委員長が当該学生に文書によって通知するものとする。

【博士論文等の審査】

第7条 博士論文等の審査については、「学位規程」第7条の規定に基づく。

【学位審査会】

第8条 学位審査会は学位請求発表会と口頭試問により行うものとする。

2 課程博士の学位を申請することのできる者は、以下に掲げる者とする。

(1) 後期課程に在学し所定の単位を取得および取得見込みの者で、予備審査において博士論文等の提出を認められた者

3 前項第1号および第2号に規定する者が課程博士の学位を申請しようとするときは、以下の書類を研究科長に提出しなければならない。

(1) 学位申請書(様式第2号) 1部

(2) 研究業績一覧(様式任意) 1部

(3) 博士論文表紙(様式第3号)をつけ、レポートファイルに綴じこんだ状態のもの5部

① 博士論文の使用言語は、日本語とする。ただし、指導教員ならびに博士後期課程委員会が認めた場合に限り、英語での博士論文の提出を可とする。

② 博士論文は、「はじめに(序論)」、「本論」、「おわりに(結論)」などの章節およびそれらの題目、すなわち博士論文の構成を明確にする目次を記すこと。

③ 博士論文の使用言語を日本語とする場合は、400字詰め原稿用紙50枚以上(引用・資料を除く。)、またはPCを使用し、A4用紙横書き(余白:上30mm・下30mm・左35mm・右30mm)で、20,000字以上(10.5ポイント、1行40字、40行、引用・資料を除く。)とすること。

使用言語を英語とする場合は、原則PCを使用し、A4用紙横書き(余白:上30mm・下30mm・左35mm・右30mm)でダブルスペースにより11,000words以上(1ページ:25行、フォント:タイムズニューローマン、11ポイント、引用・資料を除く。)とすること。

④ 博士論文は、レポートファイルに、内扉、目次、本文、引用・資料の順に綴り込むこと。

⑤ 博士論文は、中央下にページ番号を記すこと。

(4) 論文の要旨(様式任意) 5部

要旨は、博士論文の使用言語によって、それぞれ次の要領にて作成、提出すること。

【博士論文の使用言語を日本語とする場合】

・要旨はPCを使用し、日本語でA4用紙横書き(余白:上30mm・下30mm・左35mm・右30mm)に全体の概略を1枚、各章ごとに1枚ずつ(ともに1,000字以上、10.5ポイント、1行40字、40行、引用・資料を除く。)にて作成すること。

・上記、全体の概略を記した要旨(1枚)については、英文(A4用紙横書き550words以上、余白:上30mm・下30mm・左35mm・右30mm、フォント:タイムズニューローマン、11ポイント、ダブルスペースにより要約したもの)をあわせて作成、添付すること。

・中央にページ番号を記し、レポートファイルに綴り込むこと。

【博士論文の使用言語を英語とする場合】

・要旨はPCを使用し、日本語と英語、それぞれにて作成・提出すること。

日本語においてはA4用紙横書き(余白:上30mm・下30mm・左35mm・右30mm)に全体の概略を1枚、各章ごとに1枚ずつ(ともに1,000字以上、10.5ポイント、1行40字、40行、引用・資料を除く。)にて作成すること。

英語においてはA4用紙横書き(余白:上30mm・下30mm・左35mm・右30mm)に全体の概略を1枚、各章ごとに1枚ずつ(ともに550words以上、フォント:タイムズニューローマン、11ポイント、ダブルスペースにより要約したもの)を作成すること。

・中央にページ番号を記し、レポートファイルに綴り込むこと。

(5) 研究業績として出版した論文があるときは当該論文の写し 5部

① 参考論文の写しは、ファイルに綴り込み、参考論文の写しごとに見出しをつけること。

② ファイルの表には、参考論文の写しであることを明記するとともに、学籍番号、氏名を記すこと。

(6) 博士論文および要旨のデータ

(7) 博士作品の要旨(様式任意) 5部

① 作品の概要がわかるものを日本語800字程度または英語440words程度にて作成、提出すること。

② 写真の掲載数は任意とする。

(8) その他、後期課程委員会が必要とする書類

4 (削除)

5 最終学位審査は、学位論文発表会終了後に、博士論文等の属する研究領域およびその関連する分野に関する知見について、口頭試問によって行うものとする。

6 前項の試験を経て学位審査に合格した者は、指定された期日までに、長期保存に耐えるハードカバー製本を施した学位論文を3部提出するものとする。

【学位審査委員会】

第9条 学位審査委員会の構成については、「京都精華大学学位規程」第8条の規定に基づく。

2 審査委員会に委員長を置き、委員長は、博士後期課程委員会の互選によるものとする。

[審査基準]

第10条 学位審査は、以下の基準に基づいて厳正に行うものとする。

- (1) 博士論文等が、当該申請者の研究業績をふまえた内容であること
- (2) 博士論文等の属する研究領域において、独創性が認められること
- (3) 博士論文等の属する研究領域の発展に資するものであると認められること
- (4) 博士論文等に、他の研究領域を含む学際性が認められること
- (5) 本学大学院が授与する博士の学位にふさわしいと認められるものであること

[審査結果の報告]

第11条 当該博士論文等の審査結果および試験結果については、「京都精華大学学位規程」第9条の規定に基づく。

[合否の審議]

第12条 研究科長は、前条の報告に基づき、後期課程委員会において合否を審議する。

2 前項に規定する合否の審議には、博士後期課程委員会構成員の3分の2以上が出席(4週間以上の出張者・欠勤者、休職者および学外研究員を定足数から除外する。)し、かつ、出席者の過半数が審議結果に賛成しなければならない。

[審議結果の認定]

第13条 審議結果の認定については、「京都精華大学学位規程」第11条の規定に基づく。

[雑則]

第14条 本規則に定めるものの他、必要な事項は別に定める。

[事務担当部署]

第15条 この規則に関する事務は、教学グループが担当する。

[改廃]

第16条 この規則の改廃は、常務理事会が行う。

附則

(略)

9 2025年11月10日に改定し、2026年4月1日から施行する。ただし、2025年度以前に入学した者については、次のとおりとする。

- (1) 条文中「博士論文および博士作品(以下「博士論文等」という。)」または「博士論文等」とあるのは「博士論文」と読み替える。
- (2) 条文中「予備審査論文および予備審査作品」とあるのは、「予備審査論文」と読み替える。
- (3) 第2条第3項第4号および第8条第3項第7号の規定は、適用しない。

※様式第1～4号は省略

京都精華大学大学院(マンガ研究科) 博士後期課程 学位審査規則

京都精華大学大学院マンガ研究科

[目的]

第1条 この規則は、「京都精華大学学位規程」(以下「学位規程」という。)第3条第3項に基づく博士の学位(以下「課程博士」という。)の審査について定めるものである。

[学位審査予備審査]

第2条 京都精華大学大学院マンガ研究科博士後期課程(以下「後期課程」という。)に在学し、学位請求論文を提出しようとするものは、事前に学位審査予備審査に合格しなければならない。

2 博士後期課程委員会が指定する期日までに第3項に定める書類を提出しなければならない。

3 予備審査に際し提出する書類およびその書式は、以下に定めるものとする。

(1) 学位審査予備審査申請書(様式第1号) 1部

(2) 研究業績一覧(様式任意) 1部

(3) 学位申請予備審査論文(以下「予備審査論文」という。) 5部

① 学位申請予備審査論文の使用言語は、日本語とする。ただし、指導教員、ならびに博士後期課程委員会が認めた場合に限り、英語での学位申請予備審査論文の提出を可とする。

② 予備審査論文には、学位請求論文の構成を明確にする目次を付すこと。

③ 予備審査論文は、原則としてA4用紙横書き(余白:上30mm・下30mm・左35mm・右30mm)で16,000字以上(11ポイント、1行40字、40行、引用・資料を除く。)とすること。

使用言語を英語とする場合は、原則PCを使用し、A4用紙横書き(余白:上30mm・下30mm・左35mm・右30mm)にダブルスペースにより、9,000words以上(1ページ:25行、フォント:タイムズニューローマン、11ポイント、引用・資料を除く。)とすること。

④ 予備審査論文には、800字程度の論文要旨を付すこと。

⑤ 予備審査論文の使用言語を英語とする場合は、日本語の論文要旨を提出すること。日本語の論文要旨は、原則PCを使用し、A4用紙横書き(余白:上30mm・下30mm・左35mm・右30mm)に全文3,000字以上(11ポイント、1行40字、40行、引用・資料を除く。)とし、各章(各節)ごとに記すこと。

⑥ 予備審査論文は、中央下にページ番号を記すこと。

[学位審査予備審査会]

第3条 学位審査予備審査会の構成は、以下に掲げる者とする。

(1) 博士後期課程委員会委員長

(2) 当該年度におけるすべての指導教員

(3) 上記の他に、博士後期課程委員会委員長が必要と認めるときは、研究科長と協議のうえ、研究科に所属する教員若干名を構成員とすることができる。

2 学位審査予備審査会委員長は博士後期課程委員会委員長とする。

[審査基準]

第4条 学位審査予備審査(以下「予備審査」という。)は、以下の基準にて厳正に行うものとする。

(1) 本学博士後期課程の修了要件単位の取得(またはその見込み)の確認

(2) 当該予備審査論文が、本学が授与する博士の学位を授与するにふさわしいものとして完成する見込みの有無

(3) 当該予備審査論文の属する研究領域において、独創性ある展開の可能性の有無

(4) 当該予備審査論文の属する研究領域の発展に貢献する可能性の有無

(5) 当該予備審査論文に、他の研究領域を含む学際性ある展開の可能性の有無

[合否の判定]

第5条 予備審査における合否の判定は、学位審査予備審査会構成員の3分の2以上が出席(4週間以上の出張者・欠勤者、休職者および学外研究員を定足数から除外する。)、かつ、出席者の過半数が賛成しなければならない。

[審査結果の通知]

第6条 学位審査予備審査の審査結果については、博士後期課程委員会委員長が当該学生に文書によって通知するものとする。

[博士論文の審査]

第7条 博士論文の審査については、「学位規程」第7条の規定に基づく。

[学位審査会]

第8条 学位審査会は学位請求者による学位論文発表会と口頭試問により行うものとする。

2 課程博士の学位を申請することのできる者は、以下に掲げる者とする。

(1) 後期課程に在学し所定の単位を取得および取得見込みの者で、予備審査において学位請求論文の提出を認められた者

3 前項第1号および第2号に規定する者が課程博士の学位を申請しようとするときは、以下の書類を研究科長に提出しなければならない。

(1) 学位申請書(様式第2号) 1部

(2) 研究業績一覧(様式任意) 1部

(3) 学位請求論文表紙(様式第3号)をつけたもの 5部

① 学位請求論文の使用言語は、日本語とする。ただし、指導教員、ならびに博士後期課程委員会が認めた場合に限り、英語での学位請求論文の提出を可とする。

② 学位請求論文は、使用言語を日本語とする場合は、原則としてA4用紙横書き(余白:上30mm・下30mm・左35mm・右30mm)で40,000字以上11ポイント、1行40字、40行、引用・資料を除く)とすること。

使用言語を英語とする場合は、原則PCを使用し、A4用紙横書き(余白:上30mm・下30mm・左35mm・右30mm)にダブルスペースにより22,000words以上(1ページ:25行、フォント:タイムズニューローマン、11ポイント、引用・資料を除く。)とすること。

③ 学位請求論文は、レポートファイルに、内扉、目次、本文、引用・資料の順に綴り込むこと。

④ 学位請求論文は、中央にページ番号を記すこと。

(4) 論文の要旨(様式任意) 5部

要旨は、学位請求論文の使用言語によって、それぞれ次の要領にて作成、提出すること。

[学位請求論文の使用言語を日本語とする場合]

・要旨はPCを使用し、日本語でA4用紙横書き(余白:上30mm・下30mm・左35mm・右30mm)に全体の概略を1枚、各章ごとに1枚ずつ(ともに1,000字以上、11ポイント、1行40字、40行、引用・資料を除く。)にて作成すること。また中央にページ番号を記し、レポートファイルに綴り込むこと。

・上記、全体の概略を記した要旨(1枚)については、英文(A4用紙横書きに550words以上、余白:上30mm・下30mm・左35mm・右30mm、フォント:タイムズニューローマン、11ポイント、ダブルスペースにより要約したもの)をあわせて作成、添付すること。

・中央にページ番号を記し、レポートファイルに綴り込むこと。

[学位請求論文の使用言語を英語とする場合]

・要旨はPCを使用し、日本語と英語、それぞれにて作成・提出すること。

日本語においてはA4用紙横書き(余白:上30mm・下30mm・左35mm・右30mm)に全体の概略を1枚、各章ごとに1枚ずつ(ともに1,000字以上、11ポイント、1行40字、40行、引用・資料を除く。)にて作成すること。

英語においてはA4用紙横書き(余白:上30mm・下30mm・左35mm・右30mm)に全体の概略を1枚、各章ごとに1枚ずつ(ともに550words以上、フォント:タイムズニューローマン、11ポイント、ダブルスペースにより要約したもの)を作成すること。

・中央にページ番号を記し、レポートファイルに綴り込むこと。

(5) 研究業績として出版した論文のある場合は当該論文の写し 5部

① 論文の写しは、ファイルに綴り込み、論文の写しごとに見出しをつけること。

② ファイルの表には、論文の写しであることを明記するとともに、学籍番号、氏名を記すこと。

(6) 学位請求論文および要旨のデータ

4 最終学位審査は、学位論文発表会終了後に、学位請求論文の属する研究領域およびその関連する分野に関する知見について、口頭試問によって行うものとする

5 学位審査に合格した者は、指定された期日までに、長期保存に耐えるハードカバー製本を施した学位論文を3部提出するものとする。

[学位審査委員会]

第9条 位審査委員会の構成については、「学位規程」第8条の規定に基づく。

2 審査委員会に委員長を置き、委員長は、博士後期課程委員会の互選によるものとする。

[審査基準]

第10条 学位審査は、以下の基準に基づいて厳正に行うものとする。

(1) 当該博士論文が、当該申請者の研究業績をふまえた内容であること

(2) 当該博士論文の属する研究領域において、独創性が認められること

(3) 当該博士論文の属する研究領域の発展に資するものであると認められること

(4) 当該博士論文に、他の研究領域を含む学際性が認められること

(5) 本学大学院が授与する博士の学位にふさわしいと認められるものであること

[審査結果の報告]

第11条 博士論文審査結果については、「学位規程」第9条の規定に基づく。

[合否の審議]

第12条 研究科長は、前条の報告に基づき、後期課程委員会において合否を審議する。

2 前項に規定する可否の審議には、博士後期課程委員会構成員の3分の2以上が出席(4週間以上の出張者・欠勤者、休職者および学外研究員を定足数から除外する。)し、かつ、出席者の過半数が審議結果に賛成しなければならない。

[審議結果の認定]

第13条 審議結果の認定については、「学位規程」第11条の規定に基づく。

[雑則]

第14条 本規則に定めるものの他、必要な事項は別に定める。

[事務担当部署]

第15条 この規則に関する事務は、教学グループが担当する。

[改廃]

第16条 この規則の改廃は、常務理事会が行う。

附則

(略)

7 2024年11月11日改定・施行

※様式第1号～4号 省略

10

施設

Campus Map

※2026年2月時点の情報です。変更される場合があります。

キャンパスマップ

AED AED(自動体外式除細動器)設置場所

♿ ベビーシート設置場所

♿ ベビーチェア設置場所

🚬 特定屋外喫煙場所

F 風光館 ふこうかん

陶芸専攻
イラストコース
プロダクトコミュニケーションコース
ライフクリエイションコース
建築コース 全学共通写真スタジオ

7 7号館 ななごうかん

洋画専攻 立体造形専攻
プロダクトコミュニケーションコース

5 5号館 ごごうかん

工事中(2026.5~)

K 光彩館 こうさいかん

テキスタイル専攻

R 流溪館 りゅうけいかん

教員研究室
国際文化学部
人文学部
講義室
大学院研究室

U 悠々館 ゆうゆうかん

学生食堂
コンビニ
購買部 画箋堂
ラウンジ

J 情報館 じょうほうかん

ライブラリー
メディアセンター

P グラウンド校舎 グラウンドこうしゃ

G 体育館 たいいくかん

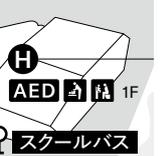
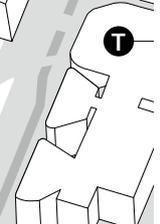
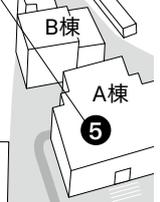
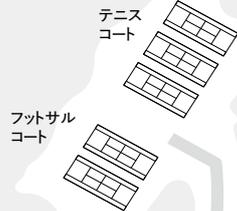
体育館
トレーニングルーム

Y 友愛館 ゆうあいかん

Agora
音楽コース
ファッションコース
メディア表現学部

E 遠友館 えんゆうかん

クラブボックス
大学祭実行委員室



グラウンド

至・鞍馬

バイク駐輪場

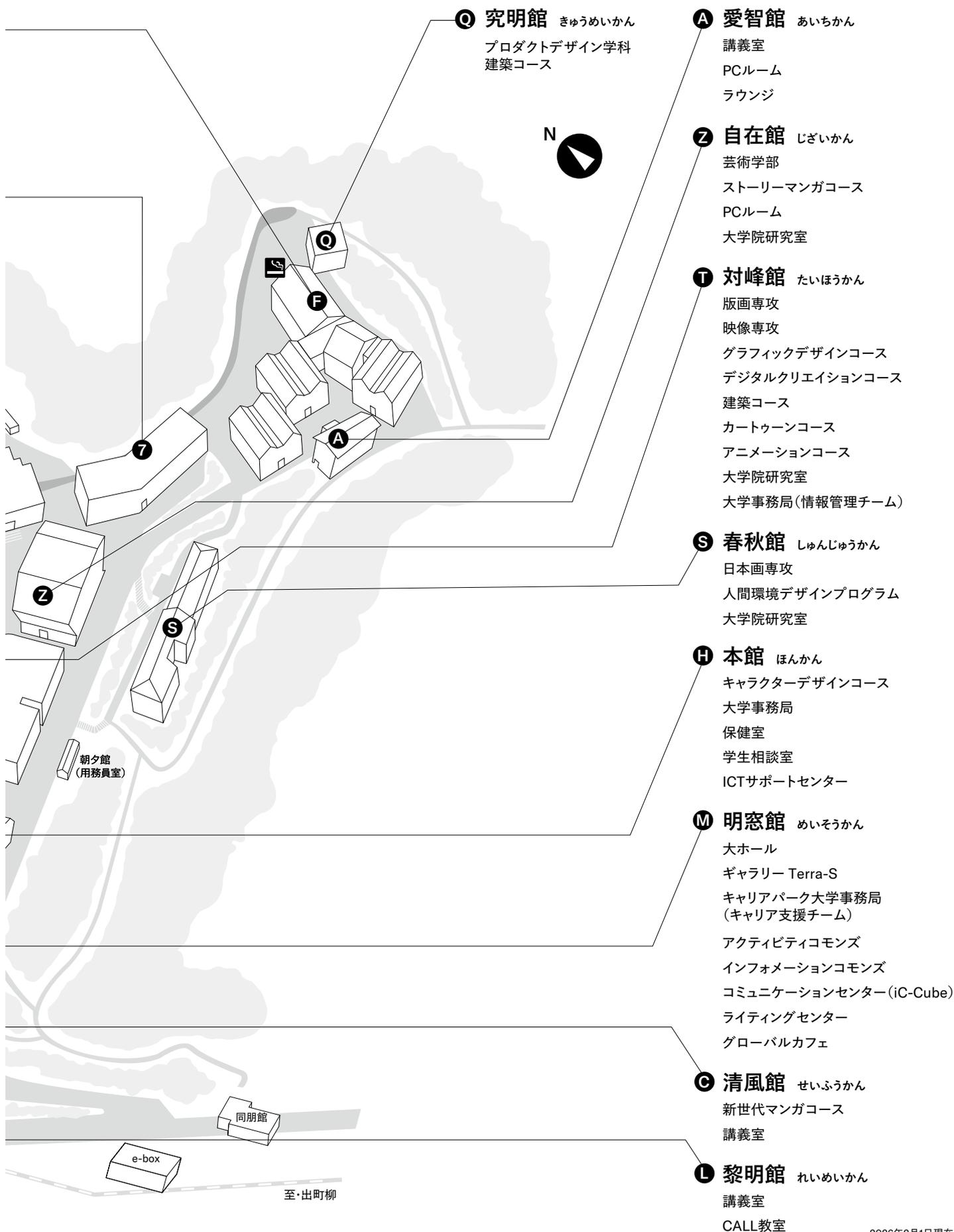
自転車駐輪場

出町柳方面

鞍馬方面

叡山電鉄
「京都精華大前」駅

天ヶ池



教室の使用申請方法

(1) 講義室の使用

授業以外で講義室を使用する場合は、学生支援チームにある「教室使用台帳」で空き状況を確認し、「施設使用願」を提出してください。

- 使用可能校舎
黎明館・春秋館
- 使用可能時間
月～土 9:00～22:00(授業使用時を除く)
日・祝日 9:00～17:00

(2) 実習室の使用

芸術学部・デザイン学部・マンガ学部の実習室は、授業期間中の9:00から20:00(日曜除く)は、届出不要で利用することができます。その他の時間帯、特別な機材のある実習室については以下の表に従って、必要な「施設使用願」を提出するか、教員・スタッフに開錠を依頼してください。

手続きの流れ

- ① 学生支援チームで「施設使用願」をもらう
- ② 「施設使用願」に記入し、担当教職員の押印を受ける
- ③ 「施設使用願」を警備棟に提出する

利用時間・利用方法

通常の実習室

	期間		提出物
授業期間中	月～土	9:00～20:00	届出不要
		20:00～22:00	担当教員押印済みの 「施設使用願」
	日・祝日	9:00～17:00	
長期休暇期間中	全曜日	9:00～17:00	担当教員押印済みの 「施設使用願」

特別な機材のある実習室

教員・スタッフに開錠を依頼する。あるいは担当教員押印済みの「施設使用願」を提出してください。

※教室区分等の詳細については施設管理チームまでお問い合わせください。

※やむを得ない事情で上記の時間外に実習室を利用する場合は、「特別延長願」の提出と担当教員による付き添いが必要となります。

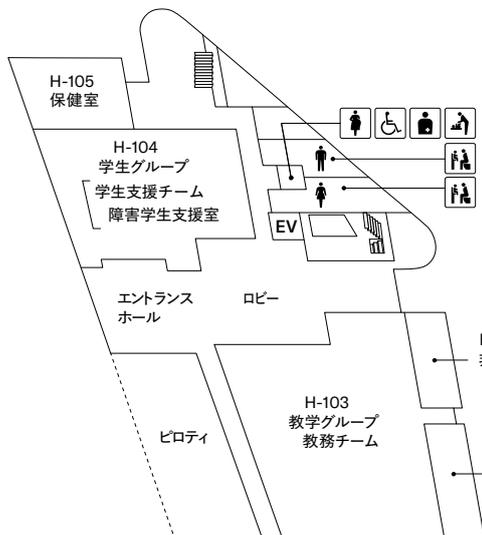
そのほか、全学共通写真スタジオ、春秋館ギャラリーなど、利用申請により使用可能な施設があります。

詳細については、大学Webサイトの「施設利用の手引き」を確認してください。

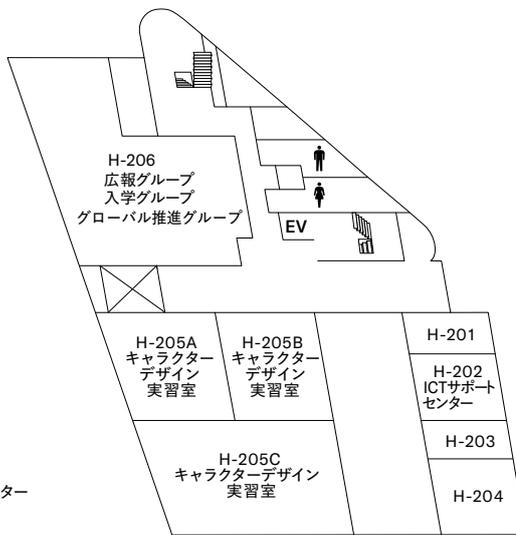
学内施設

H 本館

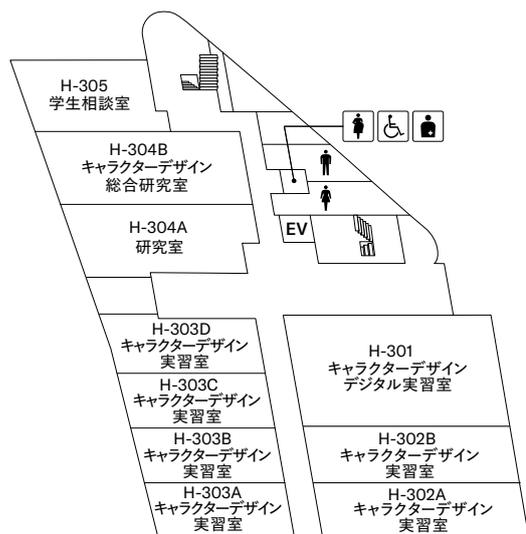
1F



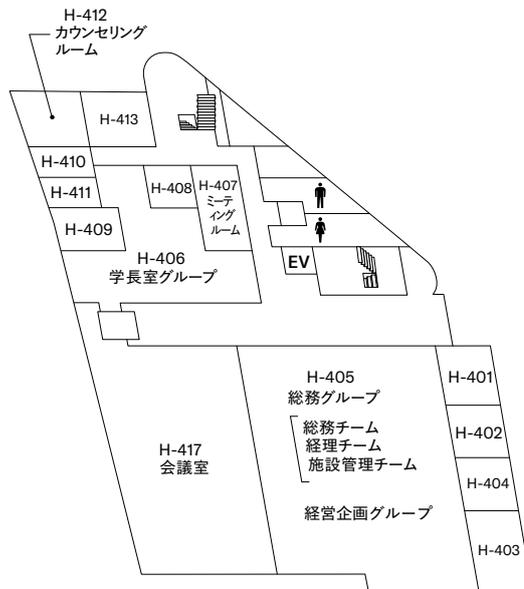
2F



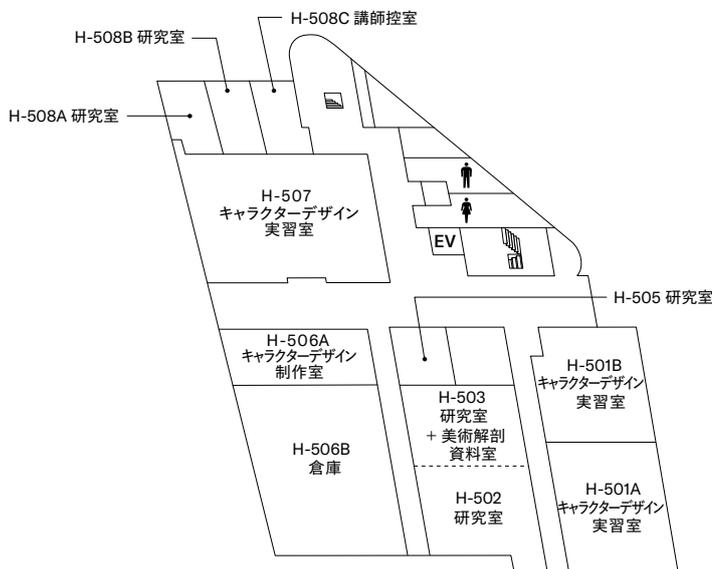
3F



4F



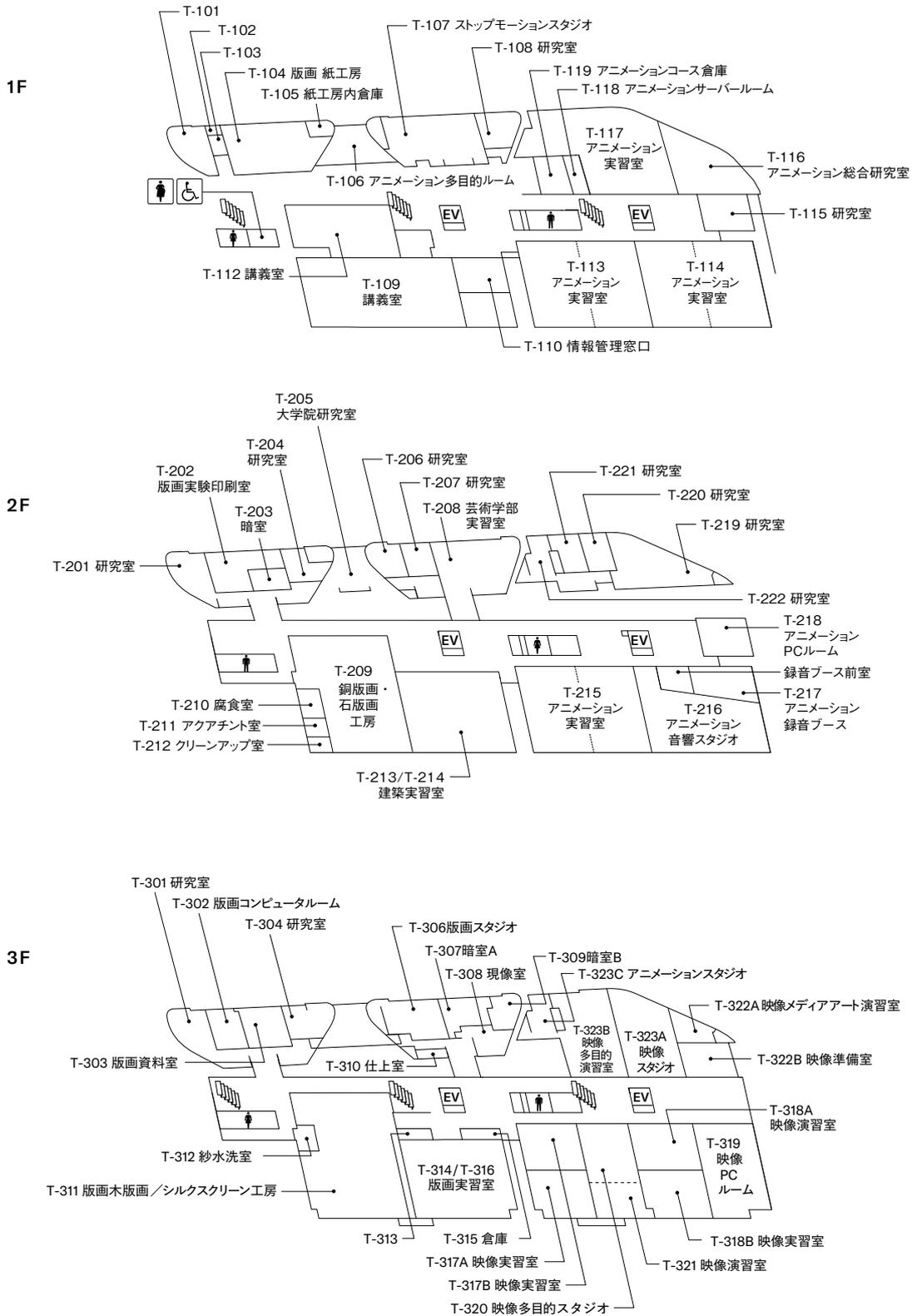
5F



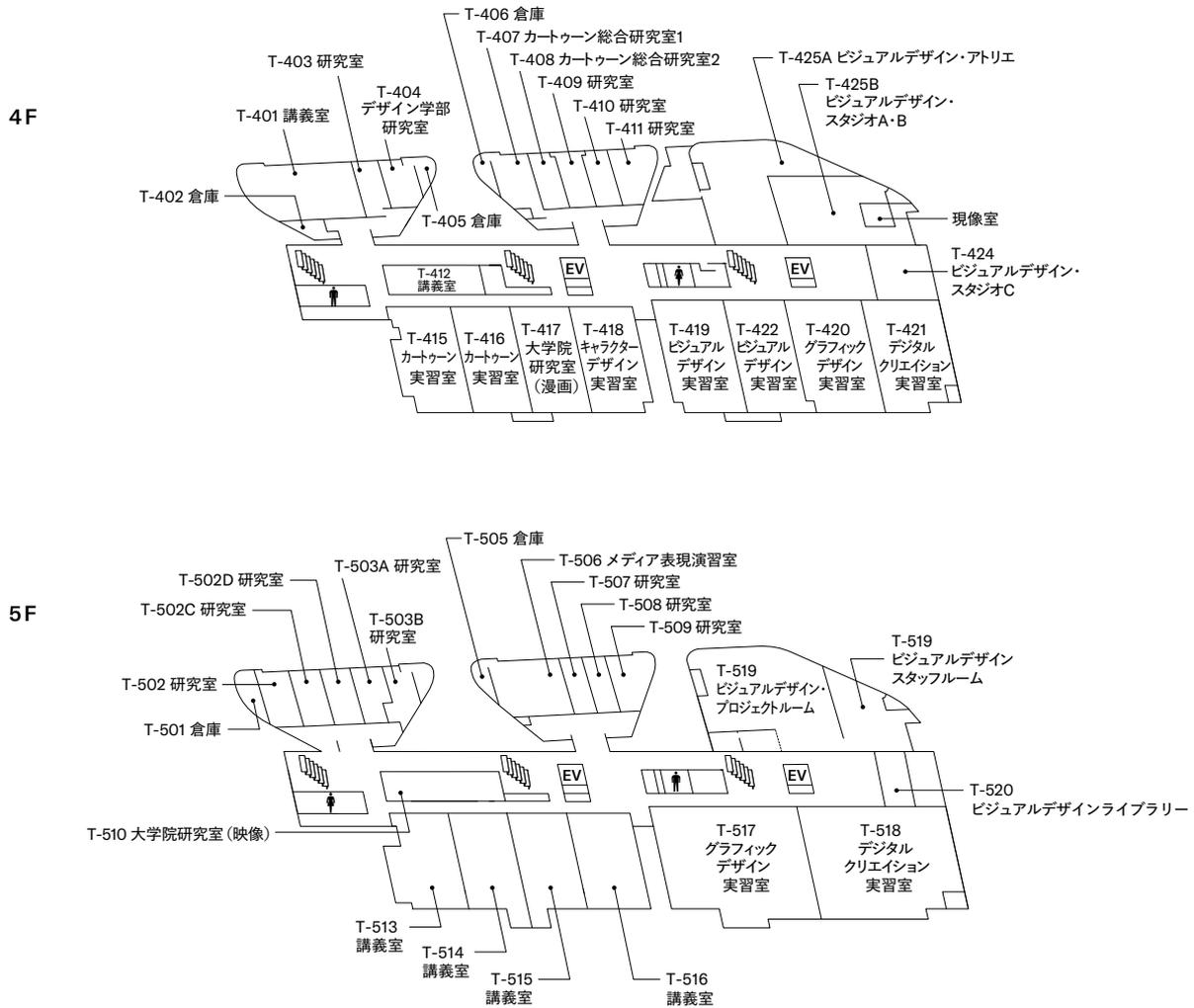
施設

教室の使用申請方法／学内施設（本館）

T 対峰館



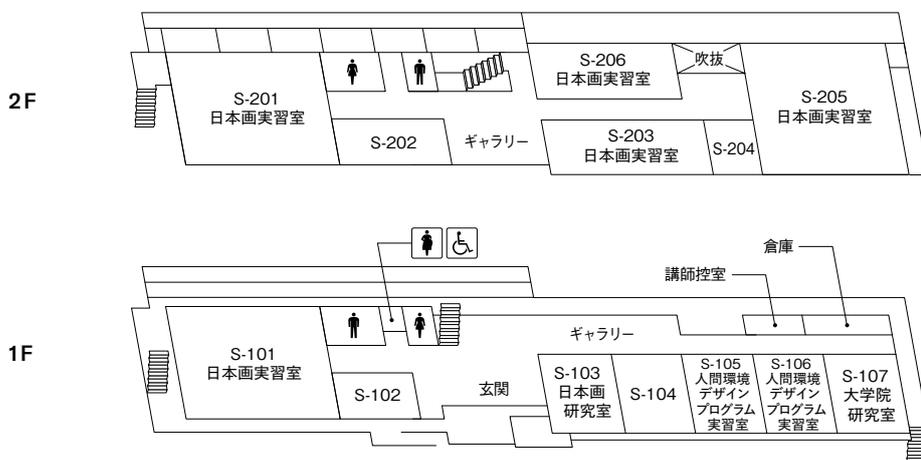
T 対峰館



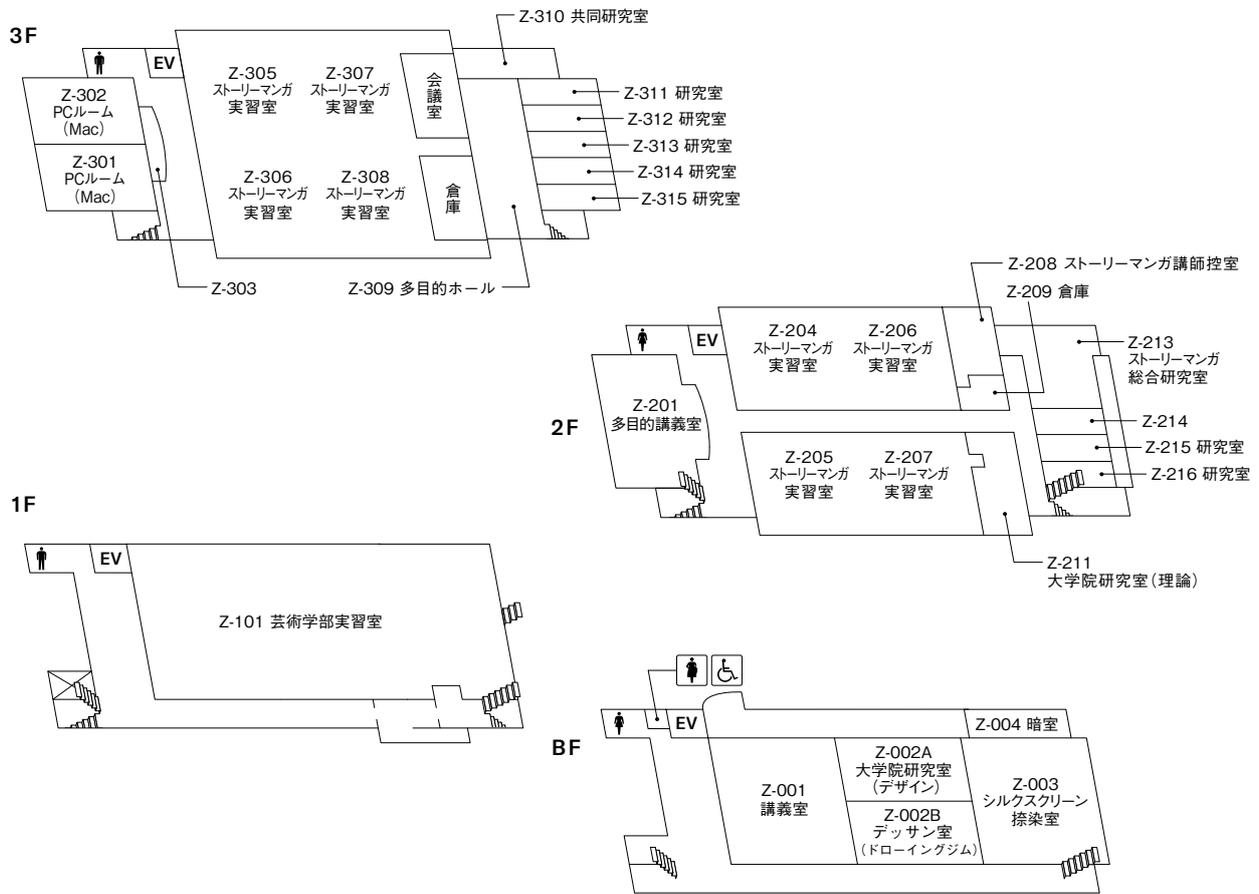
施設

学内施設 (対峰館 / 春秋館)

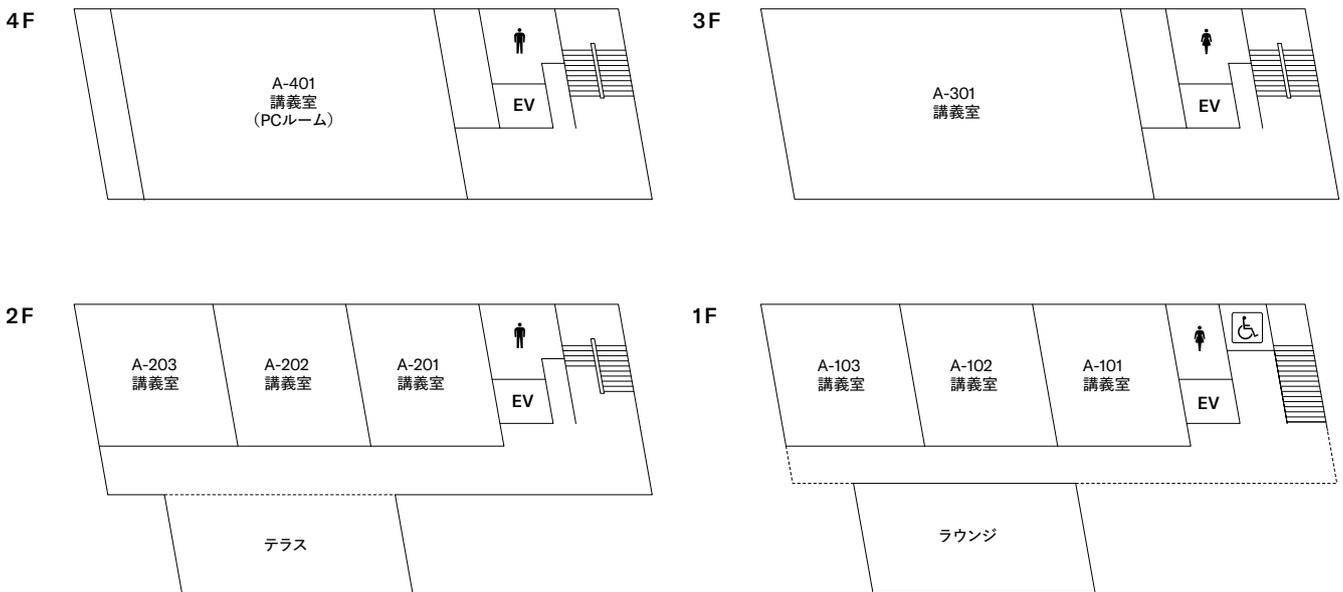
S 春秋館



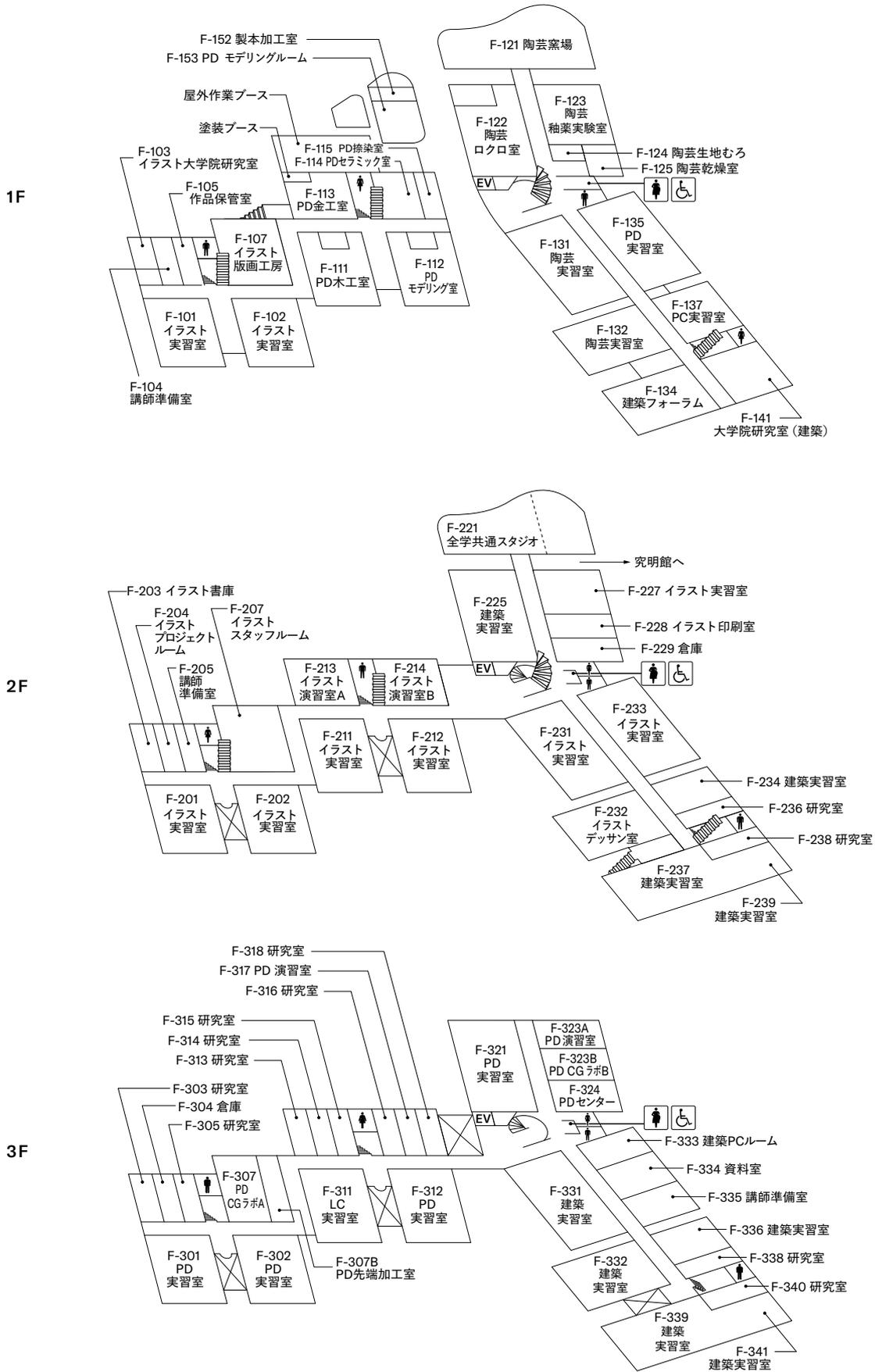
Z 自在館



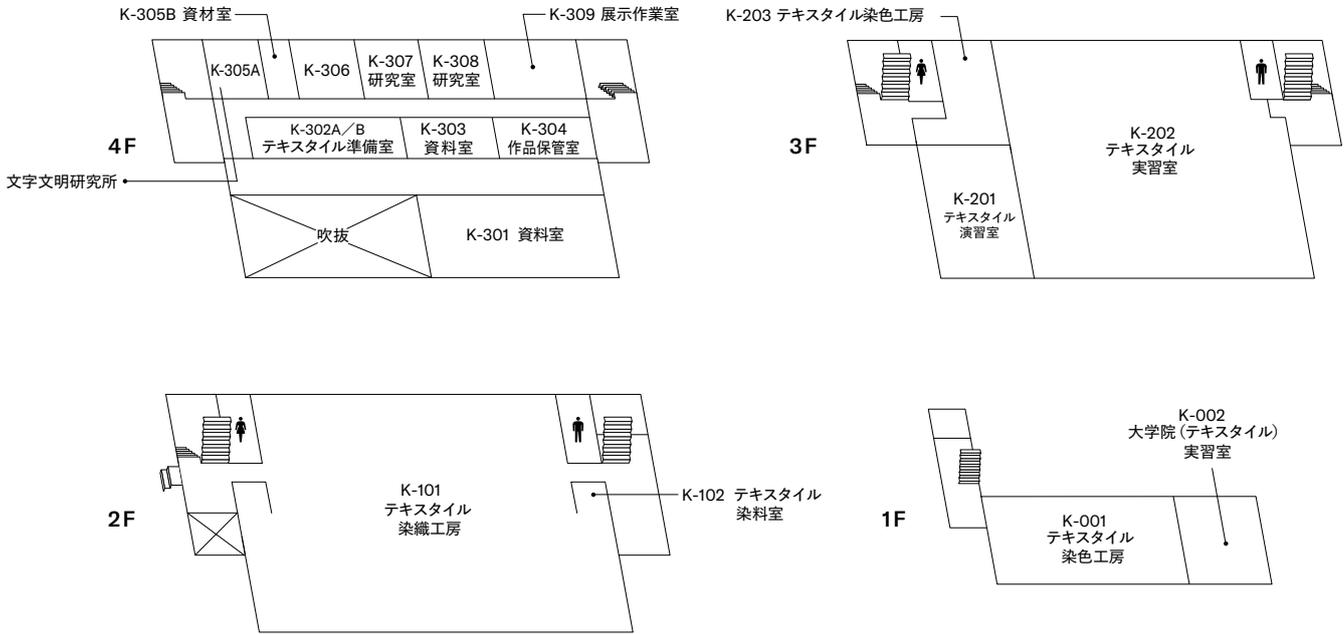
A 愛智館



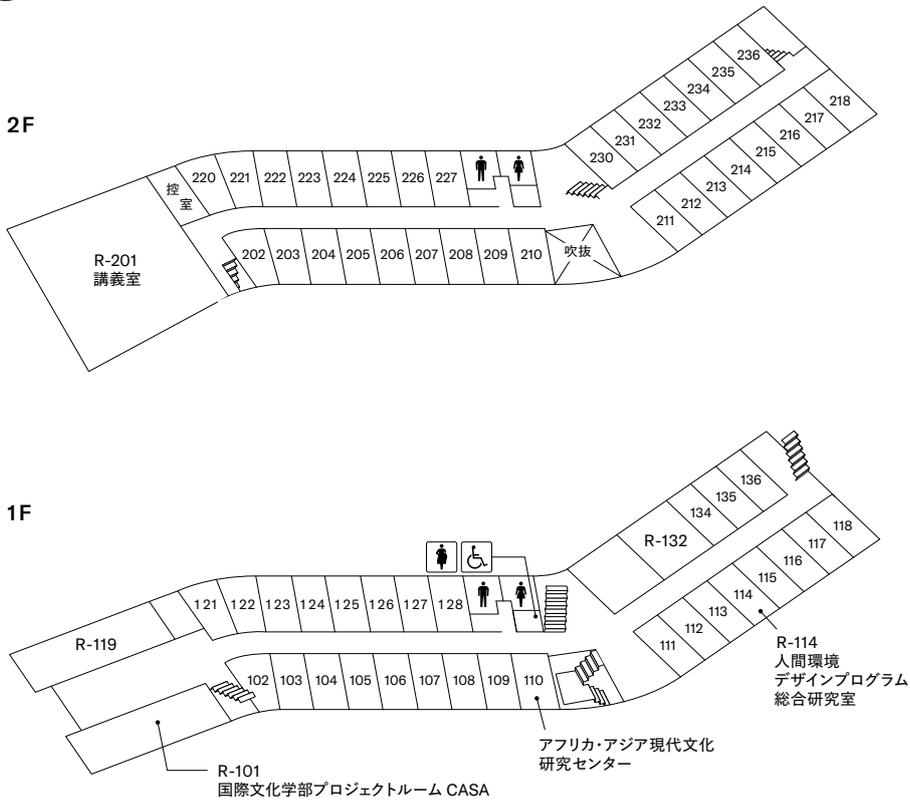
F 風光館



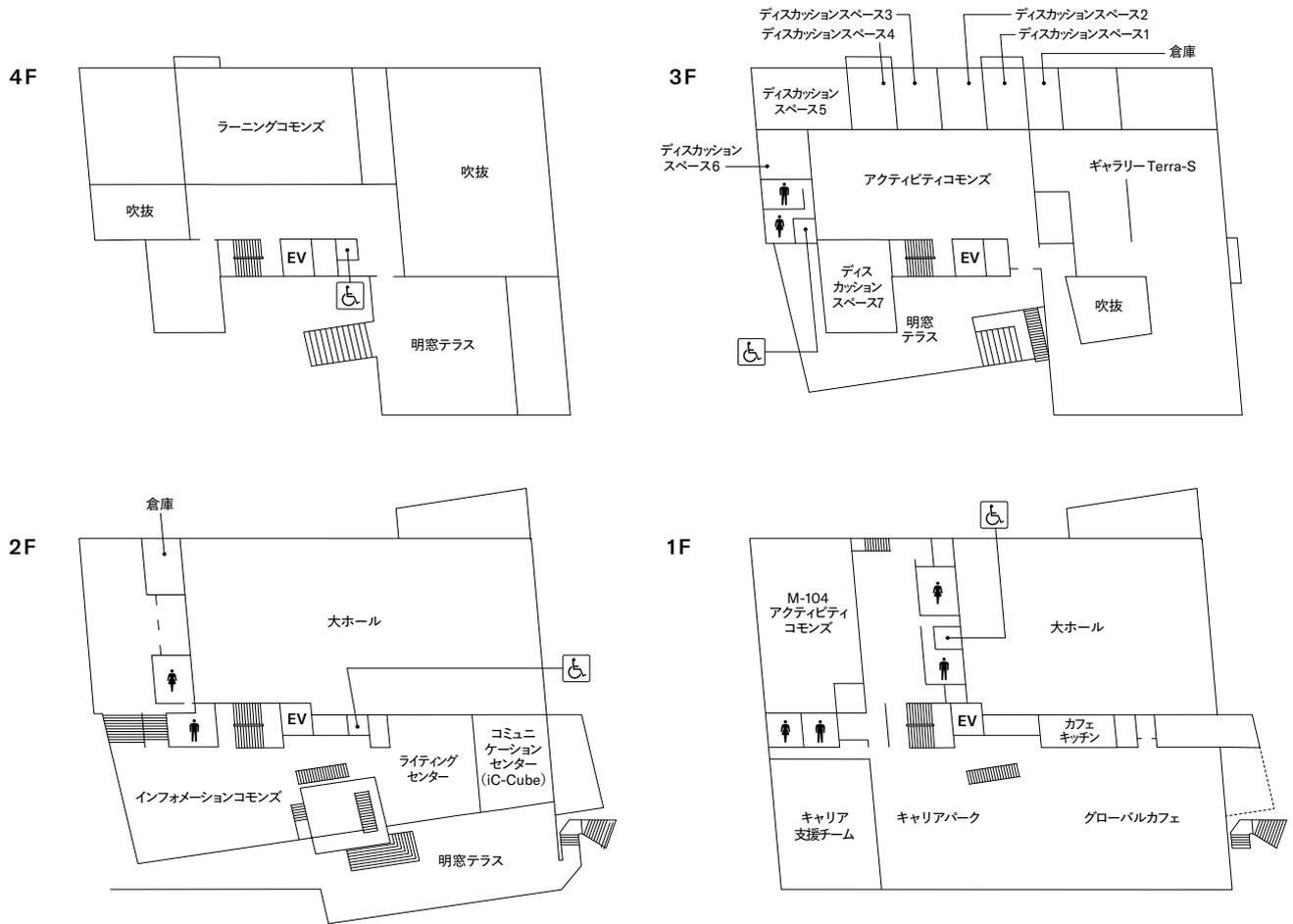
K 光彩館



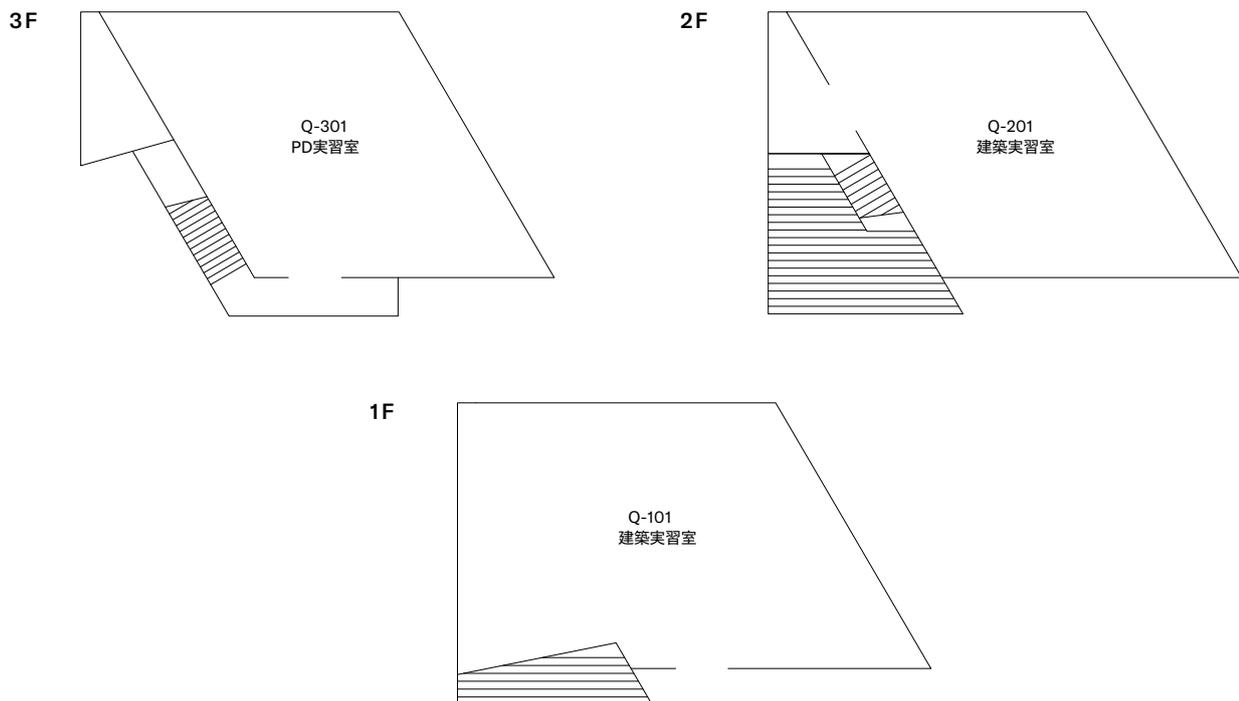
R 流溪館



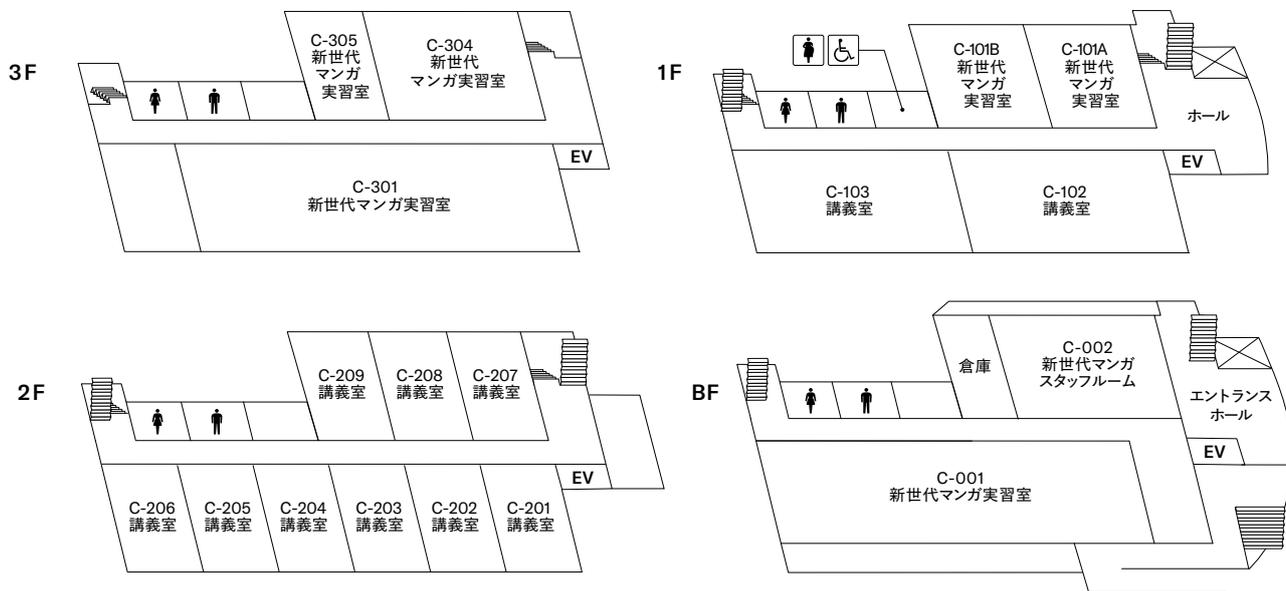
M 明窓館



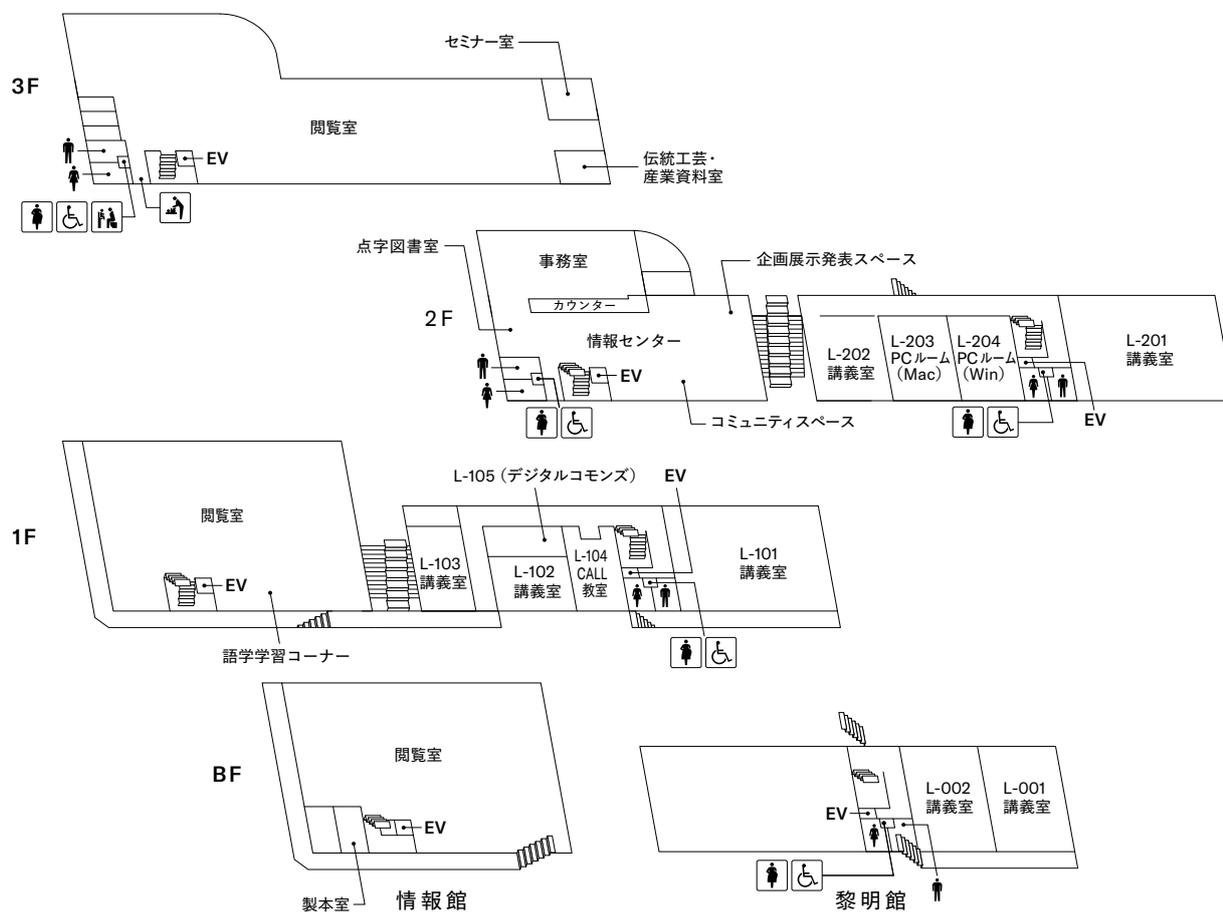
Q 究明館



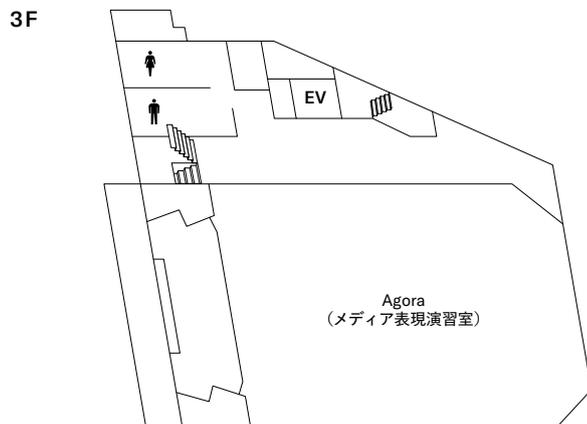
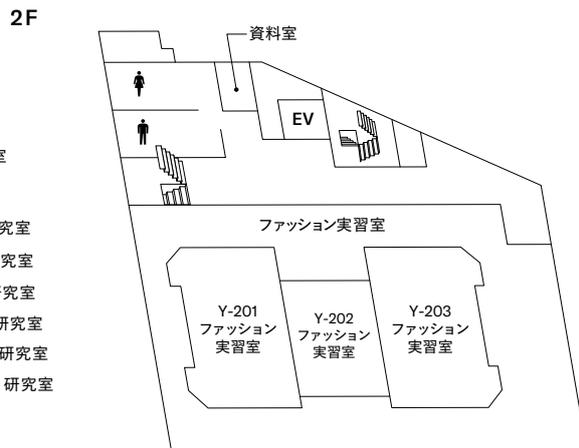
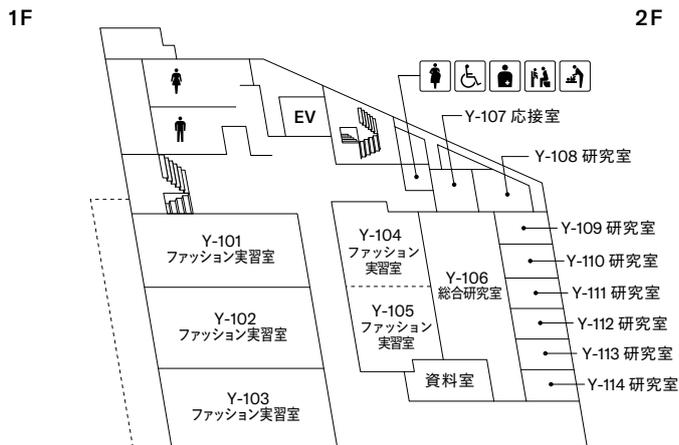
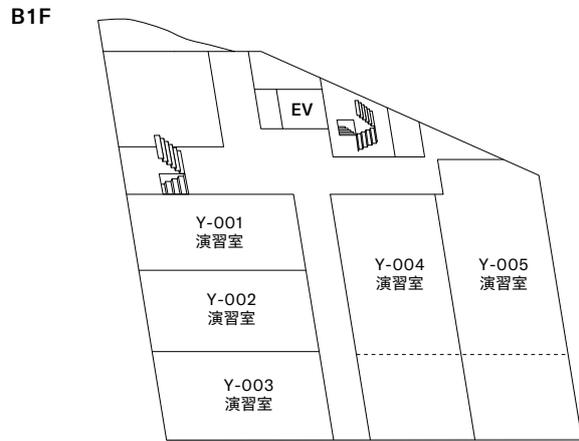
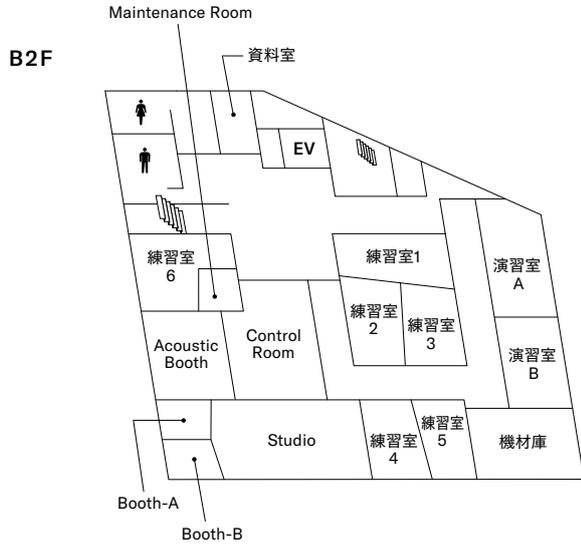
◎ 清風館



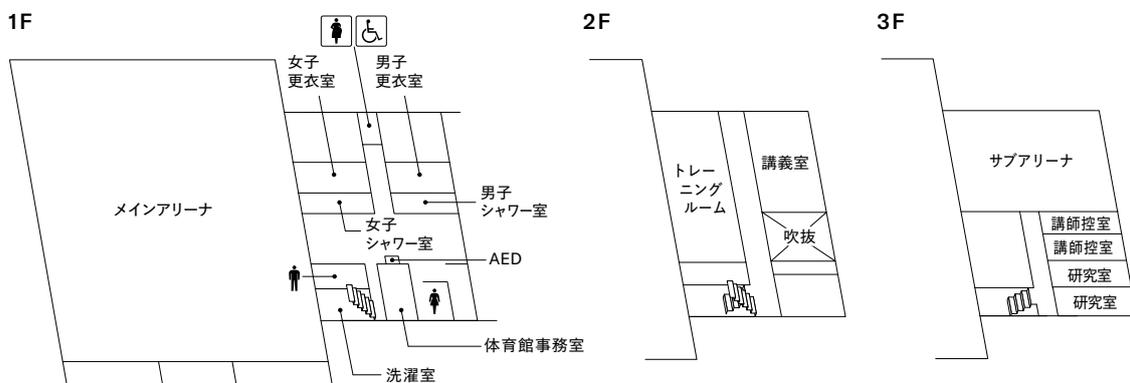
◎ 黎明館・J 情報館



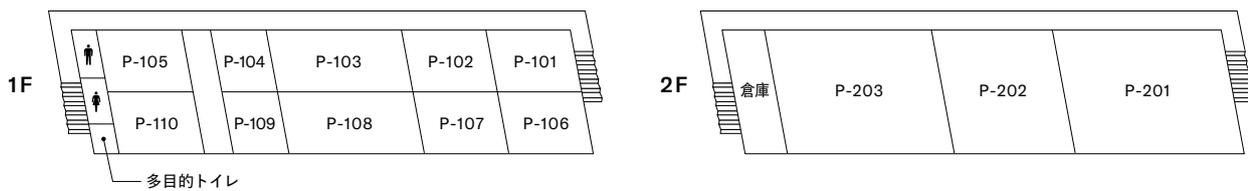
Y 友愛館



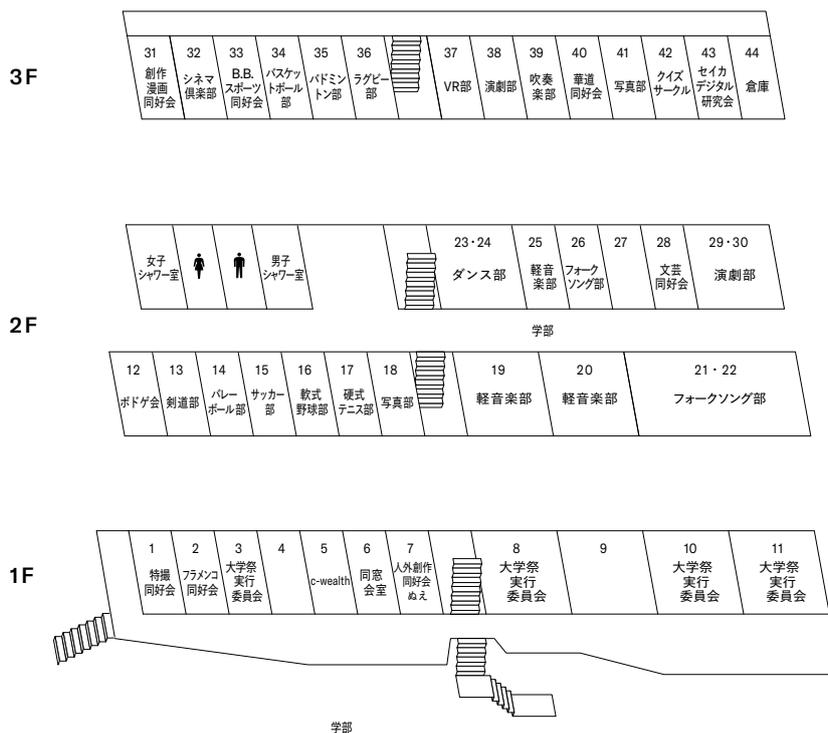
G 体育館



P グラウンド校舎



E 遠友館



学外施設利用について

(1) 京都国際マンガミュージアム

京都精華大学と京都市の共同事業として運営されており、在学生は学生証の提示で入館料が無料となります。「マンガ」の収集・保存・保管・展示およびマンガ文化に関する調査研究及び事業を行うことを目的とした博物館機能と図書館機能を併せ持った文化施設です。明治の雑誌や戦後の貸本などの貴重な歴史資料、現在の人気作品や海外の作品まで約30万点を所蔵し、そのうち約5万冊のマンガ単行本が閲覧可能です。



京都国際マンガミュージアム

京都市中京区烏丸通御池上ル(元龍池小学校)
TEL: 075-254-7414 FAX: 075-254-7424
開館時間: 10:00~17:00(最終入館時刻16:30)
休館日: 水曜日、年末年始、メンテナンス期間

(2) 京都精華大学サテライトスペース kara-S(カラス)

四条烏丸にある京都精華大学のサテライトスペース。展覧会やワークショップ、イベントなどを行う「ギャラリー」と、アートグッズの販売を行う「ショップ」の2つのスペースを持ち、クリエイティブな活動によって生みだされるアイデアや作品を発信しています。展覧会やワークショップの実施、作品の委託販売ができます。使用については、社会連携センターで確認してください。



京都精華大学サテライトスペース kara-S

京都市下京区烏丸通四条下ル水銀屋町620番地
COCON KARASUMA 3F
TEL&FAX: 075-352-0844
営業時間: 11:00~20:00
最寄り駅: 地下鉄烏丸線「四条駅」
2番出口より四条烏丸西直結

(3) 丹後学舎(海の家)・朽木学舎(山の家)

在學生は丹後学舎(海の家)と朽木学舎(山の家)を利用できます。申し込みは利用日の2ヵ月前から受け付けます(先着順)。予約する際は、学生支援チーム(本館1F)のカウンターにて申込書を記入して予約手続きを行った後、経理チーム(本館4F)にて使用料の支払いをおこなってください。なお、丹後学舎の夏期の使用については申込多数のため抽選を行います。詳細は6月下旬頃に「セイカ・ポータル」等でお知らせします。



利用料金(一人あたり/自炊)

	在學生	在學生の家族	宿泊可能日数
通常期 (10~6月)	1泊500円 /1人	1泊500円 /1人	4泊5日まで
繁忙期 (7~9月)	1泊1,000円 /1人	1泊1,000円 /1人	2泊3日まで
正課授業 での利用	無料	—	授業 スケジュールに 準ずる

※在學生の家族は、同居もしくは同一生計世帯の家族の方に限ります。(12歳未満は半額)

※チェックインは13:00以降17:00まで、チェックアウトは9:00以降13:00までに行うこと。それ以外の時間に利用を希望する場合は、事前に申込を行い、一泊分の利用料金を追加で支払うこと。

※キャンセルによる返金、人数変更の受付は、利用日の10日前まで受け付けます。

丹後学舎

京都府京丹後市丹後町上野894 TEL: 0772-76-0624

朽木学舎

滋賀県高島市朽木古屋472 TEL: 0740-38-5118

2026年度版

学習のてびき

2025年度以降入学生向け

2026年4月発行

京都精華大学

〒606-8588 京都市左京区岩倉木野町137

<http://www.kyoto-seika.ac.jp>

京都精華大学

〒606-8588 京都市左京区岩倉木野町 137

<http://www.kyoto-seika.ac.jp>